

神奈川県茅ヶ崎市

市内遺跡試掘・確認調査報告XXIII

—令和5（2023）年度実施の埋蔵文化財試掘・確認調査報告—

2025

茅ヶ崎市教育委員会



写真 1 5-30 前田 A 遺跡 土層堆積状況



写真 2 5-31 久保山 A 遺跡 地割れ痕跡

口絵 2



写真 3 5-62 宮ノ腰遺跡 完掘状況（西から）



写真5 5-62 宮ノ腰遺跡 1号竪穴状遺構土層堆積状況（南西から）



写真6 実測遺物（縄文時代）

口絵 4



写真7 近代以降出土遺物（5-4・47・64・72）



写真8 5-15 小井戸遺跡 出土遺物（耐火レンガ）

はじめに

現在、茅ヶ崎市内においては 216 箇所の「周知の埋蔵文化財包蔵地」が確認されています。

これらの遺跡は市内のほぼ全域に所在しており、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近現代までにいたる茅ヶ崎の様子を伝えております。しかしながら、土地に密着している遺跡は、現代に生きる私たちの生活にともなう活動の中で時として掘削を受けることが多く、事前の取り扱い調整が必要になってきます。このため、茅ヶ崎市教育委員会ではこうした事態が生じた場合には、事前に取り扱い協議に必要な資料作成を目的とした試掘・確認調査を実施しております。

本書は、令和 5（2023）年度に実施された調査の報告で、合計 74 地点における内容を報告しております。このうち、調査結果に基づいて協議がなされ、やむなく遺跡に抵触してしまう事業内容については、工事着手前に記録保存を目的とした発掘調査を実施しております。本書で報告しております内容は一つ一つの規模は小さい調査ですが、開発に際して円滑な指導が進められる資料として有効であります。また、これらの成果を積み重ねることにより、本市における遺跡状況をより明らかにしていくことができると思われます。

最後に、試掘・確認調査に際して御協力をいただきました関係者の方々に感謝するとともに、本書が行政だけでなく、市民をはじめとする多くの方々に利用され、埋蔵文化財への理解が深められることを祈念いたしまして巻頭のご挨拶とさせていただきます。

令和 7 年 3 月

茅ヶ崎市教育委員会
教育長 竹内 清

例　言

1. 本書は茅ヶ崎市内において令和 5 年度に実施された埋蔵文化財試掘・確認調査の報告である。
2. 調査は原則として、土木工事等に伴う土地の埋蔵文化財の状況把握を目的としたものである。
3. 調査は原則として、表土ならびに重機掘削が可能な部分まで機械掘削とし、それ以下では人力掘削とした。また、記録は遺構平面分布図、土層断面図、調査区配置図の作成及び写真撮影によった。
4. 調査にかかる費用は、原則として国、県、市によるが、一部事業者の負担によるものがある。
5. 調査は茅ヶ崎市教育委員会が主体となって、社会教育課文化財保護担当の加藤大二郎、三戸智也、田中万智、金馬義郎、齋藤愛が担当し、社会教育課文化財保護担当の風間智裕、文化財調査員の宮下秀之、文化財保護専門員の片山翔太、高橋桃子がこれを補佐した。
6. 調査における支援業務作業は、株式会社カナコーに委託した。
7. 報告書作成作業は、令和 6 年度に実施した。
8. 本書の執筆は加藤、三戸、田中、金馬、齋藤が作成し、作図は三戸、田中、金馬、齋藤、風間、高橋が行った。
9. 本書の編集は高橋が行った。
10. 遺物実測図の作成及びトレースは大屋信子、実測遺物写真の撮影は藤井秀男、澤村奈穂子が行った。
11. 整理作業にかかる参加者は以下の通りである。(敬称略・50 音順)
及川利加子、大竹恵子、大屋、澤村、清水三恵、高橋、田畠泰代、山下恒子
12. 現地調査にあたっては、関係者の御協力を得た。また、本書作成にあたっては、大村浩司、澤村、三戸、藤井の協力を得た。
13. 本書で報告した調査にかかる出土品及び記録図面・写真などは、茅ヶ崎市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書に掲載している挿図の縮尺は以下の通りである。

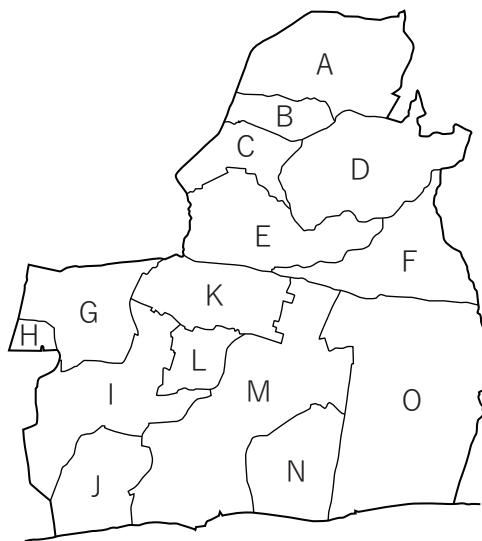
調査地点位置図：1/200,000、1/10,000、1/2,500

調査区配置図：1/100、1/200、1/300、1/400、1/500、1/600

遺構平面分布図及び土層断面図：1/40

遺物実測図：1/2、1/3

2. 第Ⅰ章 令和5年度調査地点（1/50,000）及び第Ⅱ章 各項の調査地点位置図（1/200,000）の行政区画地図は『地図集 大地が語る歴史 茅ヶ崎市史 現代7』（茅ヶ崎市・1994）に掲載されている大正時代～現代の行政区画主題図から統合地区をもとに作成した。統合地区の詳細は下記のとおりである。



A	芹沢	L	矢畠
B	行谷	M	高田、本村、茅ヶ崎、若松町、元町、幸町、新栄町、十間坂、共恵、中海岸、南湖
C	下寺尾	N	東海岸北、東海岸南
D	堤	O	室田、菱沼、松林、小和田、赤松町、本宿町、代官町、小桜町、ひばりが丘、出口町、浜竹、旭が丘、美住町、松浪、松が丘、平和町、富士見町、常盤町、菱沼海岸、白浜町、浜須賀、緑が浜、汐見台
E	香川、甘沼、松風台		
F	赤羽根		
G	萩園		
H	平太夫新田		
I	浜之郷、下町屋、今宿、中島		
J	松尾、柳島、浜見平		
K	西久保、円蔵、鶴が台		

3. 標高は調査地付近のマンホールなどを基準として計測した。したがって、一部を除き絶対標高は示していない。また、方位については原則的に真北を示しており、国家座標などは用いていない。
4. 試掘坑（テストピット）は 2.0 m × 2.0 m を基本とするが、調査地及び事業内容における制約から一部不整なものもある。
5. 土層及び遺構名については、報告ごとの名称を用い全体では統一していない。
6. 土層の説明記述については、各項により調査区ごとに単独表記している事例と複数の調査区を統一して説明している事例とがある。
7. 第Ⅱ章の図表・写真番号は、各項ごとに付した。
8. 挿図中の網掛けは各挿図に示した。
9. 各調査地点の所在地について、目次、第Ⅱ章各項においては編集の都合上一部省略して表記している。届出に基づく所在地の表記は、巻末抄録において記載している。

調査番号対応表

本書掲載番号	届出番号	本書掲載番号	届出番号
5-1	← 8	5-38	← 54
5-2	← 9	5-39	← 46
5-3	← 17	5-40	← 52
5-4	← 1	5-41	← 53
5-5	← 4	5-42	← 65
5-6	← 6	5-43	← 56
5-7	← 5	5-44	← 58
5-8	← 20	5-45	← 62
5-9	← 13	5-46	← 55
5-10	← 10	5-47	← 64
5-11	← 23	5-48	← 33
5-12	← 15	5-49	← 66
5-13	← 3	5-50	← 43
5-14	← 14	5-51	← 75
5-15	← 11	5-52	← 67
5-16	← 28-1	5-53	← 57
5-17	← 21	5-54	← 69
5-18	← 25	5-55	← 49
5-19	← 32	5-56	← 59
5-20	← 35	5-57	← 70
5-21	← 16	5-58	← 61
5-22	← 26	5-59	← 76
5-23	← 36	5-60	← 80
5-24	← 40	5-61	← 82
5-25	← 39	5-62	← 72
5-26	← 37	5-63	← 83
5-27	← 38	5-64	← 85
5-28	← 31	5-65	← 87
5-29	← 28-2	5-66	← 77
5-30	← 27	5-67	← 89
5-31	← 34	5-68	← 91
5-32	← 45	5-69	← 92
5-33	← 41	5-70	← 93
5-34	← 47	5-71	← 94
5-35	← 50	5-72	← 98
5-36	← 42	5-73	← 95
5-37	← 44	5-74	← 103

目 次

口絵

はじめに

例言

凡例

第Ⅰ章 試掘・確認調査に関する概要 1

第Ⅱ章 令和5年度試掘・確認調査 7

5-1	茅ヶ崎市堤字東原 1054 番 13	9
5-2	茅ヶ崎市浜之郷字本社 447 番 6	12
5-3	茅ヶ崎市矢畠字鐘ヶ谷 775 番	15
5-4	茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2270 番 3、2270 番 4	19
5-5	茅ヶ崎市若松町 6840 番 5、6837 番 7	22
5-6	茅ヶ崎市菱沼二丁目 1043 番 5 の一部	26
5-7	茅ヶ崎市松林三丁目 190 番の一部外 5 筆	31
5-8	茅ヶ崎市堤字仲谷 3530 番 8 の一部	35
5-9	茅ヶ崎市小和田一丁目 716 番 6 の一部外 5 筆	39
5-10	茅ヶ崎市萩園字辻西 2408 番	43
5-11	茅ヶ崎市出口町 2076 番 2	47
5-12	茅ヶ崎市菱沼二丁目 1430 番 10	50
5-13	茅ヶ崎市松林三丁目 888 番 2 外	53
5-14	茅ヶ崎市松林三丁目 195 番 1 外 18 筆	57
5-15	茅ヶ崎市円蔵 370 番地	61
5-16	茅ヶ崎市菱沼二丁目 1251 番 2、5、7、1252 番	69
5-17	茅ヶ崎市芹沢 913-32	73
5-18	茅ヶ崎市行谷字大島 1100 番 1 の一部	76
5-19	茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2320 番 1、2321 番 2	79
5-20	茅ヶ崎市円蔵 370 番地	82
5-21	茅ヶ崎市堤字南谷 2468-12、2469-6	88
5-22	茅ヶ崎市室田一丁目 88 番 1、4、5、6、7、8	91
5-23	茅ヶ崎市香川二丁目 1585 番 8	94
5-24	茅ヶ崎市円蔵 370 番地	97
5-25	茅ヶ崎市西久保字大屋敷 753-1 の一部	102
5-26	茅ヶ崎市西久保字大屋敷 605 番 14、15	105
5-27	茅ヶ崎市西久保字大屋敷 605 番 16、17	108
5-28	茅ヶ崎市浜之郷字本社 348 番 8 外 1 筆及び 366 番 1 の一部	111
5-29	茅ヶ崎市菱沼二丁目 1251 番 2、5、7、1252 番	117
5-30	茅ヶ崎市松林一丁目 1543 番の一部外 3 筆	121

5-31	茅ヶ崎市芹沢字久保山 2494 番	132
5-32	茅ヶ崎市菱沼二丁目 382-2、383-2 の一部	139
5-33	茅ヶ崎市菱沼二丁目 382-3、383-2	143
5-34	茅ヶ崎市菱沼一丁目 686 番 15	147
5-35	茅ヶ崎市矢畠 73 番 1	151
5-36	茅ヶ崎市円蔵 370 番地	155
5-37	茅ヶ崎市本村四丁目 14 番	158
5-38	茅ヶ崎市赤羽根 2192-1 外	162
5-39	茅ヶ崎市小和田二丁目 385 番 6	166
5-40	茅ヶ崎市小和田一丁目 672 番の一部	169
5-41	茅ヶ崎市浜之郷 477	173
5-42	茅ヶ崎市行谷 787-1 の一部	176
5-43	茅ヶ崎市本村五丁目 1037 番 3 の一部外 3 筆	179
5-44	茅ヶ崎市松林二丁目 488 番 2 外 2 筆	184
5-45	茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2266 番 1 の一部外 2 筆	189
5-46	茅ヶ崎市菱沼二丁目 342 番 10、342 番 12	196
5-47	茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2269-1	199
5-48	茅ヶ崎市香川二丁目 1582 番 2、3 及び 1586 番 13、16	202
5-49	茅ヶ崎市松林二丁目 973 番 1 及び 974 番 1	206
5-50	茅ヶ崎市下町屋二丁目 310 番 1	212
5-51	茅ヶ崎市小和田三丁目 929 番 3、930 番 1	218
5-52	茅ヶ崎市浜之郷字宮ノ腰 516 番 1 外 9 筆	221
5-53	茅ヶ崎市西久保 1624	225
5-54	茅ヶ崎市矢畠字勝沼 1338 番 1、2	229
5-55	茅ヶ崎市下寺尾字北方 1129 番 4 外 9 筆	233
5-56	茅ヶ崎市下寺尾字南方 2274-2 の一部外 4 筆	237
5-57	茅ヶ崎市浜竹一丁目 2954 番 1 の一部外	239
5-58	茅ヶ崎市本村四丁目 1678	243
5-59	茅ヶ崎市本村四丁目 1673-1、1674、1673-3	248
5-60	茅ヶ崎市小和田一丁目 737 番地 19	252
5-61	茅ヶ崎市行谷 832-2	255
5-62	茅ヶ崎市浜之郷字宮ノ腰 486 番 1	259
5-63	茅ヶ崎市室田一丁目 791-1、792-1、3	268
5-64	茅ヶ崎市浜之郷字石原 731 番 1	272
5-65	茅ヶ崎市萩園字西ノ谷 1637 番 5 及び 1640 番 1	275
5-66	茅ヶ崎市芹沢字中ノ谷 1095 番 1、1096 番 7、1094 番 1 の一部	281
5-67	茅ヶ崎市円蔵二丁目 114 番 11	284
5-68	茅ヶ崎市浜之郷 261 番 3	287

5-69	茅ヶ崎市赤羽根字四図 1252 番 5	291
5-70	茅ヶ崎市室田三丁目 770 番 1	294
5-71	茅ヶ崎市香川七丁目 2358 番の一部	299
5-72	茅ヶ崎市香川五丁目 1210 番 1 の一部、1211 番 1 の一部	306
5-73	茅ヶ崎市西久保字広町 972 番 6	310
5-74	茅ヶ崎市矢畑 27 番 1	314
第Ⅲ章 まとめ		319

報告書抄録

第Ⅰ章 試掘・確認調査に関する概要

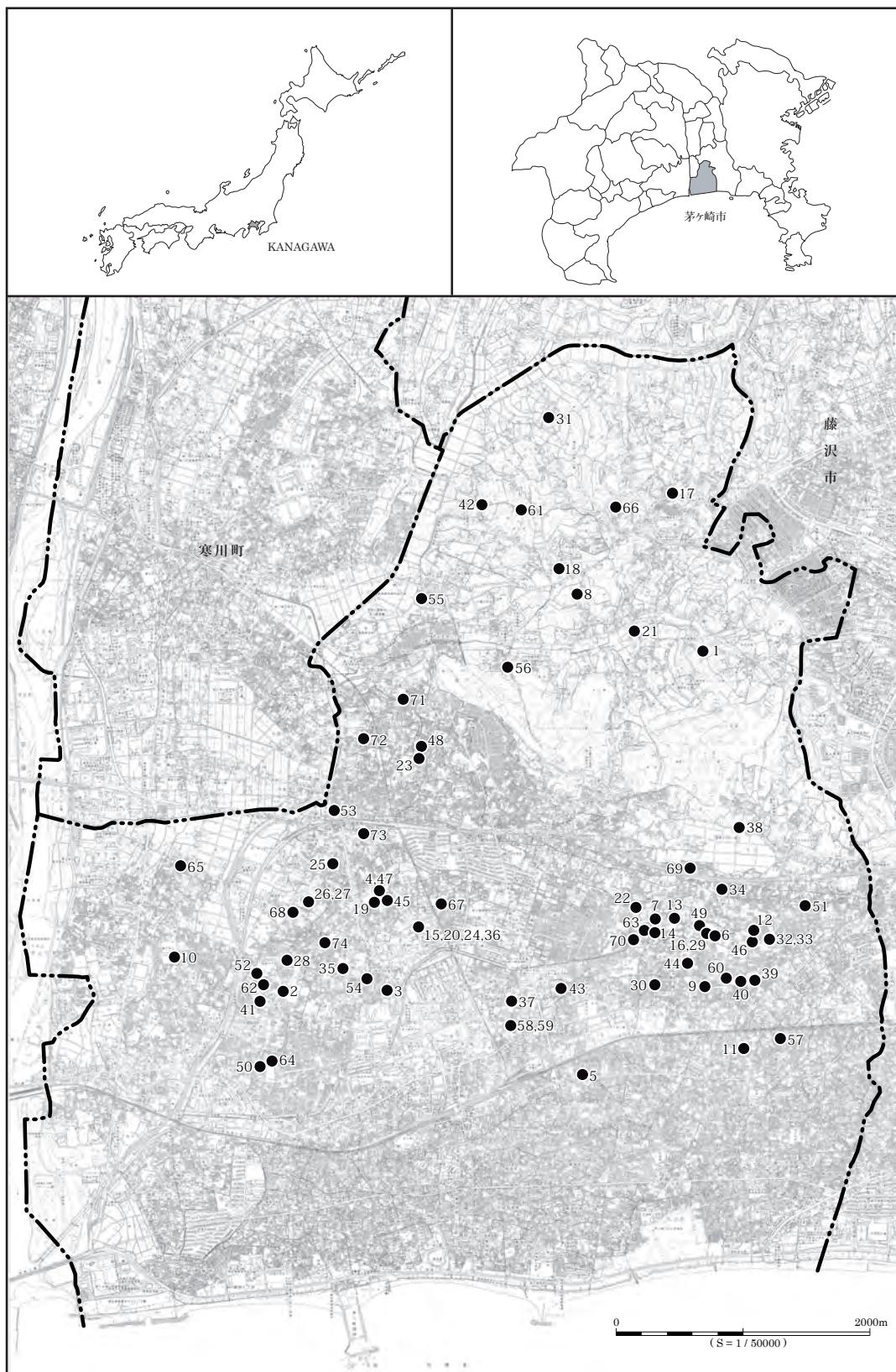
第Ⅰ章 試掘・確認調査に関する概要

茅ヶ崎市には現在 216 箇所の遺跡が確認されており、神奈川県及び茅ヶ崎市の遺跡台帳に登録されている。茅ヶ崎市教育委員会では、これらの「周知の埋蔵文化財包蔵地」内において土木工事等が行われる場合、文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出「埋蔵文化財発掘の届出」を事業者から提出してもらっている。これらの中には、埋蔵文化財の取扱いを検討する際、事前に試掘・確認調査を実施して当該地における遺跡状況を把握しなければならない場合がある。試掘・確認調査の対象としているのは、「周知の埋蔵文化財包蔵地」内及びその周辺において実施される開発事業、開発事業に該当しないものでも深い掘削等の計画(造成・擁壁・地下室・土壌改良・杭構造など)を伴う事業等である。そして、調査で得られた資料によって関係者と取り扱いの協議を行い、適正な文化財保護に努めている。これらは、民間事業の場合は開発事前手続き段階、公共事業の場合は関係部署からの照会を受けた段階にそれぞれ必要に応じて実施している。なお、この調査にかかる費用については、その結果が行政資料の一環となすものであるとの考え方から、平成 8 年度から原則として国及び県の補助を得ながら茅ヶ崎市が公費で対応している。

調査の進め方は、教育委員会へ事前に「確認調査指導依頼書」と「確認調査発掘承諾書」を計画図面と併せて提出してもらい、計画内容による調査の必要性と現地状況を確認した後、調査の日程、方法などを調整し行っている。調査に際しては可能であれば関係者の立ち会いを求め、調査区設定の場所及び調査状況等の確認を一緒に行っている。調査は教育委員会専門職員の指導のもと、委託先の調査支援企業が手配した重機と調査補助員、調査作業員によって作業を実施している。方法は、原則として 2.0 m × 2.0 m の調査区を設定するが、調査地の状況によっては不定形となる場合がある。また、調査区の設定数は個々の事業面積によって異なるが、地形を勘案しながらできるだけ複数の調査区を開けることとしている。掘削は重機と人力を併用しながら行い、記録は写真記録の他、調査区位置図、遺構平面分布図、土層断面図を実測し作成する。試掘・確認調査の目的は、調査地点での遺構・遺物の有無、粗密、内容の把握、土層堆積状況の観察などである。このため、原則として遺構・遺物が確認された段階で掘削を止め、必要がある場合以外ではそれ以下の掘削は行わない。但し、遺跡によって複合遺跡の可能性もあるため、このような場合には下層の状況把握のために極力遺構などの存在する箇所を外し、必要最小限度の調査を実施することとしている。

調査によって得られた結果については、必要に応じて現地で関係者に説明を行うが、希望者には調査報告書の写しを送付している。また、取扱いについては、文化財保護法に基づく「埋蔵文化財発掘の届出」に対する市としての意見（副申）をこの調査結果を基に作成し県へ送付しており、県から取り扱いについて通知される手続きとなっている。これらの試掘・確認調査報告については、開発事業個々での取り扱い協議資料として利用するほか、調査地点についてのデータ（遺構・遺物の有無、深さ、時代等）をまとめ、窓口での照会事項に対応する行政資料として蓄積し利用している。

本書では、令和 5（2023）年度に実施した試掘・確認調査 74 件を調査実施日順に掲載した。試掘・確認調査地点は第 1 図に示した。



第1図 令和5年度調査地点図 (1/50,000)

表1 調査遺跡

番号	所在地	遺跡名	遺跡番号
1	堤	東原	141
2	浜之郷	本社A	154
3	矢畠	鐘ヶ谷	215
4	円蔵	御屋敷B	157
5	若松町	上東原下	100
6	菱沼	前田A	71
7	松林	東ノ町	195
8	堤	大島仲谷	37
9	小和田	池袋B	87
10	萩園	辻西	177
11	出口町	出口A	101
12	菱沼	已待田A	74
13	松林	手城塚B	92
14	松林	手城塚B、大縄下	92、93
15	円蔵	小井戸	185
16	菱沼	前田A	71
17	芹沢	清水B	108
18	行谷	大島仲谷	37
19	円蔵	御屋敷B	157
20	円蔵	小井戸	185
21	堤	堤貝塚（十二天A）	8
22	室田	東ノ町	195
23	香川	東	24
24	円蔵	小井戸	185
25	西久保	大屋敷B	189
26	西久保	大屋敷A	188
27	西久保	大屋敷A	188
28	浜之郷	本社B	181
29	菱沼	前田A	90
30	松林	網久保B	71
31	芹沢	久保山A	11
32	菱沼	已待田A	74
33	菱沼	已待田A	74
34	菱沼	後田A	70
35	矢畠	金山	182
36	円蔵	小井戸	185
37	本村	居村B	202

番号	所在地	遺跡名	遺跡番号
38	赤羽根	八団C	205
39	小和田	宿	79
40	小和田	宿	79
41	浜之郷	宮ノ腰	152
42	行谷	臼久保A	15
43	本村	居村A	199
44	松林	網久保A	86
45	円蔵	御屋敷B	157
46	菱沼	已待田A	74
47	円蔵	御屋敷B	157
48	香川	東	24
49	松林	前田A	71
50	下町屋	石原A	147
51	小和田	餅塚	65
52	浜之郷	宮ノ腰	152
53	西久保	上ノ町	148
54	矢畠	勝沼	158
55	下寺尾	北方横穴群	165
56	下寺尾	南方A	39
57	浜竹	浜竹	201
58	本村	前ノ田	200
59	本村	前ノ田	200
60	小和田	木ノ下A	88
61	行谷	行谷	36
62	浜之郷	宮ノ腰	152
63	室田	大縄下	93
64	浜之郷	石原A	147
65	萩園	西ノ谷	174
66	芹沢	中之谷A	186
67	円蔵	鶴ヶ町	5
68	浜之郷	中谷	187
69	赤羽根	四団A	61
70	室田	大縄下	93
71	香川	北D	169
72	香川	中通A	46
73	西久保	広町	191
74	矢畠	金山	182

第Ⅱ章 令和5年度試掘・確認調査

5-1 茅ヶ崎市堤字東原 1054 番 13

1 調査年月日 令和5(2023)年4月12日(水)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 金馬義郎

4 調査面積 1.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 東原遺跡(No.141)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 繩文時代、歴史時代

(4) 立地 丘陵

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北東部に位置する。調査前の現況は宅地造成後の更地であり、調査地点の標高は約41.1mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の浄化槽予定範囲に1.0m×1.5mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。ロームブロック含む。解体に伴い搅乱された表土。

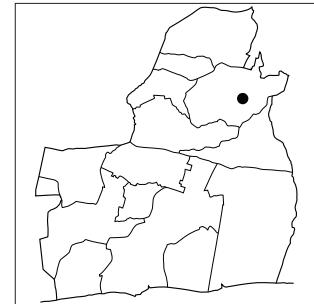
2層：暗褐色土。しまり強い。粘性あり。ロームブロック含む。現代の造成に伴う転圧を受けた盛土。

3層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。φ2～5cmのロームブロック含む。現代の造成に伴う盛土。

4層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。φ2～3cmのロームブロック含む。現代の造成に伴う盛土。

5層：擁壁設置に伴う砂利層。

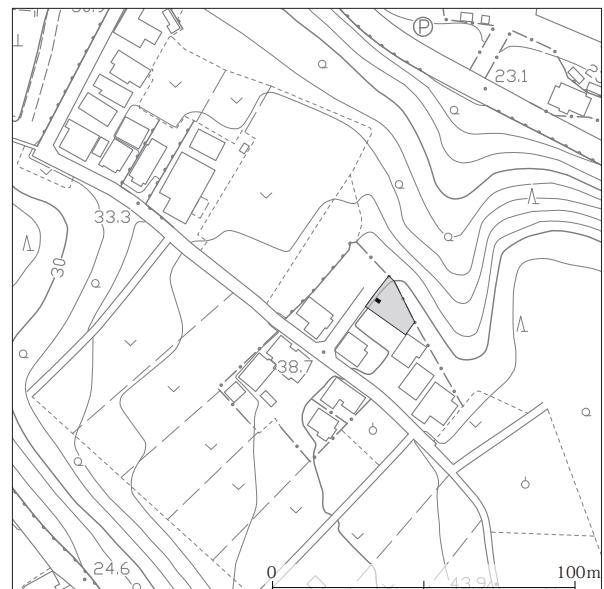
6層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。φ2



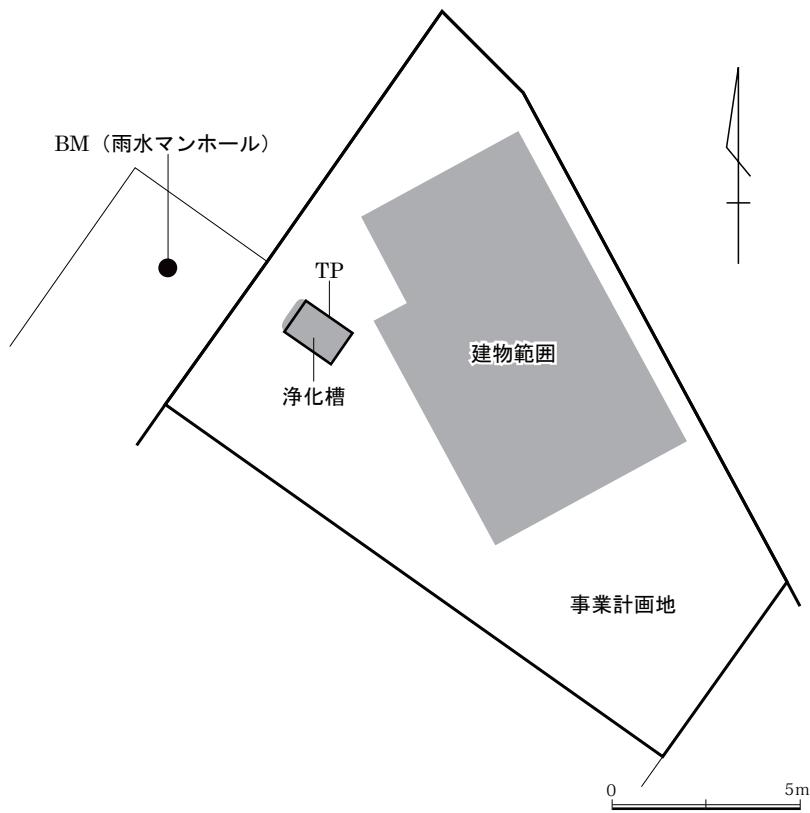
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



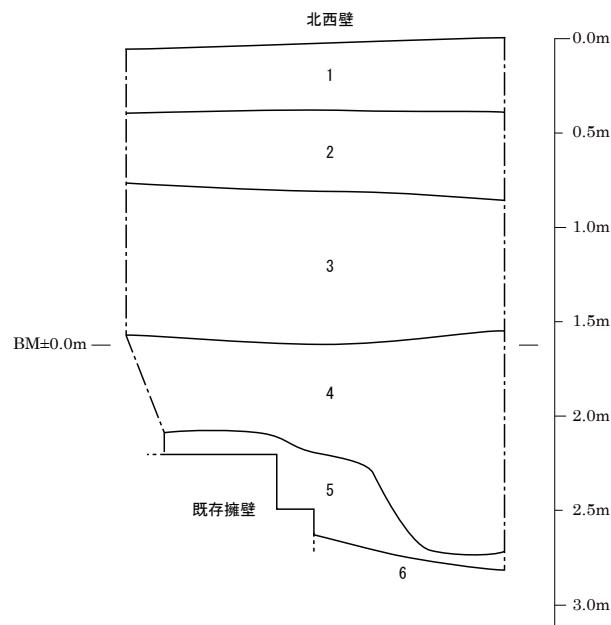
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



第5図 土層断面図 (1/40)

～3cm のロームブロック含む。現代の造成に伴う盛土。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約 15cm までの解体に伴

う搅乱（1 層）以下は、宅地造成工事の際に行われたと推察される盛土及び既存擁壁の搅乱が見られ、調査区堀底まで現代の開発に伴う掘削の影響を確認した。

以上のことから、当該地は既存擁壁の埋設を伴う宅地造成の際、本来の地形が大きく改変された状況が確認され、埋蔵文化財は確認されなかった。



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査区設定状況（南東から）



写真3 完掘状況（南東から）



写真4 北西壁土層堆積状況

5-2 茅ヶ崎市浜之郷字本社 447番6

1 調査年月日 令和5(2023)年4月12日(水)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 金馬義郎

4 調査面積 2.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 本社A遺跡 (No.154)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 繩文時代、歴史時代

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺小学校から北東に約190mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約4.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の浄化槽予定範囲付近に1.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

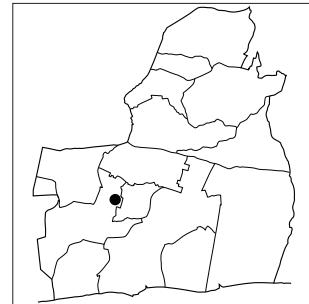
1層：褐色土。しまりあり。粘性あり。解体に伴い搅乱された表土。

2層：褐色土。しまり強い。粘性あり。現代の造成に伴い転圧を受けた盛土。旧表土か。

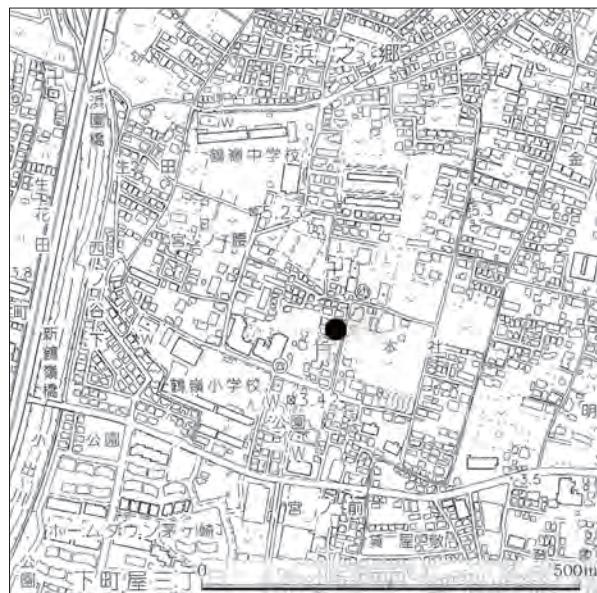
3層：黄灰色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミスを僅かに含む。φ2mmの橙色スコリアを僅かに含む。

4層：黄灰色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミスを僅かに含む。φ2mmの橙色スコリアを含む。基本土層の3層に比べ黒色強い。

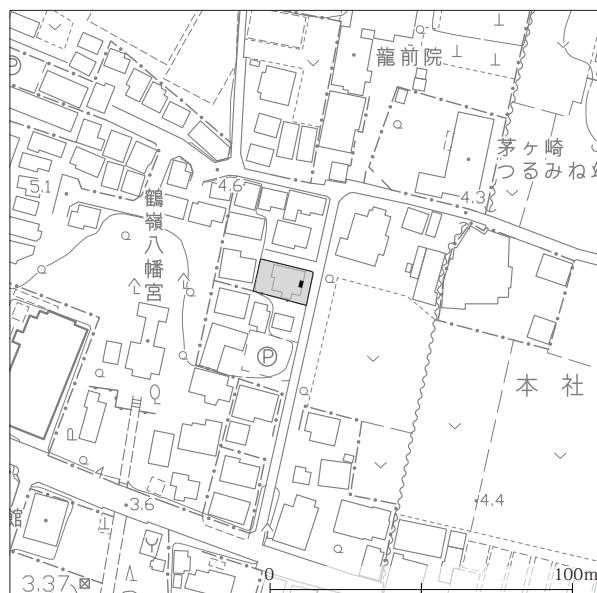
5層：黄灰色土。しまりあり。粘性あり。宝永



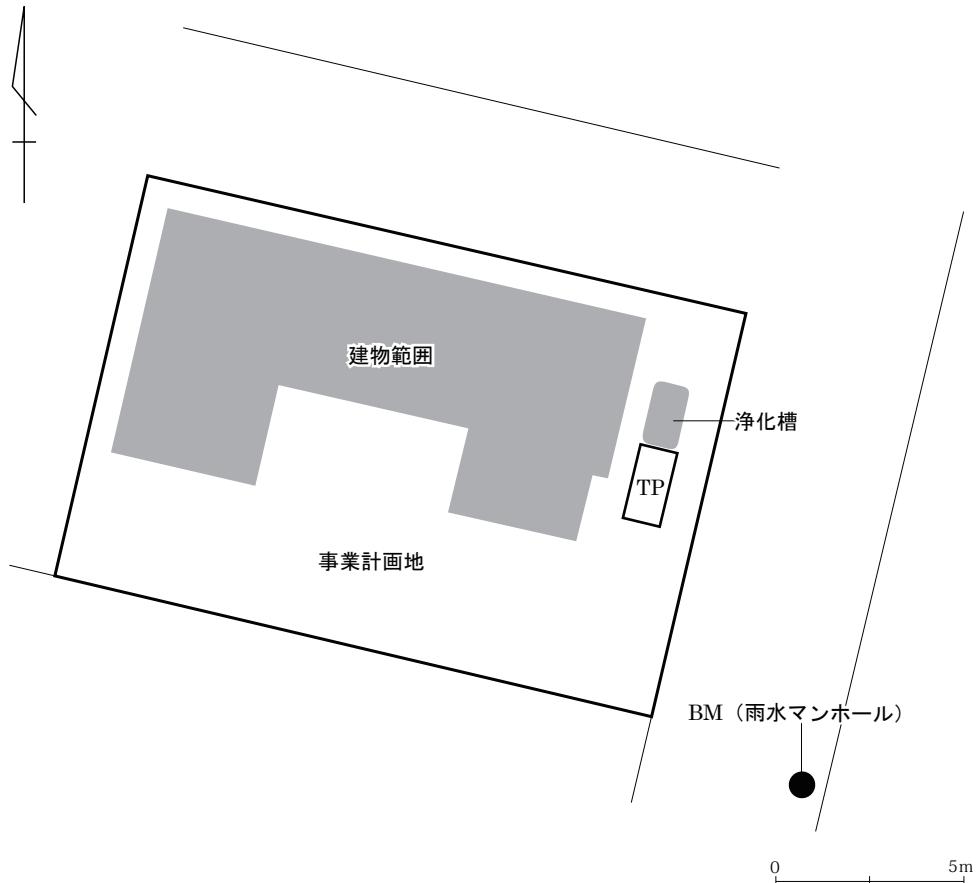
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

パミスを僅かに含む。基本土層の4層に比べ、含有物少ない。

6層：暗黒褐色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミスを僅かに含む。φ 10～20mmの砂礫を含む。

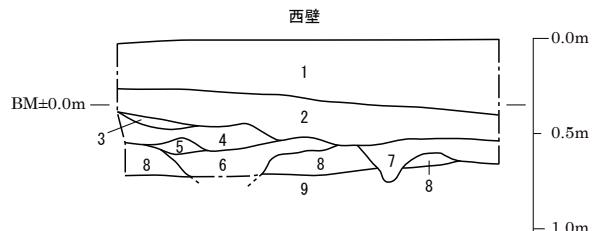
7層：暗黒褐色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミスを僅かに含む。φ 10～20mmの砂礫を含む。基本土層の6層に比べ黄色味が強く、黒色土を少量含む。

(2) 遺構覆土

〈1号道状遺構〉

1層：黄灰色土。しまり強い。粘性あり。基本土層の7層に比べ含有物が少なく、やや砂質味を帯びる。

2層：黄灰褐色土。しまり強い。粘性あり。基本土層の7層に比べ含有物が少なく、やや砂質味を帯びる。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	一括	土師器 壊	1	1.2
		土製品	1	6.9
		陶器	4	35.0
		磁器	2	112.5
		礫	3	150.8
合計			11	306.4

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：道状遺構か

出土遺物：土師器、土製品、陶器、磁器、礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約20cmまで解体工事により搅乱された様相が確認され、地表下60cmまではビニール等を含む近現代の造成により構築されたと考えられる土層（2層）が確認された。それ以下は宝永パミスを含み、旧耕作土と推定され

る6・7層が確認され、畝状の落ち込みが見られた。地表下50cmからは道状遺構と推察される、宝永パミスを含まない近世前半以前の平滑な土層（1号道状遺構の1・2層）が確認された。このことから、当該地は近世前半以前に鶴嶺八幡宮の東側を東西ないし南北に走る道路が存在した可能性がある。

以上のことから、当該地においては埋蔵文化財が確認された。



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（北から）



写真4 西壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-3 茅ヶ崎市矢畠字鐘ヶ谷 775 番

- 1 調査年月日 令和5(2023)年4月28日(金)
- 2 調査目的 集合住宅新築工事
- 3 調査担当 加藤大二郎
- 4 調査面積 4.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 鐘ヶ谷遺跡(No.215)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 奈良時代、平安時代
 - (4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、茅ヶ崎警察署から北西側に約220mの場所に位置している。調査以前は駐車場として利用されており、調査地点の標高は約4.4mを測る。

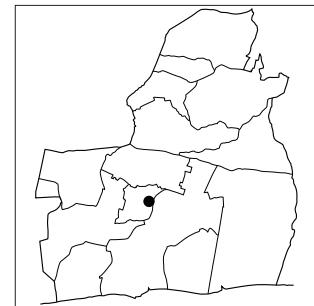
7 調査の方法

事業計画地の北東側に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路南側に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

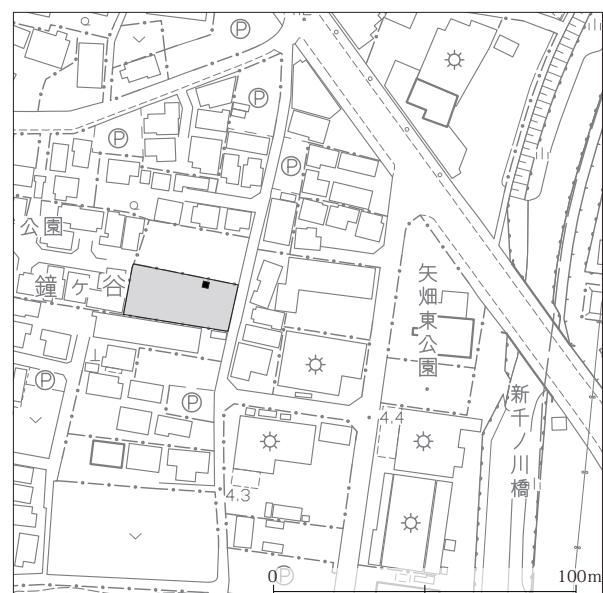
- 1層：暗灰褐色土。駐車場整地時の碎石及び盛土。
- 2層：灰褐色土。しまりやや弱い。宝永パミス多く含む。
- 3層：にぶい灰褐色土。しまりあり。地山分を含みやや黄色みをおびる。堆積やや密。
- 4層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。全体に酸化し、斑に赤褐色を呈す。橙色スコリア含む。
- 5層：灰黄褐色土。灰色み強い。褐色土斑に含む。全体に酸化する。



第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

(2) 遺構覆土

〈1号竪穴状遺構〉

1層：褐灰色土。しまりやや強い。堆積やや密。全体に弱く酸化する。橙色スコリアを含む。

2層：褐灰色土。しまりやや強い。斑に赤褐色を呈す。

〈1号ピット〉

1層：暗褐色土。しまり増す。基本土層の3層と近似する。土師器小片多く含む。

〈2号ピット〉

1層：暗褐色土。基本土層の3層と近似する。しまりやや弱い。土粒細かい。

〈3～5号ピット〉

1層：暗褐色土。基本土層の3層と近似する。

しまりやや弱い。

〈6号ピット〉

1層：暗褐色土。基本土層の4層と近似する。

土質ややソフト。礫含む。

2層：暗褐色土。6号ピットの1層を主体とする。しまりやや弱まる。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

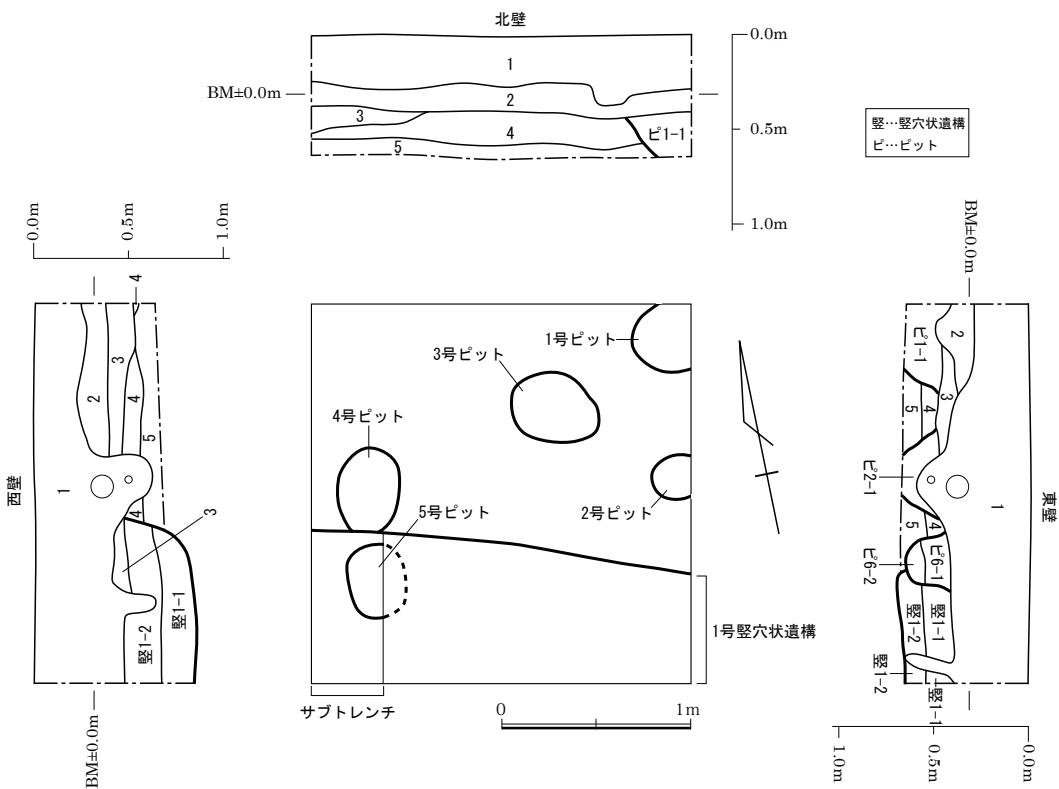
発見遺構：竪穴状遺構、ピット

出土遺物：土師器、須恵器、礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約40cmで遺構及び遺物を確認することができた。

基本堆積土は1層から順番に地表～地表下約20cmが駐車場整地時の表土、地表下約20～



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

40cm が 1707 年降灰の宝永火山灰、軽石を含む近世後半以降の堆積土である 2 層、地表下 40 ~ 56cm が古代～中世の堆積土と考えられる 4 層、地表下約 56cm で当該地周辺の古代の地山層と考えられる 5 層である。中世～近世前半の堆積土と考えられる 3 層は、2 層と 4 層に挟まれる形で調査区の北西部でのみ確認した。

遺構覆土はすべて近似しており、壁面観察から 4 層堆積後に構築されていると考えられる。また、1 号縦穴状遺構からは平安時代頃の土師器、須恵器が出土しており、遺構は古代に属する可能性が高い。1 号縦穴状遺構は遺物の量がやや多く、残存率が高い。このような遺構の検出状況は、矢畑地区周辺では縦穴建物址に多くみられる傾向にあたるため、本遺構は縦穴建物址の可能性が高いと考えられる。しかしながら、本調査区ではカマドや炭化物、焼土といった縦穴建物址と断定できる情報が得られなかったことから、最終的には縦穴状遺構とした。1、3、4 号ピットは直線的に並

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
	3層	土師器	7	5.1
		土師器 壊	11	33.3
		土師器 蜂	9	19.7
	1号縦穴状遺構	土師器	3	1.8
		土師器 壊	4	43.2
		土師器 蜂	2	11.8
		須恵器 壊	1	39.1
		礫	5	77.4
合計			42	231.4

んでおり、柵列や掘立柱建物を構成する柱穴の可能性がある。5 号ピットは、遺構の検出状況から、1 号縦穴状遺構に伴う遺構か、或いはそれよりも時代が遡るものと考えられる。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 調査区設定状況（東から）



写真3 遺構確認状況（南から）



写真4 完掘状況（南から）



写真5 西壁土層堆積状況



写真6 北壁土層堆積状況



写真7 東壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-4 茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2270番3、2270番4

- 1 調査年月日 令和5(2023)年5月1日(月)
- 2 調査目的 個人住宅新築工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 6.75m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 御屋敷B遺跡(No.157)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 弥生時代(末)～古墳時代(前・後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎警察署西久保駐在所から南東に約400mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約5.5mを測る。

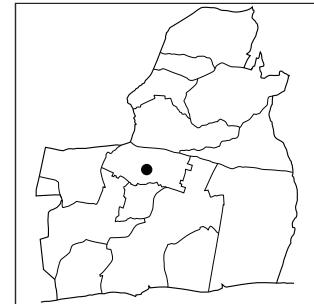
7 調査の方法

事業計画地の地盤改良予定範囲に1.5m×1.5mの調査区を3箇所設定して調査を実施した。掘削は人力で行った。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

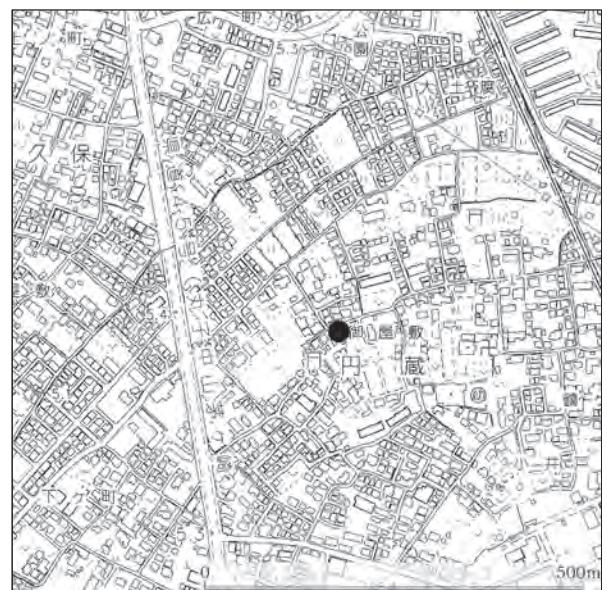
8 土層堆積状況

1) 基本土層

- 1層：暗褐色土。粘性あり。コンクリートガラを多く含む客土。
- 2層：褐色土。粘性強い。ローム土主体で、ローム以外の混入物は極めて少ない。客土。
- 3層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。旧建築物に伴うと推測されるガラを多く含む。埋土。
- 4層：暗褐色土。粘性強い。明治～大正期の陶磁器を多く含む。焼土・炭化物多い。水分量多い。



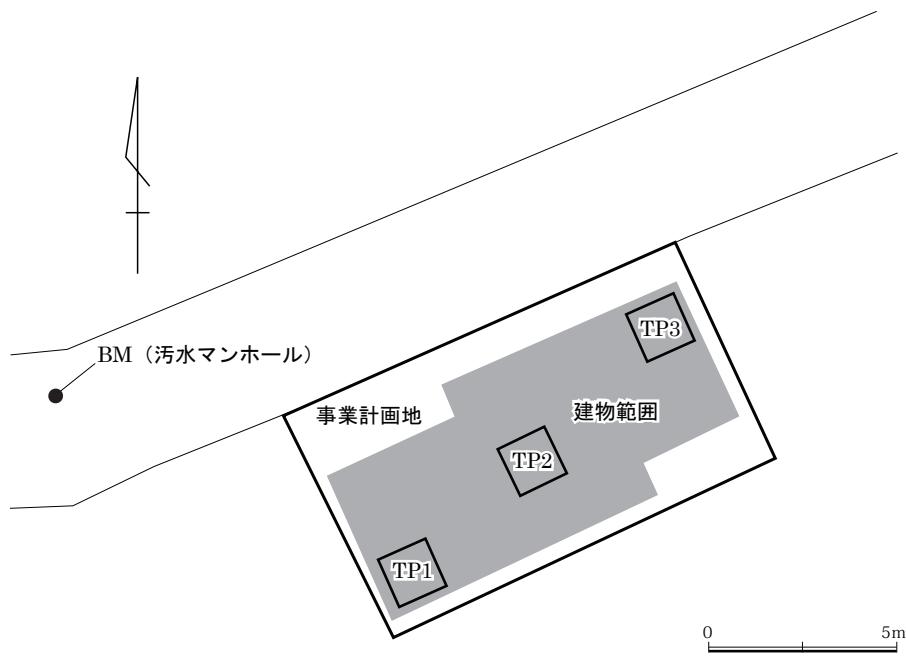
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：廃棄土坑か

出土遺物：陶器、磁器、土製品、鉄製品、ガラス製品

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP3〉

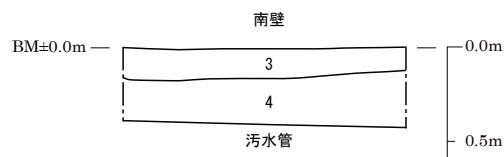
発見遺構：なし

出土遺物：磁器

(2) 調査所見

調査の結果、更地になる以前に存在したであろう建築物に伴う明治～大正期の陶磁器、ガラス製品や銅製品などの日用品が複数確認された。近代以前の堆積層については、今回の掘削深度では残存が確認されなかった。TP1からは多量に陶器と磁器が出土した。遺構のプランは調査区内では確認できなかったが、遺物の出土の仕方から、調査区が廃棄土坑内に収まる可能性があり、陶磁器の年代が関東大震災以前に集中することから、震災に伴う廃棄土坑である可能性も指摘できる。ローム主体の客土については、宅地化に伴い北部などから土を搬入したものと考えられる。

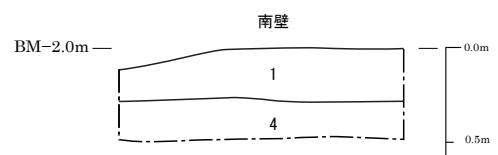
以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP1	埋め土 2	土製品	1	60.7
		陶器壺	1	145.1
		磁器碗	5	297.7
		磁器皿	1	122.0
		ガラス製品瓶	5	239.5
		鉄製品	1	26.6
TP3	埋め土 2	磁器碗	1	104.0
合計			15	995.6



写真1 調査地点近景（北西から）



写真2 TP1 完掘状況（北から）



写真3 TP1 南壁土層堆積状況



写真4 TP2 完掘状況（南から）



写真5 TP2 北壁土層堆積状況



写真6 TP3 完掘状況（北から）



写真7 TP3 南壁土層堆積状況



写真8 調査作業風景（東から）

5-5 茅ヶ崎市若松町 6840番5、6837番7

1 調査年月日 令和5(2023)年5月2日(火)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 上東原下遺跡(No.100)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 古墳時代、歴史時代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部南東側、茅ヶ崎市菱沼郵便局から西側に約40mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約10.0mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を2箇所に設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：褐色砂。しまりなし。建物解体に伴うガラを多く含む。埋め土。

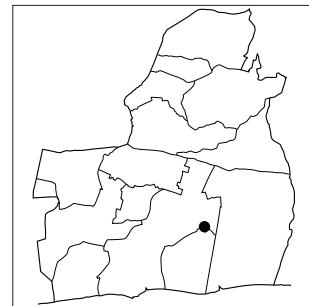
2層：褐色砂。ややしまりあり。1層に類似するが、ガラ少ない。埋土。

3層：褐色砂。プラスチックゴミを含む。近現代のゴミ穴か。埋土。

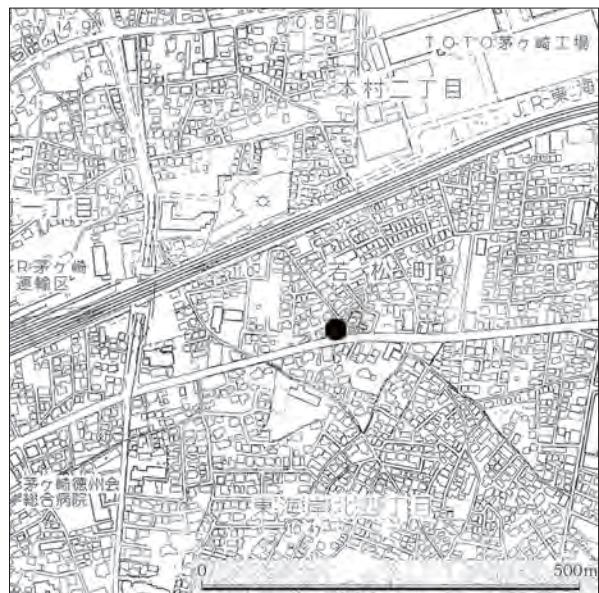
4層：褐色砂。埋土。しまり粘性なし。昭和期の陶磁器を含む。

5層：褐色砂。しまりややあり。ガラ・ゴミを含まない。埋土。

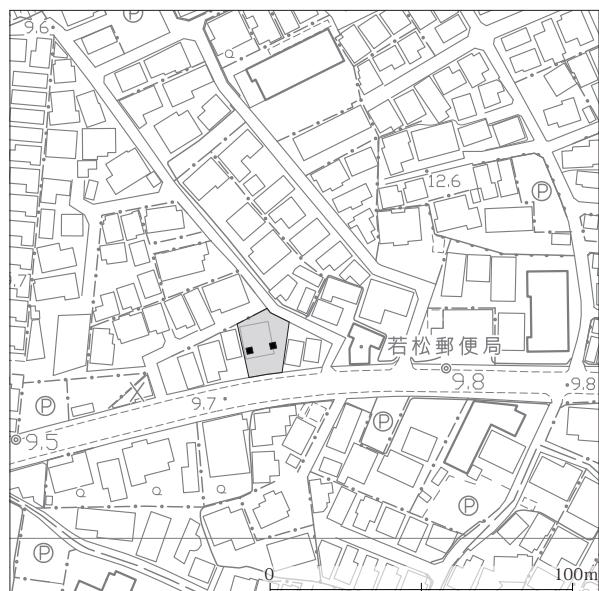
6層：宝永火山灰。宝永のスコリア、パミスを主体とする自然堆積層。



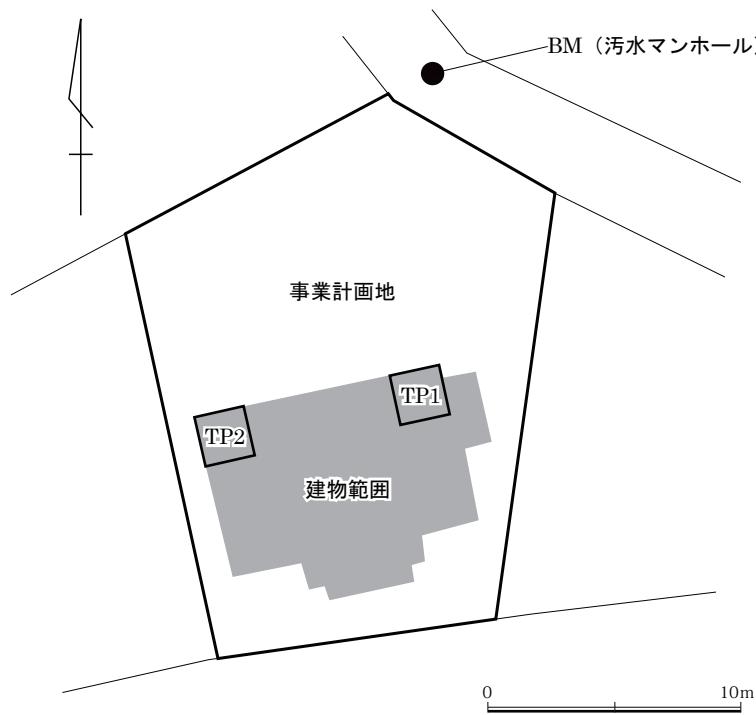
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



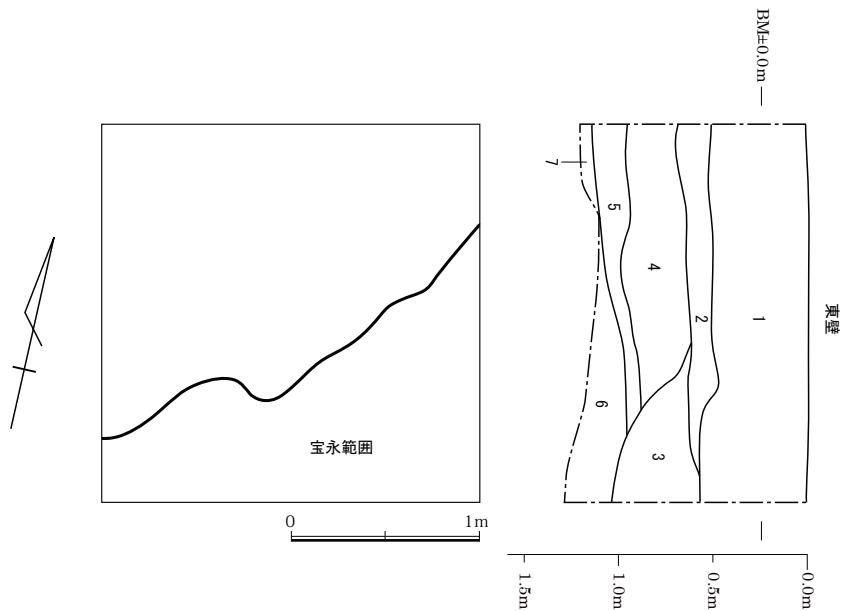
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

7層：黄褐色砂。砂丘に由来する自然の堆積砂の無遺物層。地山。

(2) 遺構覆土

〈2号ピット〉

1層：褐色砂。しまりあり。粘性なし。昭和期の日用品を含む。

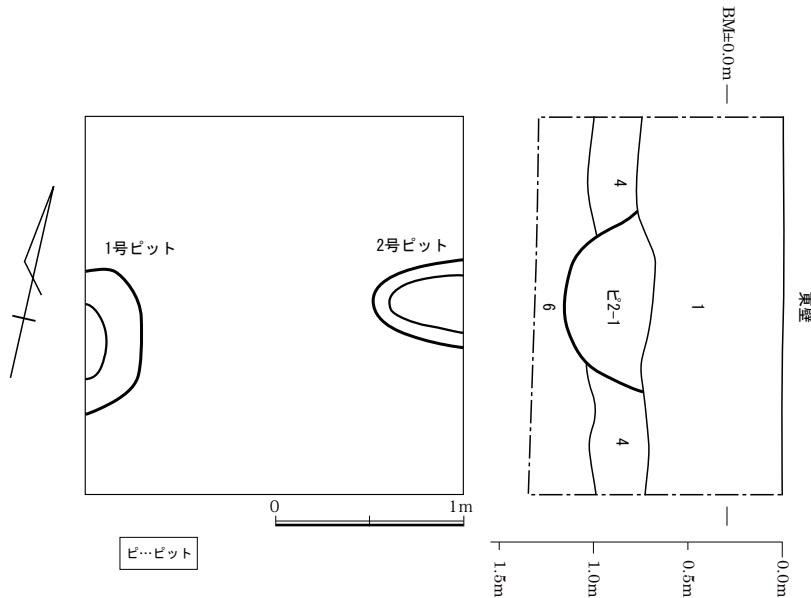
9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

<TP2>

発見遺構：ピット

出土遺物：磁器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下100cm付近まで近現代の埋土が確認された。

地表下50cmまでは建物解体に伴う埋土であったが、地表下50～100cmまでは明治～昭和期の建物に伴う埋土であると推測される。また、TP2からは明治～昭和期の可能性が高いピットを2穴確認しており、掘立柱を伴う近代の構造物が当地に存在していた可能性を示していた。

近現代層の直下には自然堆積の宝永火山灰であ

る6層と黄褐色砂層（地山）である7層を確認した。宝永火山灰は粒の大きい順に堆積していることから、降灰による自然堆積であり人為的に廃棄したものではないと推測される。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP2	2号ピット	磁器	1	11.7
	合計		1	11.7



写真1 調査地点近景（南から）

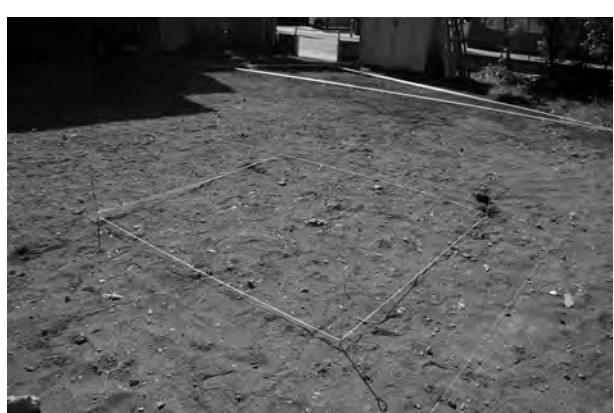


写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（北から）



写真4 TP1 東壁土層堆積状況



写真5 TP1 南壁土層堆積状況



写真6 TP2 設定状況（北から）



写真7 TP2 遺構検出状況（西から）



写真8 TP2 完掘状況（南から）



写真9 TP2 東壁土層堆積状況



写真10 TP2 西壁土層堆積状況

5-6 茅ヶ崎市菱沼二丁目 1043番5の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年5月9日(火)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 前田A遺跡 (No.71)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 後背湿地・砂質低湿地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側に約220mの場所に位置する。調査以前は畠地であり、調査地点の標高は約10.1mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路予定範囲に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

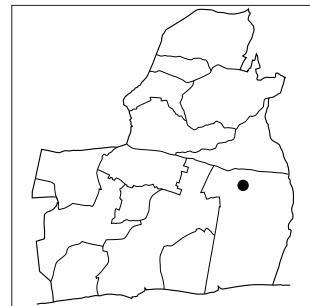
1層：褐色砂。しまり弱い。下部にロームブロックを多く含む。畠の土。

2層：黒褐色砂。しまり強い。黒色土を多量に含む。ローム土を少量含む。客土。

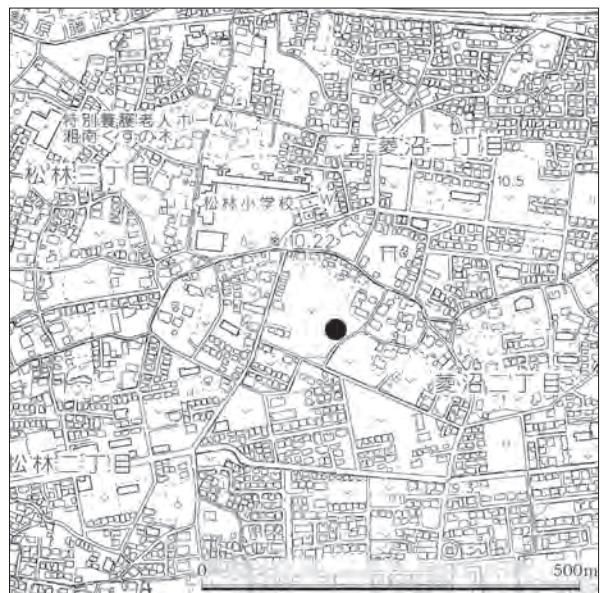
3層：灰白色砂質土。しまり弱い。粘性なし。基本土層の8層に宝永パミス、スコリアを含む。

4層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。炭化物を含む。遺物を含む。古代の包含層。

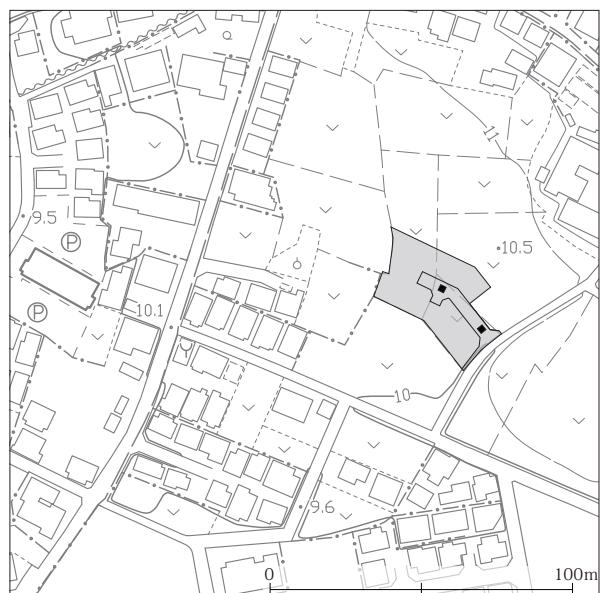
5層：暗褐色土。しまりあり。粘性なし。基本土層の4層に橙色スコリアを少量含む。



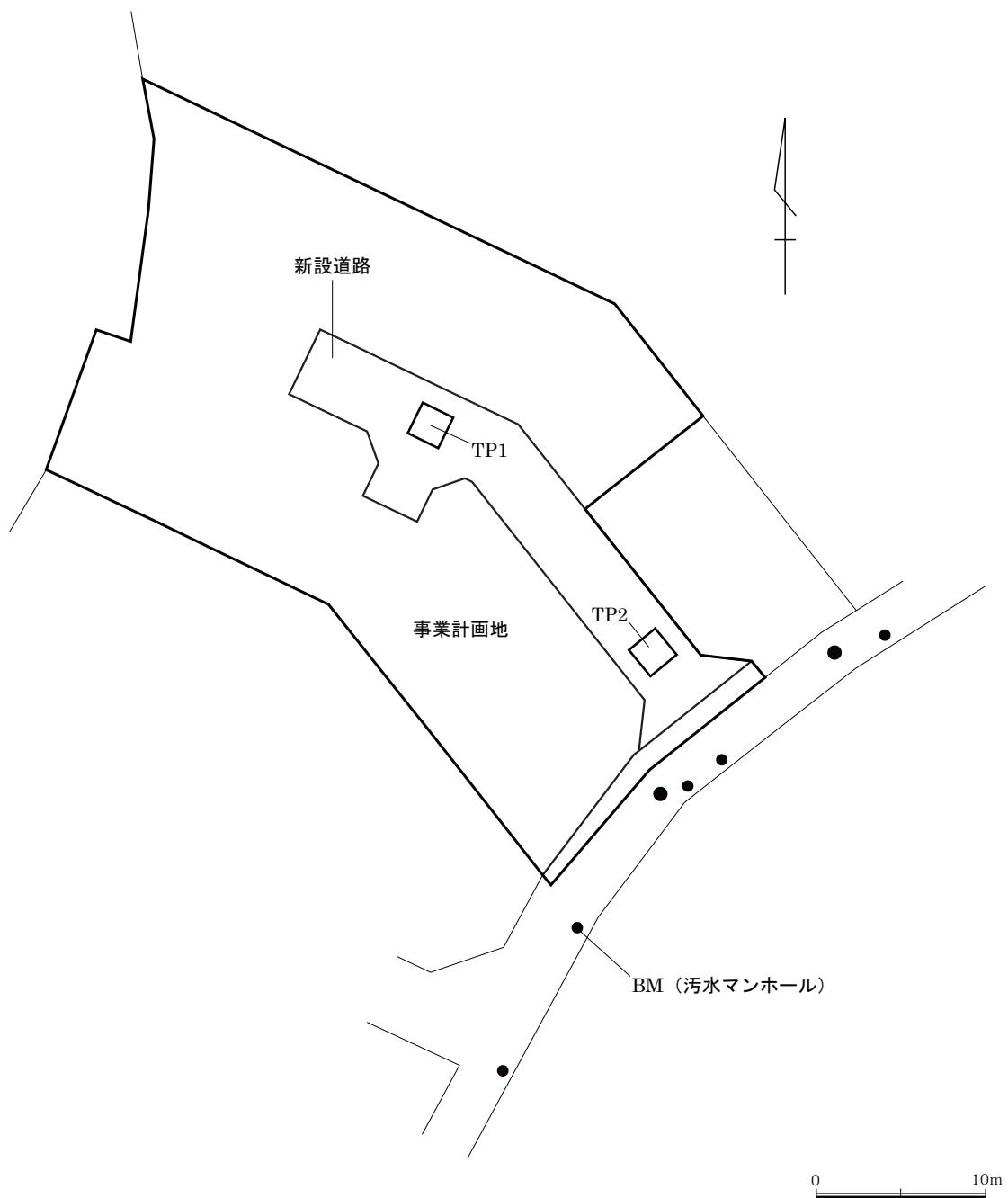
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



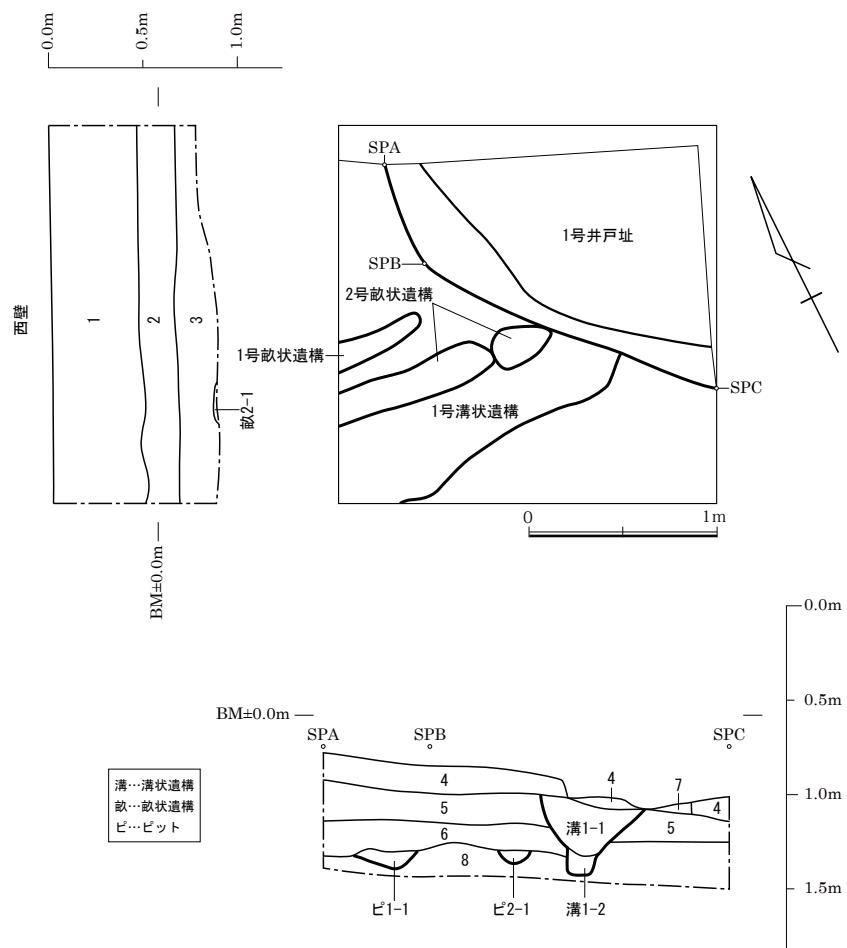
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



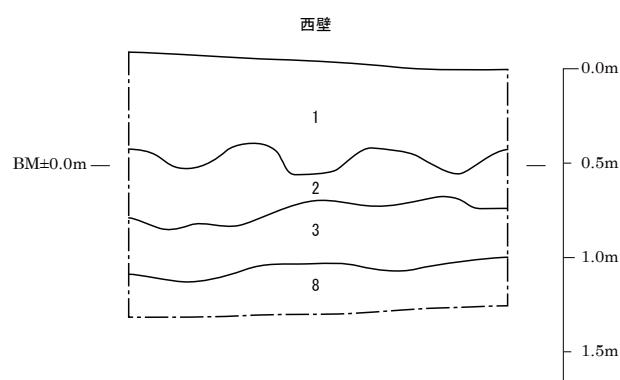
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

古代の包含層。

6 層：暗褐色土。基本土層の 4 層に基本土層の 8 層を多量に含む。遺物を少量含む。
古代の包含層。

7 層：暗褐色土。基本土層の 4 層がやや酸化したもの。古代の包含層。

8 層：灰白色砂。しまりなし。粘性なし。地山。

（2）遺構覆土

〈2 号畝状遺構〉

1 層：灰褐色土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを含む耕作土。

〈1 号溝状遺構〉

1 層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。4 層に炭化物を少量含む。

2 層：暗褐色土。1 号溝状遺構の 1 層が酸化した層。

〈1・2 号ピット〉

1 層：暗褐色土。しまりあり。粘性なし。基本土層の 4 層に基本土層の 8 層を多く含む。遺物を含む。

9 調査結果

（1）発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：畝状遺構、溝状遺構、ピット

出土遺物：土師器

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、陶器、土製品

（2）調査所見

調査の結果、地表下 80cm 付近まで近現代の

耕作土が確認された。地表下 50cm まではロームブロックを多く含む耕作土であったが、地表下 50～80cm までは黒色土を主体とした耕作土であった。黒色土は粘性・水分とともに多く含むことから、砂丘上に畑を構築する際に土中の水分確保を目的として、畑の基材として入れたものと推測される。

TP1 は耕作土直下に古代の遺物包含層が残存しており、近世の遺構である 1・2 号畝状遺構の掘り込みが確認された。また、近現代と推測される 1 号井戸址の断面観察からは、古代～中世の 1 号溝状遺構と古代の中でも比較的古いと推測される 1・2 号ピットが確認された。遺物は土師器であり、古代に属するものが主体を占めている。

TP2 は耕作土直下に宝永パミス・スコリアを含む近世層の堆積が確認された。水平に近い堆積であり、近世層の直下は 8 層砂の地山砂層であった。明確な遺構は確認されなかったが、近世の遺物が出土した。なお、近世層は水平堆積に近い状況であったが、宝永パミス・スコリアが攪拌されていることから、自然堆積とは考えにくい状況であった。これらのことから、本来であれば TP2 の調査区範囲においても TP1 と同様の遺跡状況が続く可能性が高いと考えられる。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

なお本地点については、記録保存を目的として、令和 5 年度に前田 A 遺跡第 7 次調査を実施している。

表 1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP1	一括	土師器	4	3.9
		土師器 壊	1	0.8
		土師器 蜂	2	13.8
TP2	一括	土師器	3	4.8
		土師器 壊	1	2.0
		土師器 蜂	1	1.8
		須恵器 壊	1	10.5
		土製品	2	18.4
		陶器	3	13.7
合計			18	69.7



写真 1 出土遺物



写真2 調査地点近景 (北東から)



写真3 TP1 設定状況 (北東から)



写真4 TP1 完掘状況 (東から)

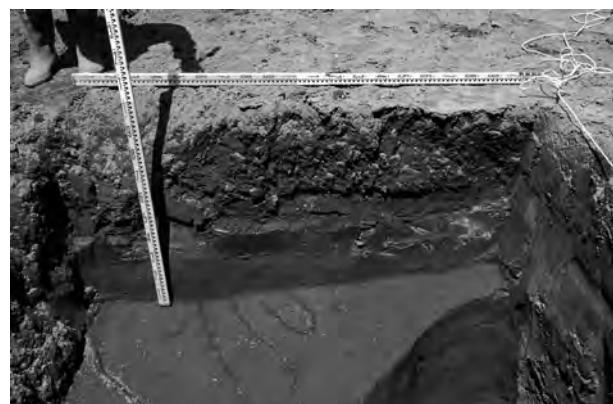


写真5 TP1 西壁土層堆積状況



写真6 SPA-SPC 土層堆積状況



写真7 TP2 設定状況 (北西から)



写真8 TP2 完掘状況 (東から)



写真9 TP2 西壁土層堆積状況

5-7 茅ヶ崎市松林三丁目 190番の一部外 5筆

1 調査年月日 令和5(2023)年5月11日(木)

2 調査目的 集合住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 東ノ町遺跡 (No.195)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立室田小学校から南東に約400mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約9.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の雨水浸透施設と建物範囲に2.0m×2.0mの調査区をそれぞれ1箇所ずつ設定し、調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。
宝永パミス、スコリアを含む。耕作土。

2層：黄褐色砂。しまりなし。地山。

(2) 遺構覆土

〈1号掘り込み〉

1層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。
近世～近代の陶磁器を含む。

2層：灰褐色砂質土。同遺構の1層よりもしまり増す。

3層：灰褐色砂質土。しまりあり。宝永パミス、



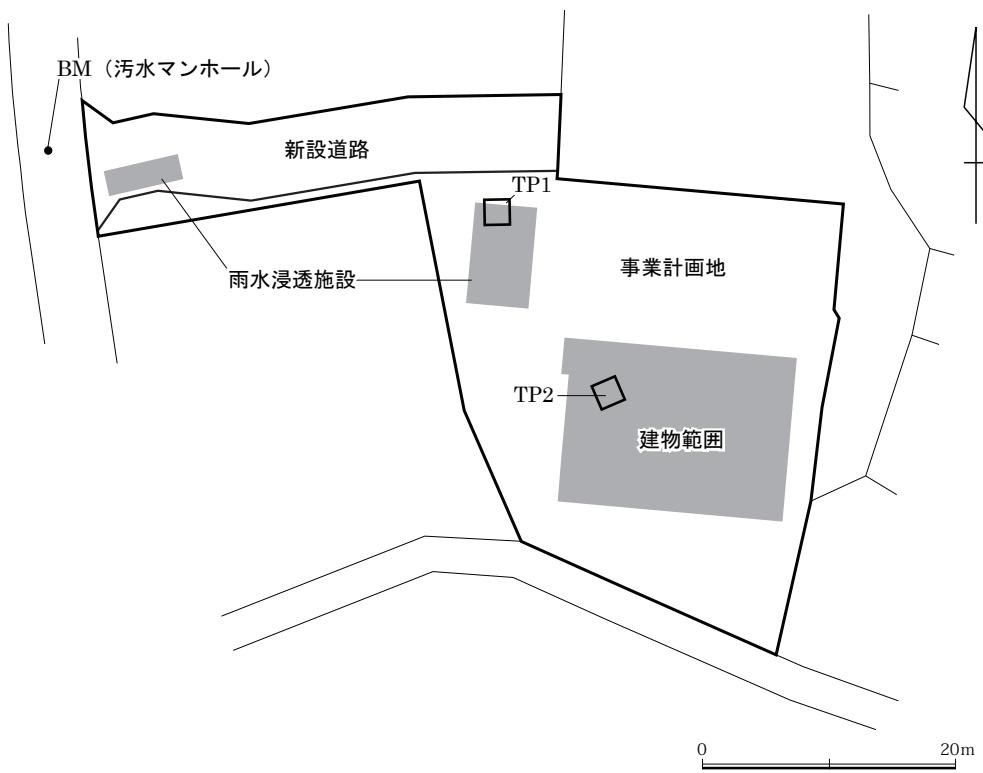
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



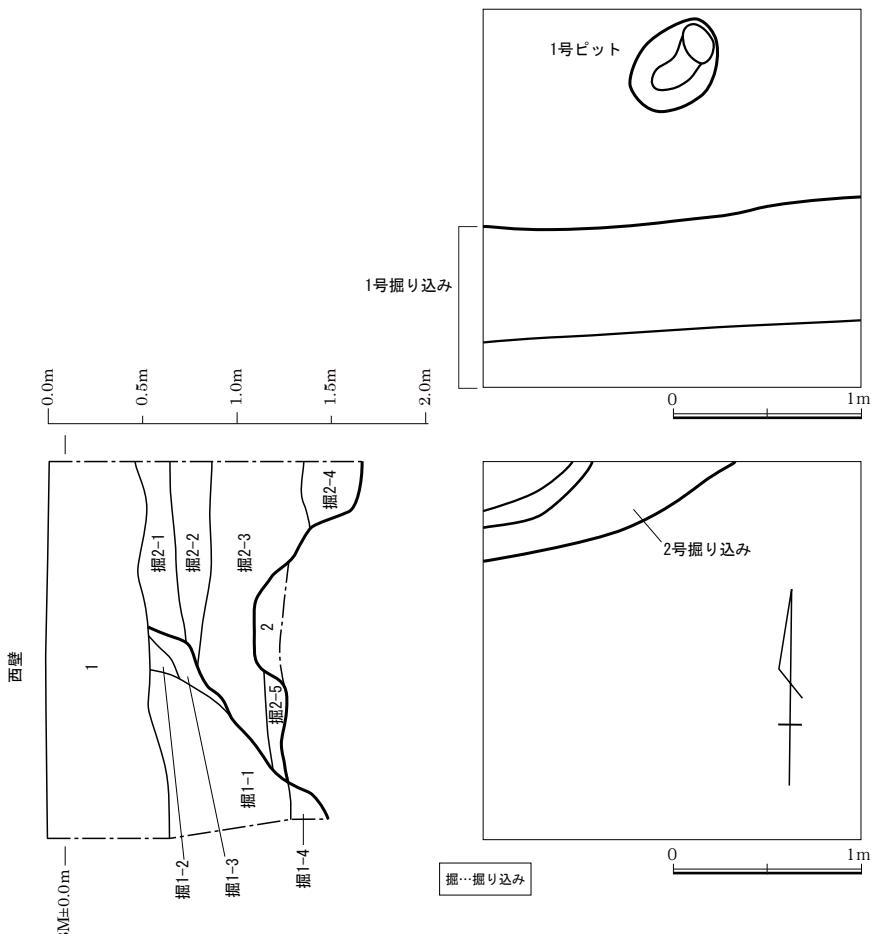
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

スコリアを少量含む。2号掘り込みの1層を20%程度含む。

4層：灰褐色砂質土。しまり強い。同遺構の3層が酸化した層。

〈2号掘り込み〉

1層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性なし。宝永パミス、スコリアを含む。

2層：暗褐色砂質土。粘性ややあり。同遺構の1層に同遺構の3層が少量混じる。

3層：暗褐色土。しまり強い。酸化した同遺構の2層。

4層：暗褐色土。同遺構の3層が酸化し、しまった層。ビニールゴミを含む。

5層：暗褐色土。粘性増す。同遺構の4層がより酸化する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：掘り込み、ピット

出土遺物：かわらけ、陶器、磁器、土製品、鉄製品

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

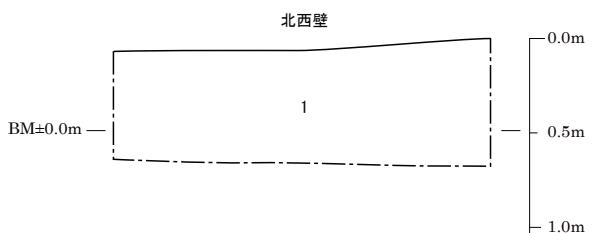
(2) 調査所見

調査の結果、地表下150cm付近までは近現代の埋土及び掘り込みであり、直下には地山層と考えられる2層の堆積が確認された。近現代の掘り込みについては柱穴の可能性が指摘できる1号ピットを除くと、大規模な土取り或いは耕作に

よるものと推測される。近隣住民によると、当該地は以前造園業を営んでいたとの話であり、大規模な掘り込みは植栽痕である可能性も指摘できる。

近現代層直下の砂層は、砂丘に由来する自然堆積層であると考えられる。部分的に酸化がみられ、地表下160cm付近で湧水が確認された。

以上、当該地においては密度は希薄ながらも、埋蔵文化財を確認することができた。



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	表土	かわらけ	1	0.9
		磁器	1	16.2
	1号ピット	陶器	1	1.2
		かわらけ	2	14.6
		土製品	1	5.9
		陶器	1	20.5
	1号掘り込み	鉄製品	1	2.5
		磁器	1	1.9
		鉄製品	1	7.4
合計			10	71.1



写真1 調査地点近景（東から）



写真2 調査地点近景（南から）



写真3 TP1 設定状況（東から）



写真4 TP1 遺構検出状況（東から）



写真5 TP1 完掘状況（東から）



写真6 TP1 西壁土層堆積状況



写真7 TP2 設定状況（南から）



写真8 TP2 完掘状況（南東から）



写真9 TP2 北西壁土層堆積状況



写真10 出土遺物

5-8 茅ヶ崎市堤字仲谷 3530 番 8 の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年5月14日(火)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 1.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大島仲谷遺跡 (No.37)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 旧石器時代、縄文時代（早期～後期）、奈良時代、平安時代、近世

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、県道47号藤沢平塚線の茅ヶ崎市消防署小出出張所から南に約150mの台地南側斜面に位置する。調査以前は宅地として利用されており、標高は約41.3mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の浄化槽予定範囲に1.0m×1.5mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の観察、土層堆積状況の観察、工事計画が遺跡に抵触する部分については遺構調査を行い、完掘した。記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

（1）基本土層

1層：黒褐色土。礫、コンクリート片混じる。

2層：黒褐色土。粘性やや強い。橙色粒少量含む。黒色パミス多く含む。暗褐色土を少量斑らに含む。埋土。

3層：暗褐色土。しまりあり。粘性やや強い。土質ややソフト。橙色粒中量含む。

4層：暗褐色土。粘性やや強い。堆積やや密。橙色粒少量含む。褐色土少量混じる。



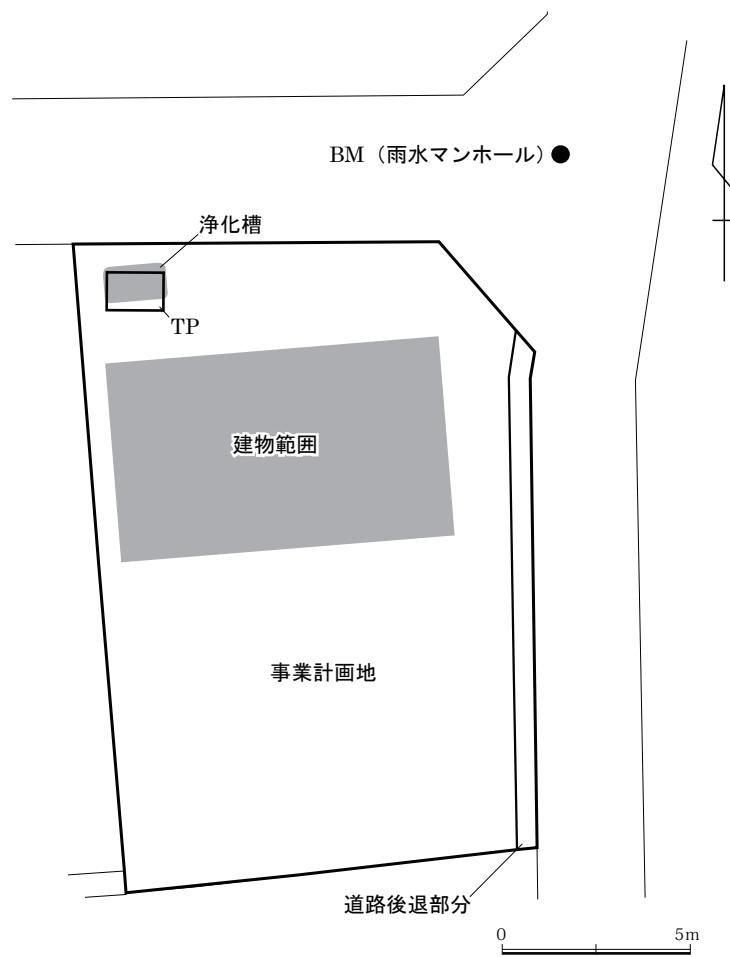
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



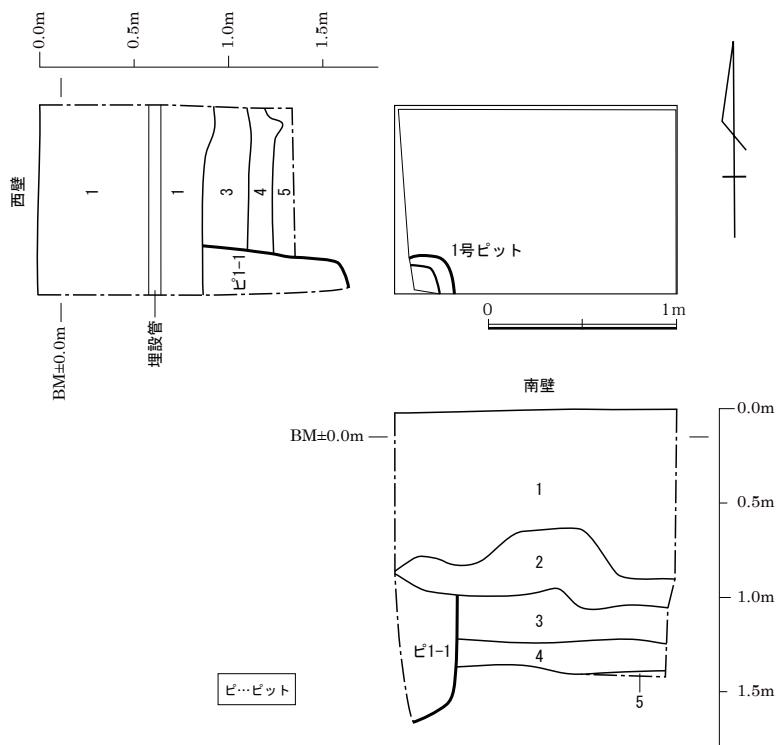
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

5層：褐色土。しまりやや強い。堆積密。下部でソフトロームが混じる。

(2) 遺構覆土

1層：黒褐色土。しまり弱い。橙色粒多く含む。下部にソフトロームをブロック状に少量含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：ピット

出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、古代の遺構、遺物を確認することができた。

地表から約80cmまでは表土（基本土層1層）および埋土（基本土層2層）であり、それ以下で本来の堆積土を確認することができた。本来の堆積土は上から順に、古墳時代～古代の堆積土と思われる基本土層3層、弥生時代以前の堆積土と思われる基本土層4層、いわゆるローム漸移層と呼ばれる基本土層5層である。基本土層4層以下に遺物が含まれないことから各層の明確な時期は断定できないが、基本土層4層以下は

周辺の台地地形のローム層直上の堆積土とみられる。1号ピットは基本土層3層より上位の土層が覆土となっているが、黒褐色の周辺における古代相当層であることから、古代に埋没した遺構と考えられる。

西側隣接地において過去に実施した試掘・確認調査では、古代の竪穴状遺構やピットが確認されており、覆土が近似することから、今回確認された遺構が同時期のものである可能性は高いと考えられる。

また、その際の調査においても、同様に古墳時代以降の堆積土は削平されている状況が確認されており、当該地周辺が同時期に削平を受けたと考えられる。今回の調査では、古代以降近現代までのいずれの時期に削平されたか特定することはできなかった。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	一括	土師器 坏	1	1.1
		土師器 囊	3	9.2
	1号ピット	土師器 囊	3	13.7
合計			7	24.0



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 調査区設定状況（東から）



写真3 完掘状況（北から）



写真4 南壁土層堆積状況



写真5 西壁土層堆積状況

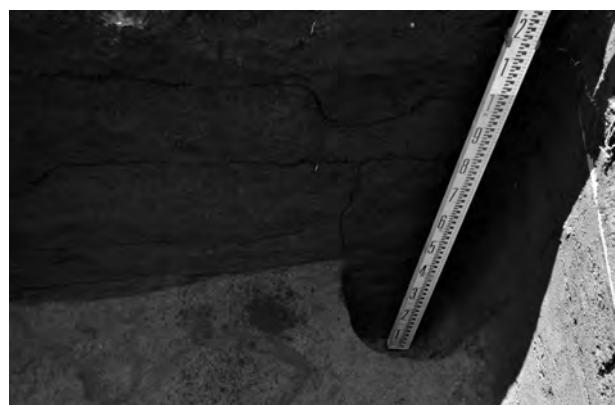


写真6 1号ピット土層堆積状況



写真7 出土遺物

5-9 茅ヶ崎市小和田一丁目 716番6の一部外 5筆

1 調査年月日 令和5(2023)年5月17日(水)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 池袋B遺跡(No.87)

(2) 種別 集落跡、遺物散布地

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎警察署小和田交番から北に約230mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約9.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分において2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に打ち込まれていた既設の鉢を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

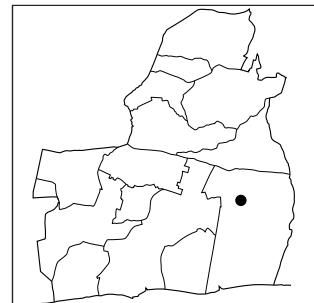
1層：暗灰黄褐色砂質土。堆積密。暗褐色土を少量班に含む。客土。

2層：灰黄褐色土。しまりなし。砂質味強い。耕作土を多く含む。埋土。

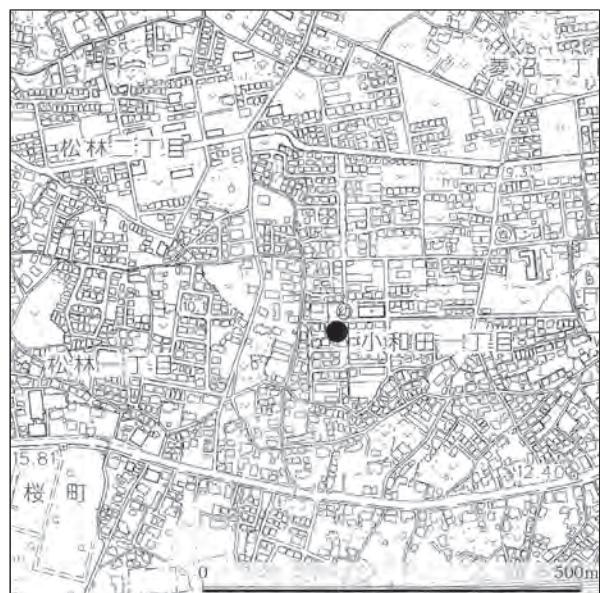
3層：青灰色粘質土。しまりあり。下部に青灰色砂を多く含む。埋土。

4層：青灰色土。しまりなし。粘性強い。堆積粗い。ソフトロームブロックを含む。埋土。

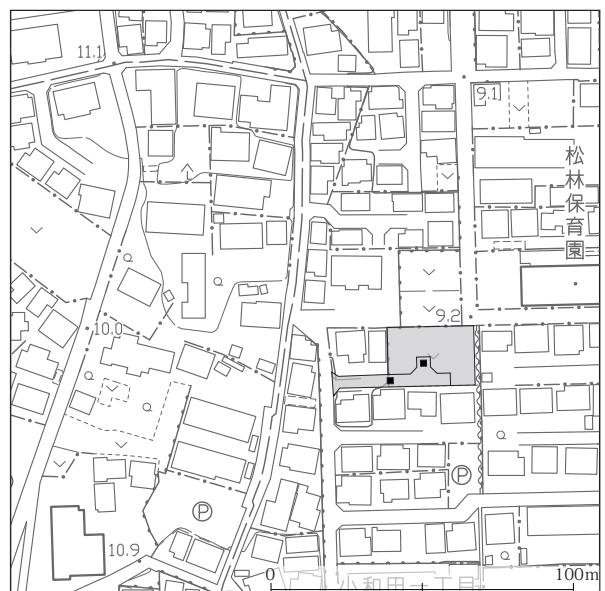
5層：青灰色土。4層に比べ、ソフトロームブロックが激減し、粘性増す。埋土。



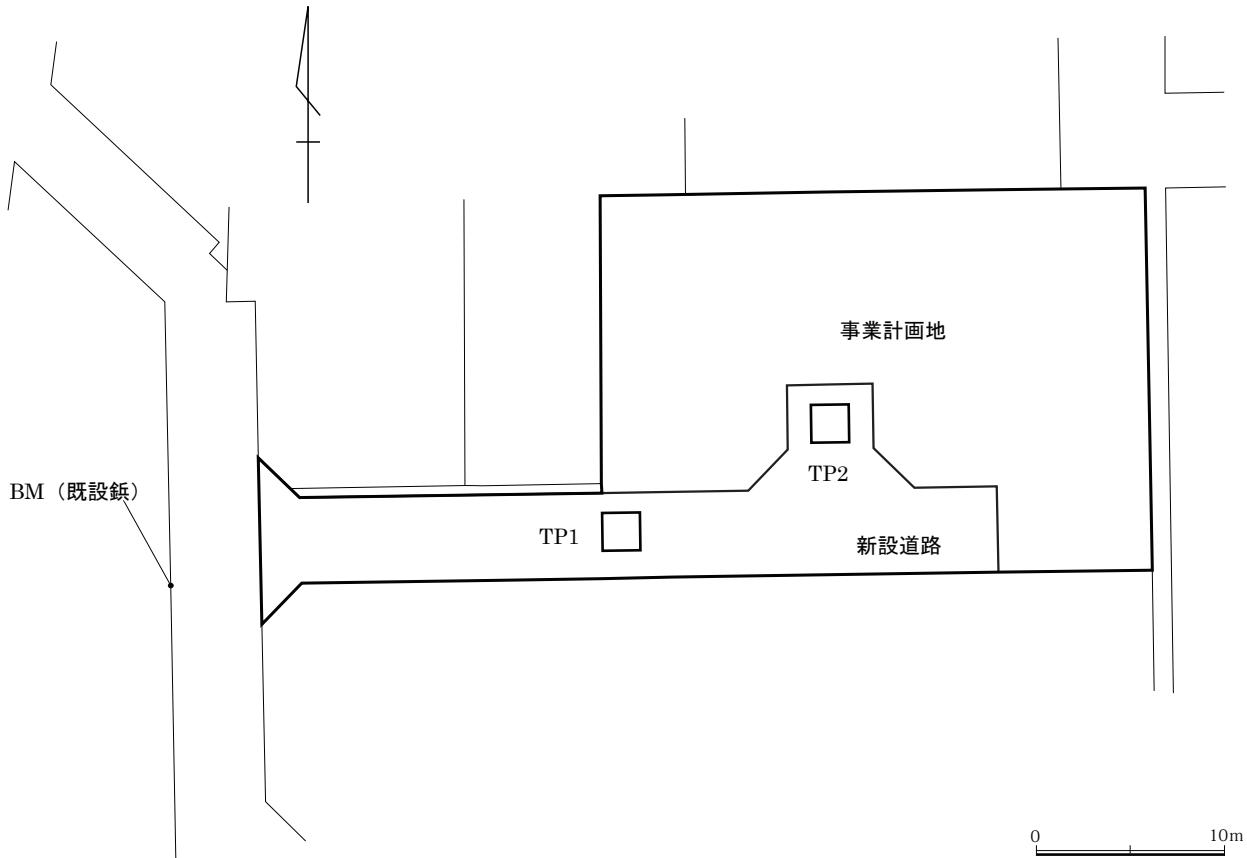
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

6層：暗褐灰色土。粘性ややあり。堆積やや密。
砂質土を極小量含む。

7層：褐灰色粘質土。地山。同色の砂質土を班に30%程度含む。湧水する。腐植物含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

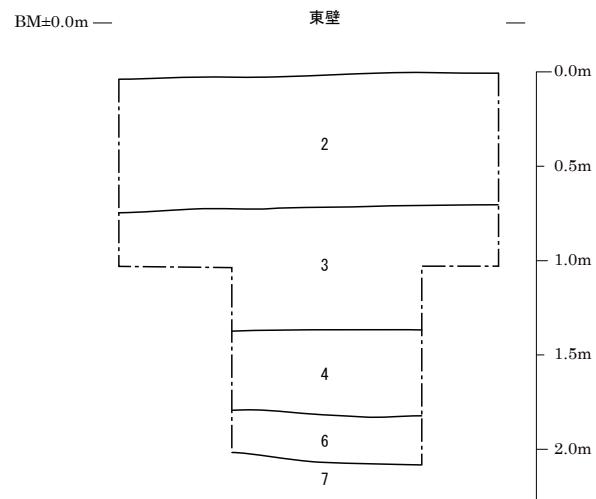
調査の結果、地表下約200cm付近まで近現代の埋土であったが、それ以下では本来の自然堆積層を確認することができた。

埋土に砂の混入が多くみられることについては、調査地点が湿地性の土壤で土中の水分量が極めて多いため、埋土中に砂や砂質土を含ませることで土中の水分に対する対策を行ったものと考えられる。

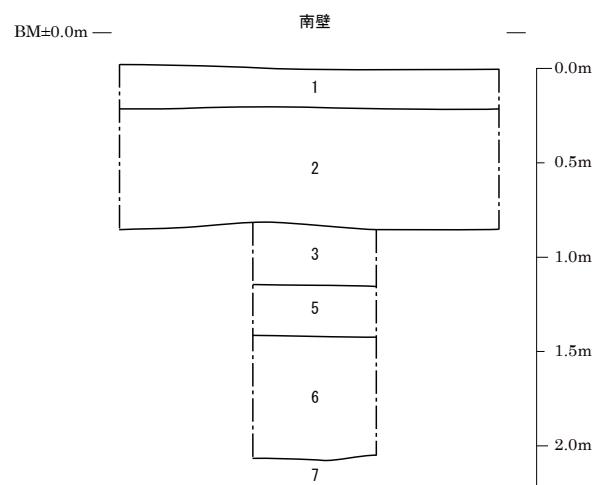
地山層と考えられる7層は湧水による酸化が

少ないものの、湿地的な変色や笹などの腐植物を多く含むものであった。

以上、当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



写真1 TP1 調査区設定状況（南から）



写真2 TP1 完掘状況（西から）



写真3 TP1 東壁下部土層堆積状況

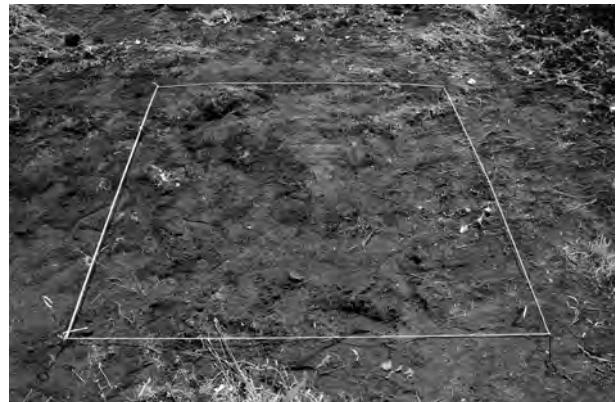


写真4 TP2 設定状況（東から）



写真5 TP2 北壁土層堆積状況



写真6 調査地点近景（西から）

5-10 茅ヶ崎市萩園字辻西 2408 番

1 調査年月日 令和5(2023)年5月18日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 辻西遺跡(No.177)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 自然堤防

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市西部、茅ヶ崎市立萩園中学校の南東側に隣接する場所に位置している。調査以前は農業施設用のビニールハウスが建っており、調査地点の標高は約4.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分において2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削完了後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する3級基準点No.089を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

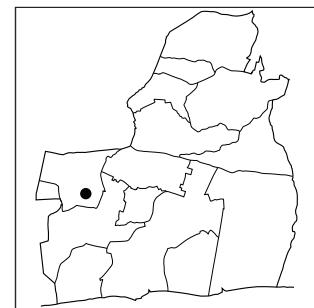
1層：暗黄褐色土。埋土。しまり強い。粘性あり。下部にコンクリートガラ含む。

2層：暗褐色土。埋土。砂利を含む。砂分強い。ビニールゴミを含む。

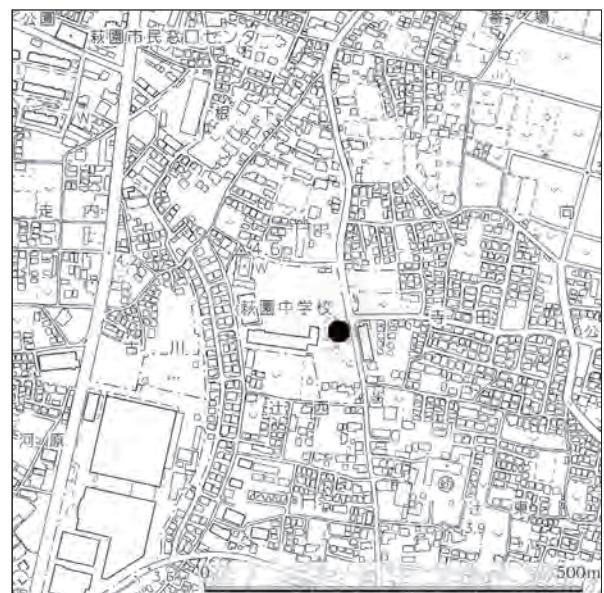
3層：黄褐色土。しまり極めて強い。粘性極めて強い。転圧を強く受ける。斑状に酸化する。宝永パミス、スコリアを少量含む。近世層。

4層：暗灰褐色土。3層の転圧による色調変化。橙色スコリアを極小量含む。近世層。

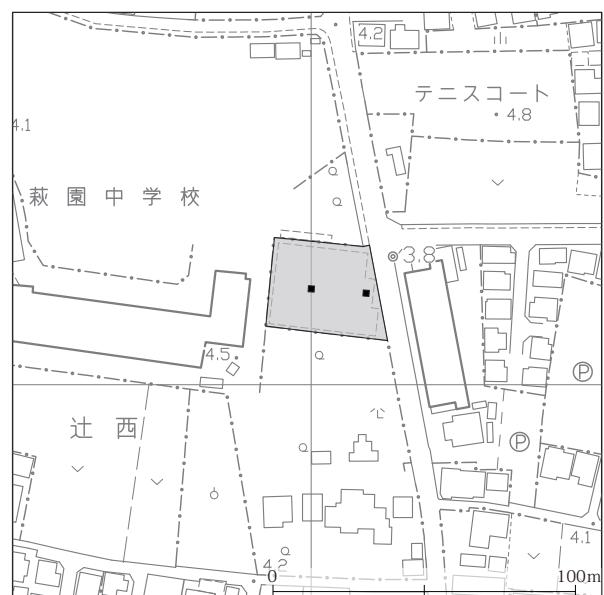
5層：黄褐色土。近世層。しまり強い。粘性強い。3、4層の本来の姿。



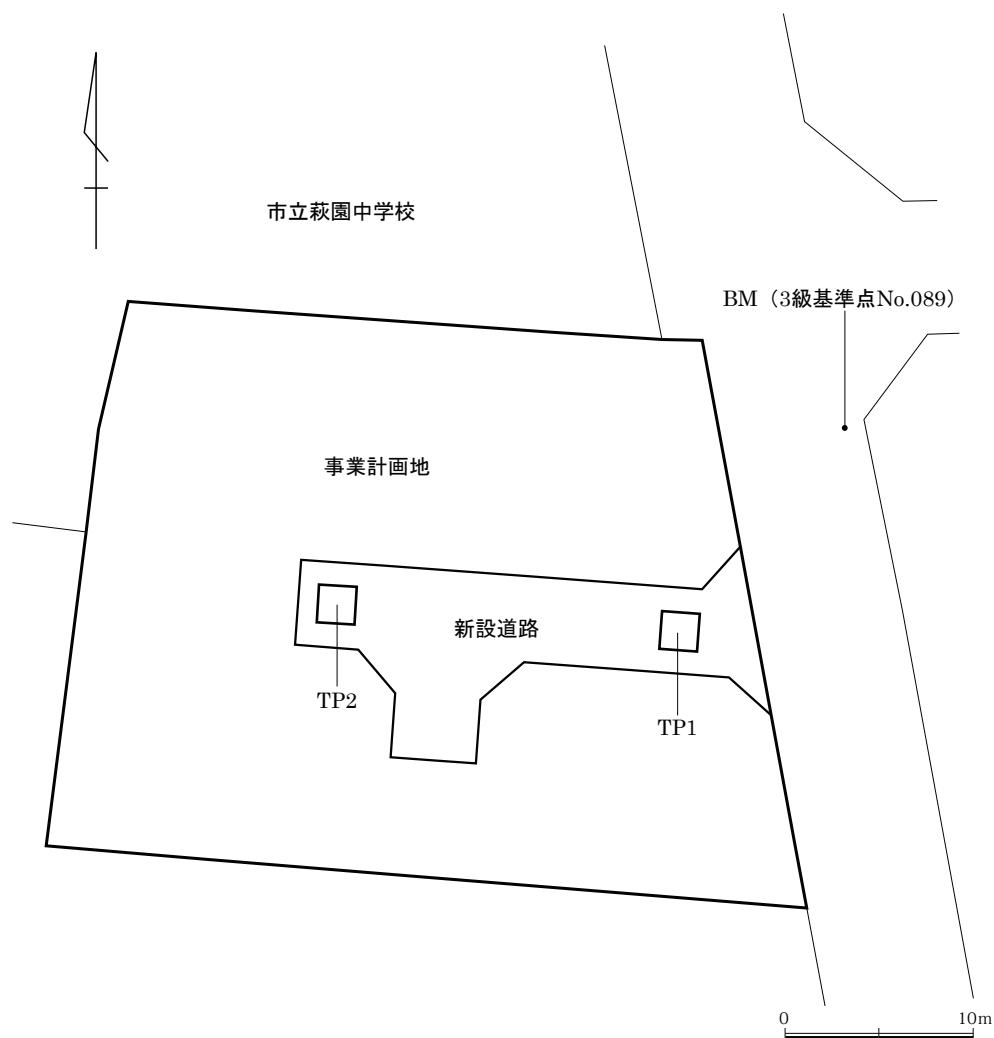
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



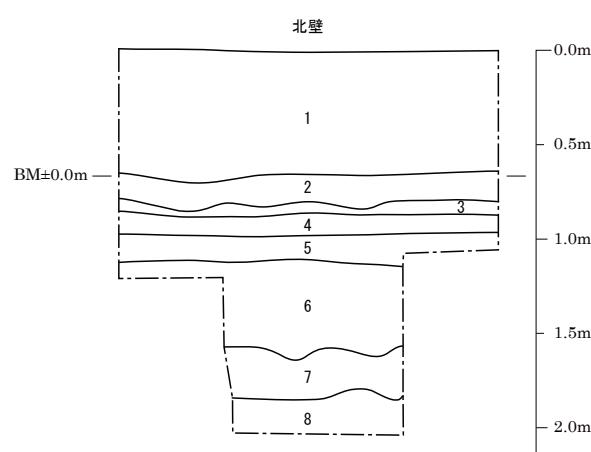
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



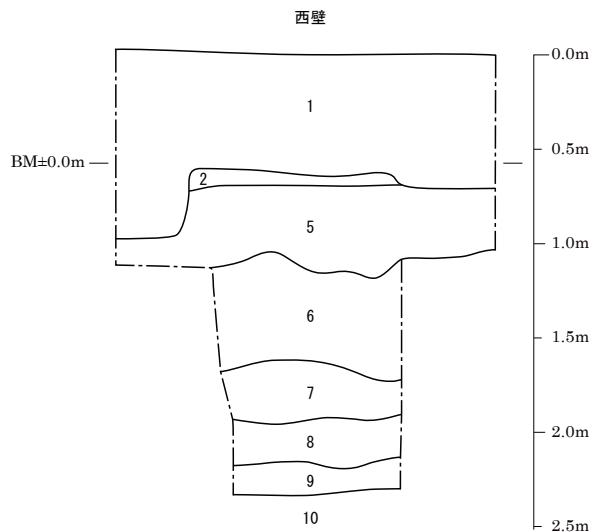
第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

- 6層：黄褐色土。堆積密。砂粒を極小量含む。
地山。
- 7層：黄褐色土。堆積密。やや酸化する。土粒
細かい。地山。
- 8層：黄褐色土。しまり強い。粘性強い。堆積
密。斑状に酸化する。地山。
- 9層：黄褐色砂質土。しまり強い。粘性ややあ
り。10層の漸移層。8層に10層が混
じる。わずかに酸化する。
- 10層：黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。斑状
に酸化する。やや水分を含む。地山。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下60cmまでは近現代の埋
土であったが、60～110cmまでは宝永パミス・
スコリアを含む近世層が残存していた。近世層直
下は自然堆積層の黄褐色土が確認された。遺構は
確認されなかったが、埋土である2層からは土
師器の細片が出土した。自然堆積層の砂層である
10層になると土中の水分量が急増し、若干の湧
水が確認できた。

以上のことから、当該地においては埋蔵文化財
が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP2	6層	土師器 壊	1	2.9
	合計		1	2.9



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 TP1 設定状況（南から）



写真3 TP1 完掘状況（南から）



写真4 TP1 北壁土層堆積状況

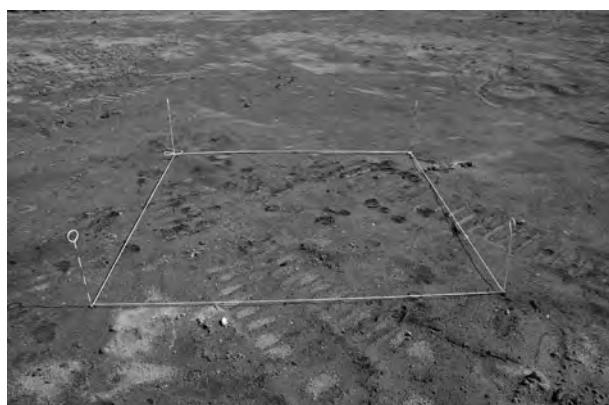


写真5 TP2 設定状況（南から）



写真6 完掘状況（東から）

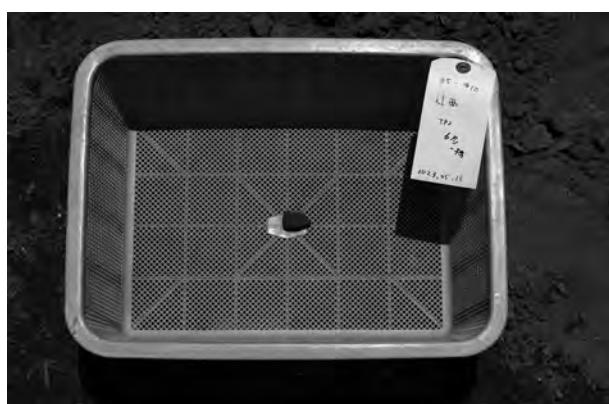


写真7 出土遺物

5-11 茅ヶ崎市出口町 2076 番 2

1 調査年月日 令和5(2023)年5月19日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 出口A遺跡(No.101)

(2) 種別 集落跡、遺物散布地

(3) 時代 繩文時代(後期)、弥生時代、
古墳時代(末)、奈良時代、
平安時代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市南東部、茅ヶ崎市立松浪小学校から北西に約400mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約12.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲南東部に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：褐灰褐色砂質土。しまり弱い。粘性ややあり。 ϕ 20cmの礫が混じる表土。

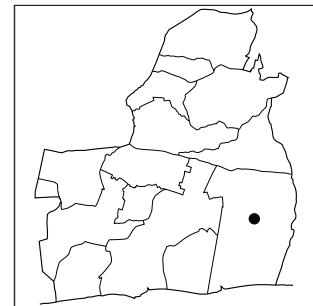
2層：灰黄褐色砂質土。1層よりしまり弱まる。
黄褐色砂がブロック状に混じる。礫、コンクリート片混じる。搅乱層。

3層：暗灰黄褐色砂質土。搅乱層。暗褐色砂質土と黄褐色砂がマーブル状に混じる。

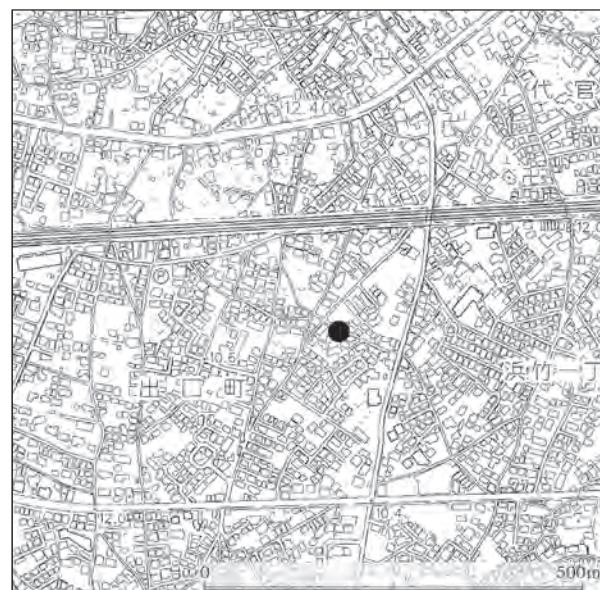
4層：黄褐色砂。しまり弱い。堆積密。水気を帯びる。

5層：褐色砂。4層よりしまり増す。

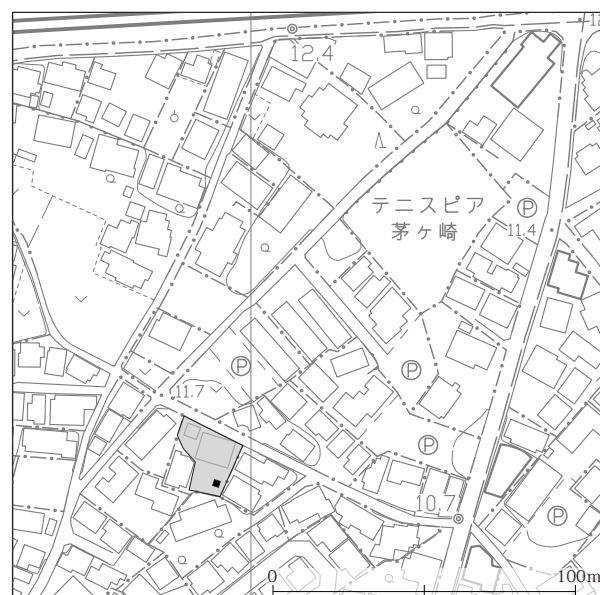
6層：褐色砂。5層との層界に酸化鉄分を含む。



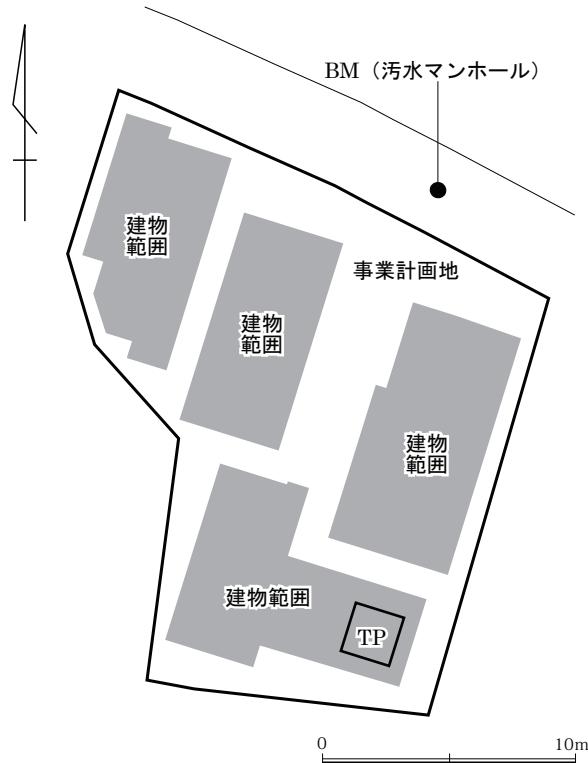
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

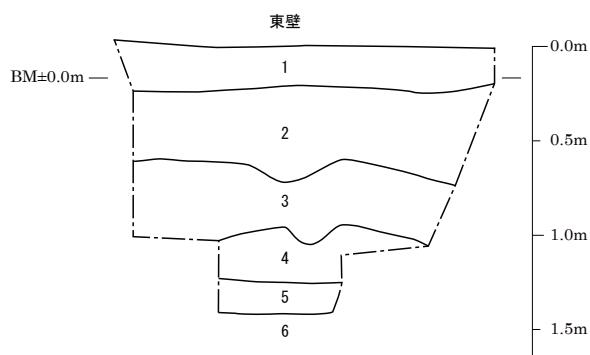
出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、表土の1層から地表下約100cmの3層まで本来の土層が攪乱されている状況であり、それ以下で本来の堆積土を確認することができた。

本来の堆積土は上から順に黄褐色の砂層である4層、4層よりしまりが増す褐色砂の5層、同じく褐色砂で5層との境に酸化鉄分を含み、しまりの増す6層である。4～6層から時期を特定できる包含層は発見されなかった。調査深度以下に文化層が存在する可能性があるが、工事による掘削が及ばないため、これ以下の確認は実施しなかった。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。



第5図 土層断面図 (1/40)



写真 1 調査地点近景（北西から）



写真 2 完掘状況（西から）



写真 3 東壁土層堆積状況

5-1-2 茅ヶ崎市菱沼二丁目 1430番10

1 調査年月日 令和5(2023)年5月25日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 已待田A遺跡 (No.74)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側に約440mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北東側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗黄褐色土。埋土。しまりなし。コンクリートガラ・建材を多く含む。

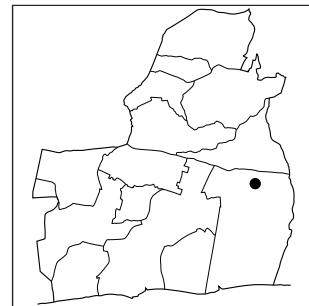
2層：黄褐色土。埋土。粘性極めて強い。1層のガラが混じらない層。ハードロームブロックを多く含む。

3層：黄褐色土。1層と2層の混合層。

4層：黄褐色土。しまり強い。粘性強い。2層に黒褐色土を少量含む。

5層：黄褐色土。4層にコンクリートガラ、青色砂質土を含む。転圧によつてしまる。

6層：暗灰色粘質土。しまりあり。粘性強い。水分を多く含む。



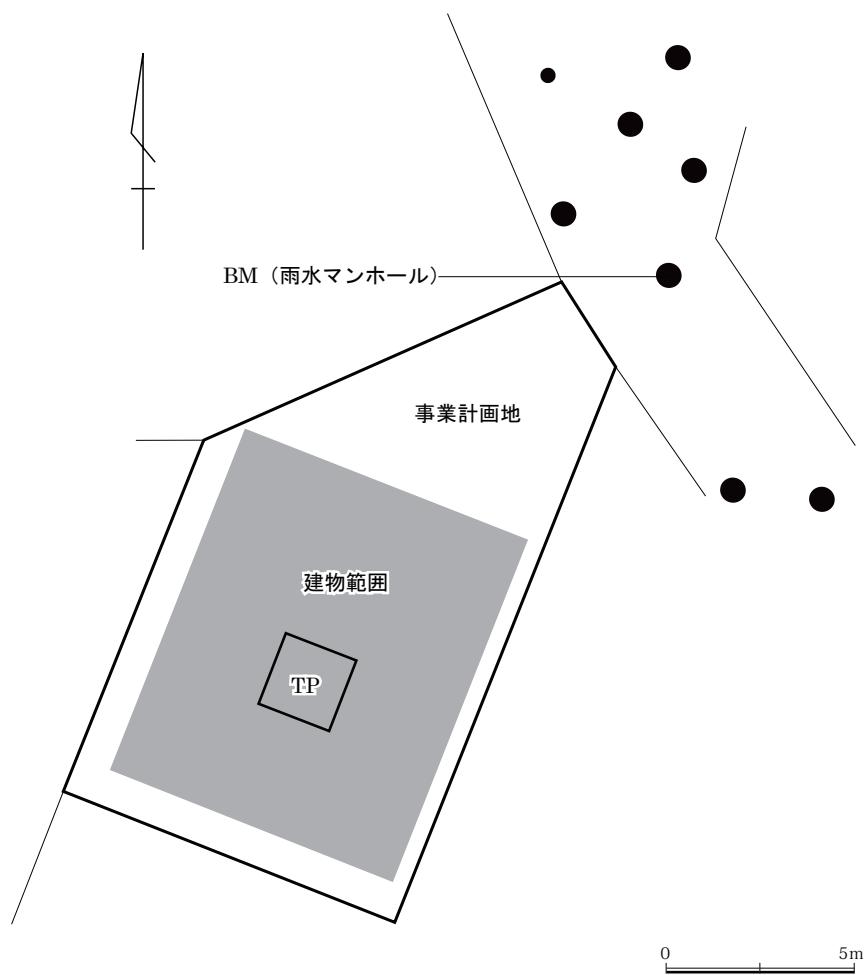
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

7層：暗灰色粘質土。しまり増す。粘性強い。

腐植物を少量含む。砂粒含む。

8層：暗オリーブ色粘質土。しまり極めて強い。

粘性極めて強い。腐植物を多量に含む。

水分量極めて多い。泥炭質強い。

9層：暗灰色褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱

い。8層と砂層の混合層。湧水する。

10層：黄褐色砂。しまり弱い。粘性弱い。自然

堆積の無遺物層。地山。粒子細かい。

9 調査結果

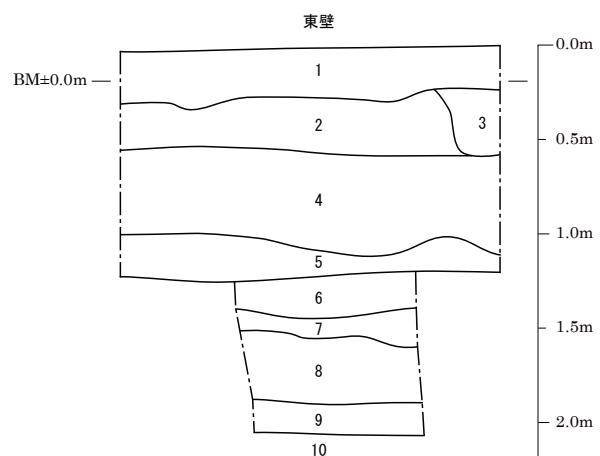
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 120cm の 5 層までは近現代の埋土であり、コンクリートガラや建材片などが混入していた。地表下 120 ~ 200cm までは砂丘間凹地に伴う湿地性の腐植物混じりの堆積土が



第5図 土層断面図 (1/40)

確認された。湿地性の堆積層(6～8層)から遺構・遺物を確認することはできなかったが、宝永パミス・スコリアを含まないことから近世以前の層といえる。自然堆積層の砂層である10層になると、

土中の水分量が急増し激しい湧水が確認できた。

以上のことから、当該地においては埋蔵文化財は確認できなかった。



写真1 調査区設定状況（南から）



写真2 完掘状況（西から）

写真4 西壁下部土層堆積状況



写真3 東壁土層堆積状況

5-1-3 茅ヶ崎市松林三丁目 888番2外

1 調査年月日 令和5(2023)年5月30日(火)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 12.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 手城塚B遺跡 (No.92)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北東側、茅ヶ崎市立松林小学校から西側約200mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.2mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分に2.0m×2.0mの調査区を3箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：暗褐色土。しまり弱い。粘性やや強い。

近現代の耕作土。土質ソフト。表土。

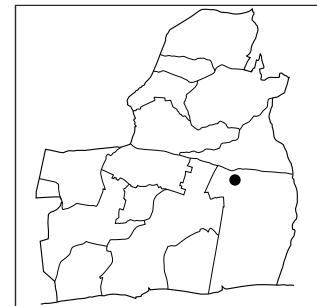
2層：褐色土。堆積やや粗い。宝永スコリアを多く含む。転圧を受けている。客土。

3層：灰黄褐色土。堆積粗く、金属片混じる。湿地土(湧水)を抑え込むための盛土か。下部より絞り水多量に湧く。

4層：にぶい灰褐色砂質土。小礫混じる。客土。

5層：にぶい灰褐色砂質土。砂質土をベースにマーブル状に暗褐色粘性土が混ざる。

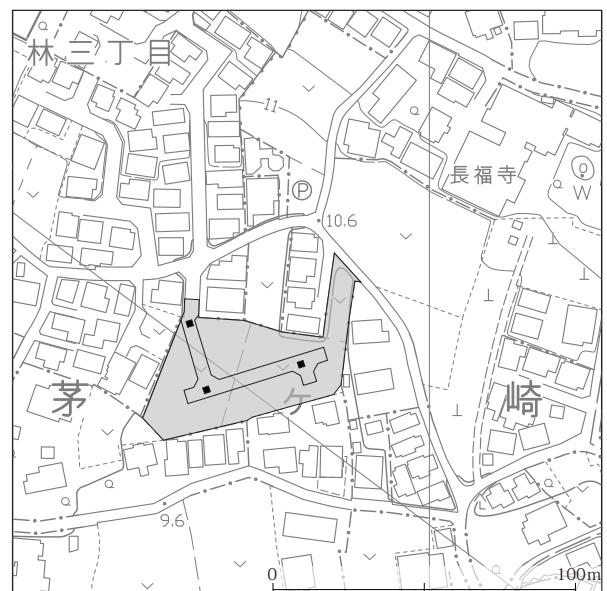
下部に白色スコリア混ざる。灰白色砂質土がブロック状に混ざる。



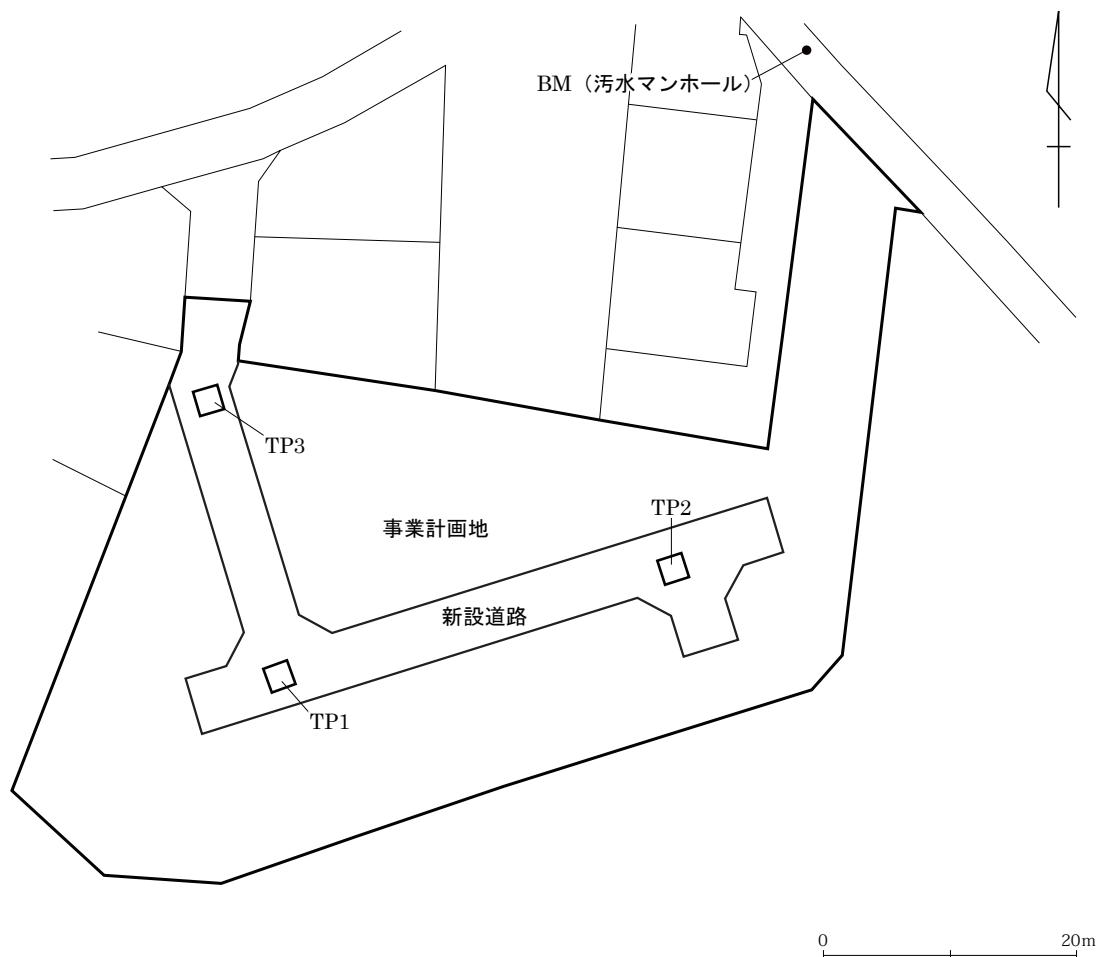
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)

6層：暗褐灰色土。しまり強い。粘性強い。堆積密。自然堆積層。砂質土少量含む。湿地に伴う白色スコリア多く含む。

7層：暗褐灰色土。しまり強い。粘性強い。堆積密。自然堆積層。湧水する。砂質土を少量含む。

8層：暗褐灰色土。しまり強い。粘性強い。自然堆積層。湧水する。粘性土混入する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：陶器、土製品

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP3〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器

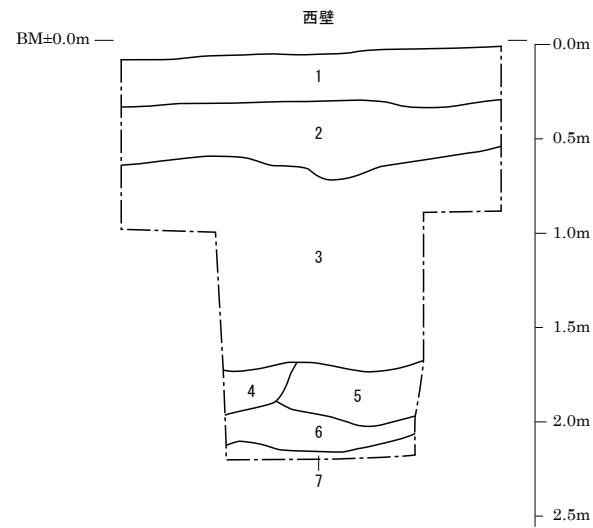
(2) 調査所見

調査の結果、地表下150～180cmまでは近現代の埋土であり、埋土直下には湿地性の自然堆積層が残存していた。湿地性の土層には白色パミスが多量に含まれており、少量の腐植物の存在も確認された。遺構は確認されなかったが、埋土から土師器と近世の土製品が出土した。また、地表下200cm付近で湧水した。

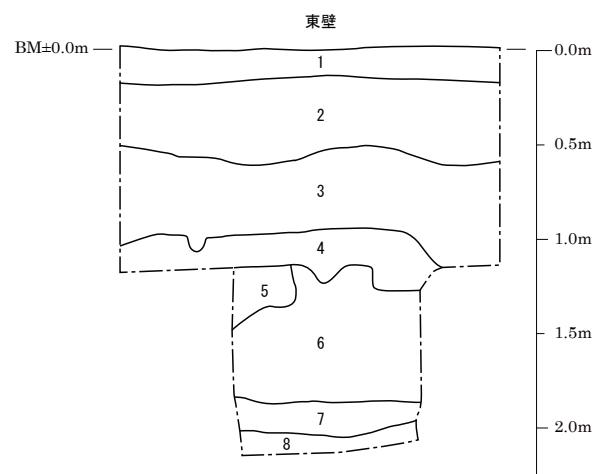
当該地においては、希薄でありながらも埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

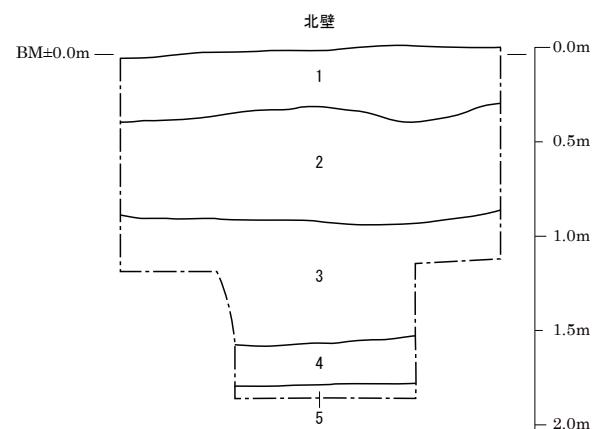
調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	3層	陶器	1	4.8
		土製品	1	2.3
TP3	4層	土師器	1	1.9
		土師器 瓢	1	3.4
合計			4	12.4



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（北西から）



写真2 TP1 西壁土層堆積状況



写真3 TP2 東壁土層堆積状況



写真4 TP3 設定状況（北から）



写真5 TP3 北壁土層堆積状況



写真6 出土遺物

5-14 茅ヶ崎市松林三丁目 195番1外 18筆

- 1 調査年月日 令和5(2023)年6月1日(木)
- 2 調査目的 宅地造成工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 8.0m²
- 5 遺跡の概要
- (1) 名称 手城塚B遺跡(No.92)
大縄下遺跡(No.93)
- (2) 種別 手城塚B遺跡:集落跡
大縄下遺跡:集落跡
- (3) 時代 手城塚B遺跡:古代、奈良時代、
平安時代、中世、近世
大縄下遺跡:奈良時代、平安時
代、中世、近世
- (4) 立地 砂丘、砂丘間凹地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立室田小学校から南東側約530mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約9.2mを測る。

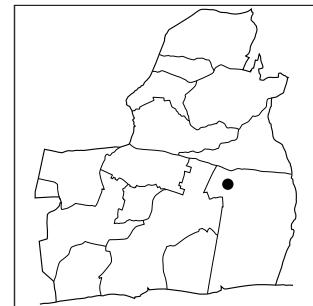
7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

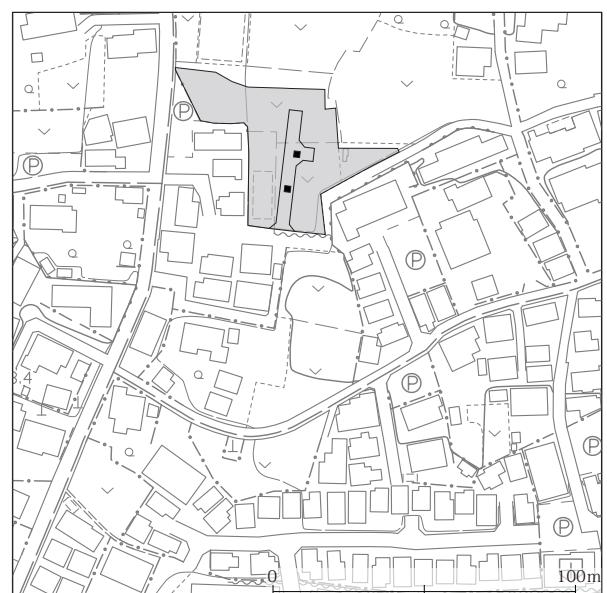
- 1層: 暗褐色土。しまり極めて弱い。粘性極めて弱い。土粒均一。耕作土。表土。
- 2層: 暗褐色土。しまりあり。粘性ややあり。
1層に3層を少量含む。埋め土。
- 3層: 暗黄褐色土。粘性強く、しまりやや強い。
ロームと黒色土をブロック状に多量に含む。砂を斑状に10%含む。
- 4層: 暗黄褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。



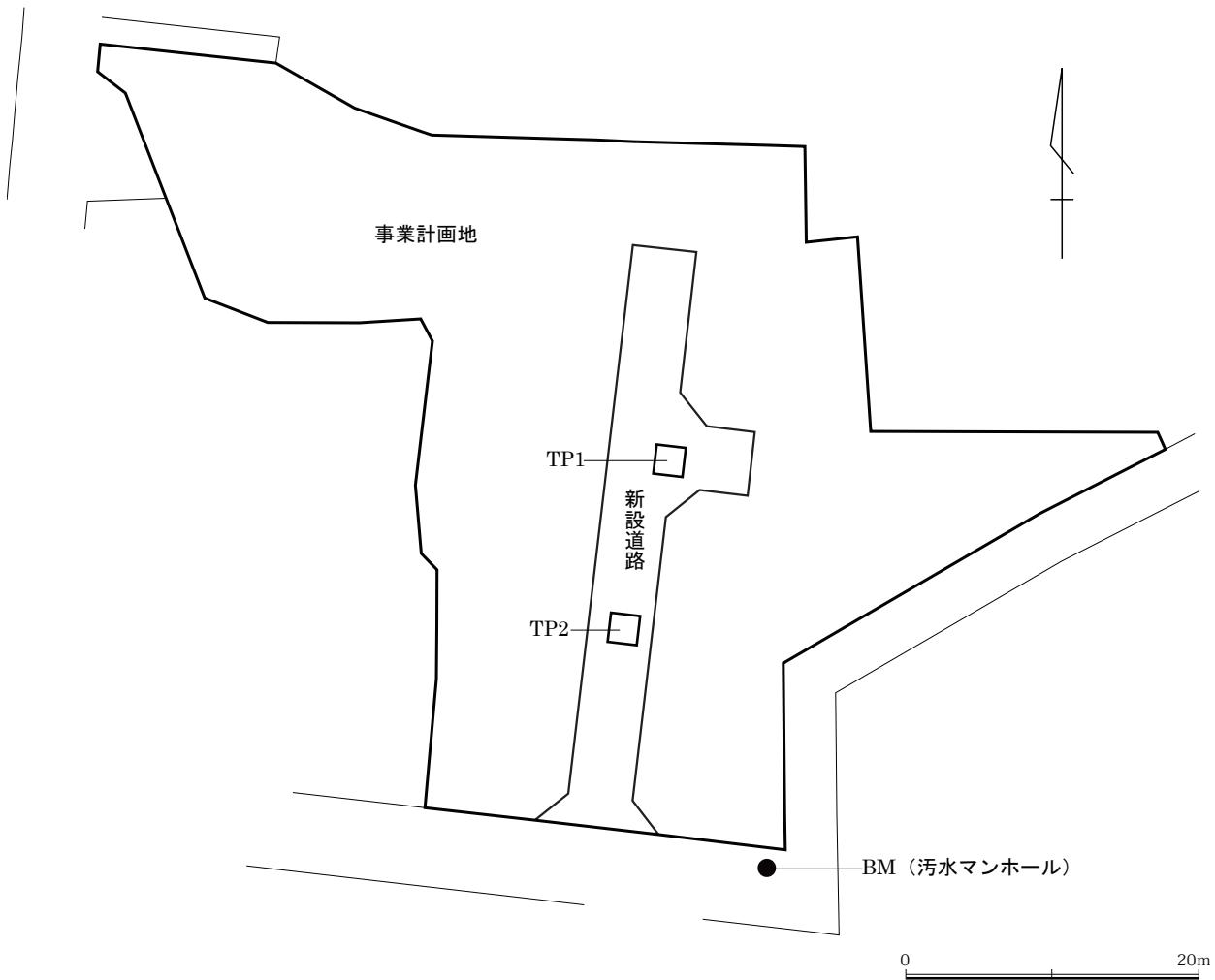
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



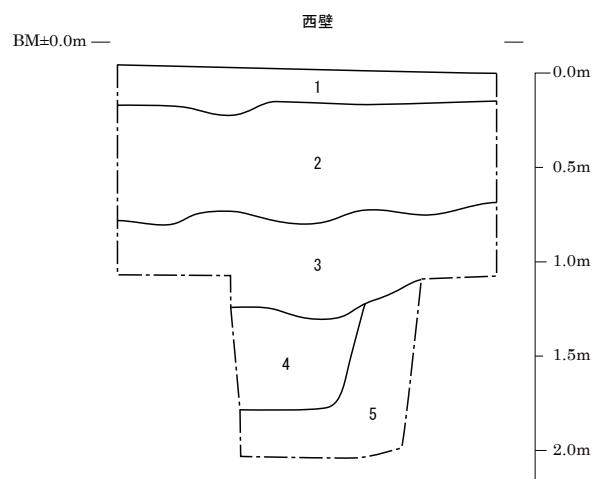
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



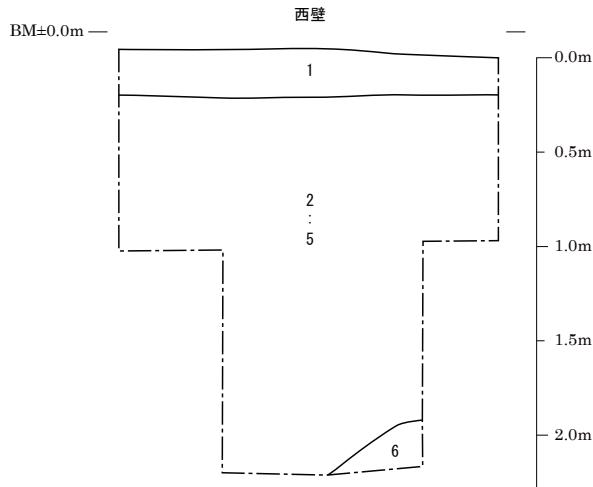
第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

3層の砂分が多い土。50%の砂を含む。

5層：黄褐色砂質土。しまりなく、粘性弱い。

ロームブロック主体で最下部に金属ネットが敷設されている。

6層：灰黄色砂。しまり弱い。粘性なし。土粒細かく均一。自然堆積層。地山。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 210cm 付近まで近現代の埋土および客土であったが、それ以下では本来の自然堆積層である砂層を確認することができた。

客土最下部には金属製のネットが敷き詰められていたが、これは湿地や田を土壤改良する際にかつて行われていた方法であるとされている。金属

ネット直下には自然堆積の無遺物層である砂層の堆積が確認された。また、砂層直上で著しい湧水が確認された。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	2層	土師器 壊	1	2.7
合計			1	2.7



写真1 調査地点近景（南から）



写真2 TP1 設定状況（東から）



写真3 TP1 完掘状況（東から）



写真4 TP1 西壁下部土層堆積状況



写真5 TP2 設定状況（東から）



写真6 TP2 完掘状況（東から）



写真7 TP2 西壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-15 茅ヶ崎市円蔵 370 番地

1 調査年月日 令和5(2023)年6月5日(月)、
6日(火)

2 調査目的 工場新設工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 22.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 小井戸遺跡(No.185)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 小出川東側沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、株式会社東海カーボン茅ヶ崎工場の敷地内に位置する。調査地点の標高は約 5.5m を測る。

7 調査の方法

事業計画地に 2.0m × 2.0m の調査区を 5 箇所、2.0m × 1.0m の調査区を 1 箇所、計 6 箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削完了後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業計画範囲西側の測量鉢を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

〈TP1〉

1 層：しまり極めて強い。粘性あり。円蔵地域にみられるいわゆる二次堆積ロームを主体とし、アスファルトを上部に 5cm の厚みで含む。

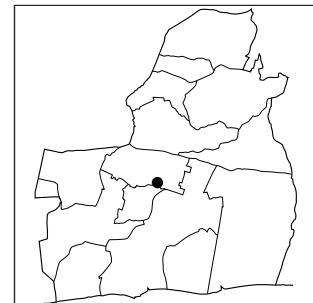
2 層：コンクリート。過去に存在した建物の基礎構造か。厚く広く存在しており、除去が困難。

〈TP2〉

1 層：褐灰色土。砂利多い。転圧を受ける。表土。

2 層：攪乱。

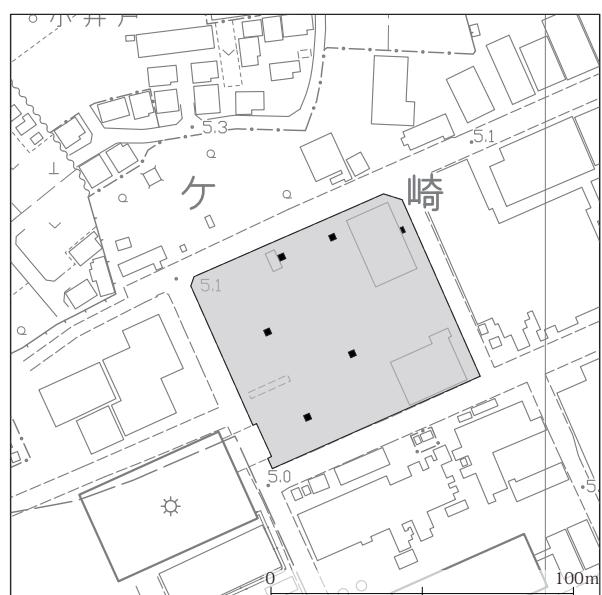
3 層：暗褐灰色土。φ 5cm の礫含む。鉄筋混



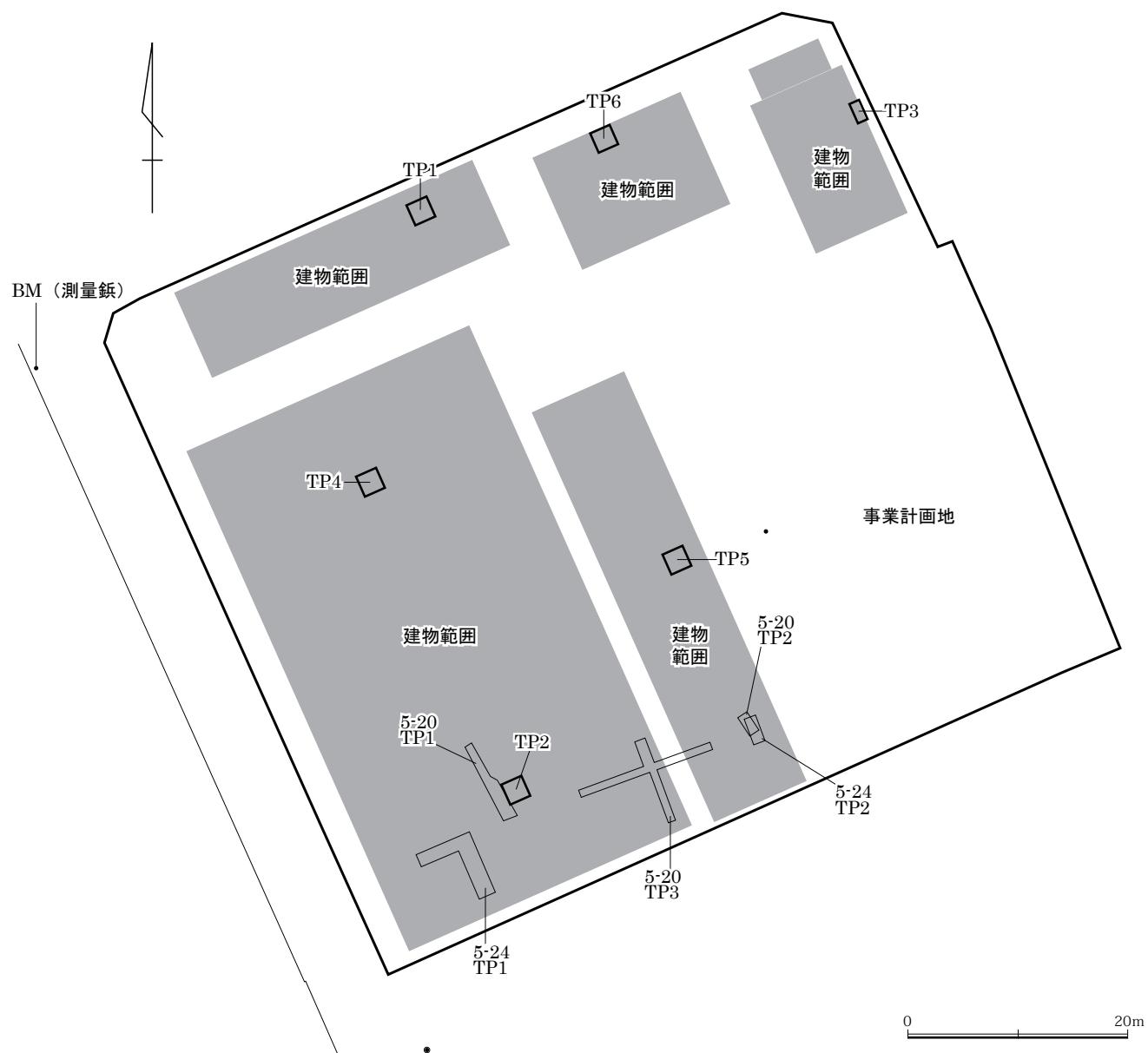
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



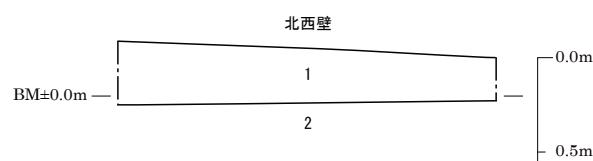
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



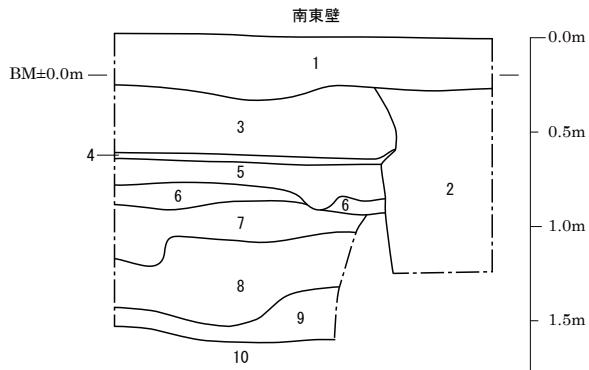
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



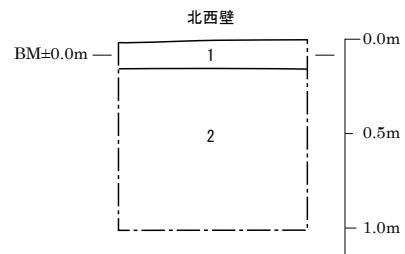
第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 土層断面図 (1/40)

じる。

4層：暗灰褐色砂。粗い。

5層：にぶい灰黄褐色土。しまり強く、パミス多い。

6層：にぶい灰黄褐色土。粘性やや強い。堆積密。やや酸化する。

7層：にぶい灰黄褐色粘質土。土質ソフト。暗灰色粘質土がブロック状に混じる。

8層：にぶい灰黄褐色粘質土。下部に黄褐色土がブロック状に混じる。

9層：暗灰黄褐色粘質土。全体的にやや酸化。

10層：褐色土。いわゆる二次堆積ローム。やや砂質。全体に酸化する。

〈TP3〉

1層：暗褐色土。礫多く、転圧を受ける。褐色土をブロック状に含む。表土。

2層：暗褐色土。粘性強い。コンクリート、砂利を上部に多く含む。炭化物、パミス多い。堆積粗い。客土。

〈TP4〉

1層：碎石。駐車場整備時の碎石。

2層：にぶい褐色土。転圧を受けた客土。

3層：耐火煉瓦が崩落した層。にぶい褐色土ベース。

4層：耐火煉瓦整地層。

〈TP5〉

1層：褐色土。しまりやや弱い。砂利多い。

表土。

2層：にぶい褐色土。転圧を受けた客土。

3層：耐火煉瓦整地層。

4層：コンクリート。建材か。

〈TP6〉

1層：にぶい褐色土。砂利、コンクリート片多く含む。表土。

2層：褐色土。同色砂質土30%。レンガ多く含む。廃棄によるものか。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1、3〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP2〉

発見遺構：溝状遺構

出土遺物：土師器、磁器、耐火煉瓦

〈TP4〉

発見遺構：炉跡

出土遺物：耐火煉瓦

〈TP5〉

発見遺構：炉跡

出土遺物：耐火煉瓦

〈TP6〉

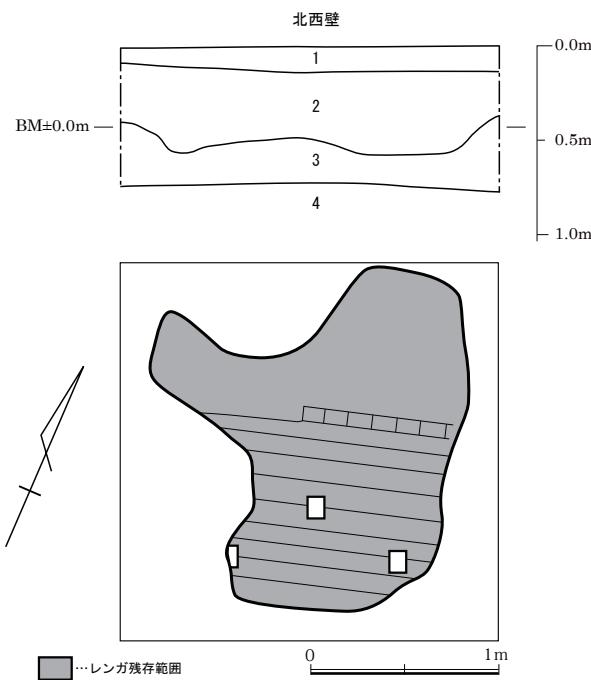
発見遺構：なし

出土遺物：なし

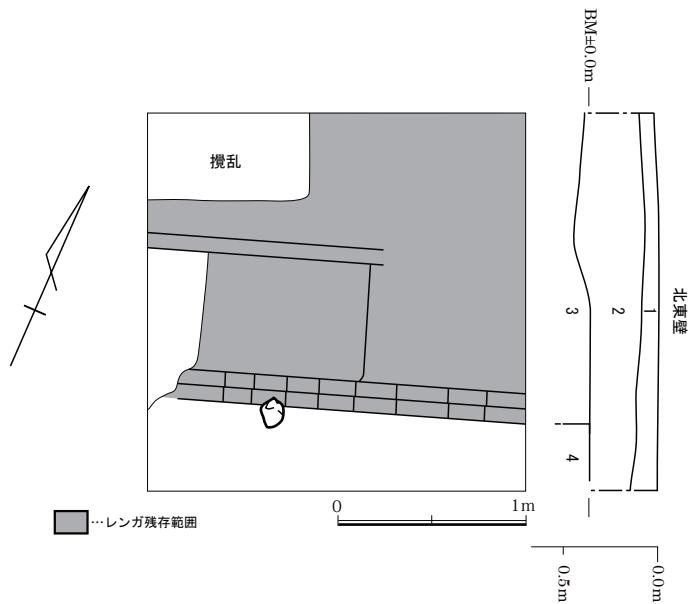
(2) 調査所見

調査の結果、TP2において古代から中世の遺構、遺物を確認することができた。

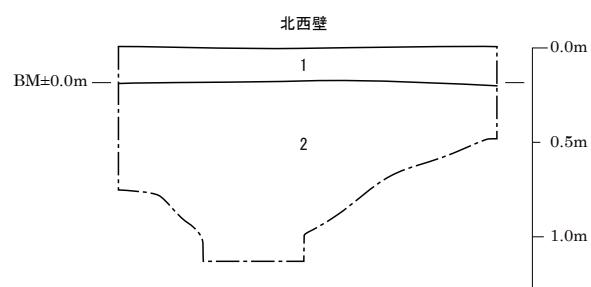
事業計画地北側中央付近に設定したTP1は地表下約20cmでコンクリート構造物が存在して



第8図 TP4 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第9図 TP5 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第10図 TP6 土層断面図 (1/40)

おりそれ以下の掘削が困難なため、断面図の作成と写真記録を行い調査を終了した。

事業計画地南西部に設定したTP2は、1、3、4層は客土による整地層で、5層が宝永火山灰、軽石を含む土層、6層以下は宝永火山灰降灰以前の堆積土であることを確認することができた。搅乱である2層から激しく湧水しており、これはTP4、5で確認された耐火煉瓦による炉跡の空洞部に数日前の降水による雨水が溜まっていたことによる可能性が高いと考えられる。TP2の9層以下は円蔵地域にみられるいわゆる二次堆積ロームと考えられ、6～8層は、土師器を含んでおり、古代～中世の堆積土と考えられる。6～8層は小井戸遺跡の他地点における自然堆積土と比較して3倍程厚く、下部が平坦に堆積せず、南西に向かって上がるよう傾斜していることから、溝状遺構の覆土である可能性が高いと考えられる。

TP3は事業計画地北東部に設定して実施したところ、地表下約100cmまでコンクリートを含む客土で、下部から湧水したため、それ以下の調査は実施しなかった。

TP4は事業計画地西部に設定したところ、耐火煉瓦による整地層を確認した。水平に並べられており、所々約10cm×約15cmの方形の穴が空き、下部に耐火煉瓦を積んだことによる空洞の空間が構築されていることが判明した。

TP5はTP4と近似しており、耐火煉瓦が水平に並べられており、煉瓦列によって何かしら区画がされていることを把握することができた。TP4、TP5で確認した耐火煉瓦は被熱があり、煤

が付着しているものがある。いわゆる葦山反射炉のような炉の構造であった可能性が高いと考えられる。

茅ヶ崎市史及び東海カーボン株式会社の社史によれば、1938年に当時の東海電極製造株式会社の茅ヶ崎工場が設立され、電刷子などの小物炭素製品を作りて呉海軍工廠に納めたとされている。また、1946年米軍撮影の空中写真では、今回の事業範囲に南北に長い建物が3棟以上立ち並ぶ様子が写されている。耐火煉瓦はこれらの建物の構造物の可能性が高く、茅ヶ崎市の近代産業の歴史として重要な構造物と考えられる。

TP6は事業計画地北部で、空中写真に写る南北棟の間の残存地を狙い調査区を設定したが、地表下約113cmまで廃棄された多量の耐火煉瓦が埋まっていたり、それ以下にも耐火煉瓦が埋められ、周囲が崩れることからそれ以下の調査は実施しなかった。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。本地点については、令和5年度に小井戸遺跡第14次調査として記録保存を目的とした発掘調査を実施している。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP2	一括	土師器	3	2.7
		磁器	1	1.8
		レンガ	1	2830.0
TP4	一括	レンガ	5	11,840.0
合計			10	14,674.5



写真1 調査地点近景 (南西から)



写真2 TP1 設定状況 (北東から)



写真3 TP1 完掘状況 (北東から)



写真4 TP1 北西壁土層堆積状況

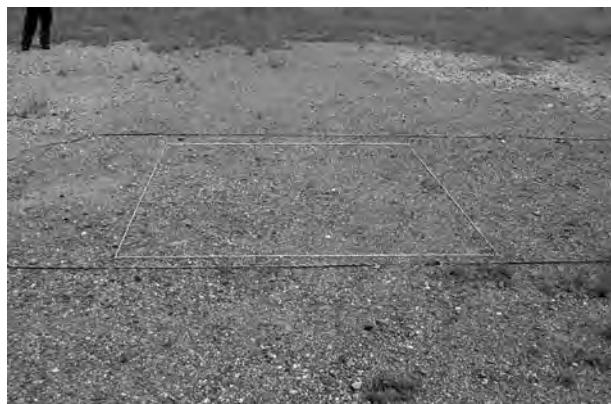


写真5 TP2 設定状況 (南から)



写真6 TP2 完掘状況 (北西から)



写真7 TP2 南東壁土層堆積状況



写真8 TP3 設定状況 (南東から)



写真 9 TP3 完掘状況（南東から）



写真 10 TP3 北西壁土層堆積状況



写真 11 TP4 設定状況（南東から）



写真 12 TP4 レンガ確認状況（南東から）



写真 13 TP4 完掘状況（南東から）



写真 14 TP5 設定状況（北西から）



写真 15 TP5 レンガ確認状況（南西から）



写真 16 TP6 設定状況（南西から）



写真 17 TP6 完掘状況（南東から）



写真 18 出土遺物（レンガ）

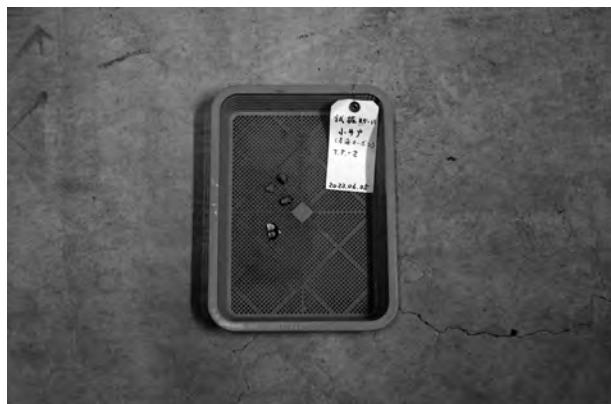


写真 19 出土遺物（土師器）

5-16 茅ヶ崎市菱沼二丁目 1251番2、5、7、1252番

1 調査年月日 令和5(2023)年6月8日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 5.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 前田A遺跡(No.71)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側約140mの場所に位置している。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.7mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲の東側に2.0m×2.0mの調査区を1箇所、西側に1.0m×1.5mの調査区を1箇所、計2箇所を設定して調査を実施した。掘削は人力で実施した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南西側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

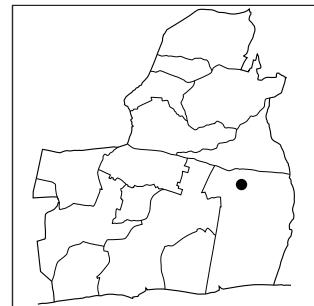
1層：暗褐灰色土。しまり弱い。土質ソフト。

パミス多い。表土。耕作土。

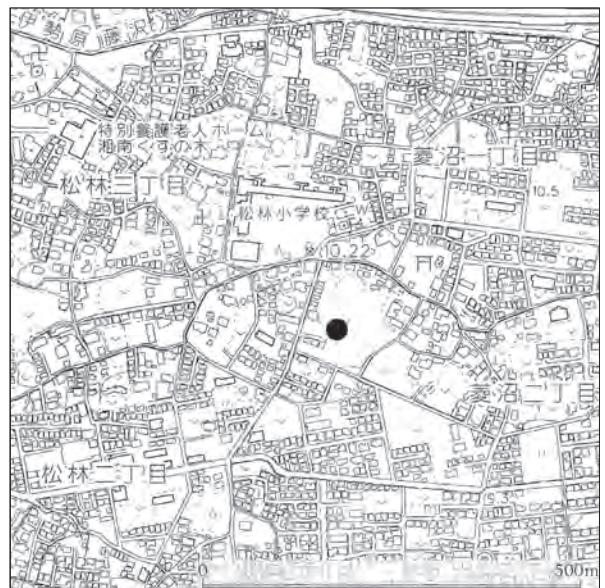
2層：暗褐灰色土。1層に似る。下部はしまっている。φ5mmのパミスが目立つ。やや砂質。プラゴミ含む。表土。

3層：暗褐灰色土。粘性やや強い。2層よりしまり増し、パミス減る。下部に褐灰色土が斑らに20%程度含む。やや砂質。ナイロン紐状製品含む。

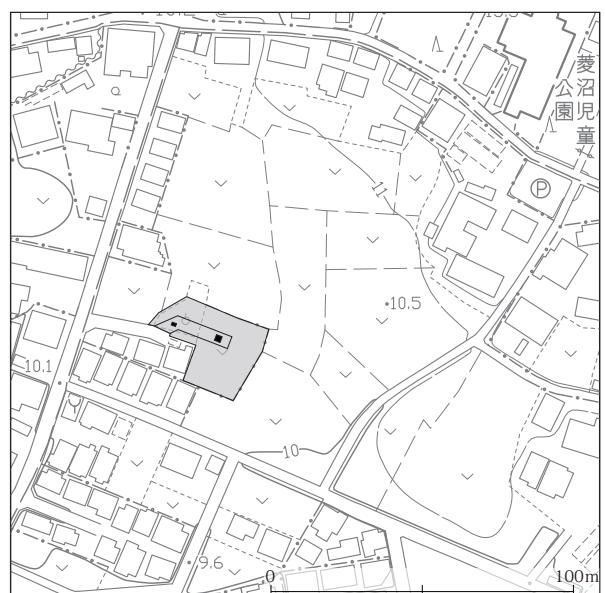
4層：褐灰色砂質土。しまりやや強い。全体にやや酸化する。湧水する。

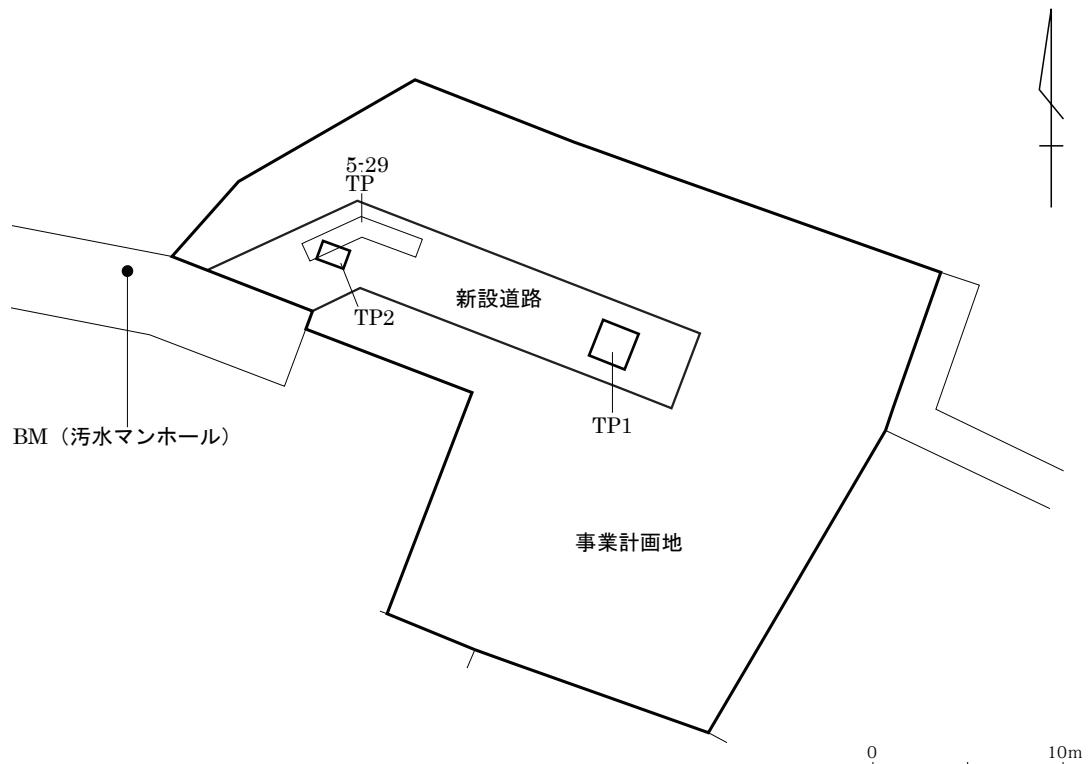


第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)





第4図 調査区配置図 (1/400)

5層：暗褐灰色粘性土。堆積密。6層少量含む。全体に酸化。遺物含む。湿地性の自然堆積土壌。

6層：にぶい灰黄褐色砂質土。φ 5mm 程の植物痕が全体にみられる。全体にやや酸化。

7層：暗褐灰色砂質土。粘性強い。堆積密。古代遺物出土。

8層：暗褐灰色砂質土。橙色スコリアが確認できる。堆積密。土壤化弱い。地山直上層。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器

〈TP2〉

発見遺構：不明瞭

出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器、かわらけ、陶器

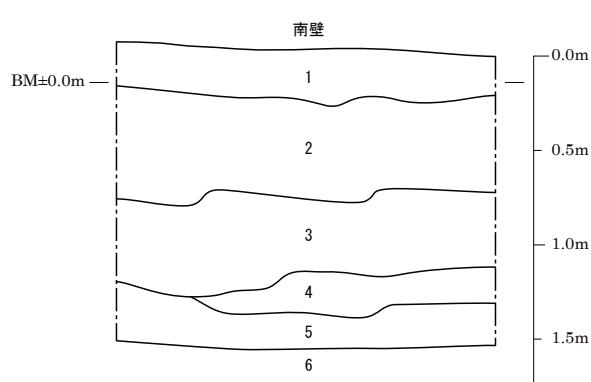
(2) 調査所見

TP1 の調査の結果、遺構は確認されず土師器が出土したものの、いわゆる地山層直上が湿地性

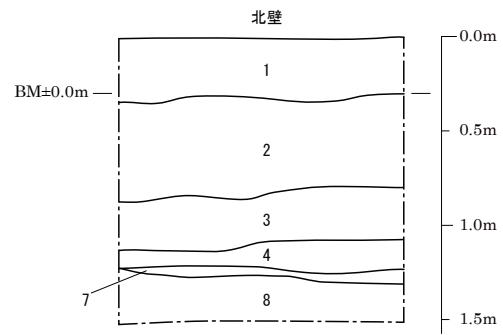
の土層堆積状況であることを確認した。

東側隣接地における第5次発掘調査地点、北側の第6次発掘調査地点では砂丘上に立地する古代遺跡が確認されていたが、本地点では湿地性の土壌が堆積しており、事業地東側における遺跡の残存状況が希薄な可能性が確認された。しかしながら、南西側の第2次、第3次調査では密度の高い古代から中世の遺跡内容が確認されており、本事業地が東西に広いため、西側地点に TP2 を設定することとした。TP2 は果樹が育成されていたため、伐採せずに実施できるスペースに調査区を設定することとし、1.0 m × 1.5 m の調査区を設定することとした。

TP2 の調査の結果、4層から略完形かわらけ(灯明皿)が出土した。出土位置が明確であったため、ピット等の遺構の有無を平面及び壁面にて観察したが、調査区内に遺構は確認されなかった。4層直上の3層は TP1 と異なりゴミを含んでおらず、4層直下の7、8層は TP1 より湿地性の堆積特徴が少ない。しかしながら、溝状遺構の覆土のようなやや堆積が粗な土層ではなく、土質は均質で密



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



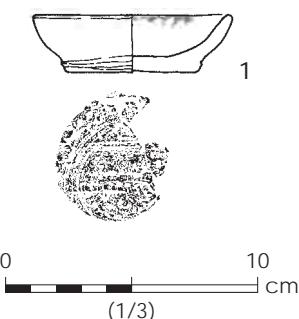
第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

な堆積を示している。これらのことから、4層がなんらかの遺構覆土であるのか、或いは自然堆積土の包含層かは決めきれなかった。4層の出土遺物はかわらけ1点（第7図）である。口縁部に煤が付着しているため、灯明皿であると推察される。胎土はやや密で白色針状物質を少量と赤色粒を含む。口クロ成形であり、底部に回転糸切りと板状圧痕を有する。

これらのことから、TP2周辺を拡張して埋蔵文化財の所在を把握する必要性があるが、現状果樹により調査区が拡張できないこと、当日の調査時間が足らないことから、当日における追加調査を断念することとした。追加調査については、本書の5-29（P.117～120）にて報告している。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	一括	土師器	2	2.6
		土師器 壊	1	3.0
TP2	一括	土師器	14	12.0
		土師器 壊	1	2.8
		土師器 襲	2	8.5
		須恵器 壊	1	2.3
		灰釉陶器 皿	1	4.0
		かわらけ	4	36.8
		陶器	1	11.0
		合計	27	83.0



第7図 実測遺物 (1/3)



写真1 実測遺物



写真2 調査地点近景（西から）



写真3 TP1 設定状況（北から）



写真4 TP1 完掘状況（北から）



写真5 TP1 南壁土層堆積状況



写真6 TP2 設定状況（南から）



写真7 TP2 完掘状況（南から）



写真8 北壁土層堆積状況



写真9 出土遺物

5-17 茅ヶ崎市芹沢913-32

1 調査年月日 令和5(2023)年6月12日(月)

2 調査目的 事務所新築工事

3 調査担当 金馬義郎

4 調査面積 1.62m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 清水B遺跡(No.108)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 繩文時代(中期)、歴史時代

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、茅ヶ崎市立小出小学校から北東に約310mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約47.1mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の浄化槽及び建物予定範囲にまたがるように0.9m×1.8mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南西道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1) 基本土層

1層：黒褐色土。しまり弱い。粘性あり。ビニール等の現代のごみを含む。ロームブロック、耕作土と考えられる黒色土、本来の堆積と考えられる暗褐色土が混ざり込む。現代の搅乱。

2層：黄褐色土。しまり強い。粘性あり。ローム層。L1S層か。φ3～5mmの橙色スコリアをわずかに含む。

9 調査結果

1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし



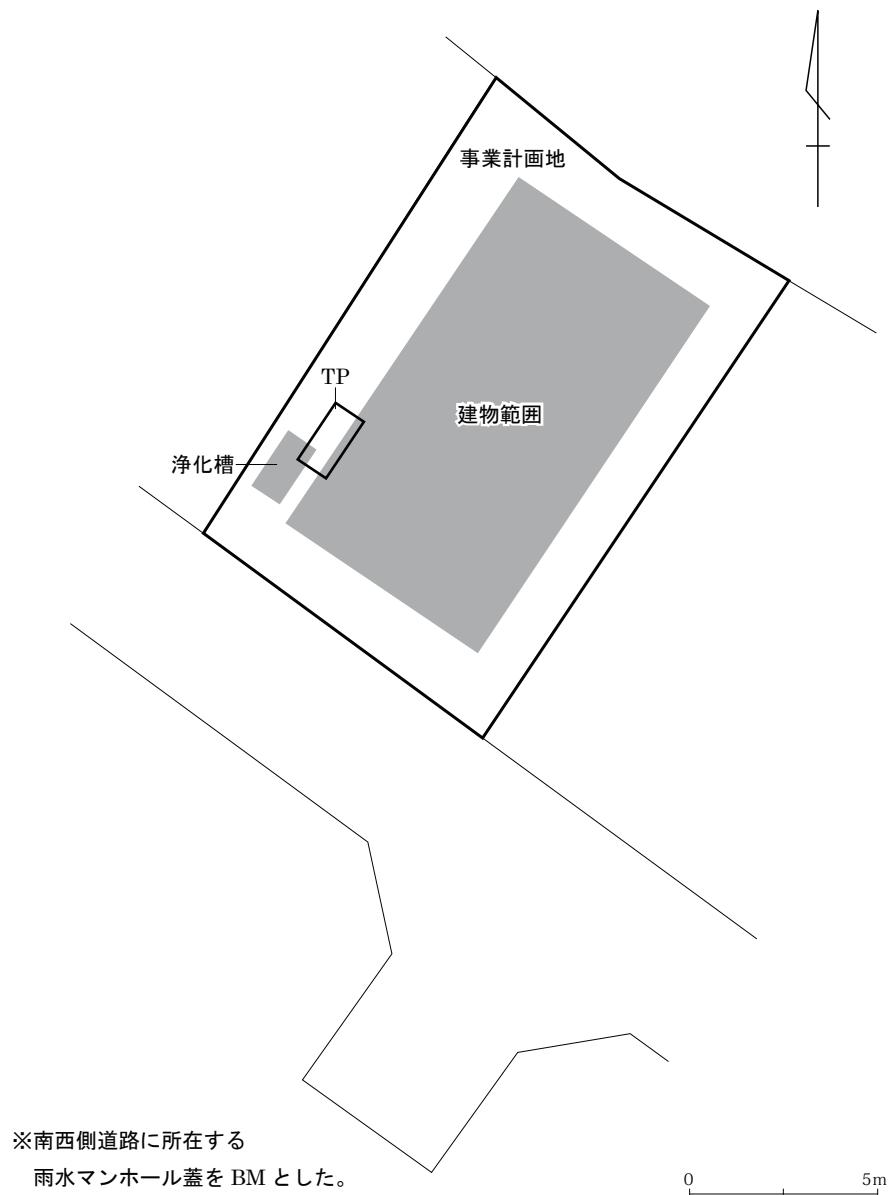
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



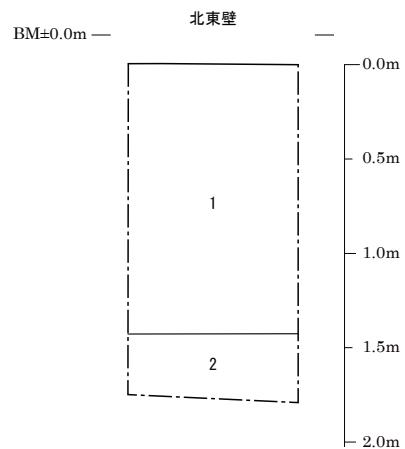
第4図 調査区配置図 (1/200)

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約170cmまでビニール等現代のごみを含む現代の搅乱が確認され、それ以下は本来の堆積が確認されたものの、搅乱はローム層に達しており、ローム層以上の本来の堆積は現代の掘削により壊されたものと考えられる。また、搅乱から本来の堆積に伴う可能性のある遺物等も確認されなかった。

以上のことから、当該地点は現代の開発により、本来の堆積がローム層まで失われた状況が確認された。

試掘・確認調査の結果、遺物や遺構は見られず、また、現代の開発行為により大きく搅乱された様相が確認された。以上のことから当該地における埋蔵文化財の密度は希薄であると判断される。



第5図 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 調査区設定状況（南西から）



写真3 完掘状況（南西から）



写真4 北東壁土層堆積状況

5-18 茅ヶ崎市行谷字大島 1100番1の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年6月15日(木)

2 調査目的 電波塔新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大島仲谷遺跡 (No.37)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 旧石器時代、縄文時代（早期～後期）、奈良時代、平安時代、近世

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、文教大学湘南キャンパスバスロータリーの西側雑木林の中に位置し、調査地点の標高は約47.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南西側道路に所在する方位標205Hを仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまりなし。粘性あり。バスロータリー造成時の攪乱土。樹木根多い。

2層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。堆積密。水分量多い。縄文時代の層。

3層：にぶい明褐色土。しまり強い。粘性強い。やや漸移層的。橙色スコリア多く含む。縄文時代の層。

4層：黄褐色土。しまり極めて強い。粘性極めて強い。ソフトロームで最上位層。橙色スコリアと黒色スコリアを極少量含む。

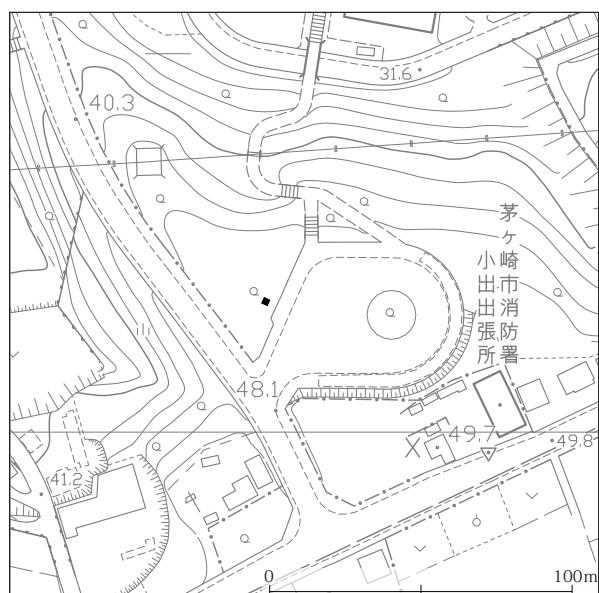
5層：にぶい明褐色土。しまりやや弱い。樹木根。3層に2層を60%含む。



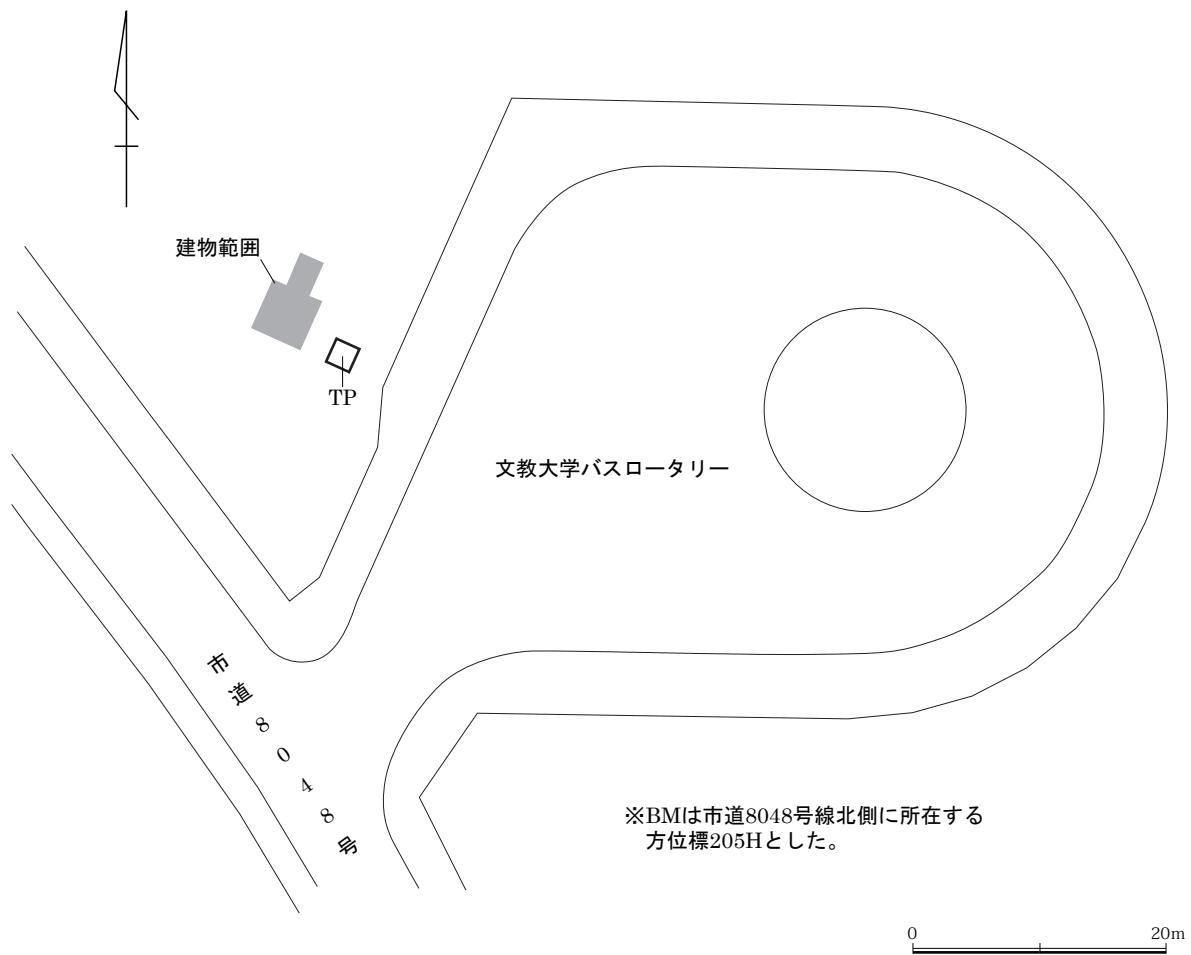
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



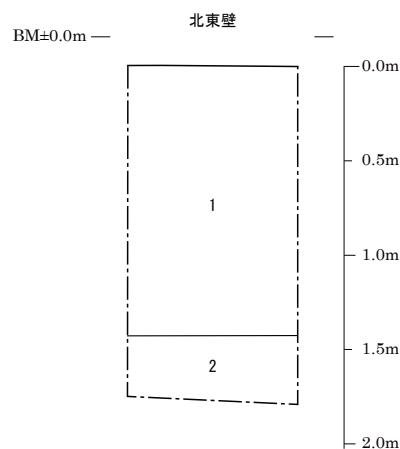
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 土層断面図 (1/40)

6層：黄褐色土。粘性強い。堆積密。ソフトローム。4層よりやや白色味を呈する。

7層：黄褐色土。堆積粗い。ハードローム。橙色スコリアと黒色スコリアを中量含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下45cmの1層までは近現



写真1 調査地点近景（北東から）

代の埋土であり、バスロータリー造成に伴う攪乱土であった。1層直下からは縄文時代層とローム層の堆積が確認されたが、遺構や遺物は確認されなかった。バスロータリーの造成に伴い大規模に削平され、縄文時代以降の堆積層が失われたものと考えられる。

調査の結果から、縄文時代以前の堆積層は確認されたものの遺構・遺物は確認されず、当該地における埋蔵文化財の密度は薄いものと考えられる。



写真2 調査区設定状況（北東から）



写真3 完掘状況（南東から）



写真4 北西壁土層堆積状況



写真5 北西壁下部土層堆積状況

5-19 茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2320 番 1、2321 番 2

1 調査年月日 令和5(2023)年6月15日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 御屋敷B遺跡 (No.157)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 弥生時代(末)～古墳時代(前・後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 小出川東側沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、神明大神宮の南西側に隣接し、調査地点の標高は約6.2mを測る。

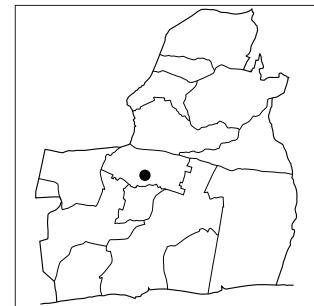
7 調査の方法

事業計画地の建物範囲外に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

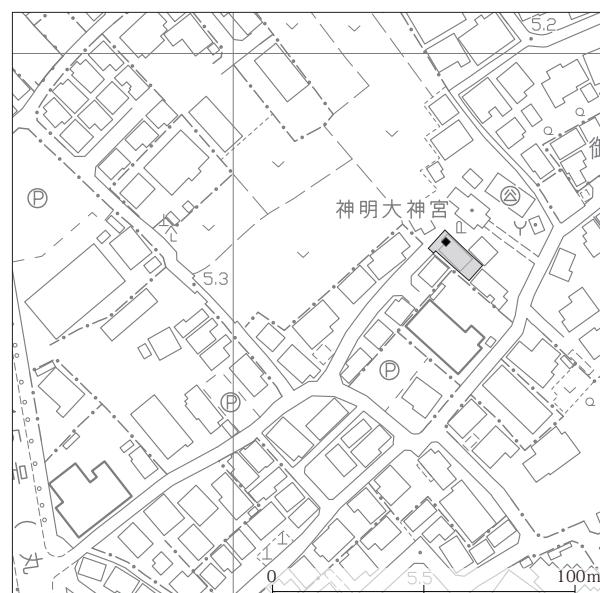
- 1層：暗褐色土。しまり強い。粘性あり。碎石多く含む。
- 2層：暗褐色土。しまり強い。粘性あり。ロームブロック含む。
- 3層：黄褐色土。しまり強い。粘性あり。二次堆積ローム主体の盛土。
- 4層：暗灰褐色土。しまり弱い。粘性弱い。宝永パミス含む。ビニールゴミ含む。
- 5層：暗灰褐色土。しまり弱い。粘性弱い。宝永パミス少量含む。ゴミ含まず。耕作土か。
- 6層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。スコリア含まず。古代～中世層か。遺物含む。



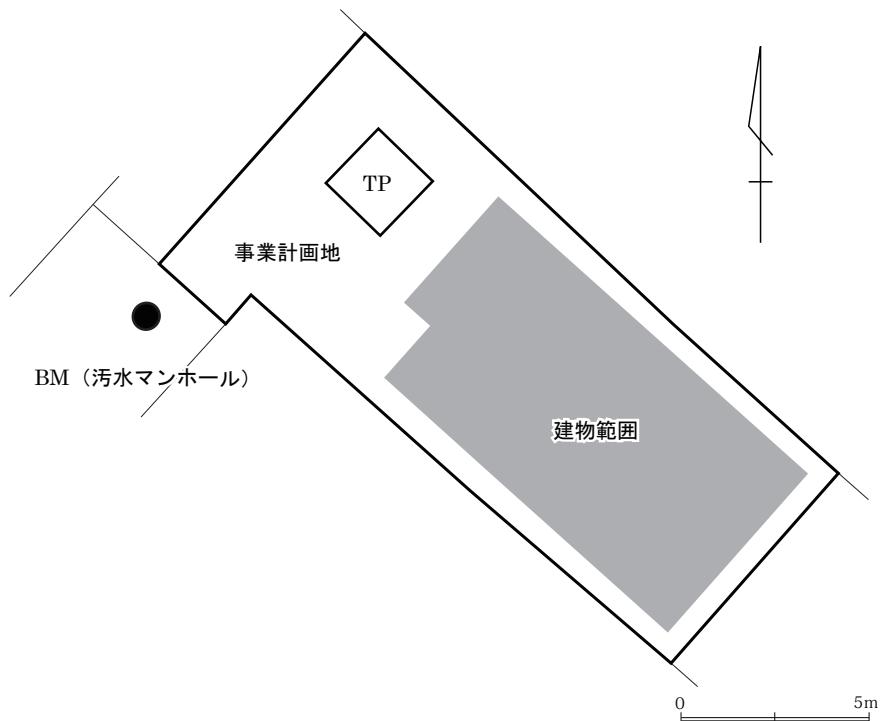
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

7層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性弱い。

砂質強い。湧水する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

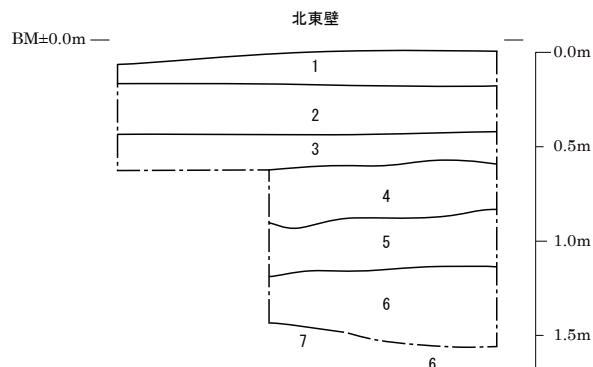
発見遺構：なし

出土遺物：土師器（もしくは土師質土器）、須恵器、磁器

(2) 調査所見

本地点は御屋敷B遺跡の中でも中世館跡が存在していた可能性が高いエリアに位置していることから、遺跡の情報を得るために事業者の協力を得て試掘・確認調査を実施した。

調査の結果、地表から約80cmまではビニールゴミ等を含む盛土であり、それ以下にゴミ等を含まない宝永火山灰・軽石を含む5層、宝永火山灰・軽石を含まない6層、無遺物層と思われる7層が堆積していた。また、7層においては湧水した。6、7層の境界は平坦でないが、遺構とは判断できない。5層、6層、7層は周辺の同時期の堆積土と比較してやや堆積の緻密さが弱いように思われた。7層で湧水することから、地中の水分量の多い地点である可能性は高い。微量であるが、遺物を確認することができた。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	2層	土師器 壊	1	9.0
		須恵器 蜂	1	37.2
		磁器 碗	1	1.9
	6層	土師器	1	0.6
合計			4	48.7



写真1 調査地点近景 (西から)



写真2 調査区設定状況 (南西から)



写真3 完掘状況 (南西から)



写真4 北東壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-20 茅ヶ崎市円蔵370番地

1 調査年月日 令和5(2023)年6月16日(金)

2 調査目的 工場新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 36.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 小井戸遺跡 (No.185)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 小出川東側沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、株式会社東海カーボン茅ヶ崎工場の敷地内に位置する。調査地点の標高は約5.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地において、南西部に1.5m×4.0mの調査区を1箇所、南側と中央部南側に2.0m×1.0mの調査区を2箇所、計3箇所設定して調査を実施した。調査区はそれぞれ必要に応じて拡張している。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地内に所在する測量鉛を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：コンクリートガラ。

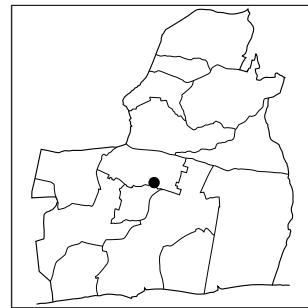
2層：コンクリート。

3層：下砂。

4層：暗黄褐色土。コンクリートとレンガを多量に含む。埋土。

5層：暗黄褐色土。しまり強い。粘性あり。宝永パミス・スコリアを少量含む。攪乱されている。

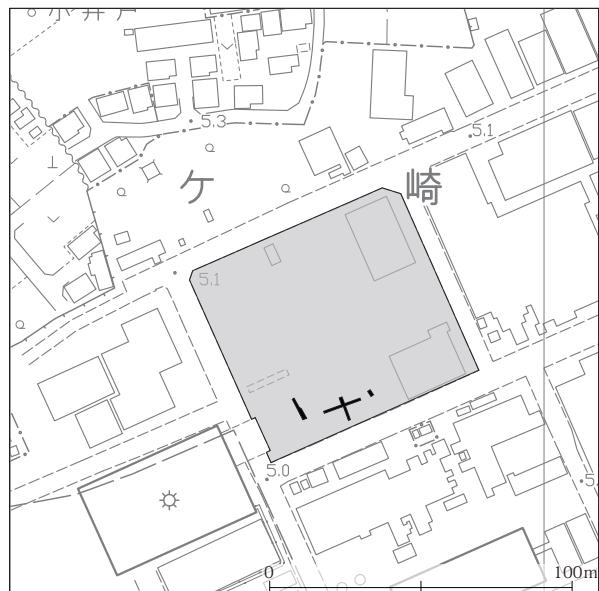
6層：暗黄褐色土。しまり強い。粘性強い。土粒細かい。橙色スコリアを少量含む。遺構覆土の可能性あり。



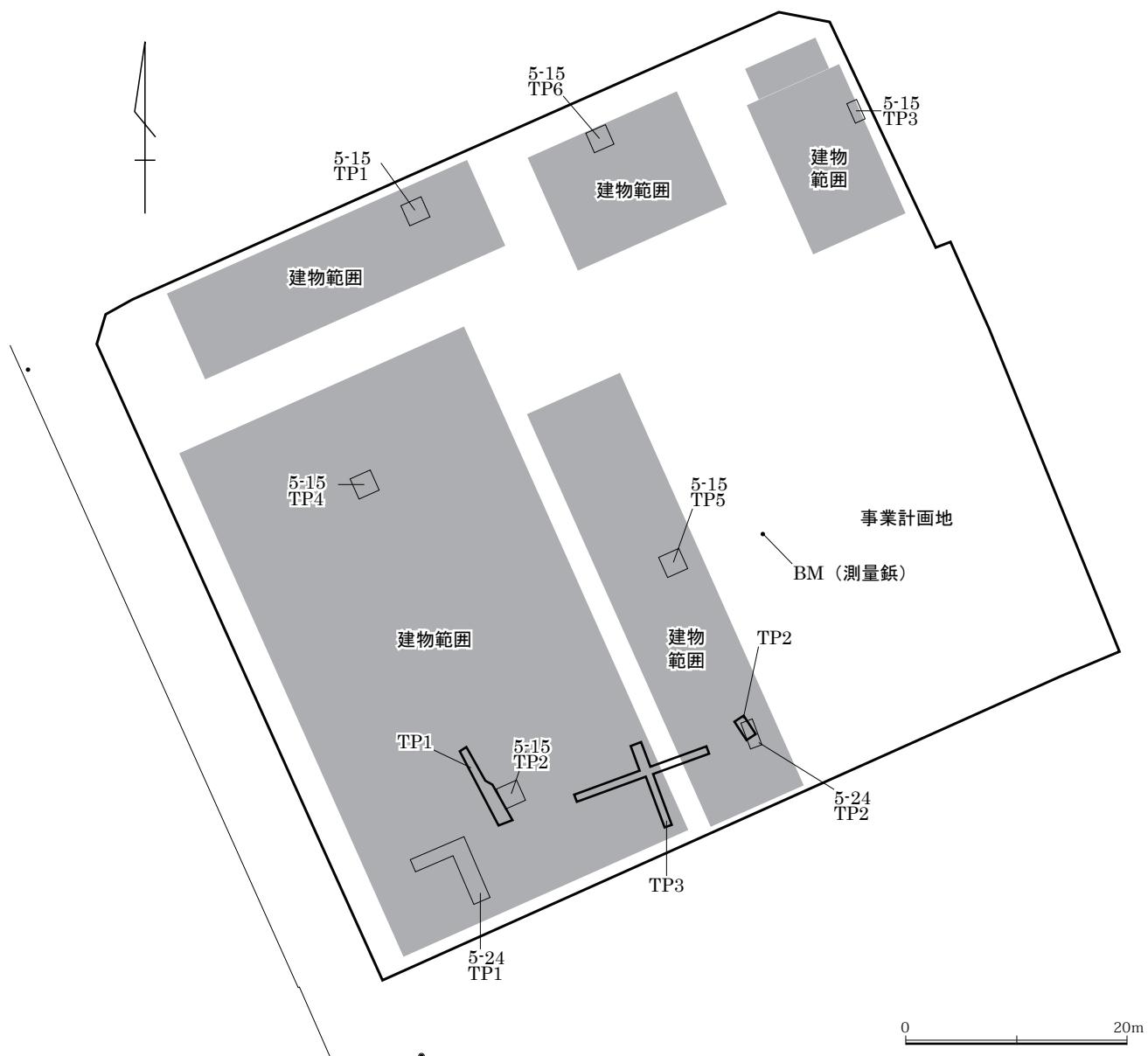
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



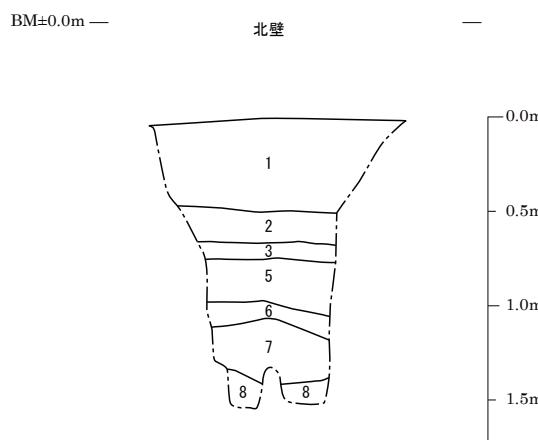
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



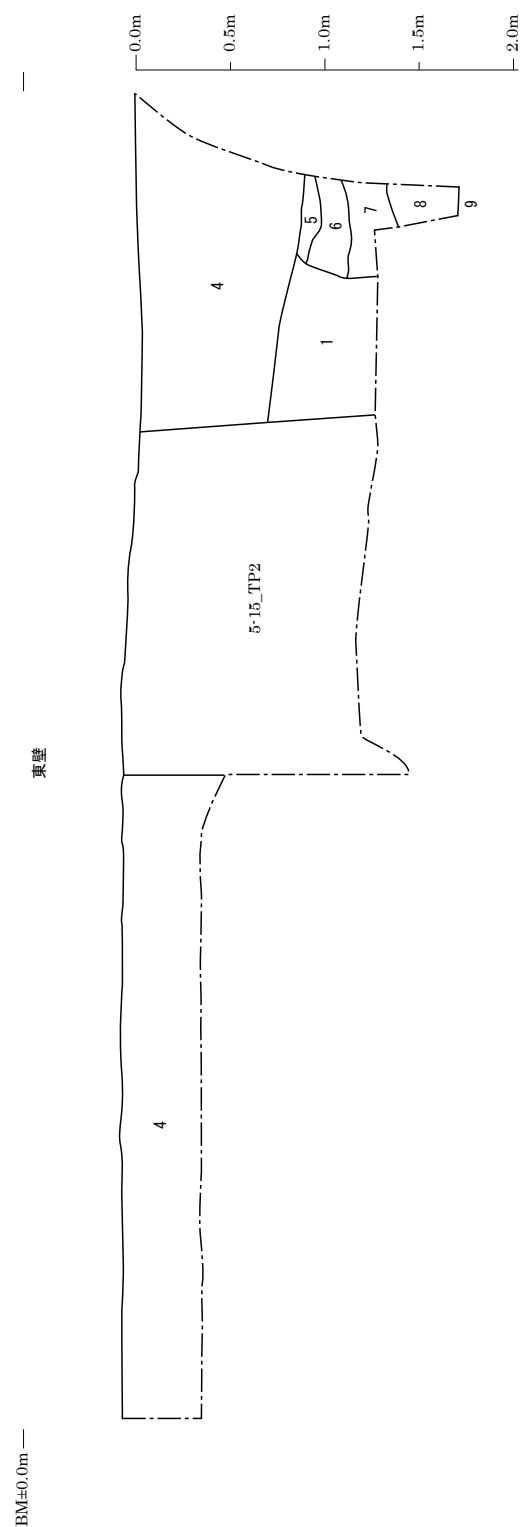
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



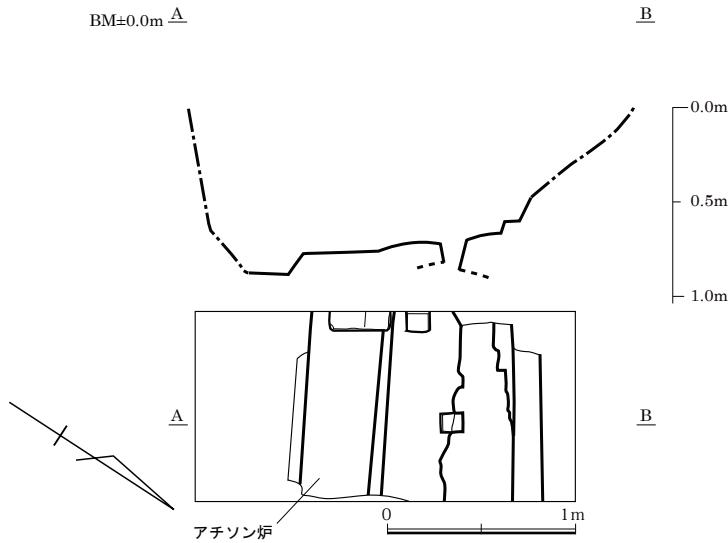
第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 TP1 土層断面図① (1/40)



第6図 TP1 土層断面図② (1/40)



第7図 TP2 遺構平面分布図及びエレベーション図（1/40）

- 7層：暗黄褐色土。橙色スコリア少量含む。3層がやや酸化したもの。古墳時代の土師器出土。遺構覆土の可能性あり。
- 8層：黄褐色土。しまり強く硬い。土粒細かい。4層に似るが、橙色スコリアを含まない。斑に酸化する。遺構覆土の可能性あり。
- 9層：黄褐色砂質土。しまり強い。粘性弱い。無遺物層。地山。砂分強い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：アチソン炉（電気式カーボン炉）

出土遺物：なし

〈TP2〉

発見遺構：アチソン炉（電気式カーボン炉）

出土遺物：土師器、礫

〈TP3〉

発見遺構：アチソン炉（電気式カーボン炉）

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下100cm付近まではレンガを多量に含む昭和時代の工場にともなう埋土であった。それ以下では部分的に古代～中世の遺物

包含層或いは遺構覆土の残存が確認された。4層から出土した土師器片は、その胎土から古墳時代の遺物であると推測される。付近での古墳時代の痕跡は数少ないため、貴重な資料であった。また、TP2ではアチソン炉の下部構造体であるアーチ状の送風抗が形状を維持したまま確認されており、茅ヶ崎市の近代化を考えるうえで重要な遺構であった。

なお、本調査は、本書報告の5-15（P.61～68）の結果を受け、発掘調査の範囲を確定するために行ったものである。そのため、試掘・確認調査の費用は事業者の負担により調査を実施した。本地点については、令和5年度に小井戸遺跡第14次調査として記録保存を目的とした発掘調査を実施している。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP2	6～8層	土師器	2	2.4
		土師器甕	1	19.9
		礫	1	7.1
合計			4	29.4



写真1 TP1 設定状況 (北から)



写真2 TP1 完掘状況 (南東から)



写真3 TP1 完掘状況 (南から)



写真4 TP1 北側西壁土層堆積状況



写真5 TP1 北壁土層堆積状況



写真6 TP2 設定状況 (北から)



写真7 カーボン炉確認状況 (南から)



写真8 TP3 設定状況（北から）



写真9 TP3 完掘状況（南から）



写真10 出土遺物

5-2-1 茅ヶ崎市堤字南谷 2468-12、2469-6

1 調査年月日 令和5(2023)年6月20日(火)

2 調査目的 資材置き場整備

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 堤貝塚(十二天A遺跡)(No.8)

(2) 種別 貝塚、集落跡、遺物散布地

(3) 時代 繩文時代(中・後期)、奈良時代、平安時代

(4) 立地 台地南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、県指定史跡『堤貝塚』から北西側約320mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約16.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は人力で行った。完了後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

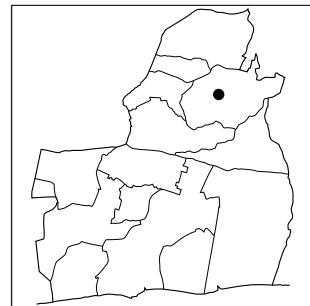
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまりなし。粘性なし。土粒細かい。土師器片を含む。近現代の耕作土で客土。

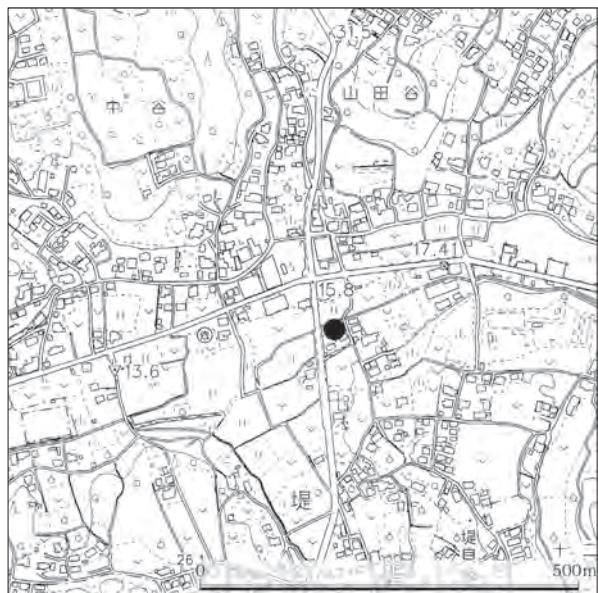
2層：暗黄褐色土。しまりなし。粘性ややあり。ロームブロックを50%含む。客土。

3層：明黄灰色土。しまり極めて強い。粘性極めて強い。転圧によりしまる。アスファルト・コンクリートガラ・近世陶磁器を含む。礫を20%含む。客土。

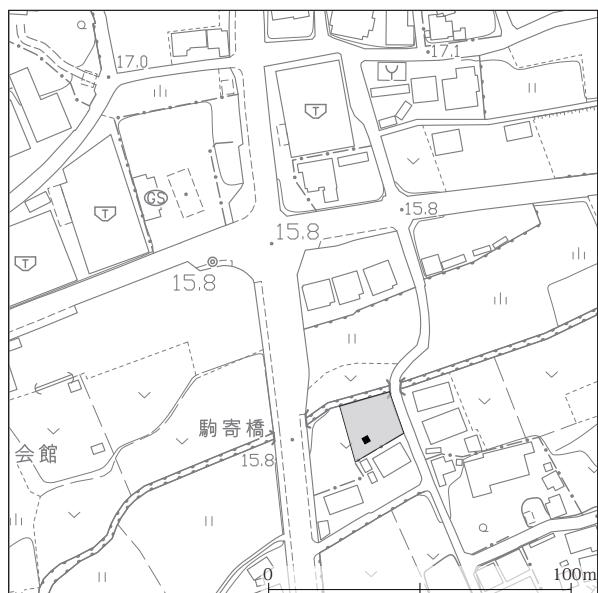
4層：黄褐色土。しまり強い。粘性極めて強い。客土。ハードロームブロック主体。コンクリートガラを含まない。



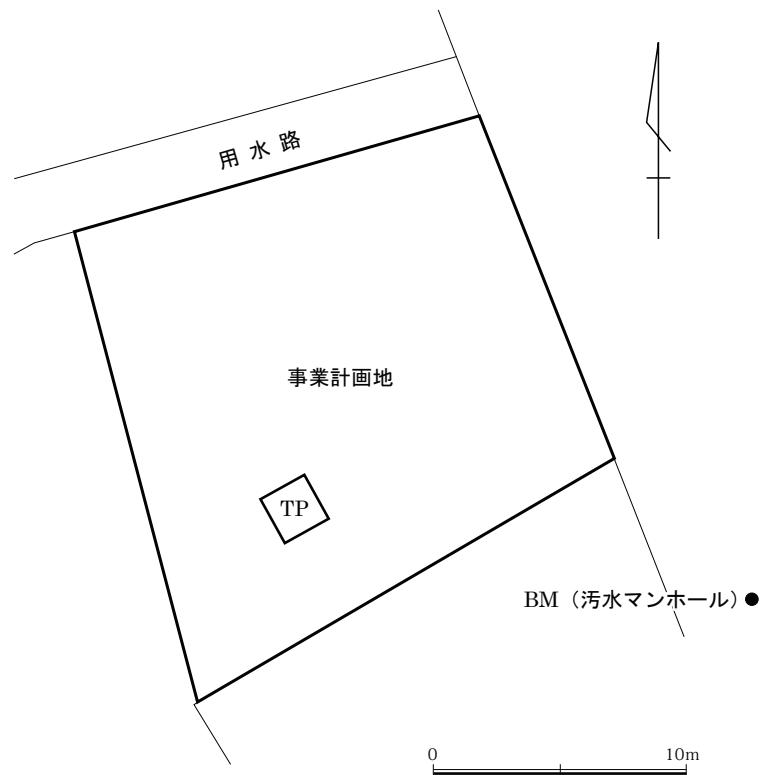
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



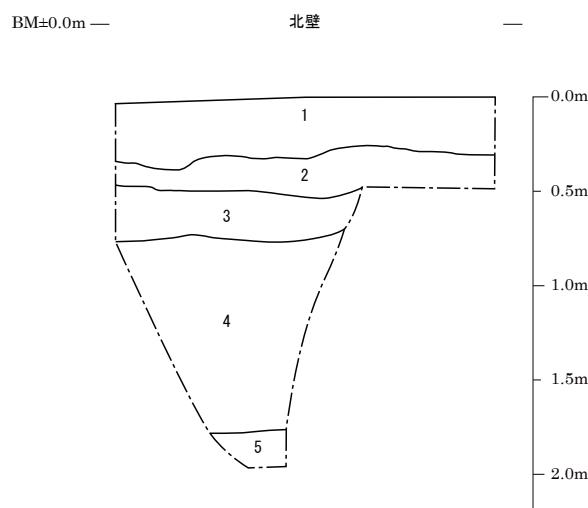
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)



第5図 土層断面図 (1/40)

5層：にぶい暗灰色土。しまり強い。粘性強い。土粒細かい。上面に木の枝を敷き詰めている。湧水著しい。腐植物を含む。田床。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、陶器、磁器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約170cmまでは近現代の耕作土であり、中でも表土下50cmからはコンクリートガラやアスファルト片などの顕著な混入が確認できた。それ以下では田床とみられる本来

の堆積土が確認されたが、北側に隣接する用水路の影響を受けてか湧水が著しかった。田床上面に木の枝を敷き詰めているのは、水田を畑地に転用するために行われたものと考えられる。

以上、当該地においては希薄ながらも埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	2～4層	土師器 豆	1	0.8
		陶器	1	8.6
		磁器	1	6.0
合計			3	15.4



写真1 調査区設定状況（南から）



写真2 完掘状況（南から）



写真3 北壁下部土層堆積状況



写真4 出土遺物

5-22 茅ヶ崎市室田一丁目88番1、4、5、6、7、8

1 調査年月日 令和5(2023)年6月26日(月)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 東ノ町遺跡(No.195)

(2) 種別 集落跡、遺物散布地

(3) 時代 古代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立室田小学校から南東側に約240mの場所に位置している。調査以前は宅地が複数棟建っており、調査地点の標高は約8.2mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削完了後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する市境界標を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

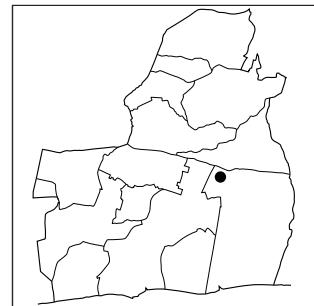
1層：灰黄褐色土。堆積粗い。礫を多く含む。

宝永パミス・スコリアを含む。客土。

2層：灰黄褐色土。宝永パミス・スコリアを多量に含む。転圧を受けている。近代の陶磁器を含む。客土。

3層：灰黄褐色砂質土。2層をベースに暗褐灰色土(橙色スコリアを多く含む、本来の古代包含層)を斑に含む。近世の土製品と近代の陶磁器を含む。埋土。

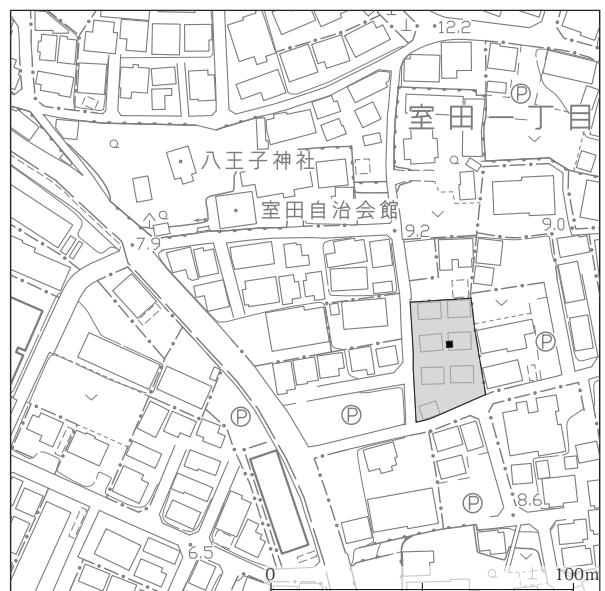
4層：褐色砂。しまりなし。粘性なし。全体に酸化し斑に赤褐色を呈する。自然堆積の無遺物層。地山。



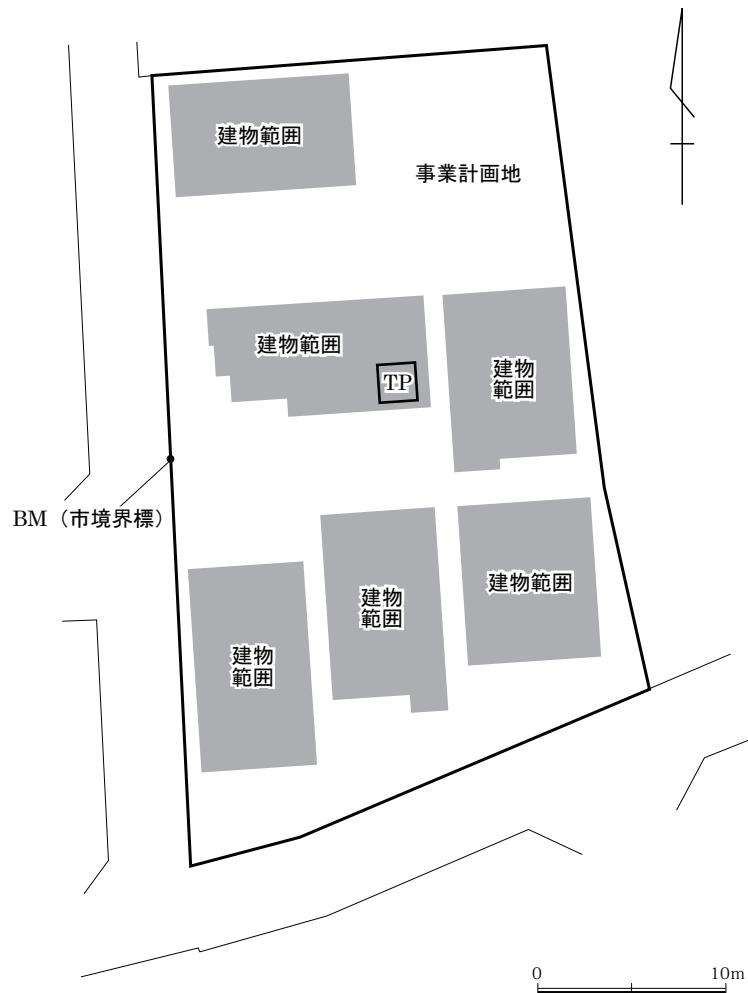
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

5層：褐色砂。しまり粘性なし。酸化はしていないが、湧水著しい。

9 調査結果

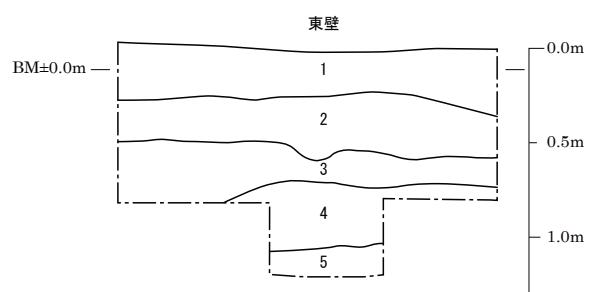
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土製品

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約80cmの3層までは近現代の攪乱であり、宝永パミス・スコリアが攪拌された状態で確認され、近世の土製品も出土した。3層以下では、本来の自然堆積層である無遺物の砂層が確認された。4層全体が酸化していることから、一定期間帶水していたものと推測される。5層の湧水は著しく、2インチのポンプでも排水が間に合わない状況であった。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	一括	土製品	2	30.3
		合計	2	30.3



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査区設定状況（西から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 東壁土層堆積状況

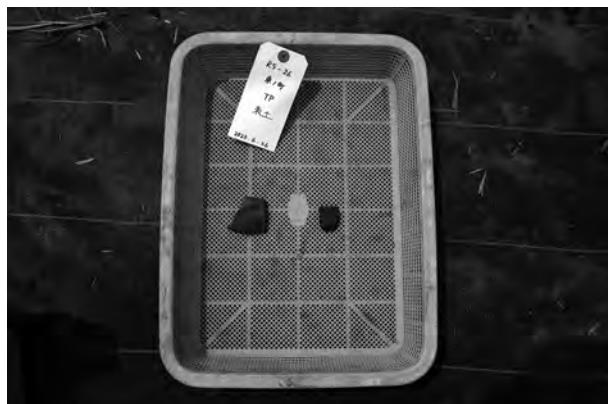


写真5 出土遺物

5-2-3 茅ヶ崎市香川二丁目 1585番8

1 調査年月日 令和5(2023)年6月26日(月)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 東遺跡 (No.24)

(2) 種別 集落跡、遺物散布地

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘間凹地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北西部、茅ヶ崎市立香川小学校から北東側約500mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約8.2mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

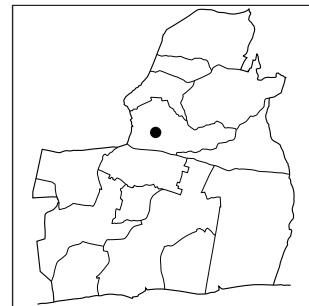
1層：褐灰色土。建物解体時の埋土。コンクリートガラ含む。

2層：にぶい褐灰色砂質土。1層に比べ土粒均一だが、ゴミを含む。埋土。

3層：暗褐灰色土。粘性強い。ガラと酸化粒がシモフリ状に混ざる。発生土による埋土。

4層：暗褐灰色土。粘性なし。全体に酸化し、上部は硬化する。酸化粒多量に含む。部分的にやや砂質味を帯びる。腐植物を含む。低湿性の土。湧水する。自然堆積層。地山層。

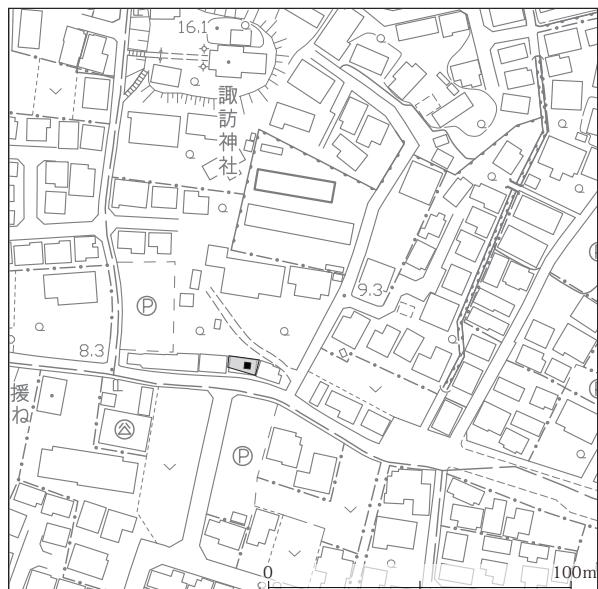
5層：暗褐灰色土。4層土の酸化が少ないもの。



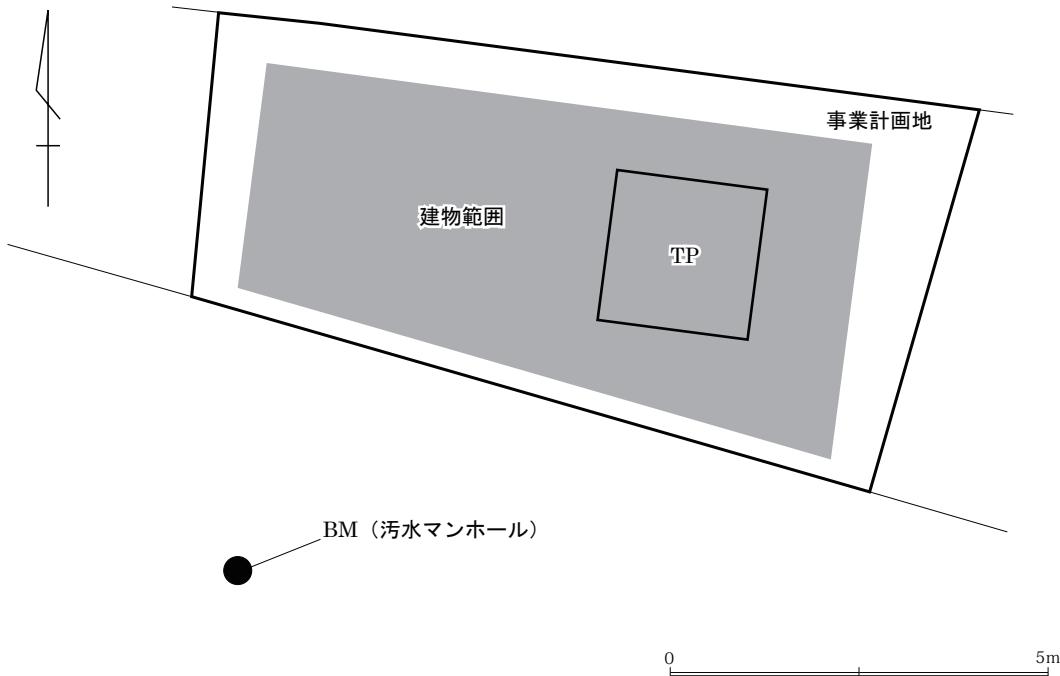
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/100)

湧水著しい。

6層：にぶい黄褐色砂。堆積密。全体に酸化する。土粒細かい。自然堆積層。地山層。

9 調査結果

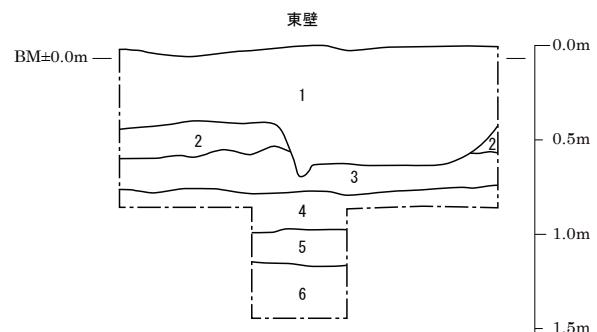
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下70cmまでは近現代の埋土であったが、それ以下では本来の自然堆積層が確認された。腐植物を含む湿地性の4、5層の直下には砂丘に由来する砂質味の強い6層の堆積がみられた。4層から徐々に湧水し、6層になると1インチポンプでは湧水に対応できないほどであった。遺物は土師器片が出土したが、いずれも発生土による埋土である1～3層土中より出土したものである。砂丘間凹地の低湿地に位置するものと推測される。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	3層	土師器 壊	1	7.2
		土師器 蜂	2	12.7
合計			3	19.9



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 調査区設定状況（南から）

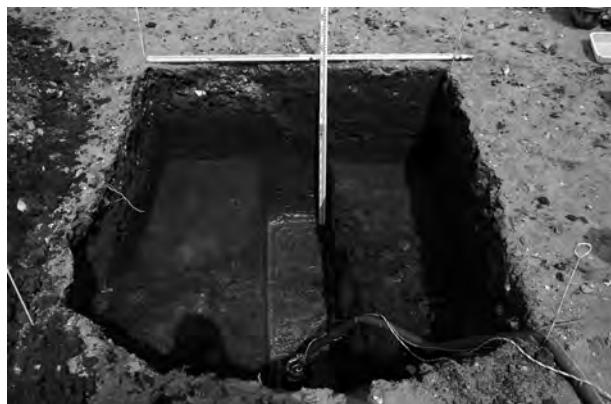


写真3 完掘状況（東から）



写真4 西壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-24 茅ヶ崎市円蔵370番地

1 調査年月日 令和5(2023)年7月3日(月)

2 調査目的 工場新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 14.25m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 小井戸遺跡(No.185)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 小出川東側沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、株式会社東海カーボン茅ヶ崎工場の敷地内に位置する。調査地点の標高は約5.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に1.5m×3.0mの調査区を1箇所、1.5m×6.5mの調査区を1箇所、計2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業計画範囲南西側の測量鉛を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

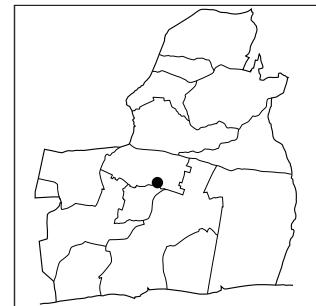
1層：暗褐色土。しまりなし。レンガ・ガラ多く含む。埋土。

2層：暗褐色土。埋土。しまりあり。粘性なし。黄褐色砂を斑に含む。

3層：基本土層の2層が転圧を受けたもの。

4層：青灰色土。しまり極めて強い。粘性極めて強い。基本土層の2層が変色したものか。

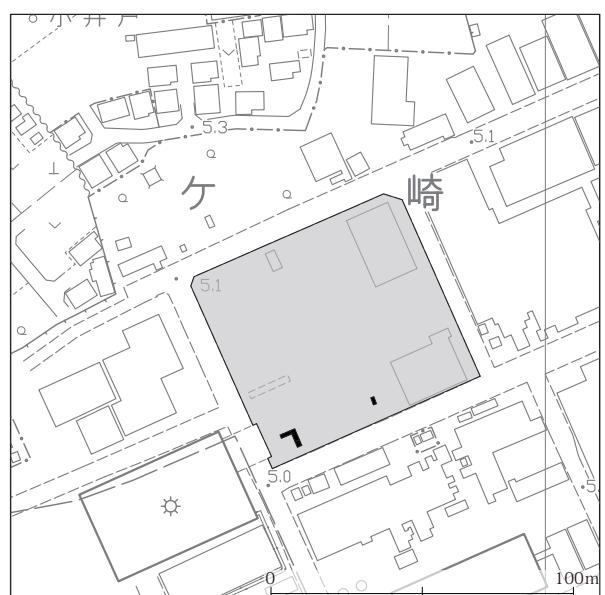
5層：黄褐色砂質土。しまりあり。粘性ややあり。土粒細かく均質。金雲母多い。自然堆積の無遺物層。地山か。



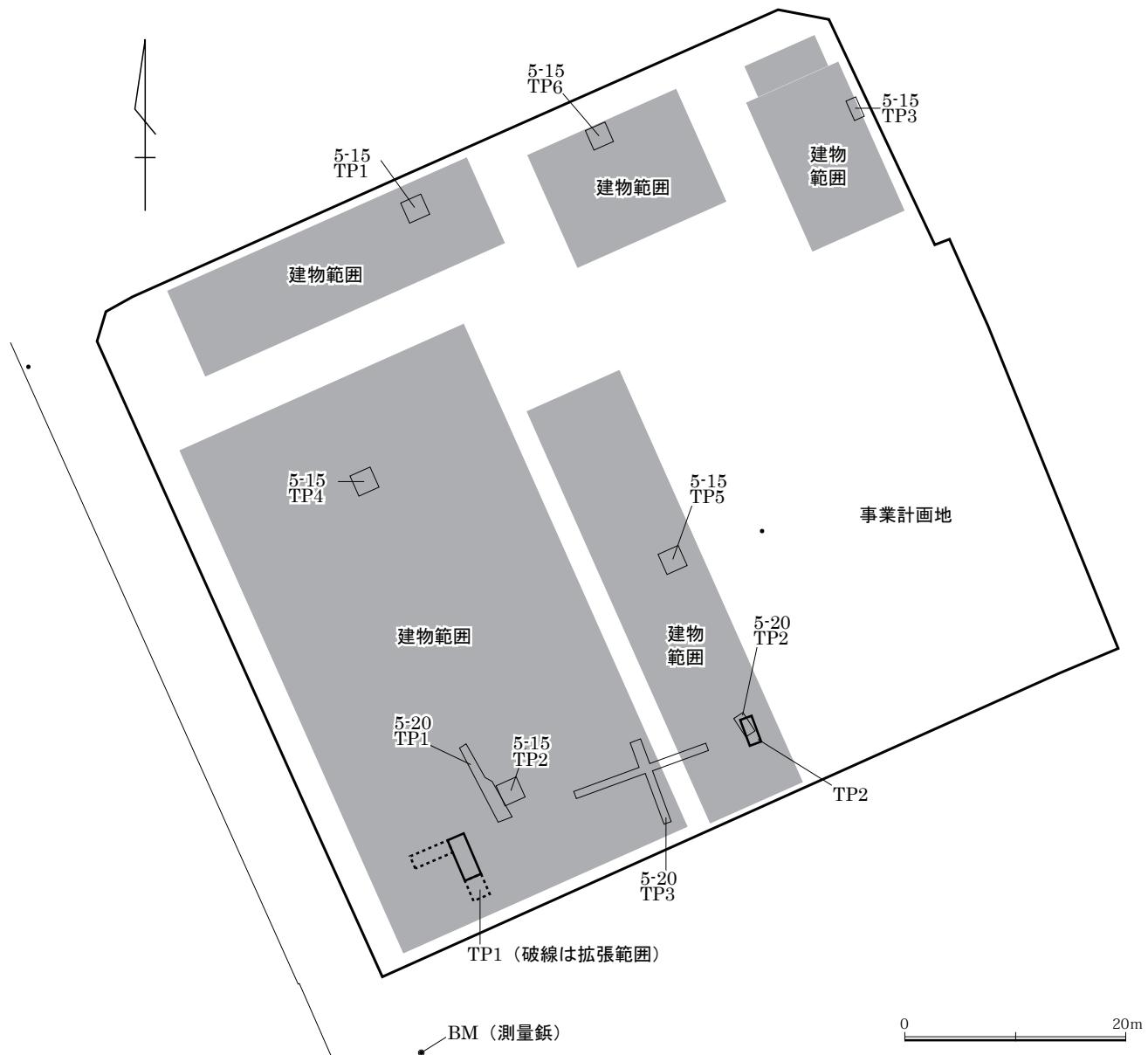
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)

(2) 遺構覆土

〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。土粒均質。橙色スコリア含む。水分量多い。土師器大片含む。

2層：暗褐色粘質土。同遺構の1層より粘性増す。やや酸化する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：溝状遺構、アチソン炉
出土遺物：土師器、須恵器

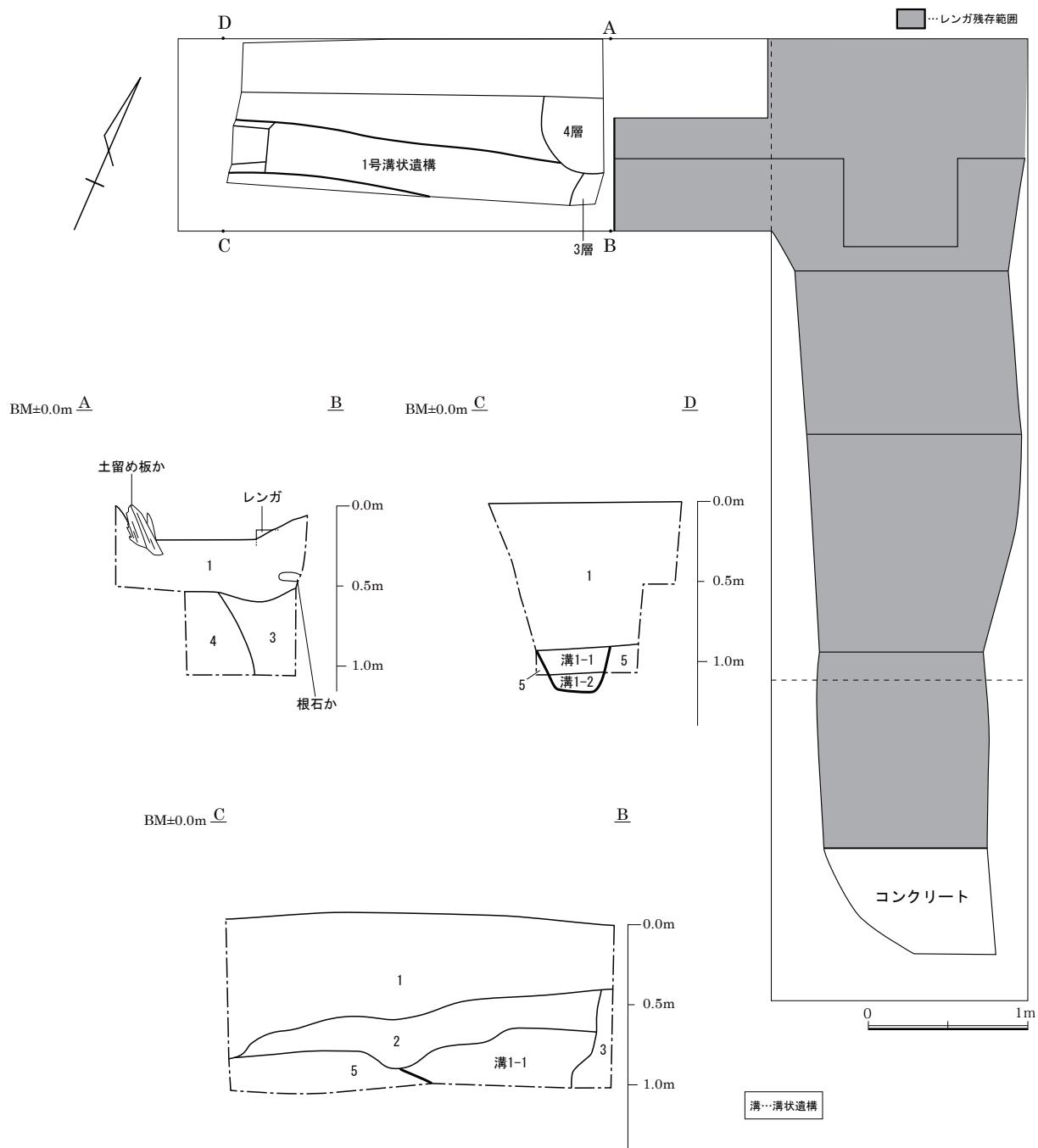
〈TP2〉

発見遺構：アチソン炉

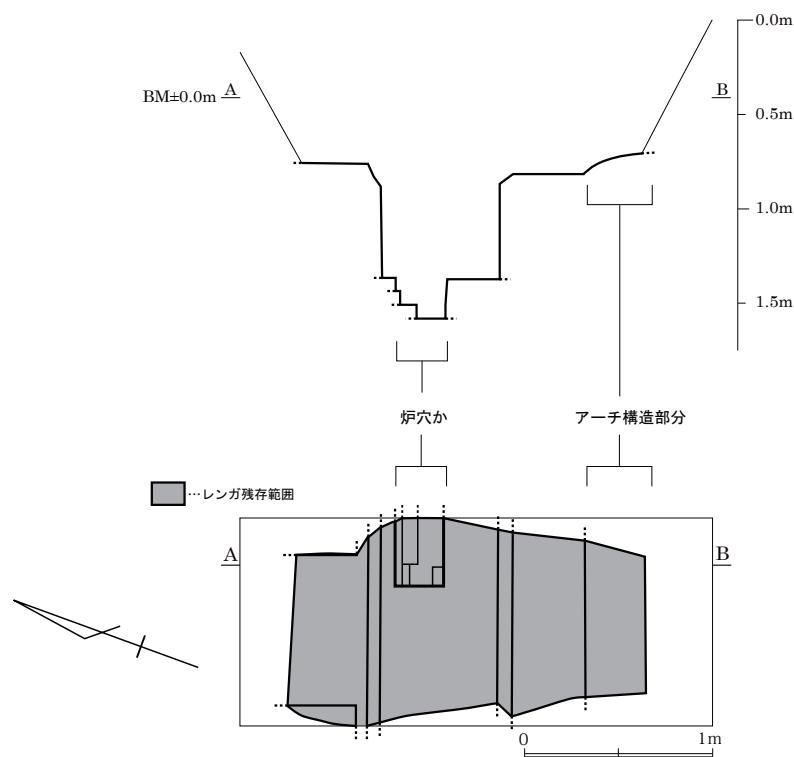
出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、部分的に近代の工場に伴う掘削により攪乱されているが地表下約140cm以下では、古代の遺物を包含する遺構の残存が確認できた。出土遺物は奈良・平安時代の土師器が主体であるが、古墳時代の土師器も少數含まれている。近代の工場に伴う構築物や掘削により深くまで削平を受ける部分は多いが、本来の堆積土が部分的に残存している様子も確認できたため、工場に伴う構



第5図 TP1遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）



第6図 TP2 遺構平面分布図及びエレベーション図（1/40）

築物の下にも掘り込みの深い遺構は残存しているものと推測される。また、耐火レンガを多用した近現代のアチソン炉に伴う下部構造体が良好に残存していることは、茅ヶ崎市の近代史にとって重要な情報を得られるといえる。

なお、本調査は、本書報告の5-15（P.61～68）と5-20（P.82～87）の結果を受け、発掘調査の範囲を確定するために行ったものである。そのため、試掘・確認調査の費用は事業主の負担により調査を実施した。計3回試掘・確認調査の結果を受け、本事業に関しては令和5年度に近代～古代を対象とした小井戸遺跡第14次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1～2層	土師器	3	4.7
		土師器 甕	2	11.9
		須恵器 甕	1	10.2
	P-1	土師器 壊	1	9.4
	1号溝状遺構	土師器 甕	1	11.0
合計			8	47.2



写真1 出土遺物



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 レンガ確認状況（北から）



写真4 TP1 拡張部意向確認状況（東から）



写真5 TP1 完掘状況（北西から）



写真6 TP1 西壁土層堆積状況



写真7 TP2 完掘状況（西から）



写真8 TP2 アチソン路構造確認状況（南から）

5-25 茅ヶ崎市西久保字大屋敷 753-1 の一部

- 1 調査年月日 令和5(2023)年7月6日(木)
- 2 調査目的 個人住宅新築工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 1.3m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 大屋敷B遺跡 (No.189)
 - (2) 種別 集落跡、遺物散布地
 - (3) 時代 弥生時代(後期)、古墳時代(前期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 沖積微高地
- 6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎警察署西久保駐在所から南西側約160mの場所に位置し、調査地点の標高は約6.3mを測る。

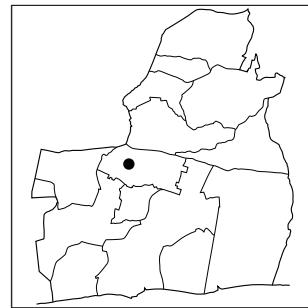
7 調査の方法

事業計画地の地盤改良工事範囲で1.0m×1.3mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は人力で行った。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

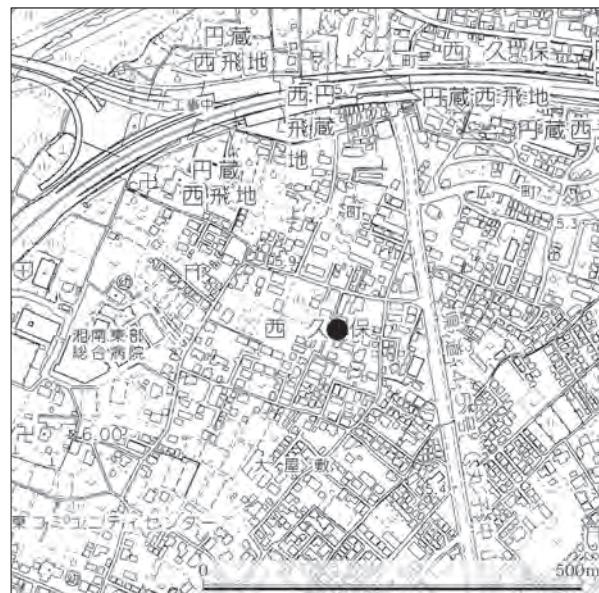
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

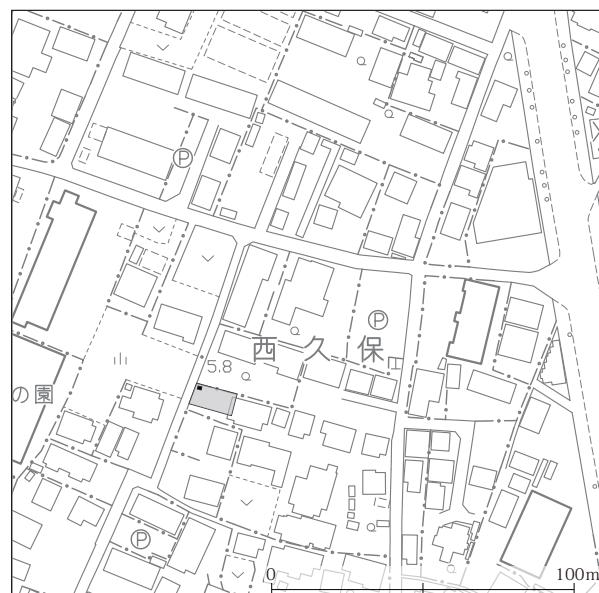
- 1層：暗褐色土。しまりなし。粘性ややあり。コンクリート、ロームブロックを含む。
- 2層：暗褐色土。しまり粘性なし。砂、ガラ、砂利などの解体に伴うゴミを多く含む。
- 3層：暗黄褐色土。強くしまり硬い。ロームブロック、黒色土を主体とする。転圧を受ける。埋土。
- 4層：暗褐色土。しまりなし。ガラ・ビニールゴミを多く含む。瓦・建材を含む。木の根が多い。
- 5層：暗褐色土。しまり弱い。粘性なし。宝永パミス、スコリアを含む。近世の耕作土。



第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



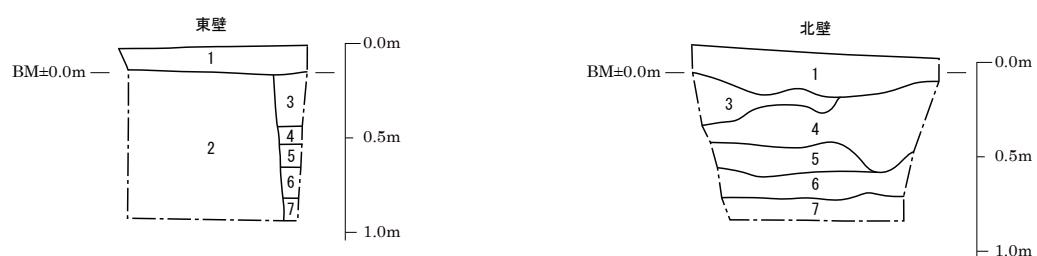
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



第5図 土層断面図 (1/40)

6層：暗褐色土。しまり強く、粘性あり。土粒細かく、堆積密。橙色スコリアを少量含む。古代の遺物包含層。

7層：黄褐色土。しまり極めて強い。粘性極めて強い。橙色スコリア、白色パミスをわずかに含む。砂を少量含む。地山。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、調査区内は地表下100cmまで近現代の埋土であったが、壁面で本来の土層堆積状況を確認できた。壁面の観察からは、地表下50cm付近まで建物解体工事に伴うガラ混じりの埋土であったが、それ以下では近世層～無遺物層（地山層）までが残存している様子が確認された。いずれも水平に近い堆積層であり、遺構は確認されなかった。



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査区設定状況（西から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 北壁土層堆積状況



写真5 調査作業風景（南東から）

5-26 茅ヶ崎市西久保字大屋敷 605 番 14、15

1 調査年月日 令和5(2023)年7月7日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 3.4m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大屋敷A遺跡(No.188)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 古代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立浜之郷小学校から東に約300mの場所に位置する。調査以前は宅地造成工事後の更地であり、調査地点の標高は約5.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の地盤改良工事予定範囲に0.8m×4.2mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層柱状図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまりなし。粘性なし。細かい建材やコンクリートガラを含む。表土。

2層：暗灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。ソイルセメントが混じる。細かいアスファルト片・コンクリートガラを含む。ソイルセメントにより、硬く硬化する。客土。

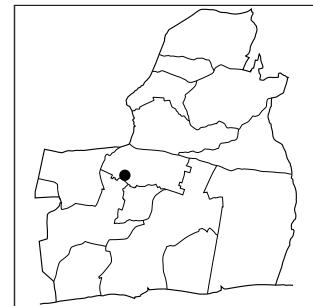
3層：擁壁のコンクリート基礎。

9 調査結果

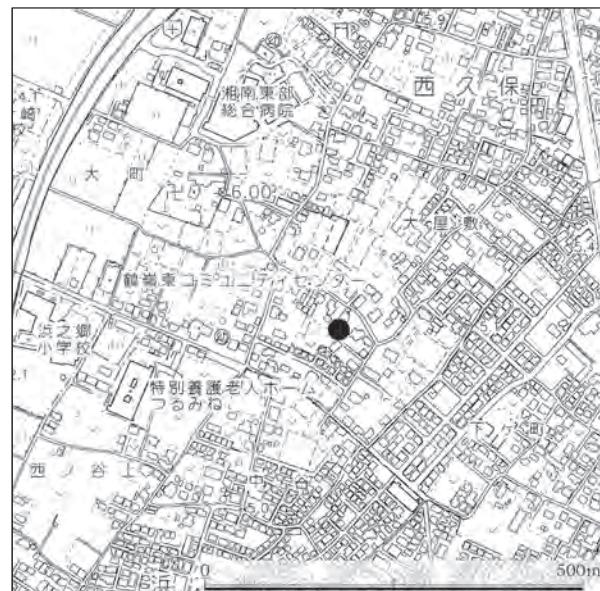
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

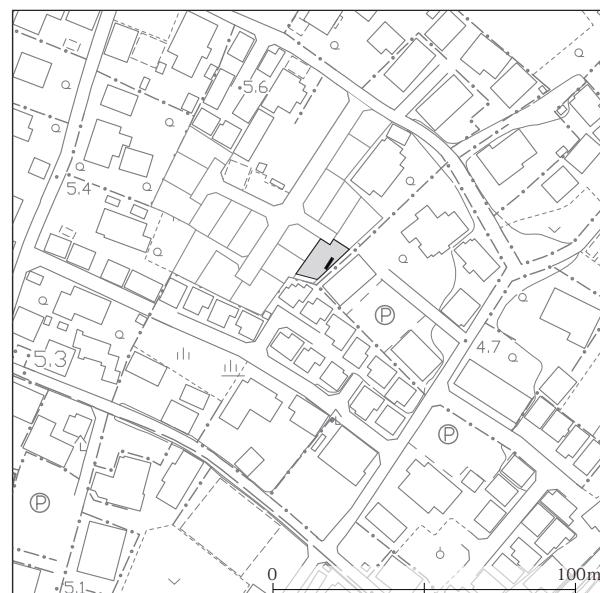
出土遺物：土師器



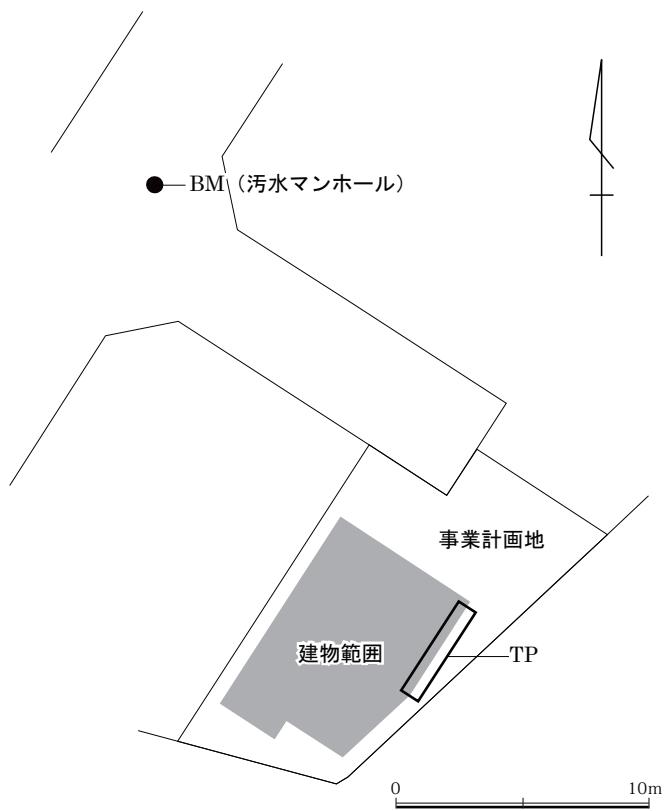
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)

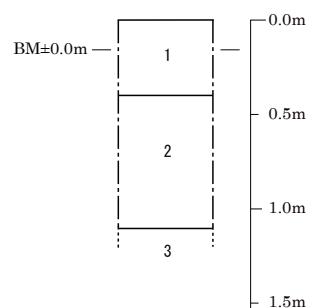


第4図 調査区配置図 (1/200)

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約100cmまでは全て客土であり、遺構は確認されなかった。客土である2層は、ソイルセメントを多量に含むことから極めて強く硬化していた。なお、表土である1層からは土師器細片が出土した。

当該地は宅地造成工事の際に新設道路部分において、令和3年度に発掘調査（大屋敷A遺跡第10次調査）を実施しており、古墳時代後期から近世に至るまで数多の埋蔵文化財が確認されている。当該地に隣接する部分では井戸跡や溝状遺構、畝状遺構が確認されているが、大規模な土取りの痕跡と考えられる攪乱も確認されている。今回の調査区で確認された客土は、宅地造成工事の際に設置された擁壁に伴うものであると推測されるため、当該地において埋蔵文化財が展開しているかどうかを確かめることはできなかった。



第5図 土層柱状図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	1層	土師器 瓢	1	7.1
合計			1	7.1

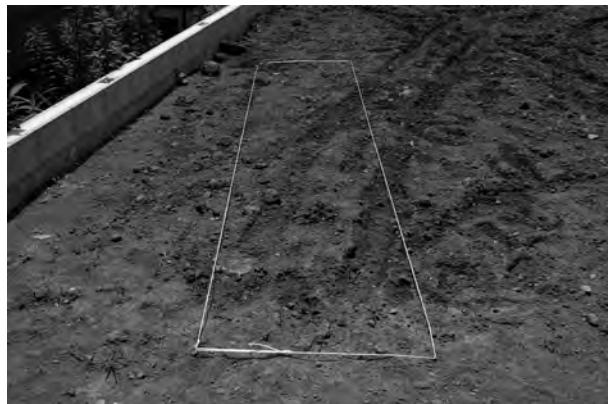


写真 1 調査区設定状況（北東から）



写真 2 完掘状況（北東から）



写真 3 南西壁土層堆積状況



写真 4 出土遺物

5-27 茅ヶ崎市西久保字大屋敷605番16、17

1 調査年月日 令和5(2023)年7月7日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.72m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大屋敷A遺跡(No.188)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 古代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立浜之郷小学校から東に約300mの場所に位置している。調査以前は宅地造成工事後の更地であり、調査地点の標高は約5.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の地盤改良工事予定範囲に0.8m×2.4mと0.8m×3.5mの調査区を計2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削完了後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層柱状図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北西側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまりなし。粘性なし。コンクリートガラを含む。表土。

2層：暗灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。ソイルセメントが混じる。細かいアスファルト片・コンクリートガラを含む。ソイルセメントにより硬化する。客土。

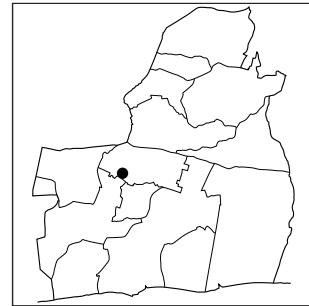
3層：擁壁のコンクリート基礎。

9 調査結果

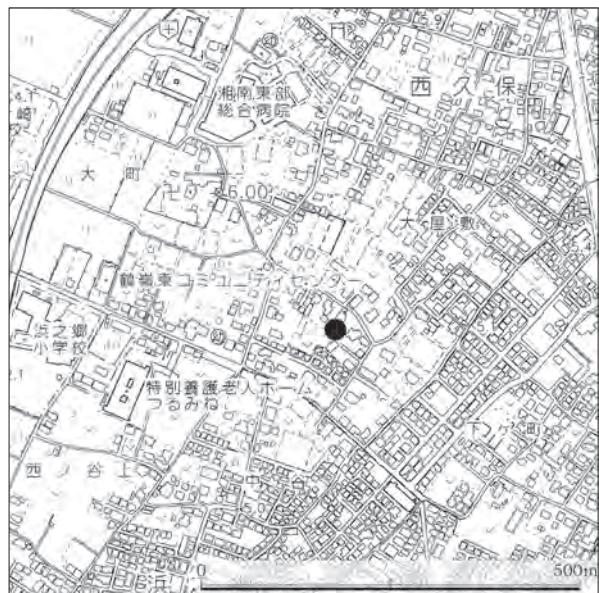
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

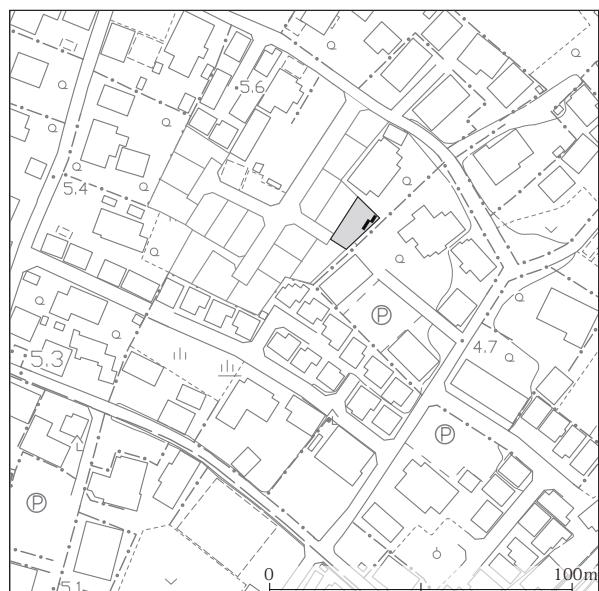
出土遺物：土師器



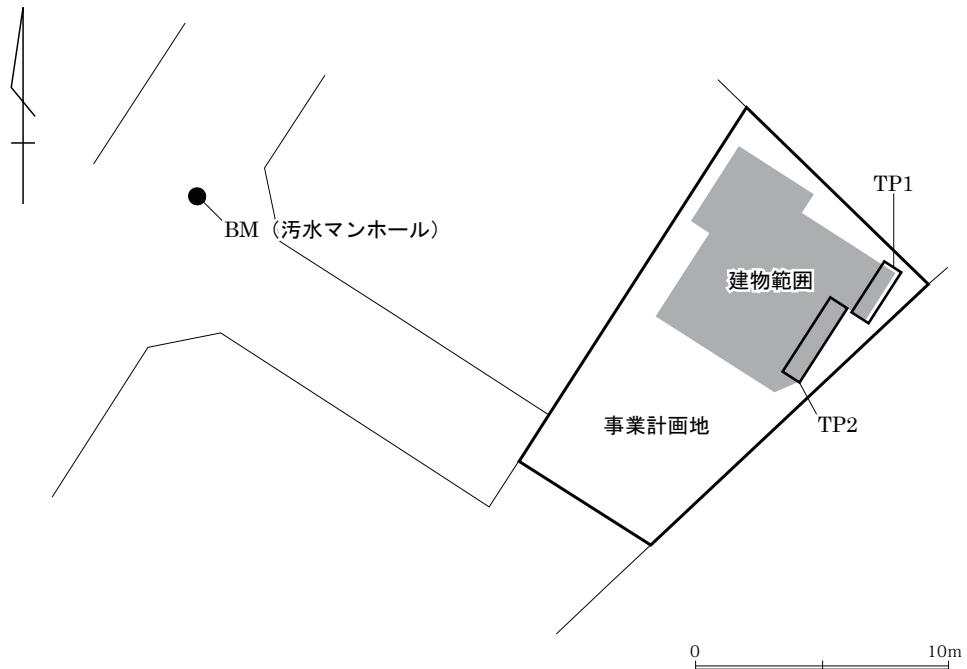
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)

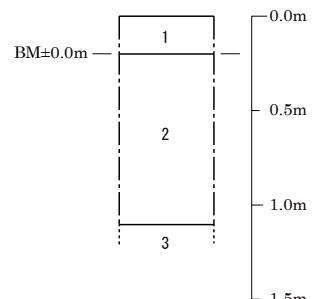


第4図 調査区配置図 (1/200)

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約 100cm までは全て客土であり、遺構は確認されなかった。客土である 2 層は、ソイルセメントを多量に含むことから極めて強く硬化していた。なお、表土である 1 層からは土師器細片が出土した。

当該地は宅地造成工事の際に新設道路部分において、令和 3 年度に発掘調査（大屋敷 A 遺跡第 10 次調査）を実施しており、古墳時代後期から近世に至るまで数多の埋蔵文化財が確認されている。当該地に隣接する部分では井戸跡や溝状遺構、畝状遺構が確認されているが、大規模な土取りの痕跡と考えられる攪乱も確認されている。今回の調査区で確認された客土は、宅地造成工事の際に設置された擁壁に伴うものであると推測されるため、当該地において埋蔵文化財が展開しているかどうかを確かめることはできなかった。



第5図 土層柱状図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	1 層	土師器 壊	1	4.2
合計			1	4.2



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 TP1 設定状況（南西から）



写真3 TP1 完掘状況（南西から）



写真4 TP1 北東壁土層堆積状況



写真5 TP2 完掘状況（南西から）



写真6 TP2 北東壁土層堆積状況



写真7 出土遺物

5-28 茅ヶ崎市浜之郷字本社 348番8ほか1筆及び366番1の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年7月13日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 本社B遺跡(No.181)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 自然堤防地形

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺中学校から東側に約100mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約5.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分において、範囲内に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

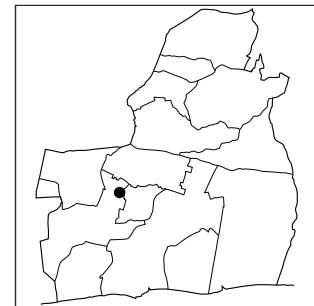
8 土層堆積状況

1 基本土層

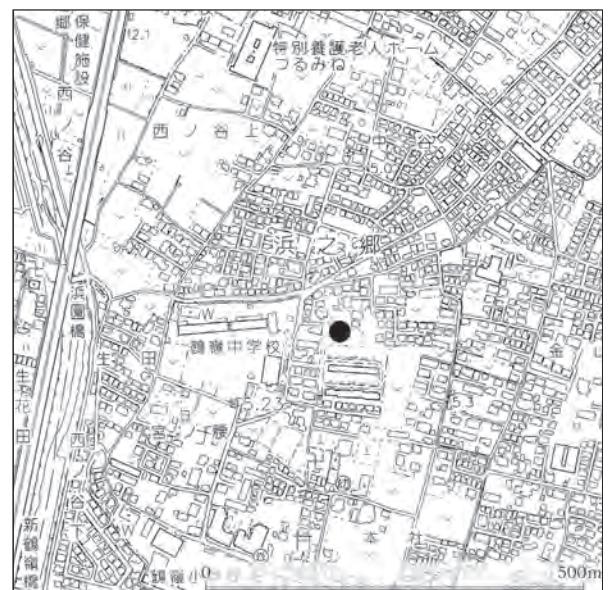
1層：明褐色土。近現代の耕作土。宝永パミス、スコリアを30%含む。転圧によりしまる。土師器片、コンクリートを含む。表土。

2層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。土粒細かい。橙色スコリア、炭化物を少量含む。土師器片、須恵器片を含む。古代～中世の遺物包含層。

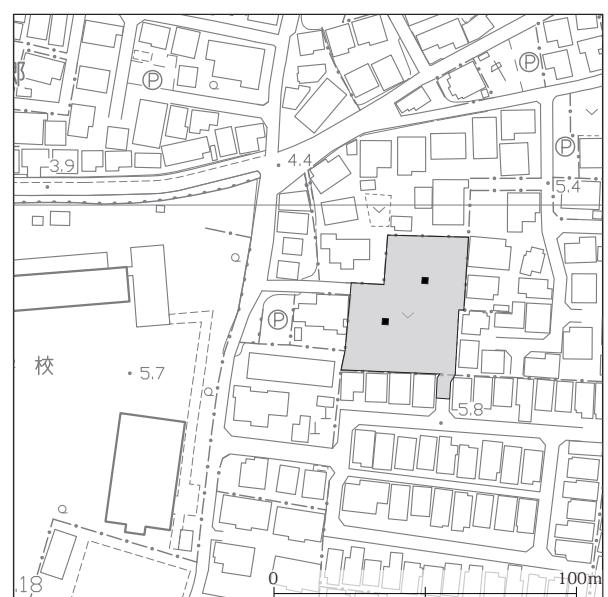
3層：明褐色土。しまり強い。粘性あり。黄褐色土(地山)主体。無遺物層であり、地山漸移層か。



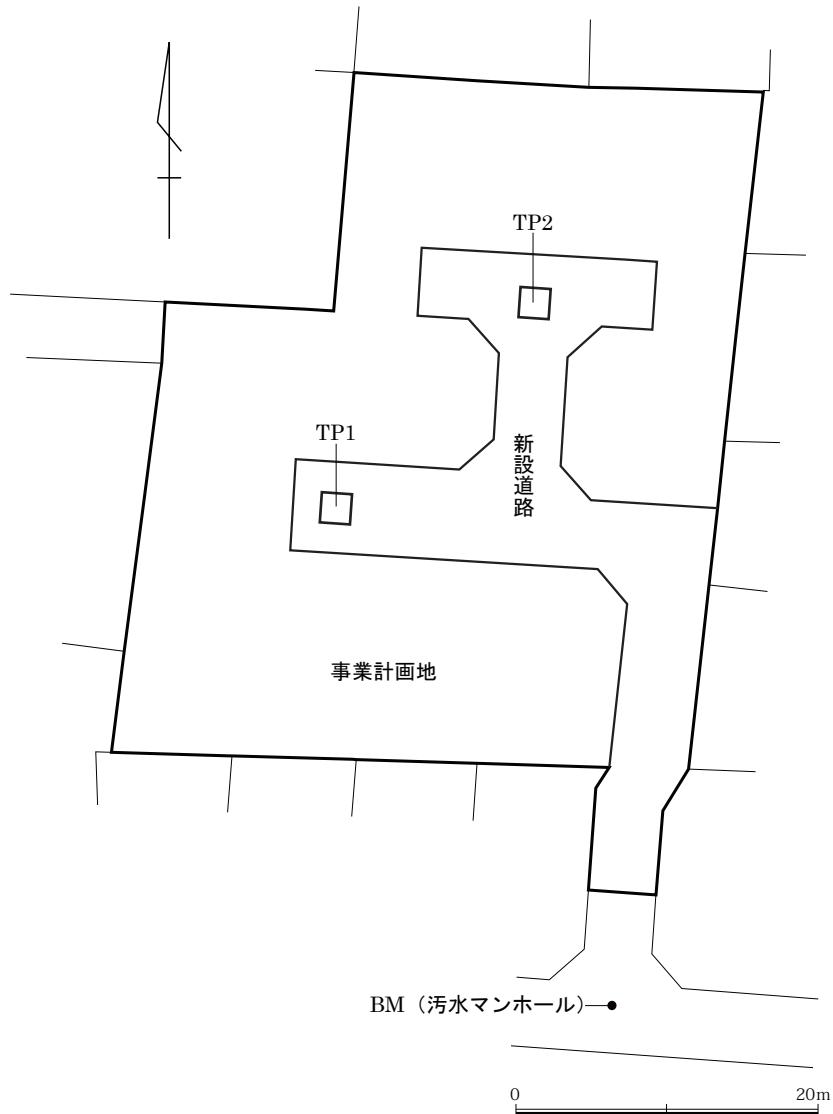
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

(2) 遺構覆土

〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。基本土層の2層を主体とするが、橙色スコリア極めて少ない。基本土層の3層を極少量含むため、色調明るい。土粒細かく均一。土師器含む。

2層：暗褐色土。同遺構の1層に似るが、基本土層の3層は含まない。遺物なし。白色スコリアを少量含む。

3層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。土師器片、須恵器片、炭化物を多く含む。基本土層の2層を主体とする。色調暗く、水分量やや多い。

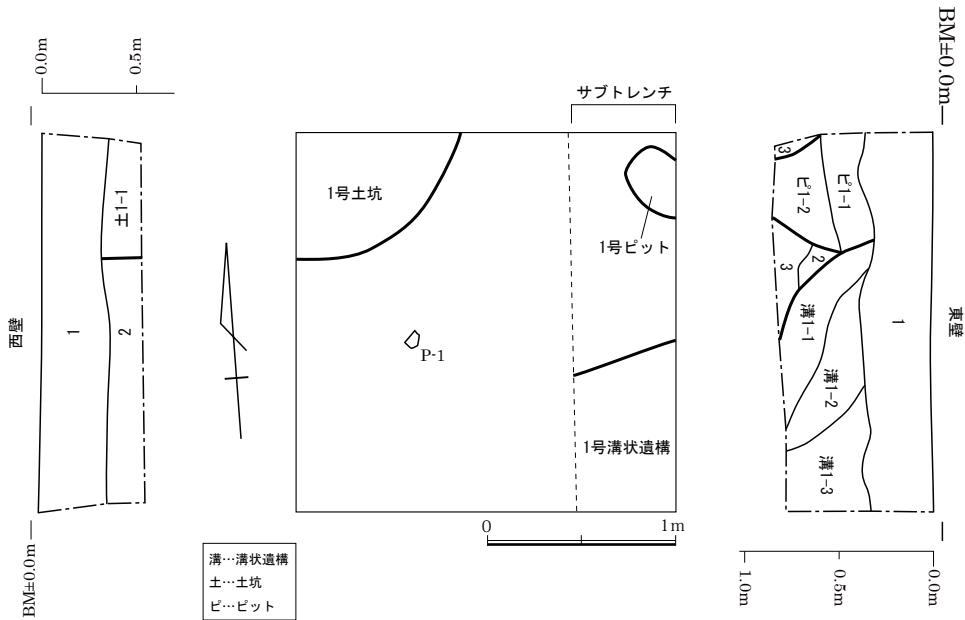
〈1号土坑〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。基本土層の2層を主体に炭化物を少量含む。土師器片、須恵器片含む。土粒細かいが、やや均一にかける。水分量多い。

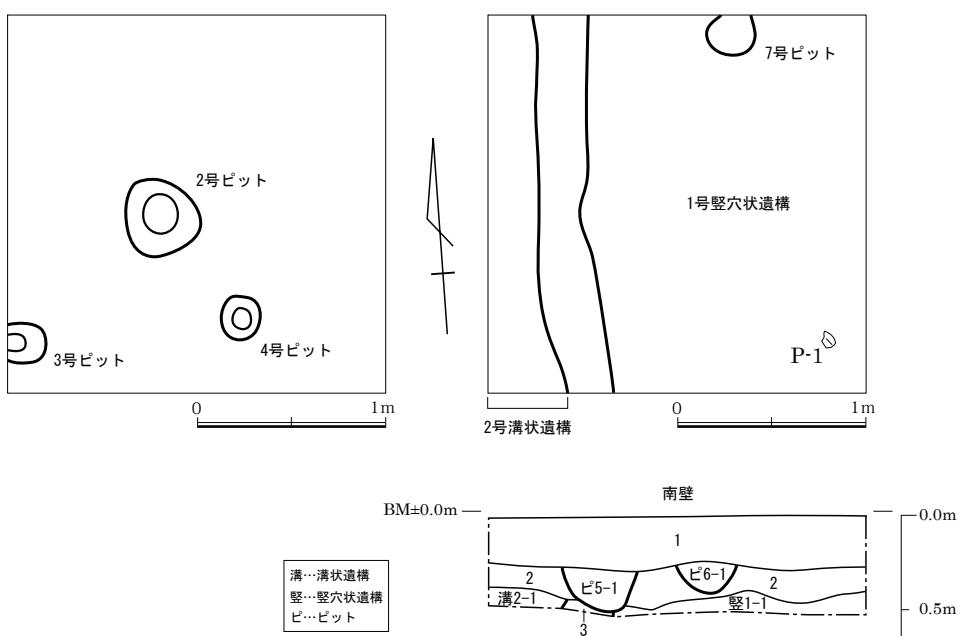
〈1号ピット〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性強い。土粒粗い。基本土層の2層が主体。橙色スコリアを少量含む。

2層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。白色パミス多く、橙色スコリア少ない。古手の土師器を含む。同遺構の1層に基づく土層の3層を多く含んだもの。



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

〈1号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性弱い。橙色スコリア、炭化物を含む。黒色スコリア極少量含む。基本土層の3層わずかに含む。土師器片含む。

〈2号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。土粒細かく均一。橙色スコリア少量含む。土師器片含む。

〈5、6号ピット〉

1層：灰褐色土。しまりなし。粘性なし。ガラを含まない。宝永パミス・スコリアを多く含む。耕作痕か。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：溝状遺構、土坑、ピット

出土遺物：土師器、須恵器、陶器、礫

〈TP2〉

発見遺構：竪穴状遺構、溝状遺構、ピット

出土遺物：土師器、須恵器、陶器、瓦器、礫、軽石

(2) 調査所見

調査の結果、地表下30～40cmまでが表土（近現代の耕作土）であり、それ以下では堆積層が良好に残存していた。近現代の耕作による攪乱も少なく、近世の耕作痕と考えられるピット状の掘り込みをはじめ、古代～中世と推測される竪穴状遺構や溝状遺構、土坑、ピットが確認された。包含層からの出土遺物も多く、土師器が主体を占めているが須恵器・灰釉陶器・陶器も少量含まれている。遺構の分布密度も高く、無遺物層である地山漸移層は遺構と遺構の隙間で確認されたのみであ

る。なお、TP1の1号土坑は覆土中に含まれる炭化物の量が極めて多く、直径1cm以下の細かな炭化物が全体にまんべんなく含まれており、部分的に焼土の可能性のある橙色粒子が極少量混入していた。

なお、本地点においては記録保存を目的として令和5年度に本社B遺跡第9次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	表土	土師器	12	11.2
		土師器 坏	5	14.7
		土師器 甕	3	11.2
		須恵器	1	1.0
		須恵器 坏	3	13.0
		礫	1	1.8
	2層	土師器	32	46.4
		土師器 坏	7	23.0
		土師器 甕	13	52.6
		土師器 皿	1	5.0
	1号溝状遺構	須恵器 坏	1	7.5
		陶器	1	8.6
		土師器 坏	1	7.4
	1号ピット	土師器 甕	5	31.6
		土師器 甕	2	15.7
TP2	表土	陶器 甕	1	37.6
		土師器	11	13.4
		土師器 坏	2	5.9
		土師器 甕	4	17.9
		須恵器 甕	1	1.7
		礫	3	13.1
	2層	軽石	1	4.7
		土師器	14	16.0
		土師器 坏	2	4.3
		土師器 甕	6	27.8
		須恵器 甕	1	15.3
		陶器	2	19.4
1号竪穴状遺構	瓦器	瓦器	1	6.7
		礫	1	8.6
		土師器 甕	1	29.1
	2号ピット	土師器	1	1.0
		炭化物	1	0.2
	3号ピット	土師器	1	0.3
		合計	141	473.7



写真1 調査地点近景（南東から）

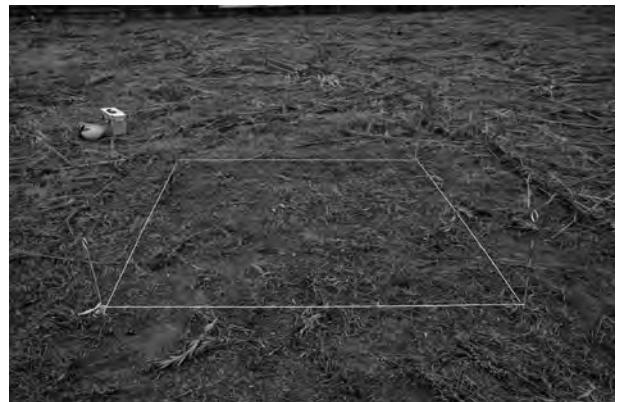


写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 遺構確認状況（東から）



写真4 TP1 完掘状況（西から）



写真5 TP1 東壁土層堆積状況



写真6 TP2 設定状況（南から）



写真7 TP2 近世遺構検出状況（西から）



写真8 TP2 近世以降完掘状況（西から）



写真9 TP2 完掘状況（北から）



写真10 TP2 南壁土層堆積状況



写真11 出土遺物

5-29 茅ヶ崎市菱沼二丁目 1251番2、5、7、1252番

1 調査年月日 令和5(2023)年7月19日(水)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 6.4m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 前田A遺跡 (No.71)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側約140mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.7mを測る。

7 調査の方法

本書報告の5-16 (P.69-72) で実施した試掘・確認調査のTP2を拡張する形で調査区を設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：褐灰色土。しまり弱い。粘性弱い。根多く含む。

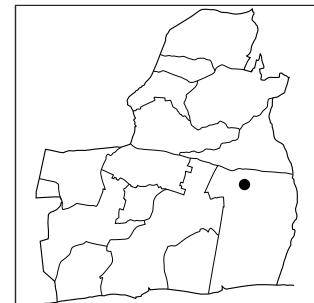
2層：攪乱。

3層：褐灰色土。しまりあり。粘性弱い。宝永パミス含む。

4層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性弱い。遺物ほぼ含まない。

5層：暗黄褐色砂質土。やや明るい黄褐色砂質土。

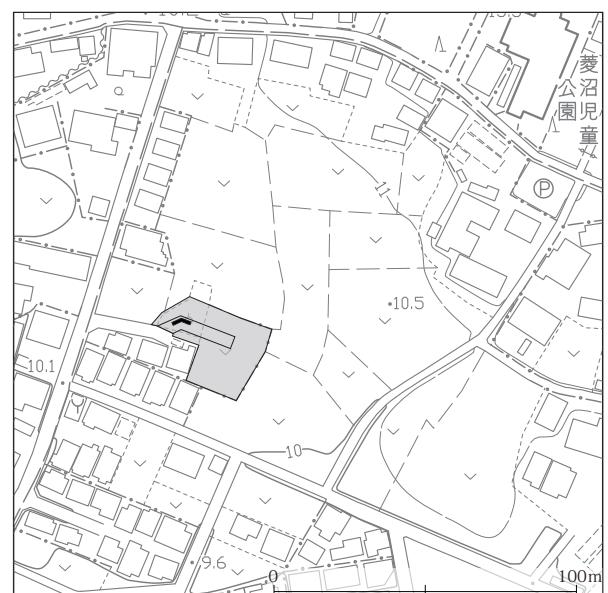
6層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。4層に似る。



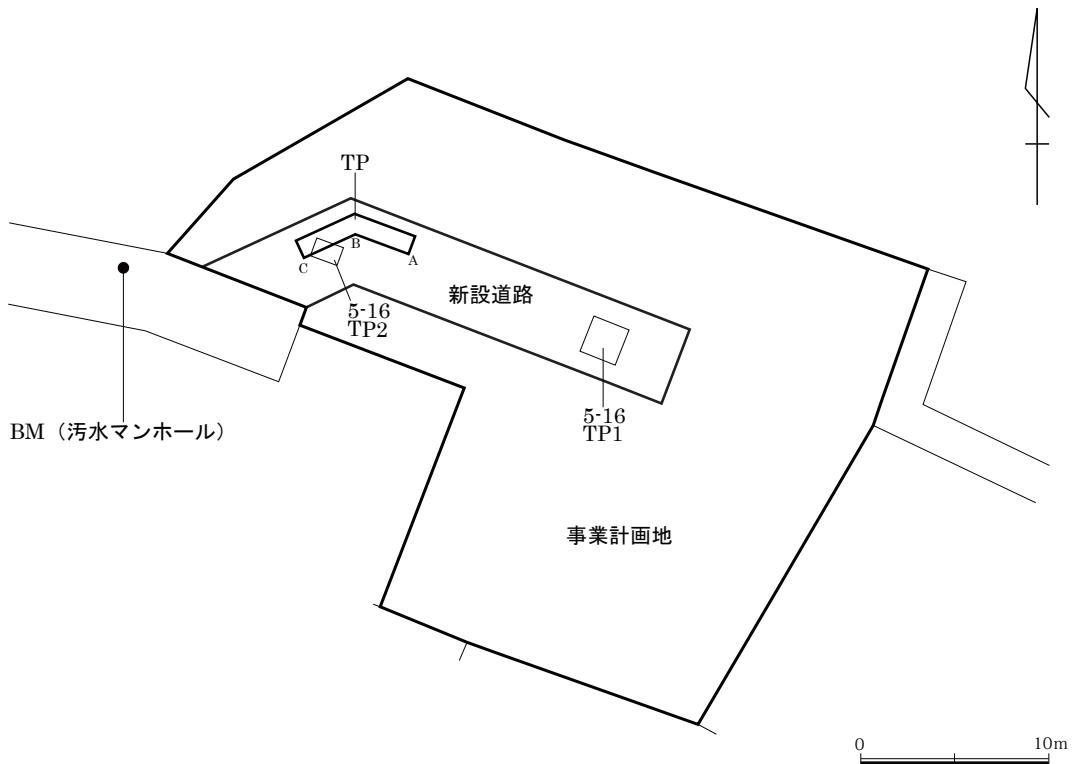
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

7層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性弱いがあり。橙色スコリア含む。

8層：黒褐色砂質土。しまり強い。粘性強い。脱色したスコリアを多く含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器

(2) 調査所見

本調査は、事前に実施した試掘・確認調査（本書報告5-16）において、遺物量が少なく遺構が確認されなかったものの略完形のかわらけが出土したことから、土器出土位置周辺を拡張し、改めて試掘・確認調査を実施したものである。

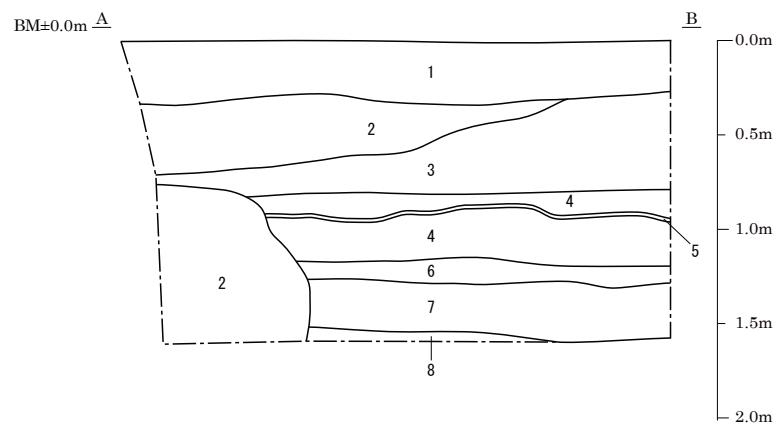
今回の調査において、出土したかわらけに対応する中世から近世の土層と考えられる4層には明確な掘り込みを確認することはできなかった。

古代相当層と考えられる7層の遺物出土量は前回の調査とあわせても少なく、8層以下は無遺物層と考えられる。

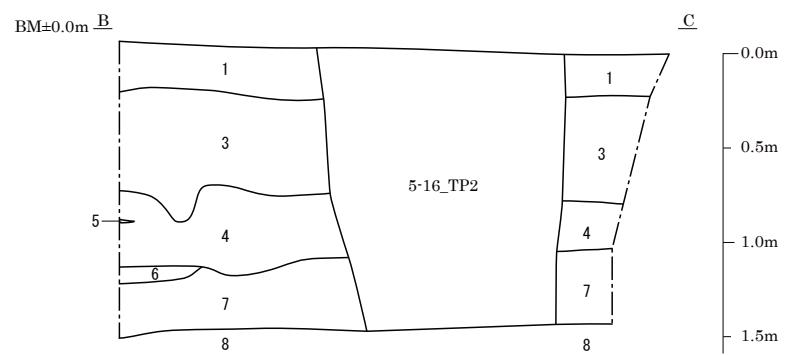
以上、当該地については埋蔵文化財の密度が低い状態を確認することができた。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	7層	土師器	9	10.9
		土師器 壊	5	13.1
		土師器 蜂	2	6.9
		須恵器 壊	1	3.7
		灰釉陶器	1	2.0
		灰釉陶器 壊	1	17.8
合計			19	54.4



第5図 SPA-SPB 土層断面図 (1/40)



第6図 SPB-SPC 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 調査区設定状況（北東から）



写真3 完掘状況（北東から）

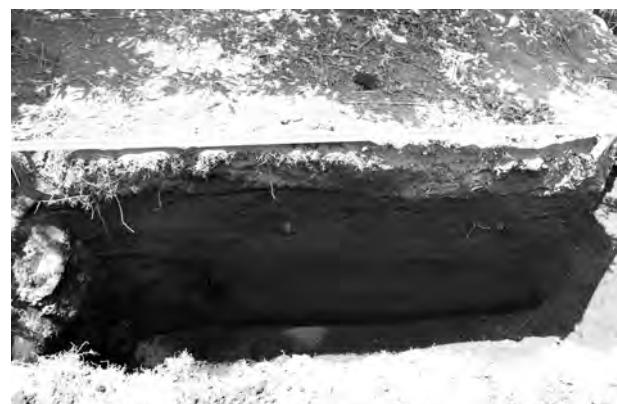


写真4 SPA - SPB 土層堆積状況（北東から）

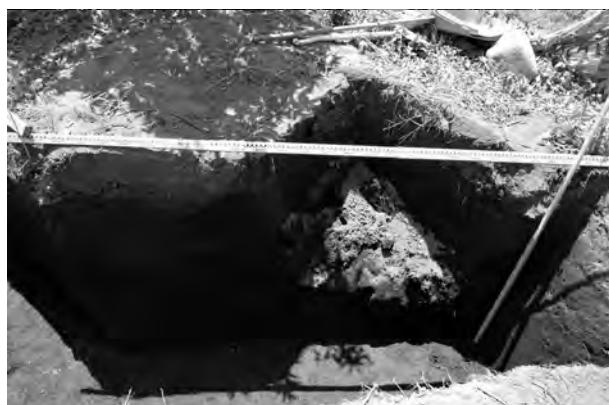


写真5 SPB - SPC 土層堆積状況（北西から）



写真6 SPB - SPC 東側土層堆積状況（北西から）



写真7 出土遺物

5-30 茅ヶ崎市松林一丁目 1543 番の一部外 3 筆

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 1 調査年月日 | 令和5(2023)年7月19日(水)
～7月20日(木) |
| 2 調査目的 | 宅地造成工事 |
| 3 調査担当 | 田中万智 |
| 4 調査面積 | 20.0m ² |
| 5 遺跡の概要 | |
| (1) 名称 | 網久保B遺跡(No.90) |
| (2) 種別 | 集落跡 |
| (3) 時代 | 弥生時代(後期)、古墳時代、
奈良時代、平安時代、中世、
近世 |
| (4) 立地 | 砂丘上から砂丘間凹地に向けて
下降傾斜する南斜面 |

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立松林中学校から南東側約250mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分に 2.0m × 2.0m の調査区を 5 箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積狀況

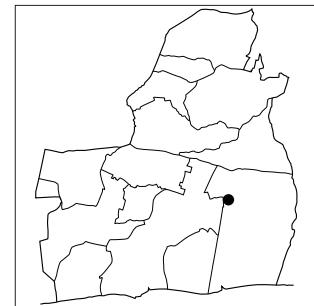
(1) 基本土層

$\langle \text{TP1}, 2 \rangle$

1層：黄褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。
土粒細かくパウダー状。近現代の耕作土

2層：暗黄褐色砂質土。しまりややあり。粘性なし。黄褐色砂質土を多く含む。宝永火山灰少量含む。マーブル状。近現代の耕作土。土師器片多く含む。

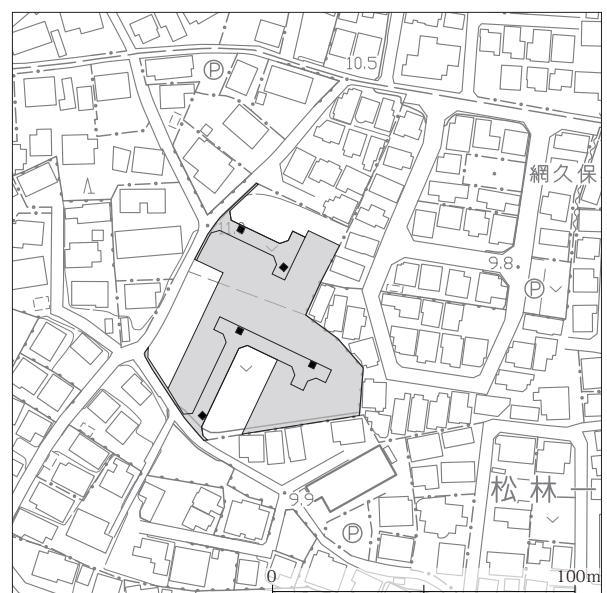
3層：にぶい董褐色砂質土。しまりあり。粘性



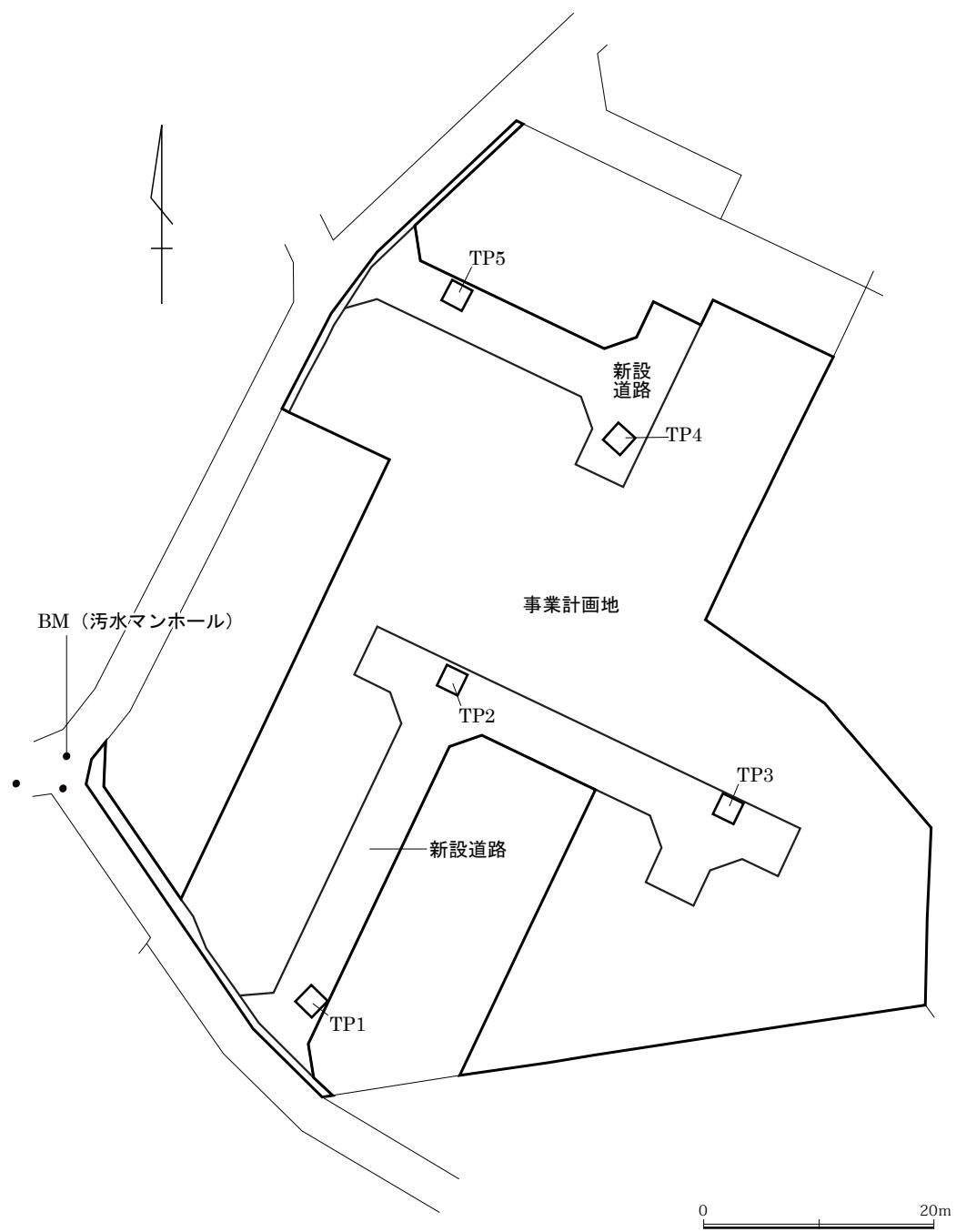
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



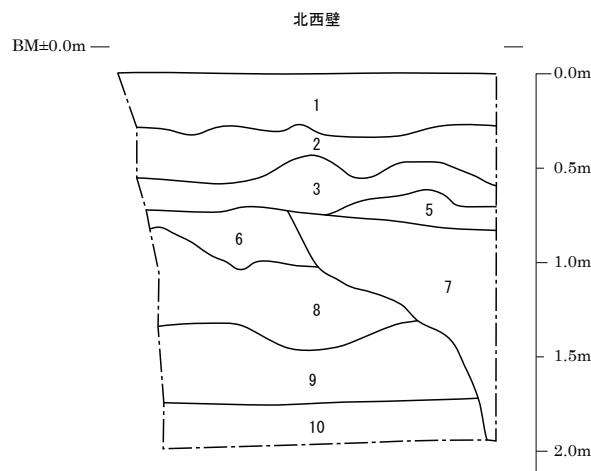
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



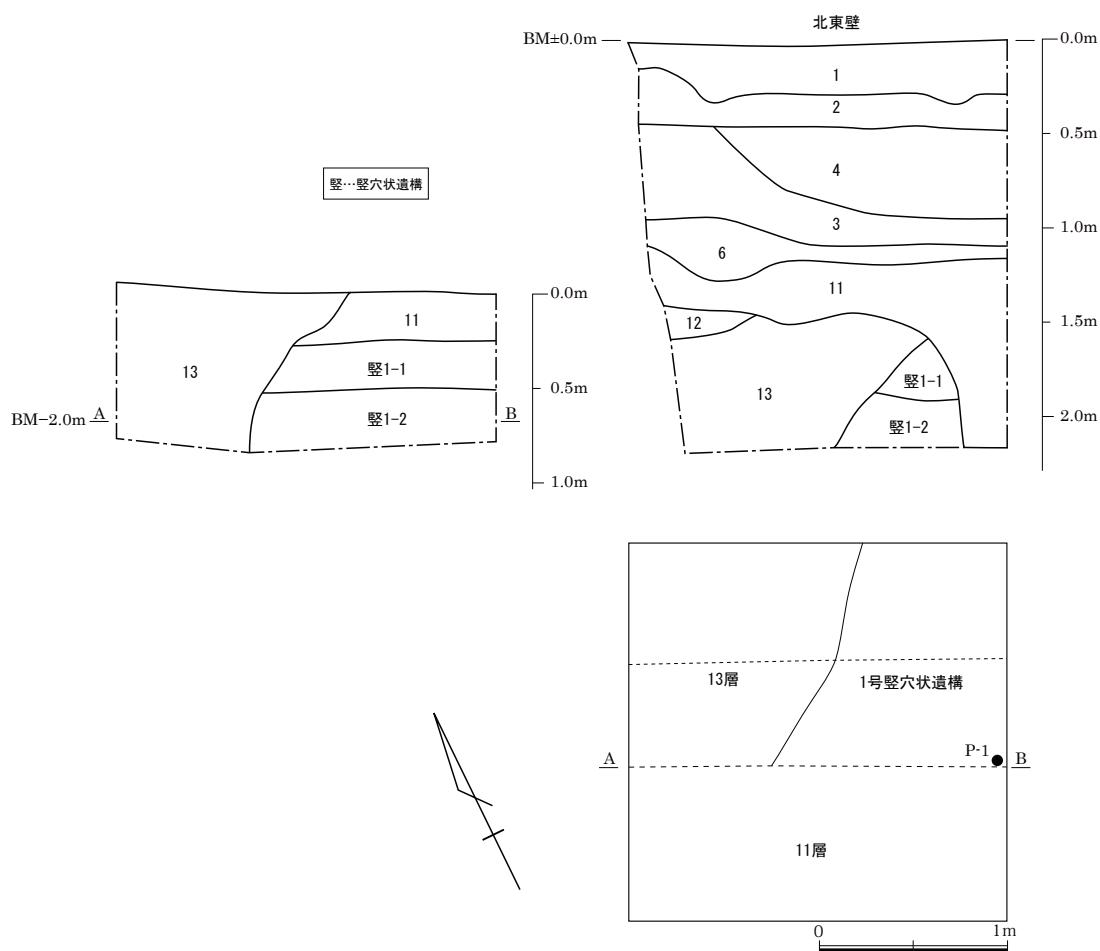
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

なし。砂丘由来の地山である黄褐色砂を少量含む。宝永パミス・スコリアを含まない。遺物なし。攪拌された埋土。

4層：にぶい黄褐色砂質土。TP1、2基本土層の3層に比べ、より地山砂を多く含む。

5層：暗黄褐色砂質土。本来の土が攪拌された埋土。TP1、2基本土層の2層の暗褐色砂質土を多く含む。土の混ざり方は粗い斑状。土師器を多量に含む。

6層：暗黄褐色砂質土。TP1、2基本土層の5層に近いが、より多く宝永パミス、スコリアを含む。地山砂の含有は少ない。

7層：暗黄褐色砂質土。しまり強い。宝永パミス、スコリアを多く含む。TP1、2基本土層の5層に近いが黒色土のブロックを多く含み、ガラス片を含む。近現代の埋土。

8層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを多く含み、全体に混じる。腐植物を少量含む。土師器を少量含む。近世の遺物包含層。

9層：灰褐色砂質土。TP1、2基本土層の8層の宝永パミス、スコリアが少ない土。土師器を極少量含む。

10層：黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。土粒均一で細かい。無遺物層。地山層。

11層：暗褐色土。ロームブロック、ガラ、ゴミ等を含む。近現代の客土。

12層：黄褐色砂。地山であるTP1、2基本土層の10層が攪乱されたもの。

13層：暗褐色土。TP1、2基本土層の11層に比べ大きなロームブロックを含む。

<TP3>

1層：黄褐色砂質土。砂主体の客土。宝永パミス、スコリアを極少量含む。

2層：暗黄褐色砂質土。砂主体の客土。ゴミは少なく、地山の黄褐色砂を多く含む。

3層：黒褐色土。大型のゴミや建材を含む客土。ゴミの包含量が多く、腐臭がする。

<TP4、5>

1層：明暗褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。土粒細かくパウダー状。宝永パミス、ス

コリアを少量含む。近現代の耕作土。

2層：褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを多く含み、地山である黄褐色砂を少量含む。近世の耕作土。

3層：褐色砂質土。TP4、5基本土層2層の宝永パミス、スコリアが少ない土。

4層：にぶい褐色砂質土。地山層に近いが、海成砂を中量含み、色調やや暗い。宝永パミス、スコリアを含まない。

5層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。橙色スコリア少量含む。色調やや明るい。土師器、須恵器含む。古代の遺物包含層。

6層：暗灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。TP4、5基本土層5層より土師器、須恵器を多く含む。土粒やや細かい。古代の遺物包含層。

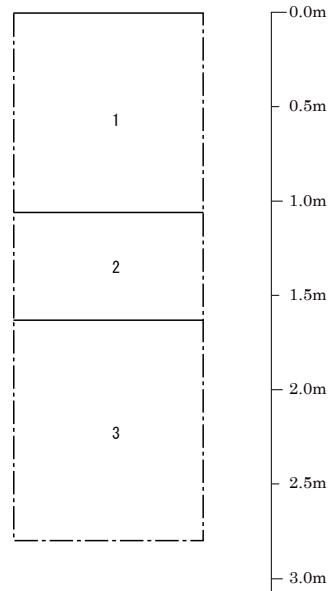
(2) 遺構覆土

<1号竪穴状遺構>

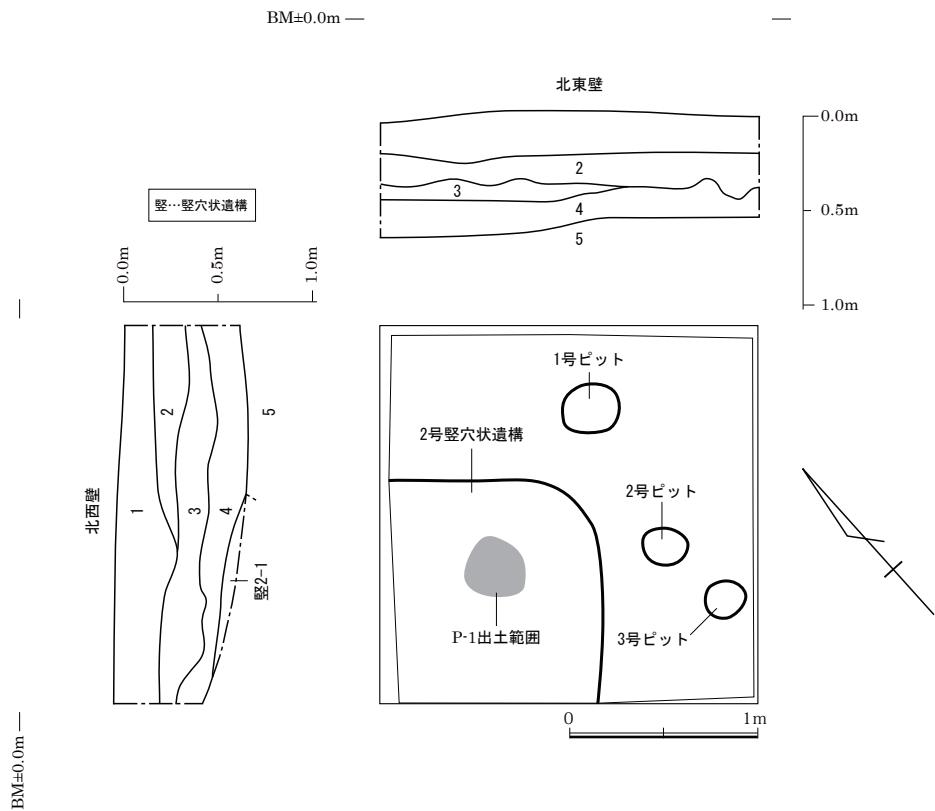
1層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。腐植物と土師器を少量含む。

2層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性弱い。橙色スコリア、白色スコリアを少量含む。土師器多く含む。

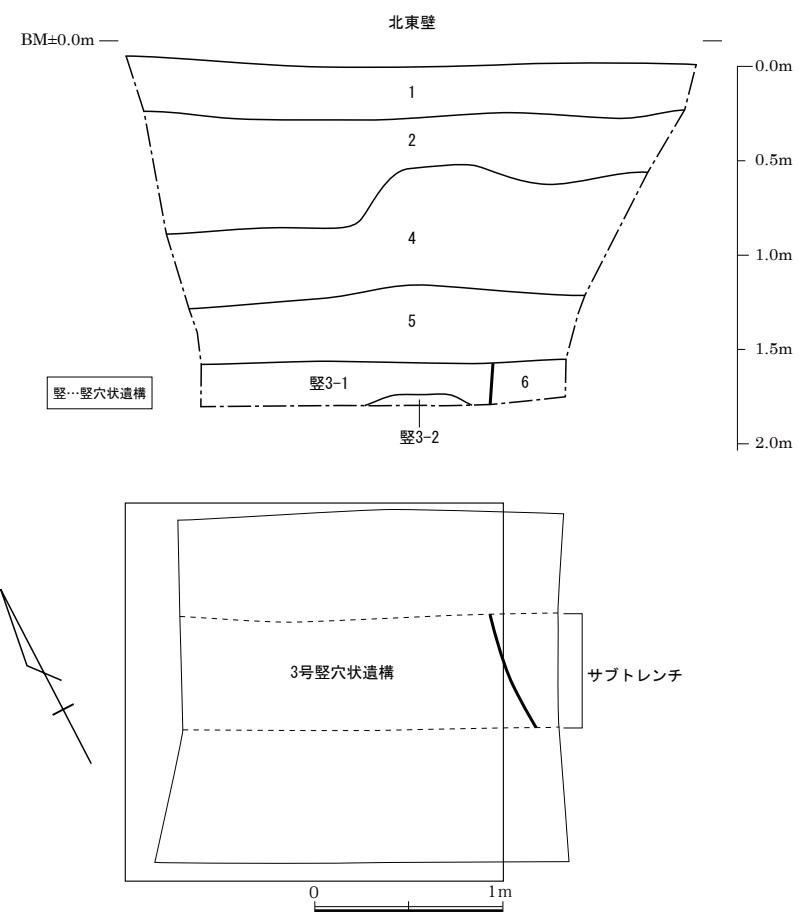
BM±0.0m —



第7図 TP3 土層柱状図 (1/40)



第8図 TP4 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第9図 TP5 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

〈2号竪穴状遺構〉

1層：明褐色砂質土。しまり強く、硬化している。土粒粗い。橙色スコリア、炭化物を少量含む。土師器を多く含む。

〈3号竪穴状遺構〉

1層：暗灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。橙色スコリア少量含む。炭化物ごく少量含む。地山砂を斑に少量含む。

2層：焼土。粘性あり。土師器の甕片多い。炭化物多い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、磁器

〈TP2〉

発見遺構：竪穴状遺構

出土遺物：土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器、礫、軽石、建材

〈TP3〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、陶器、磁器、瓦、ガラス製品、礫

〈TP4〉

発見遺構：竪穴状遺構、ピット

出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器

〈TP5〉

発見遺構：竪穴状遺構

出土遺物：土師器、ロクロ土師器、須恵器、灰釉陶器、磁器、鉄製品、礫

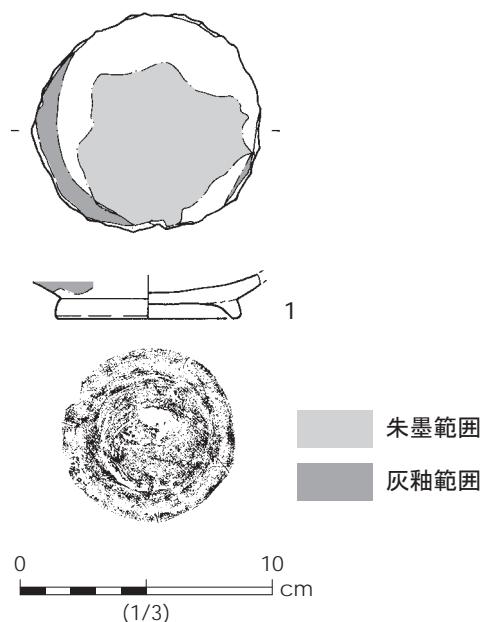
(2) 調査所見

調査の結果、南側の新設道路部分 (TP1～3) では近現代に本来の堆積層が攪乱されていたが、TP2 では部分的に古代層が残存しており、竪穴状遺構の可能性が高い堆積層も確認された。北側の新設道路部分 (TP4、5) では本来の堆積土が良好に残存しており、焼土範囲が目視でき住居址の可能性もある竪穴状遺構が確認された。遺物の残存状況も良く、接合できる甕などが一括で出土している。

全体の傾向としては、南側の土地は砂丘間の下降傾斜面に位置していることから、土取りや大規模な埋土が行われ現況道路よりも土を高く盛ったものとはいえ、遺構・遺物の残存状況は悪かった。ただし、部分的に堆積層が残存している場所もあり、埋土からは本来の土に包含されていたと推測される遺物が多量に出土する。北側は現況道路よりも低く、本来の砂丘の斜面を残しており、一部 (TP5) では土を入れて土地を水平にしているものの堆積層は良好に残存している。

第10図は灰釉陶器・碗の底部である。胎土は緻密であり、少量の砂礫と白色粒含む。焼成は良好であり、ロクロ成形で底部は回転糸切りと付け高台を有する。全体的に擦痕があり、特に内面には朱墨痕を確認できる。また、土器の周囲を意図的に欠いている。これらのことから、この灰釉陶器は転用碗として使用されていたことがわかる。

以上、当該地においては埋蔵文化財が高い密度で確認された。このため、本地点においては令和5年度において網久保B遺跡第3次調査を実施した。



第10図 実測遺物 (1/3)

表1 TP1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP1	一括	土師器	22	21.0
		土師器 壊	27	68.3
		土師器 蓋	12	69.0
		須恵器 蓋	1	13.5
		礫	6	321.5
合計			68	493.3

表4 TP4 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP4	一括	土師器	7	7.1
		土師器 壊	3	12.0
		土師器 蓋	6	26.5
		須恵器 蓋	1	6.7
		灰釉陶器 碗	1	1.3
P-1	土師器 蓋		34	218.8
合計			52	272.4

表2 TP2 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP2	2~5層	土師器	7	9.4
		土師器 壊	26	155.2
		土師器 蓋	22	195.1
		口クロ土師器	1	6.0
		須恵器 壊	1	3.5
		須恵器 蓋	3	85.1
		灰釉陶器 皿	1	2.2
		軽石	1	0.7
	8層以下	土師器	19	22.1
		土師器 壊	30	160.4
	P-1	土師器 蓋	40	256.7
		口クロ土師器	1	8.7
		須恵器 壊	2	114.0
		須恵器 蓋	1	2.0
		須恵器 蓋	2	12.7
		礫	1	26.9
		建材	1	7.7
		不明	1	2.2
		須恵器 蓋	2	81.1
		合計	162	1,151.7

表5 TP5 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)	
TP5	包含層	土師器	73	82.6	
		土師器 壊	30	98.1	
		土師器 蓋	48	198.6	
		口クロ土師器	4	43.9	
		須恵器	1	1.1	
		須恵器 壊	5	20.9	
		須恵器 蓋	3	16.9	
		灰釉陶器	2	5.1	
		鉄製品	1	3.9	
		礫	2	13.8	
3号竪穴状遺構	3号竪穴状遺構	土師器	17	19.8	
		土師器 壊	13	50.3	
		土師器 蓋	36	225.3	
		口クロ土師器	1	8.9	
		須恵器 壊	2	4.0	
		灰釉陶器	3	98.7	
		礫	1	3.2	
表採		磁器	1	9.0	
合計			243	904.1	

表3 TP3 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP3	一括	土師器	2	2.4
		土師器 蓋	5	26.7
		陶器	1	5.1
		磁器	2	7.9
		瓦	1	106.3
		ガラス製品	2	88.0
		礫	3	295.9
		不明	1	13.8
合計			17	546.1



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査地点近景（西から）



写真3 TP1 設定状況（北東から）



写真4 TP1 完掘状況（北東から）



写真5 TP1 北西壁土層堆積状況

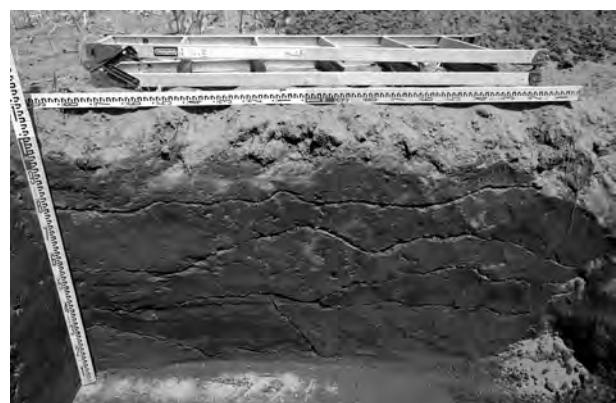


写真6 TP1 北西壁上部土層堆積状況



写真7 TP2 設定状況（北から）



写真8 TP2 遺構確認状況（北から）



写真 9 TP2 遺構確認状況（北西から）



写真 10 TP2 完掘状況（南東から）



写真 11 TP2 北東壁土層堆積状況



写真 12 TP2 北東壁下部土層堆積状況



写真 13 TP3 設定状況（北から）



写真 14 TP3 完掘状況（北西から）



写真 15 TP4 設定状況（北東から）



写真 16 TP4 完掘状況（南東から）



写真 17 TP4 北西壁土層堆積状況



写真 18 TP5 設定状況 (北東から)



写真 19 TP5 遺構確認状況 (南西から)



写真 20 TP5 完掘状況 (南西から)



写真 21 TP5 北東壁土層堆積状況

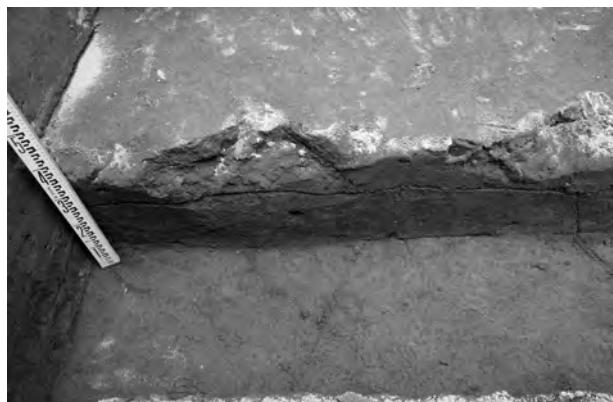


写真 22 TP5 北東壁北側下部土層堆積状況



写真 23 TP5 北東壁南側下部土層堆積状況



写真 24 TP1～3 出土遺物



写真 25 TP4～5出土遺物



写真 26 実測遺物 (第 10 図)

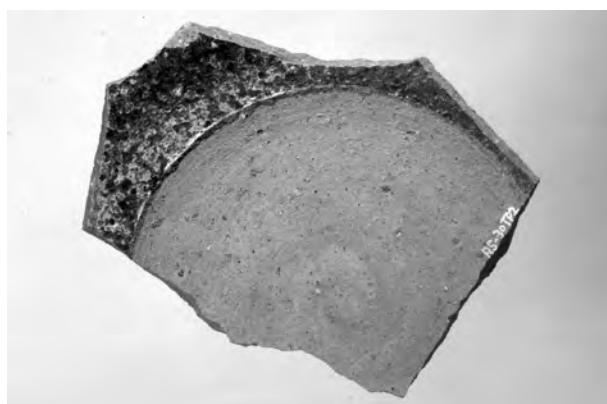


写真 27 出土遺物 1



写真 28 出土遺物 2



写真 29 出土遺物 3



写真 30 出土遺物 4



写真 31 出土遺物 5

5-3-1 茅ヶ崎市芹沢字久保山 2494番

1 調査年月日 令和5(2023)年7月27日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 10.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 久保山A遺跡(No.11)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 繩文時代(中後期)、歴史時代

(4) 立地 高座丘陵

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、茅ヶ崎市小出小学校から北西側約1200mの場所に位置している。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約17.3mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に1.5m×4.0mの調査区を1箇所、宅地範囲に既存建物を避ける形で1.5m×3.0mの調査区を1箇所、計2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北西側に所在する消火栓蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

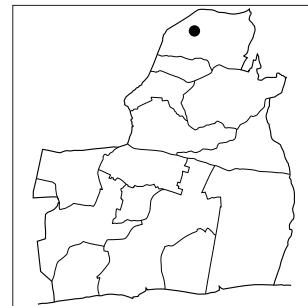
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。現在の表土。コンクリートガラ含む。

2層：暗黄褐色土。しまりあり。粘性なし。宝永パミス・スコリアを多く含む。磁器出土。近世の耕作土。

3層：基本土層の2層が酸化し、橙色粒を含むもの。

4層：にぶい暗黄褐色土。しまり強い。粘性あり。古代～中世の層。酸化粒・土師器含む。細かいローム粒含む。



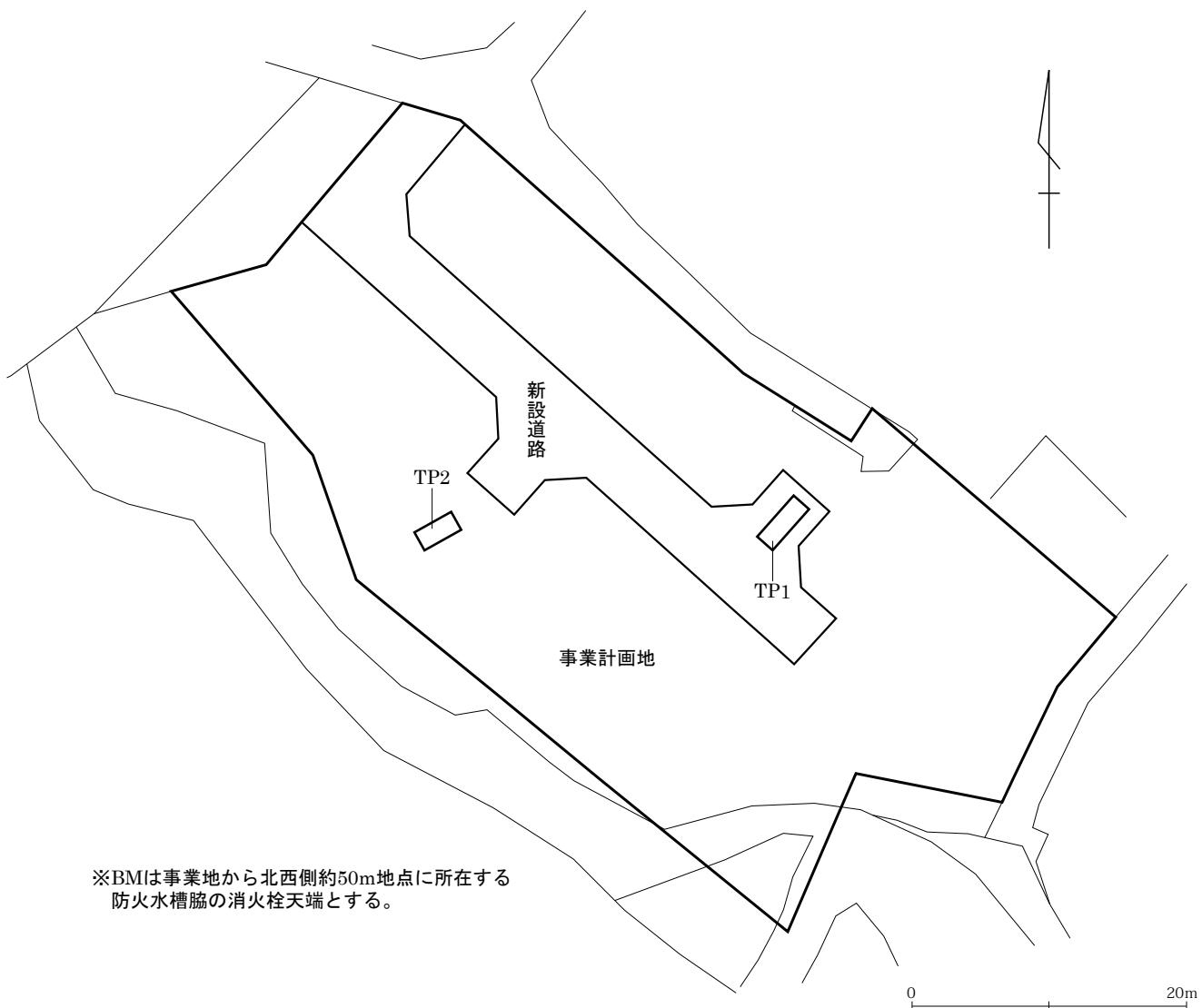
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

5層：にぶい暗黄褐色土。しまり強い。粘性強い。基本土層の3層より酸化強い。縄文土器含む。古代～中世の層。

6層：暗褐色土。しまりなし。近現代の掘り込み（井戸水の塩ビ管）。

7層：暗褐色土。しまりなし。粘性強い。宝永パミス、スコリア多く含む。近世～近代の埋め土。

8層：暗オリーブ色粘性土。しまり強い。粘性あり。古代以前か。湿地的な土。酸化粒多い。遺物を含まない。

9層：暗褐色土。しまり強い。粘性あり。土粒粗い。φ 2～12mmの橙色粒を多量に含む。白色粒少量含む。酸化粒を多く含む土。古墳時代～弥生時代の土。

10層：暗褐色土。しまり強い。粘性少ない。土粒粗い。φ 1～3mm程度の橙色スコリア、白色粒少量含む。水分量多い。縄文時代か。

11層：にぶい灰褐色ローム土。しまり強い。粘性強い。土粒細かく、白色粒多い。

12層：にぶい灰褐色ローム土。しまり極めて強い。粘性強い。土粒細かい。橙色粒含まず、白色粒含む。湧水する。ハードローム。

(2) 遺構覆土

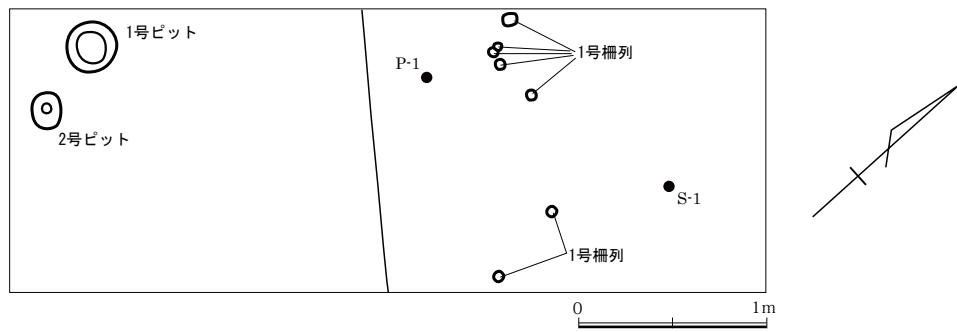
〈旧家屋跡〉

1層：黄褐色土。近代の陶磁器を多く含む。

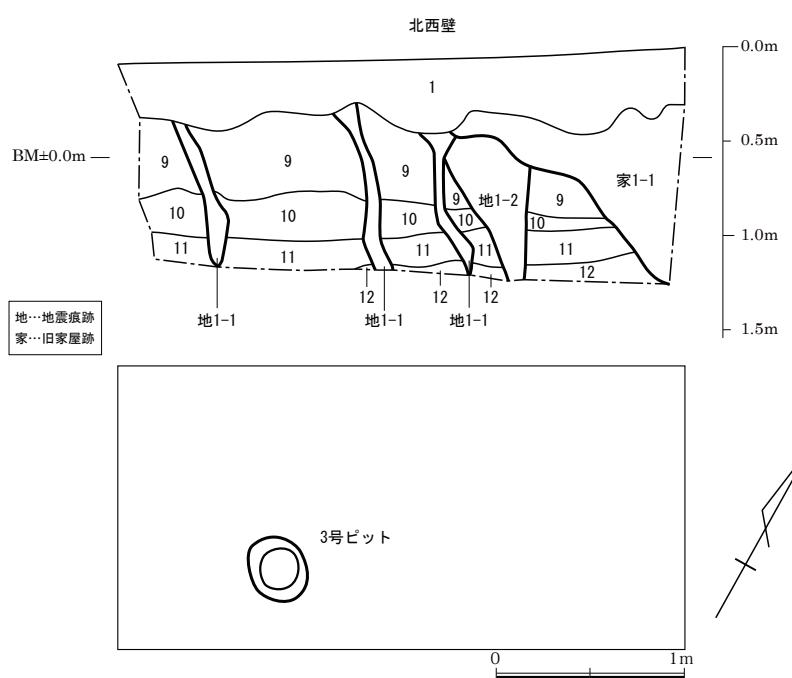
〈地震痕跡〉

1層：にぶい灰褐色土。白色粒多い。

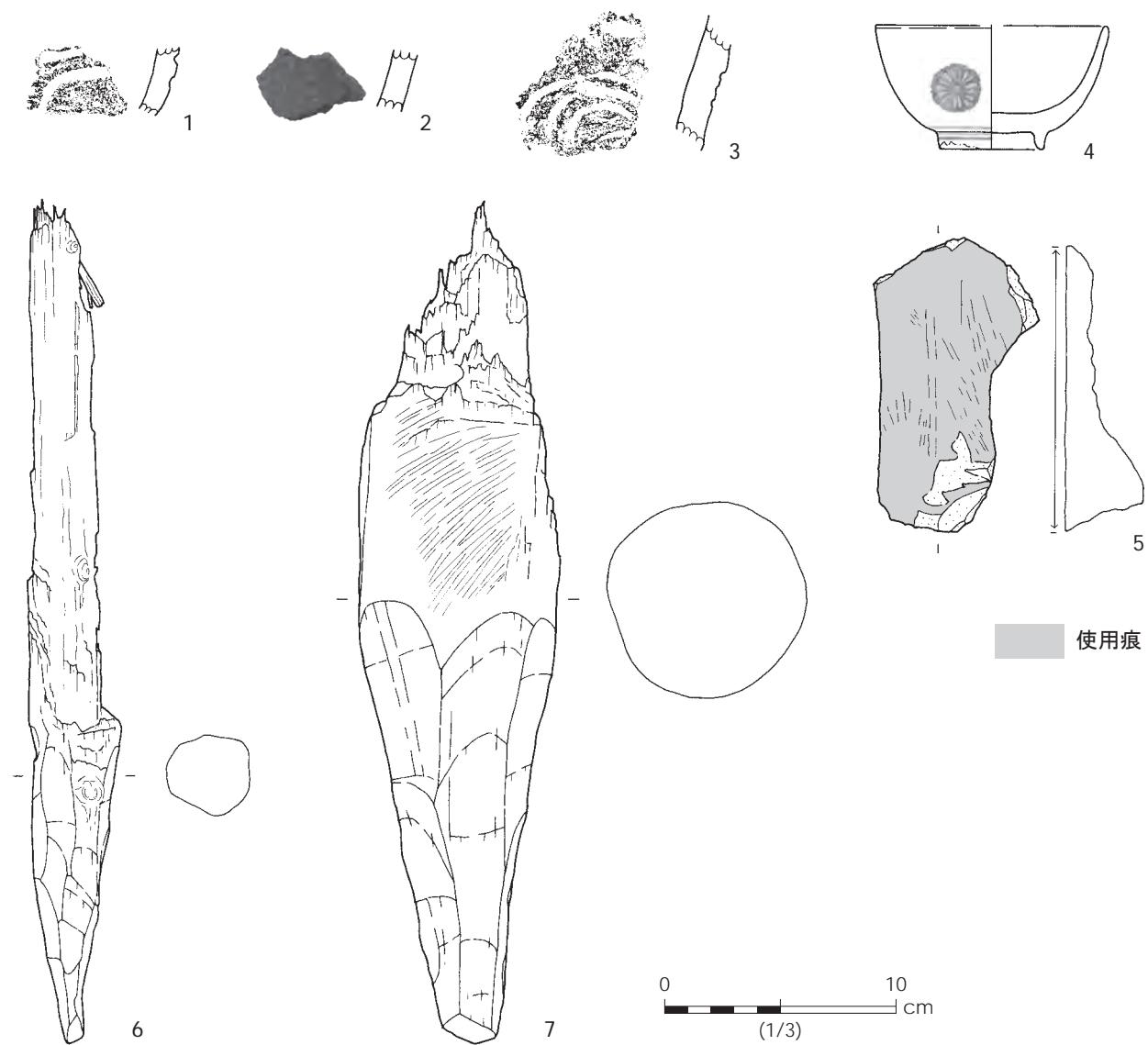
2層：暗褐色土。基本土層の9層が割れ目に



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第7図 実測遺物 (1/3)

入ったもの。下に行くほど角度がつく。
酸化粒多い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：ピット、杭列
出土遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶器、
磁器、木杭、石製品

〈TP2〉

発見遺構：ピット、旧家屋跡、地割れ痕
出土遺物：土師器、磁器（近世）

(2) 調査所見

近世～縄文時代までの遺物が出土したが、その多くは基本土層の7層と旧家屋の1層とした近世～近代の埋土からの出土であった。住民の話では、関東大震災で被災した際に住宅を建て直しており、基本土層の7層と旧家屋の1層はいずれも建て直しに伴うものであると推測される。明確な遺構としては、TP1の近世杭列が挙げられる。現況の引き込み道路と並行して、大小さまざまな径の杭が打たれていた。杭自体が残存しているものは少ないが、痕跡として変色が確認された。

特筆すべきは地震痕跡であり、TP2では地割れによってローム層が壊されている様子を確認した。地割れの頻度が高く、平面的に高頻度（50～100cm置き）で分布していた。本地点の土壤は酸化粒や脱色した白色パミスなど湿地性の特徴を示しており、谷戸に位置していたことが地震痕跡の豊富な要因として挙げられる。

地形と久保山貝塚の広がりを捉えるべく長さを持った調査区を設定したところ、本調査地点は谷

戸に立地している様子が確認された。出土遺物は種類が豊富だが、いずれも現存する建物に伴う攪乱土からの出土であった。

第7図は実測遺物7点である。1～3は縄文土器の破片である。1は胴部の小片であり、残存高3.1cm、重さ14.3gである。胎土は密で白色粒を含み、焼成は良好である。2は胴部の小片であり、残存高4.2cm、重さ15.1gである。胎土はやや密で砂礫を含み、焼成は良好である。3は胴部の小片であり、残存高5.6cm、重さ46.6gである。胎土はやや粗く、焼成は良好である。4は磁器の碗であり、江戸時代末の所産である。5は砥石であり、4と出土したことから同時代の遺物であると考えられる。6、7は木杭である。6は残存高36.1cm、最大径8.5cmであり、先端部が加工されている。7は残存高36.3cm、径3.58cmであり、こちらも先端部が加工されている。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1層	土師器 蜂	7	29.6
		須恵器 蜂	1	8.3
		陶器	1	67.0
		鉄滓	1	16.5
	5層	縄文土器	1	6.2
		土師器 蜂	1	4.5
		陶器	3	21.3
		磁器	2	13.0
	7層	縄文土器	3	76.1
	8層	土師器 坏	1	4.4
	9層上面	種子	3	3.6
	P-1	磁器 碗	4	78.4
		礫	1	345.1
	S-1	砥石	1	232.9
	W-1	木杭	1	334.5
	W-2	木杭	1	74.9
TP2	一括	土師器 蜂	1	23.1
		磁器	1	4.0
合計			34	1,343.4



写真1 調査地点近景（北東から）

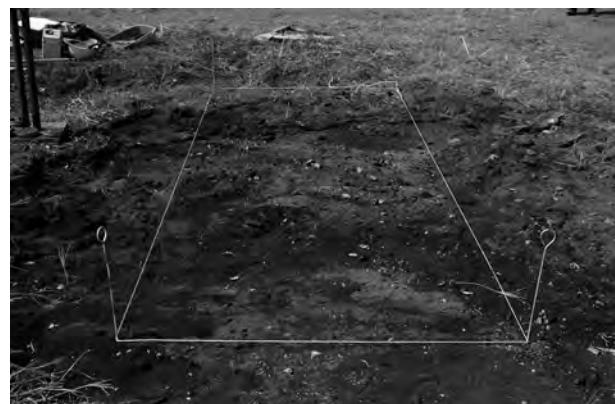


写真2 TP1 設定状況（南西から）



写真3 TP1 近代遺構検出状況（北東から）



写真4 TP1 近代遺構完掘状況（北東から）



写真5 TP1 P-1 出土状況



写真6 TP1 完掘状況（北東から）



写真7 TP1 南東壁土層堆積状況



写真8 TP2 設定状況（北東から）



写真9 TP2 近代遺構検出状況（北東から）



写真10 TP2 3号ピット完掘状況（北西から）



写真 11 TP2 完掘状況 (北西から)



写真 12 TP2 北西壁西側土層堆積状況



写真 13 TP2 北西壁東側土層堆積状況



写真 14 出土遺物



写真 15 実測遺物 1～3



写真 16 実測遺物 4



写真 17 実測遺物 5



写真 18 実測遺物 6・7

5-3-2 茅ヶ崎市菱沼二丁目 382-2、383-2 の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年8月17日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 已待田A遺跡 (No.74)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立小和田小学校から南西側約460mの場所に位置している。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約12.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建築範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

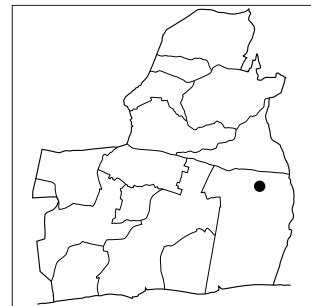
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。ローム土、碎石、コンクリートガラを多量に含む。造成に伴う盛土。

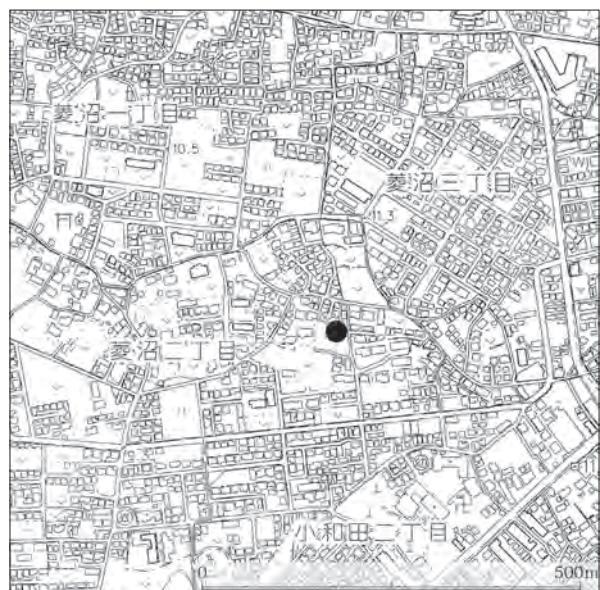
2層：黒褐色土。しまりあり。粘性なし。白色、橙色のスコリアを極少量含む。砂質味強い。ビニールゴミを含む。近現代の耕作土。隣接する畠の土と同じ。

3層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。堆積やや細かい。全体に宝永パミス、スコリアを含む。炭化物・土師器を含む。近世の耕作土。

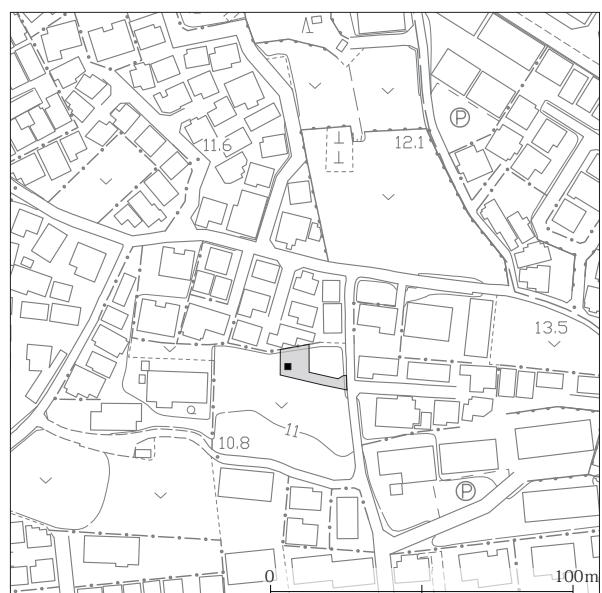
4層：明褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。土粒細かい。堆積密。宝永パミス、スコ



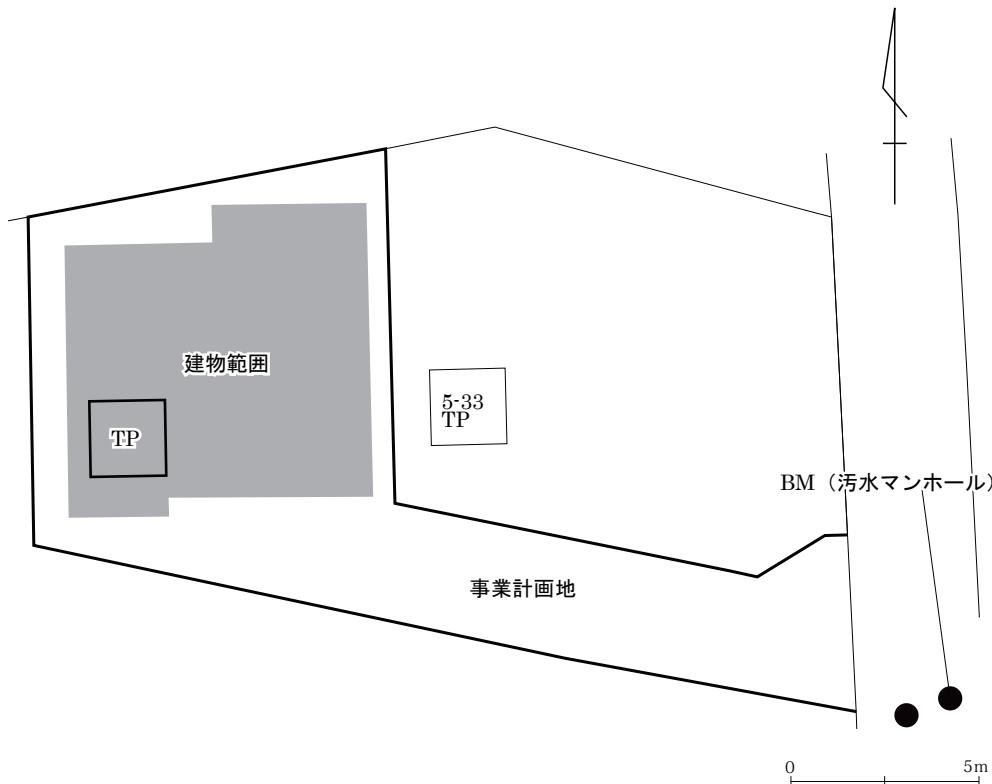
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

リアを含まない。古代～中世遺物包含層。5層の砂（地山砂）を多く含む。

5層：褐色砂。しまり強い。堆積密。無遺物で地山層。砂丘本来の砂。海成砂やや含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、灰釉陶器、かわらけ、陶器、礫

(2) 調査所見

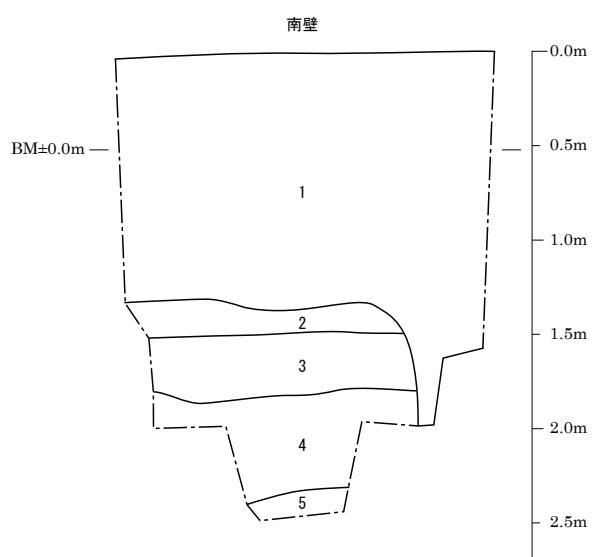
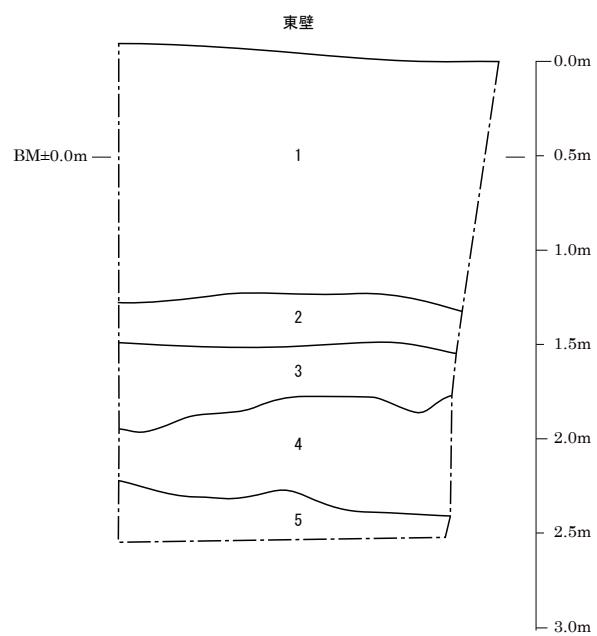
地表下130cm付近まで宅地造成工事に伴う盛土であり、その直下には現在の畑と近似した土が30cm余り堆積していた。3層も同様に畑の耕作土であり近世の遺物が多く、全体に宝永パミス、スコリアを含むことから近世前期以後の畑と推測される。4層になると土粒の細かい砂質の堆積土であり、攪拌を受けた痕跡は確認されなかった。隣接する試掘・確認調査地点（本書報告5-33）の土層堆積状況から、中世を軸にした年代観の堆積層であるといえる。4層直下は無遺物層の地山

である砂層であり、砂丘本来の堆積層である。

調査の結果、宅地造成工事に伴う盛土の下には近現代と近世の耕作土が堆積していた。耕作土直下は古代～中世の遺物包含層と自然堆積層であり、遺構は確認されなかったものの、遺物の出土があった。以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	1～2層	土師器 蜂	1	6.1
		土師器	17	16.4
	3層以下	土師器 坏	6	27.7
		土師器 蜂	10	35.8
	—	灰釉陶器 碗	1	1.0
		かわらけ	1	6.3
	—	陶器	1	14.3
		礫	1	89.1
		炭化物	1	6.1
合計			39	202.8



第5図 土層断面図 (1/40)



5-3-3 茅ヶ崎市菱沼二丁目 382-3、383-2

1 調査年月日 令和5(2023)年8月18日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 已待田A遺跡 (No.74)

(2) 種別 集落址

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立小和田小学校から南西側約460mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約12.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

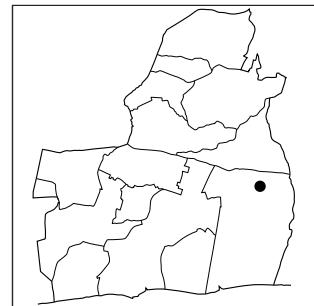
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。ローム土、碎石、コンクリートガラを多量に含む。造成に伴う盛土。

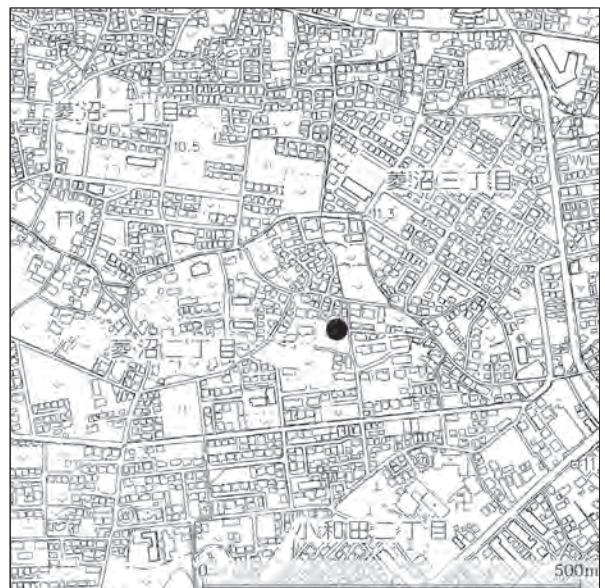
2層：黒褐色土。しまりあり。粘性なし。白色橙色のスコリアを極少量含む。砂質味強い。近代磁器を含む。ナイロン紐を含む。近現代の耕作土。隣接する畠の土と同じ。

3層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。堆積やや細かい。全体に宝永パミス、スコリアを含む。炭化物、陶器、土製品、土師器含む。近世の耕作土。

4層：明褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。土粒細かい。堆積密。宝永パミス、スコ



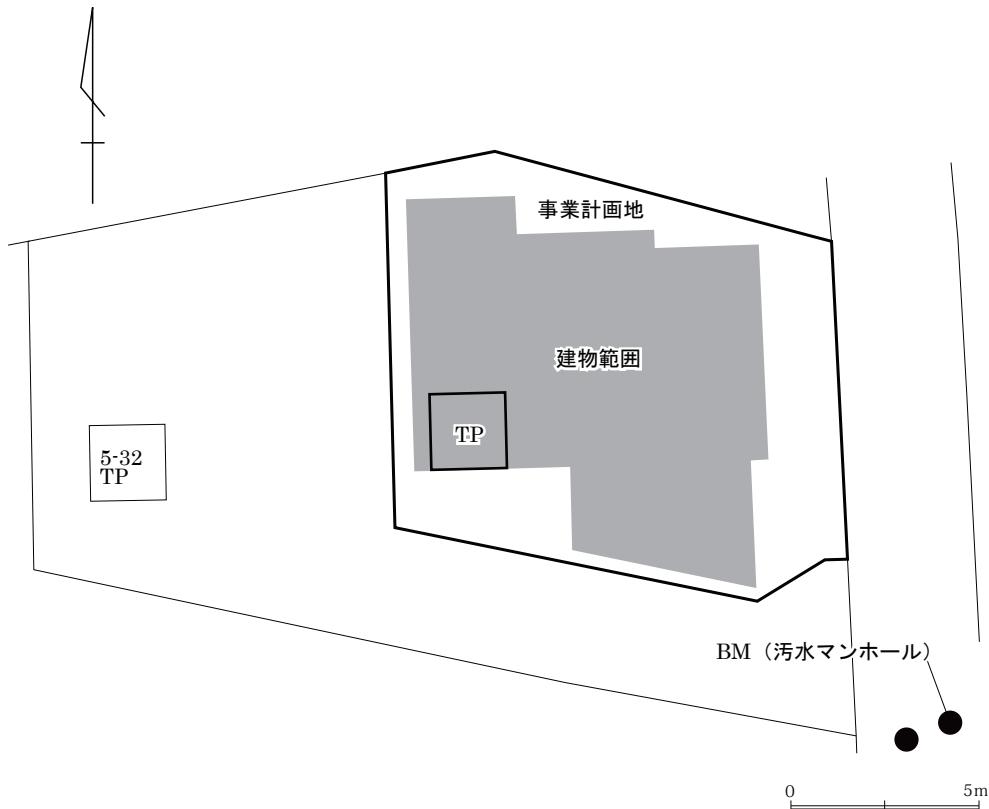
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

リアを含まない。5層を多く含む。かわらけを含む。古代～中世遺物包含層。

5層：褐色砂。しまり強い。堆積密。無遺物層の地山。砂丘本来の砂。海成砂やや含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、かわらけ、磁器、土製品、鉄製品

(2) 調査所見

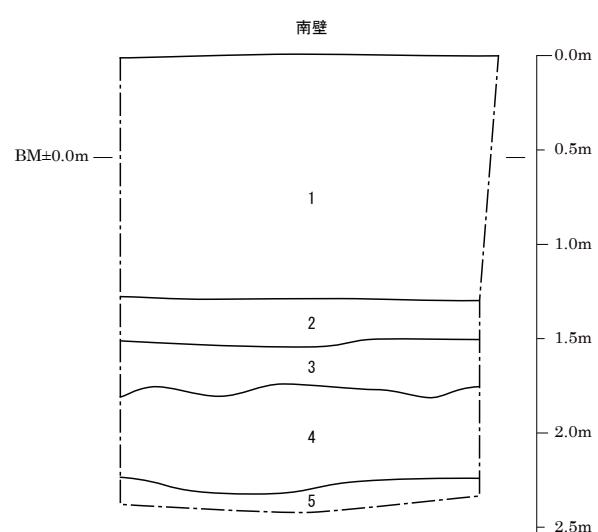
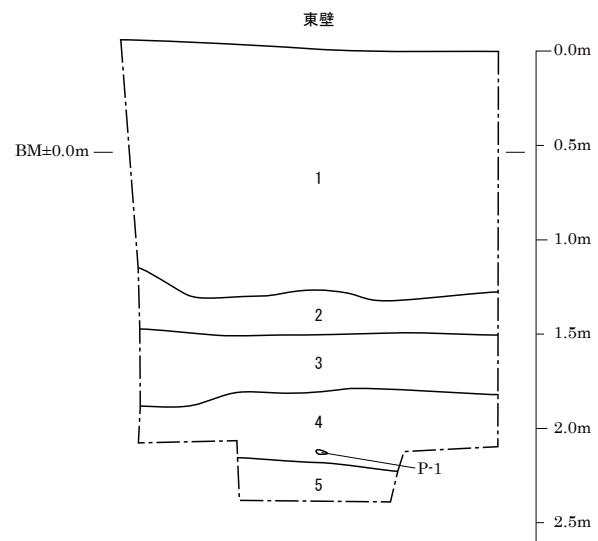
地表下130cm付近まで宅地造成工事に伴う盛土であり、その直下には現在の畑と近似した土が30cmほど堆積していた。3層も同様に畑の耕作土であり近世の遺物が多く、全体に宝永パミス、スコリアを含むことから、近世前期以後の畑と推測される。4層になると土粒の細かい砂質の堆積土であり、攪拌を受けた痕跡は確認されなかった。堆積層下部にかわらけを含むことから、中世を軸にした年代観といえる。4層直下は無遺物の地山

であり、砂丘本来の堆積層である。

調査の結果、盛土の下には近現代と近世の耕作土が堆積していた。耕作土直下は古代～中世の遺物包含層と自然堆積層であり、遺構は確認されなかったものの、遺物の出土があった。当該地においては埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	1層	磁器	4	28.6
	3層	鉄製品 釘	1	9.1
	4層	土師器	20	22.0
		土師器 壊	10	38.9
		土師器 貝	19	59.5
		須恵器 壊	1	3.0
		かわらけ	7	19.6
		礫	3	38.4
		骨片	-	0.9
	4層 P-1	かわらけ	1	5.1
合計			66	225.1



第5図 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（西から）

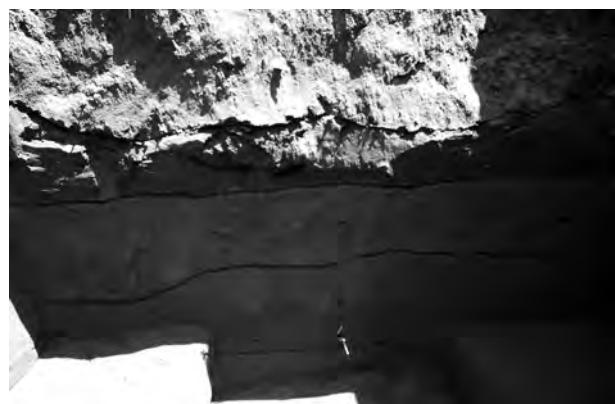


写真4 東壁下部土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-34 茅ヶ崎市菱沼一丁目686番15

- 1 調査年月日 令和5(2023)年8月21日(月)
- 2 調査目的 個人住宅新築工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 4.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 後田A遺跡(No.70)
 - (2) 種別 集落跡、遺物散布地
 - (3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立松林小学校から北東側約230mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約13.4mを測る。

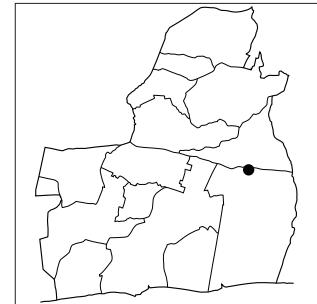
7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

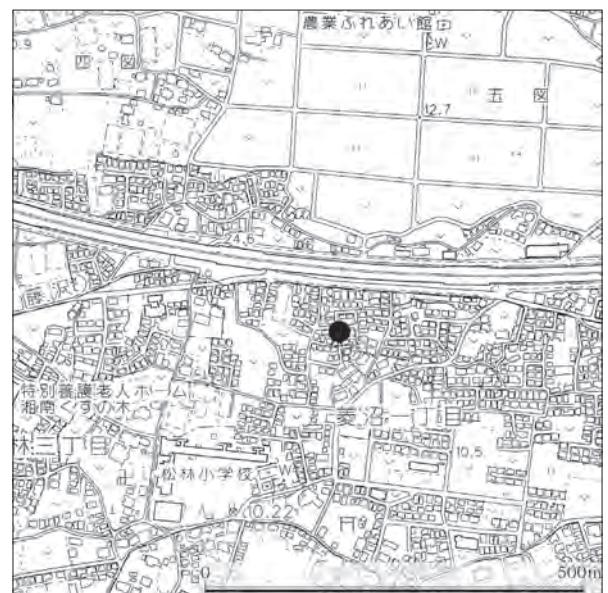
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

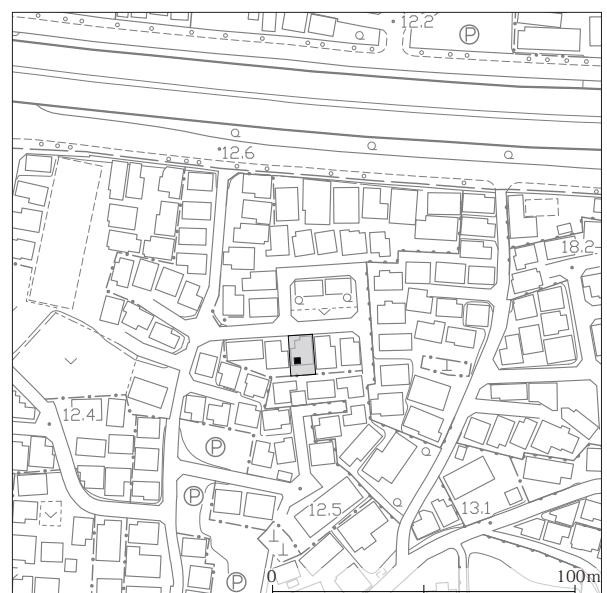
- 1層：暗黄褐色土。しまり弱い。堆積粗い。碎石30%含む。ローム主体の表土。
- 2層：黄褐色粘質土。しまり強い。粘性強い。ガラ、コンクリートブロックを少量含む。ローム主体の盛土。
- 3層：灰黄褐色土。硬化し、強くしまる。酸化する。改良剤(ソイルセメント)。
- 4層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性あり。腐植物を多量に含む。橙色スコリアを少量含む。黄褐色砂を斑に含む。斑の混ざりは粗く、マーブル状。埋土。



第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)

- 5層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性あり。
砂質味強い。腐植物含む。橙色スコリア
極少量含み、白色スコリア少量含む。
- 6層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。
堆積粗い。砂とロームブロック、壊され
た道状遺構の1層のブロックを含む。
- 7層：褐灰色砂。微砂粒を少量含む。

(2) 遺構覆土

〈1号道状遺構〉

- 1層：灰褐色砂質土。硬化面。非常に硬く、ブ
ロック状に剥離する。宝永パミス、スコ
リアを多く含む。基本土層の7層の砂
を斑状に含む。
- 2層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。
宝永パミス、スコリアを含む。砂質味強
い。堆積やや密。
- 3層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。
宝永パミス、スコリアを含む。砂質味極
めて強い。堆積密。やや酸化し、硬化する。
- 4層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性なし。
宝永パミス、スコリアを少量含む。強く
酸化する。
- 5層：灰褐色砂質土。硬化面。しまり強い。粘
性なし。宝永パミス、スコリアを少量含
む。酸化強く、硬化している。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：道状遺構

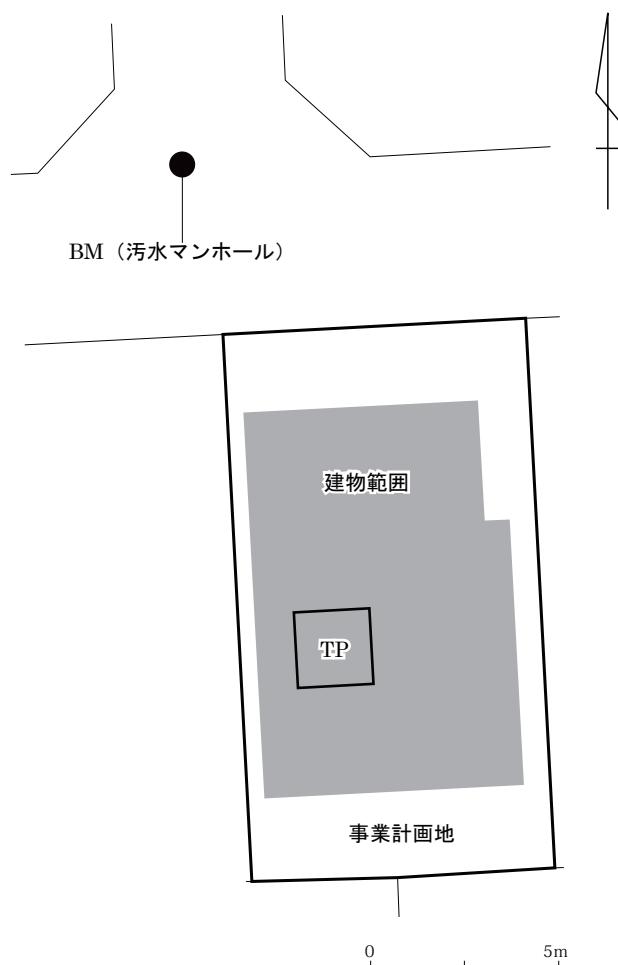
出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下230cm付近まではコンク
リートブロックやソイルセメントを含む近現代の
埋土であったが、直下で近世後半以降の道状遺構
を確認した。道状遺構の覆土はいずれも宝永パミ
ス、スコリアを含み、1層と5層は強く硬化して
いた。基本土層の7層を掘り込み構築されており、
延長軸は概ね南北方向であった。1号道状遺構の
1層と5層は道状遺構の硬化面であると考えられ
る。基本土層の6層中に硬化ブロックが混ざっ
ていたが、これら1号道状遺構の硬化面である1
層の壊れたものが混入した結果と推測される。道
状遺構の直下は7層の砂であり、微砂粒を含む

土粒の均一な層であった。

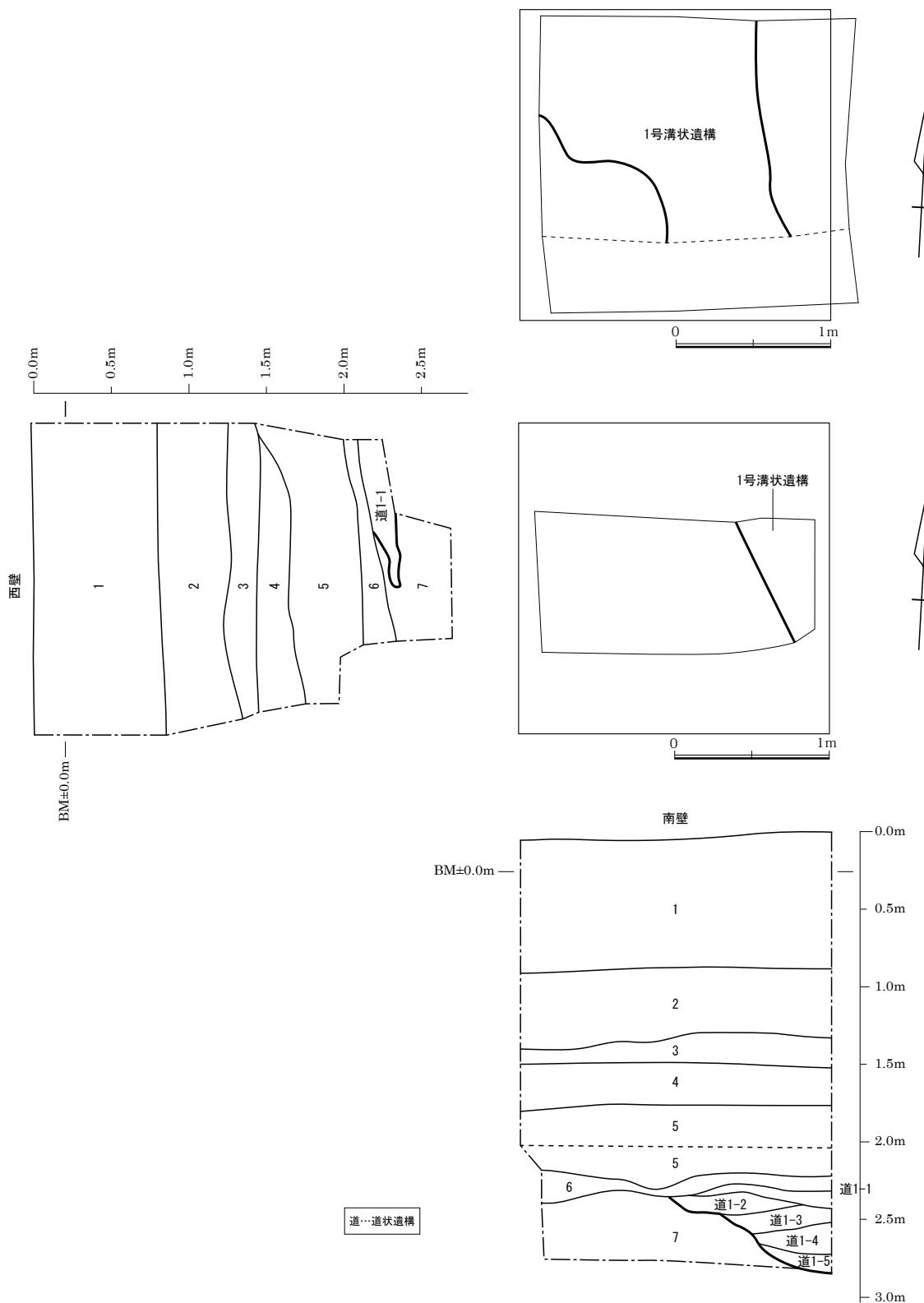
調査の結果、地表下約230cm付近まではコン
クリートガラやソイルセメントを含む近現代の埋
土であったが、その直下には近世後半以降の道状
遺構が確認された。道状遺構直下には砂層の堆積
がみられた。以上、当該地において埋蔵文化財が
確認された。



第4図 調査区配置図 (1/200)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	道状遺構	土師器 壊	1	0.5
合計			1	0.5



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（北から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 遺構検出状況（東から）



写真4 完掘状況（東から）

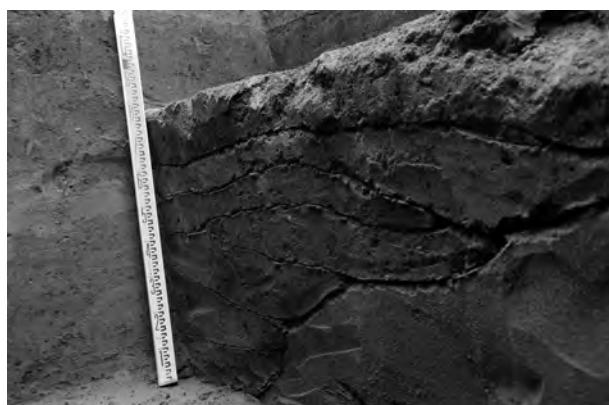


写真5 1号道状遺構土層堆積状況



写真6 出土遺物

5-35 茅ヶ崎市矢畠 73番1

- 1 調査年月日 令和5(2023)8月22日(火)
- 2 調査目的 個人住宅新築工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 8.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 金山遺跡(No.182)
 - (2) 種別 集落跡、館跡
 - (3) 時代 弥生時代(終末)、古墳時代(前期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺中学校から東側約560mの場所に位置する。調査以前は宅地造成後の更地であり、調査地点の標高は約5.1mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

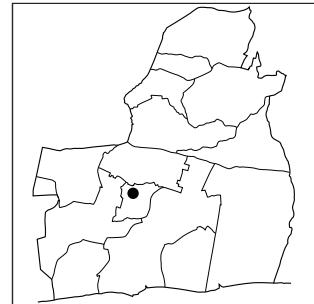
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

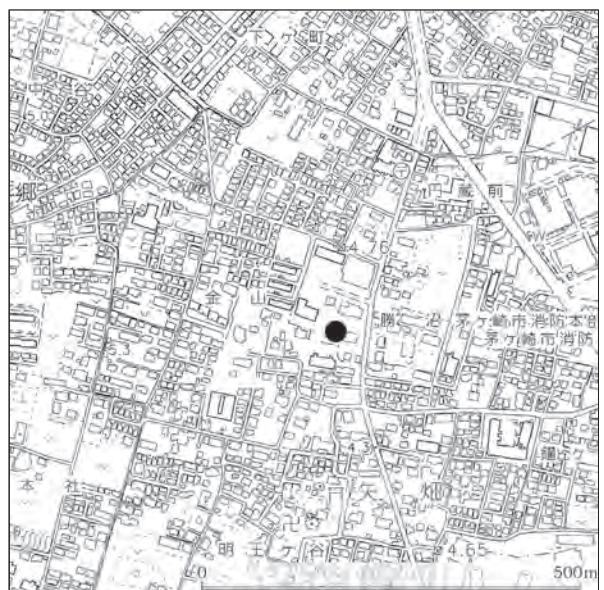
- 1層：暗黄褐色土。しまりなし。ガラ、ビニールゴミを多く含む。造成工事に伴う盛土。
- 2層：黄褐色土。ゴミは極めて少ないが、木や草が混じる。造成工事に伴う盛土。
- 3層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。橙色スコリア多く含む。土粒均一。土師器片を含む。古代の遺物包含層。

9 調査結果

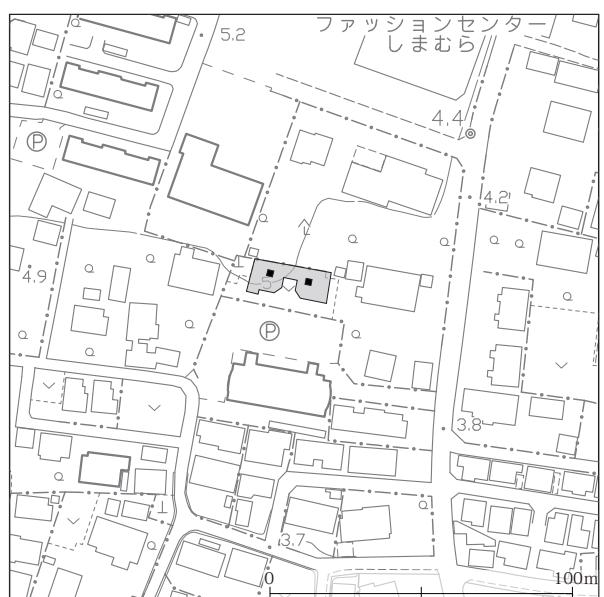
(1) 発見された遺構・遺物



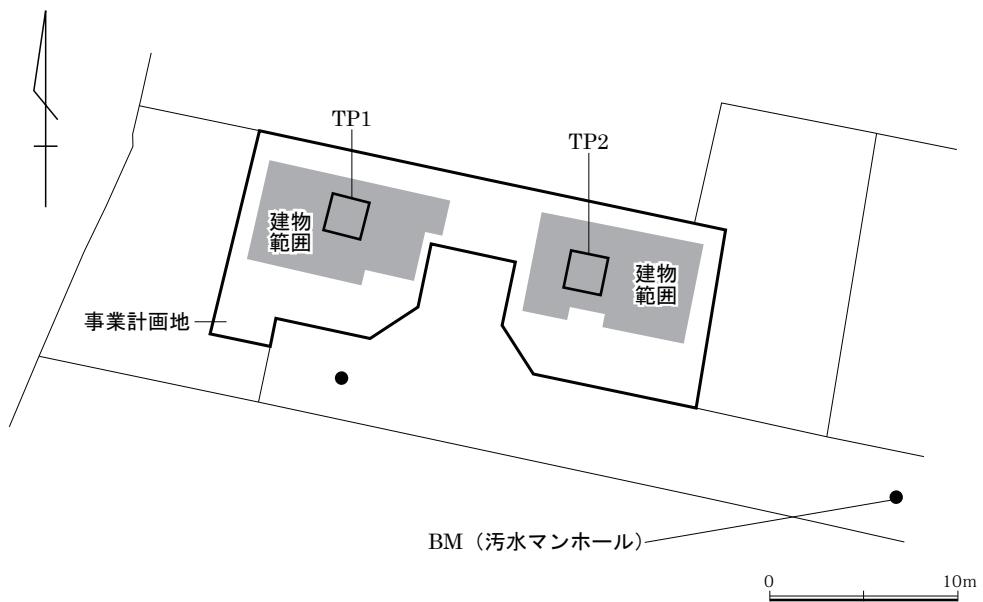
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



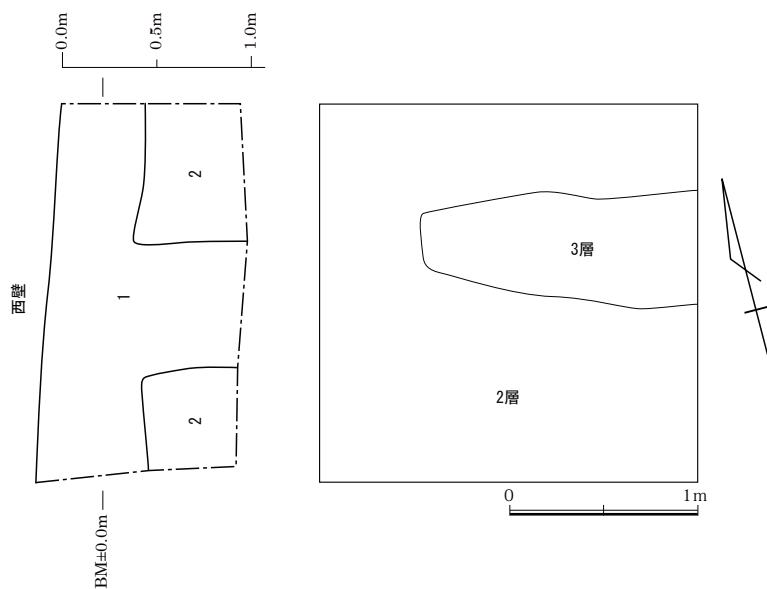
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

〈TP1〉

発見遺構: なし

出土遺物: 土師器、瓦器

〈TP2〉

発見遺構: なし

出土遺物: 土師器、磁器

(2) 調査所見

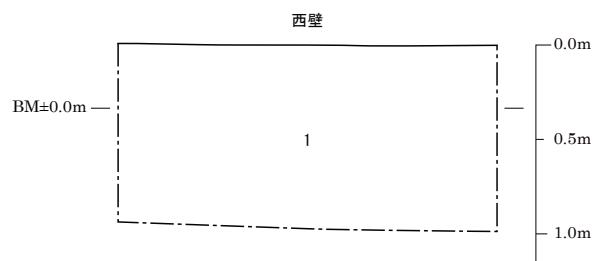
本地点は、令和4年度に金山遺跡第27次調査を実施した新設道路に隣接した宅地である。

地表下100cmまでは全て造成工事に伴う盛土であり、ビニールゴミやコンクリートガラが混入していた。

TP1では盛土直下に本来の堆積層である3層が確認できたが、遺構は確認されなかった。

TP2は全面が盛土の中であった。2層から近世磁器が、3層から土師器が出土した。

調査の結果、全体的に宅地造成工事の影響を確認したが、TP1では部分的に古代の遺物包含層が残存している様子が確認できた。以上、当該地において、埋蔵文化財を確認した。



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP1	一括	土師器	3	3.3
		土師器 壊	2	5.6
		瓦器	1	1.4
TP2	一括	土師器	2	2.5
		土師器 壊	1	1.7
		土師器 襲	1	1.6
		磁器	1	17.5
合計			11	33.6



5-36 茅ヶ崎市円蔵370番地

1 調査年月日 令和5(2023)年8月25日(金)

2 調査目的 工場新設工事

3 調査担当 加藤大二郎

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 小井戸遺跡(No.185)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 小出川東側沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、株式会社東海カーボン茅ヶ崎工場の敷地内に位置する。調査地点の標高は約5.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の雨水貯留施設範囲に4.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地の南側通路に所在する測量鉛を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：黄褐色土。しまり弱い。粘性あり。ローム土主体。コンクリート、碎石混じる。

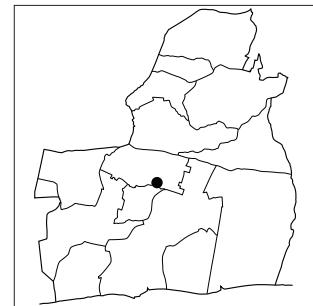
2層：黄褐色土。しまりなく堆積粗い。レンガを多量含む。ガラス、碎石、金属ゴミを含む。石炭の粒を含む。埋土。

3層：暗褐色土。重油を多く含み、粘性強くムース状に発砲する。2層を部分的に含む。宝永スコリア、パミスを含む近世層。

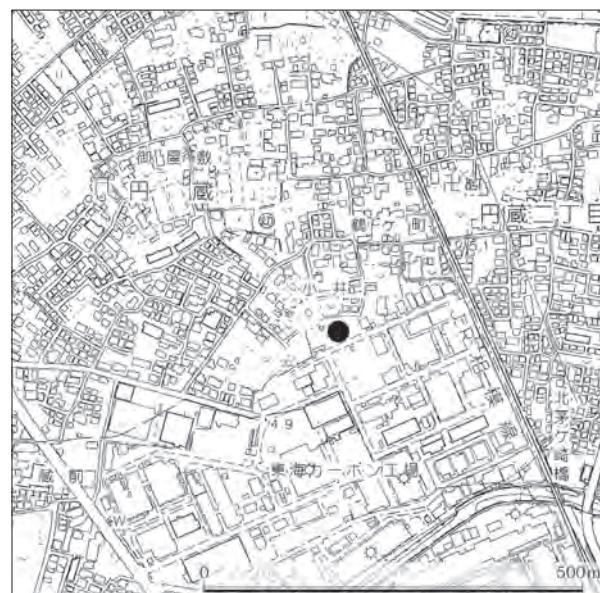
4層：暗褐色土。重油を多く含み、しまり粘性強い。橙色スコリア含む古代層。

5層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。重油を少量含む。自然堆積の無遺物層であると考えられる。部分的に酸化し変色する。

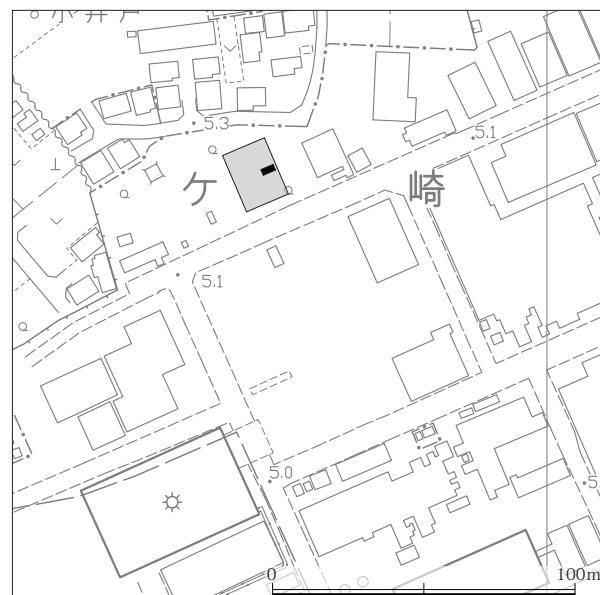
6層：暗褐色砂。しまりなし。河床的な土砂を



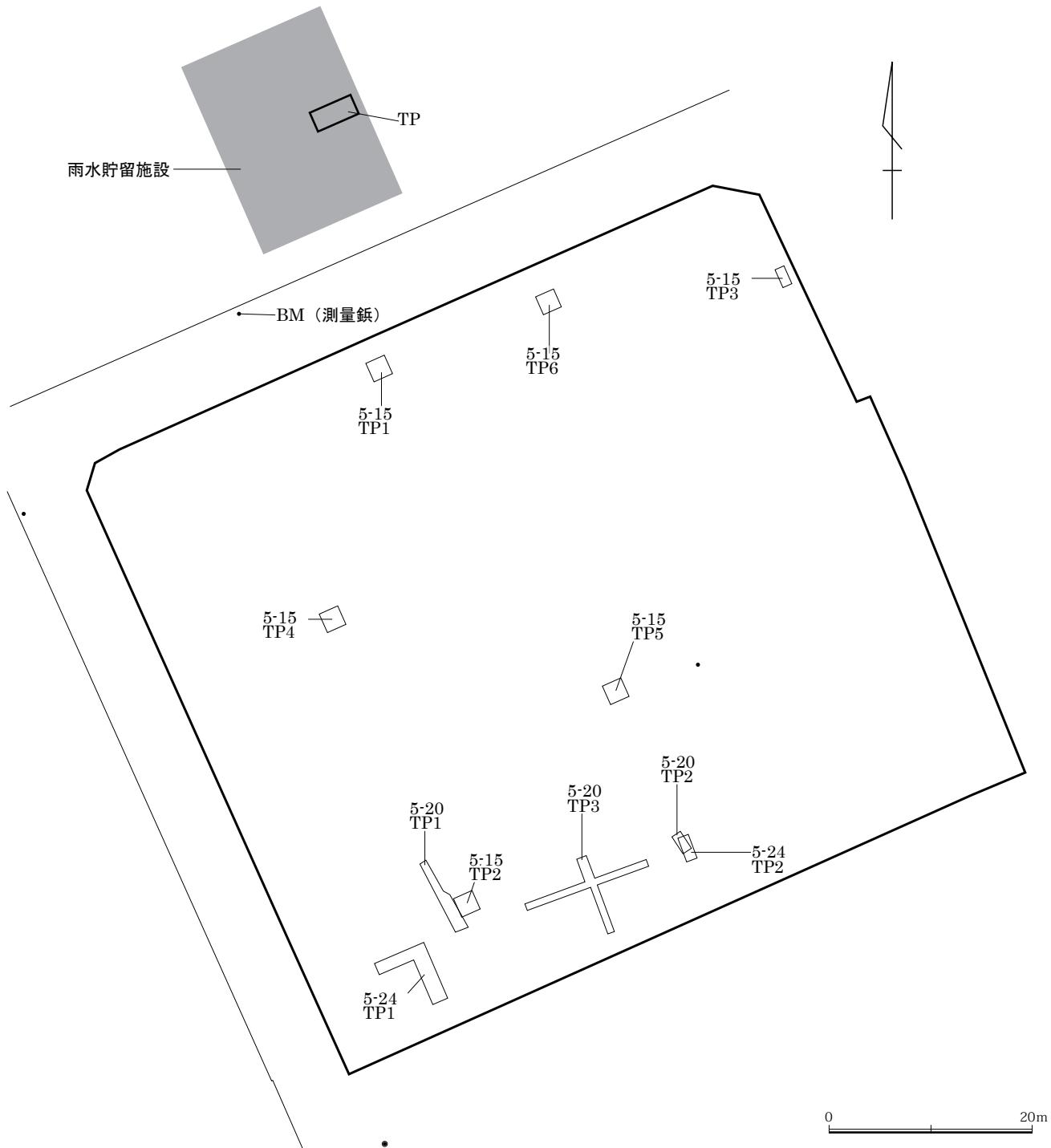
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



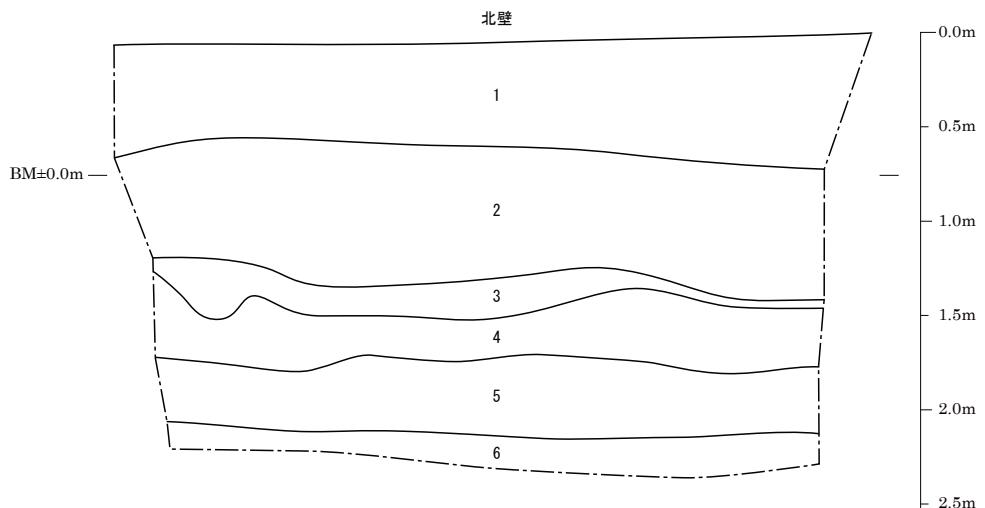
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)



第5図 土層断面図 (1/40)

含む。 ϕ 5～20mmの礫を含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約150cmまではコンクリートガラや石炭を多量に含む昭和時代の工場にともなう埋土であった。自然堆積の無遺物層である6層には小礫や山砂が豊富に見られることから、旧河道の川床であると推測される。なお、本調査地点は昭和時代のアチソン炉に伴う重油貯蔵施設と石炭貯蔵施設が存在した地点であり、中でも重油が漏れ浸みたことによる土中の変色が著しいものであった。

地表下約150cm以下では古代～近世の堆積層が残存していることが確認されたが、旧河道に伴う自然砂礫の多い堆積層であり、当該地においては遺構、遺物は確認されなかった。



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 完掘状況（西から）



写真3 東壁土層堆積状況

5-37 茅ヶ崎市本村四丁目 14番

- 1 調査年月日 令和5(2023)年8月31日(木)
- 2 調査目的 フェンス新設工事
- 3 調査担当 三戸智也
- 4 調査面積 4.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 居村B遺跡(No.202)
 - (2) 種別 生産痕、遺物散布地
 - (3) 時代 繩文時代(晚期)、古墳時代(末)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂丘間凹地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、JR相模線北茅ヶ崎駅から南東側約550mの場所に位置する。当該地は青少年広場として利用されており、調査地点の標高は約5.9mを測る。

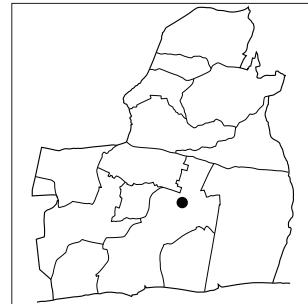
7 調査の方法

事業計画地のフェンス設置範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業計画地東側に所在する旧3級基準点No.099を仮原点として測量した。

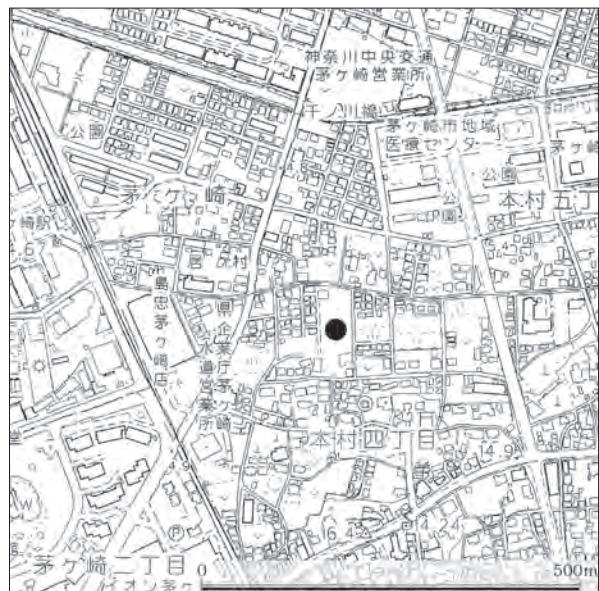
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

- 1層：暗褐色土。しまり弱い。粘性ややあり。碎石を少量含む。
- 2層：しまり強い。粘性あり。ロームブロック(土丹)を多く含む。下部は青灰色に変色する。
- 3層：青灰色砂質土。しまりあり。粘性少ない。白(黄?)色スコリア含む。砂質強い。縄文晚期。
- 4層：青灰色砂。しまりあり。粘性少ない。スコリア減る。砂主体。地山か。



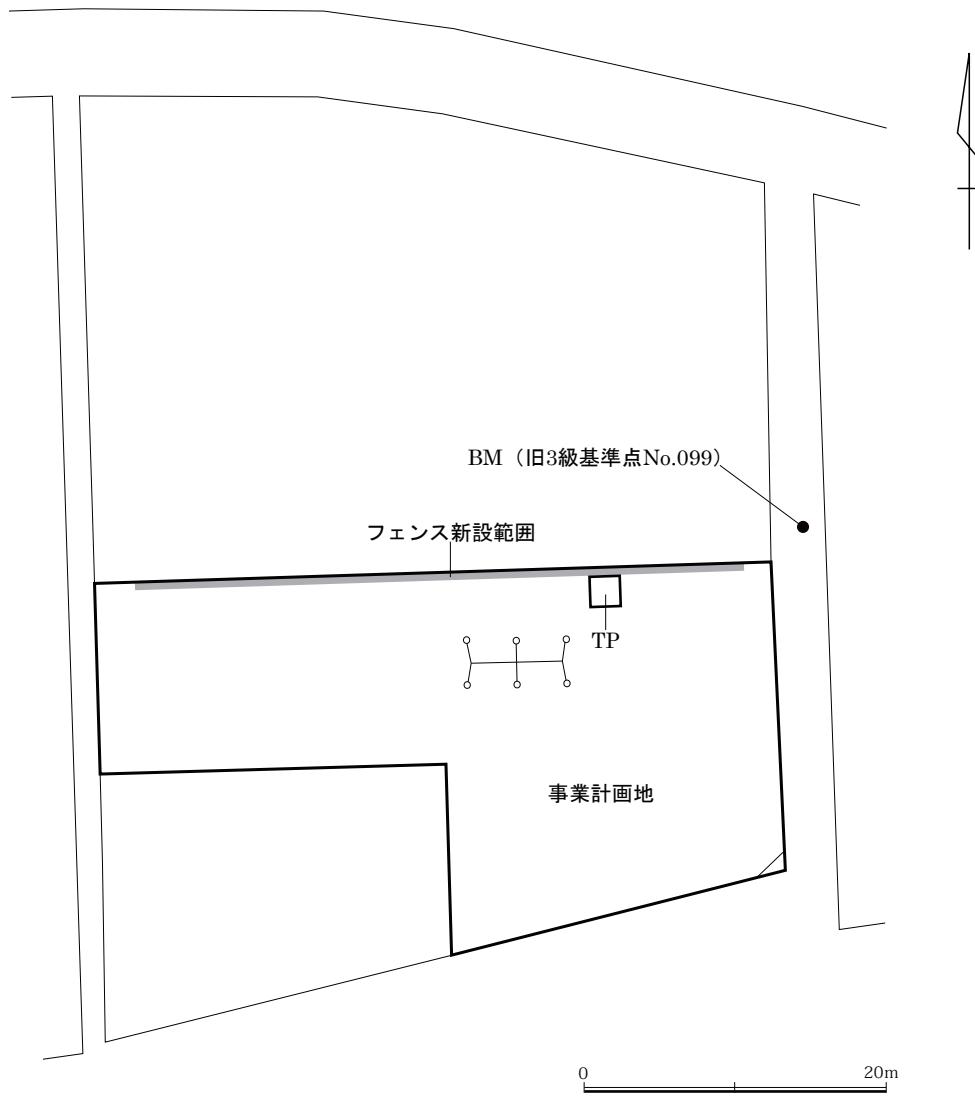
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



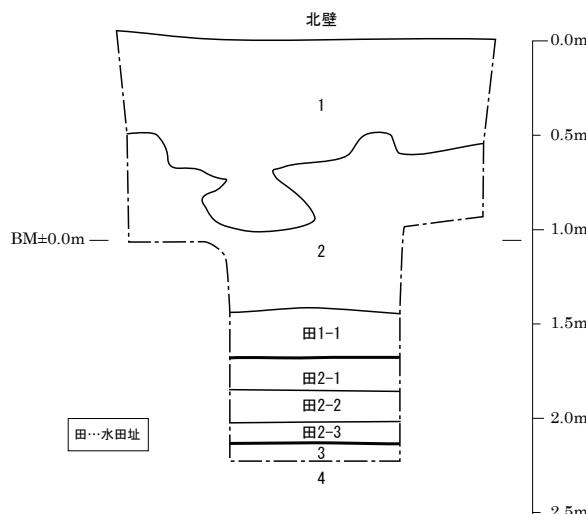
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)



第5図 土層断面図（1/40）

（2）遺構覆土

〈1号水田址〉

1層：青灰色土。しまりややあり。粘性あり。宝永パミス ϕ 5mm を少量含む。サブトレ底面で水が染み出す。

〈2号水田址〉

1層：青灰色土。しまり弱い。粘性強い。黄褐色砂をブロック状に含む。畦か。
2層：青灰色土。しまり弱い。粘性強い同遺構の1層に似るが、砂含まない。水田耕土か。
3層：青灰色土。しまりあり。粘性強い。白色、黄色パミスを多く含む。

9 調査結果

（1）発見された遺構・遺物

発見遺構：水田址か

出土遺物：なし

（2）調査所見

調査の結果、遺物は確認できなかったが、水田の可能性がある堆積土が確認された。

堆積土は地表下 140cm までは客土（基本土層の1、2層）で、その下から本来の堆積が確認された。上から順に堆積土の特質を述べる。本来の堆積土は1号水田址の1層まで宝永火山灰を含み、それ以下では含まない。2号水田址の1層は地表下 167cm で確認でき、粘質土でありながら

砂のブロックが混じることが特徴である。2号水田址の2層は地表下 185cm で確認でき、同遺構の1層に類似するが砂を含まず、同遺構の3層はパミス（脱色したスコリアか）が多く混じる。基本土層の3層は地表下 201cm で確認でき、スコリア混じりの砂質土に変わる。基本土層の4層は地表下 221cm で確認でき、砂が主体になる。周辺の状況を踏まえると、1層は直近の盛土（青少年広場または駐車場のためか）であり、2層は水田を埋め立てたものと考えられる。また、1号水田址は近世後半以降の水田土、2号水田址は中世以前の水田土、3層は縄文晩期の包含層、4層は縄文晩期の包含層または地山と考えられる。

2号水田址の2層については層中に砂ブロックを多く含んでいたが、平面的に明確な畦や溝状として捉えていない。しかし、居村B遺跡第4次調査や8次調査では溝脇の土手または畦に砂を混ぜ込んだ例があり、本地点も広い範囲で確認することでそのような遺構として捉えられる可能性が高い。また、本調査で捉えた土層堆積の様相は水田遺構を捉えた上述の調査と概ね同一であり、本地点まで水田が広がっている可能性を示すと考えられる。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 調査区設定状況（南から）



写真3 完掘状況（南から）



写真4 北壁土層堆積状況



写真5 調査作業風景（南東から）

5-38 茅ヶ崎市赤羽根 2192-1 外

1 調査年月日 令和5(2023)年9月1日(金)

2 調査目的 排水路新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 八図C遺跡 (No.205)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 古墳時代

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北東部、茅ヶ崎市立赤羽根中学校から南西側約560mの場所に位置する。調査地点の現況は林野であり、調査地点の標高は約19.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の集水枠設置場所に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する消火栓蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

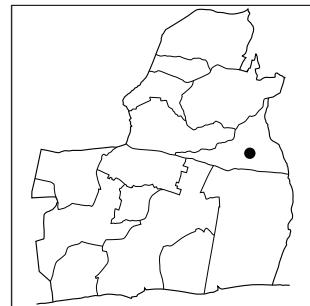
1層：暗褐色土。堆積粗い。プラスチックを多く含む。樹木根多い。表土。

2層：暗褐色土。しまりなし。堆積粗い。宝永パミス、スコリアを全体に含む。礫含む。近世層。

3層：暗褐色土。しまりなし。粘性強い。陶磁器、土製品、ガラス瓶を含む。近代(明治・大正期)の掘り込み。

4層：暗褐色土。しまりあり。粘性ややあり。基本土層の2層に似るが、宝永パミス、スコリア多くなる。

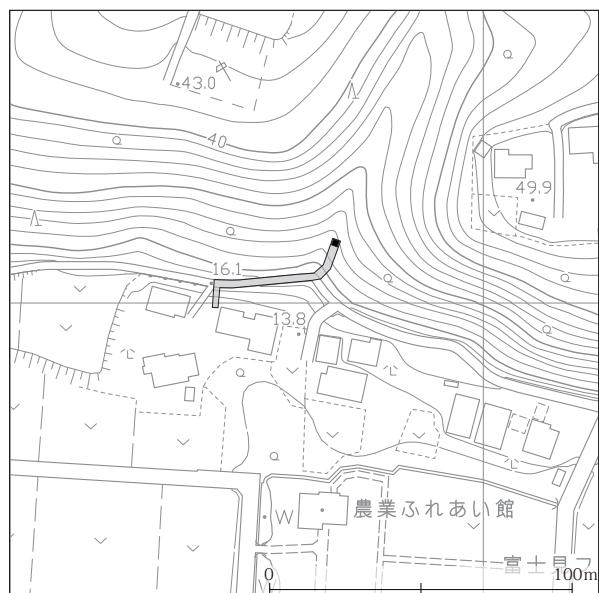
5層：暗褐色土。しまりあり。粘性やや強い。



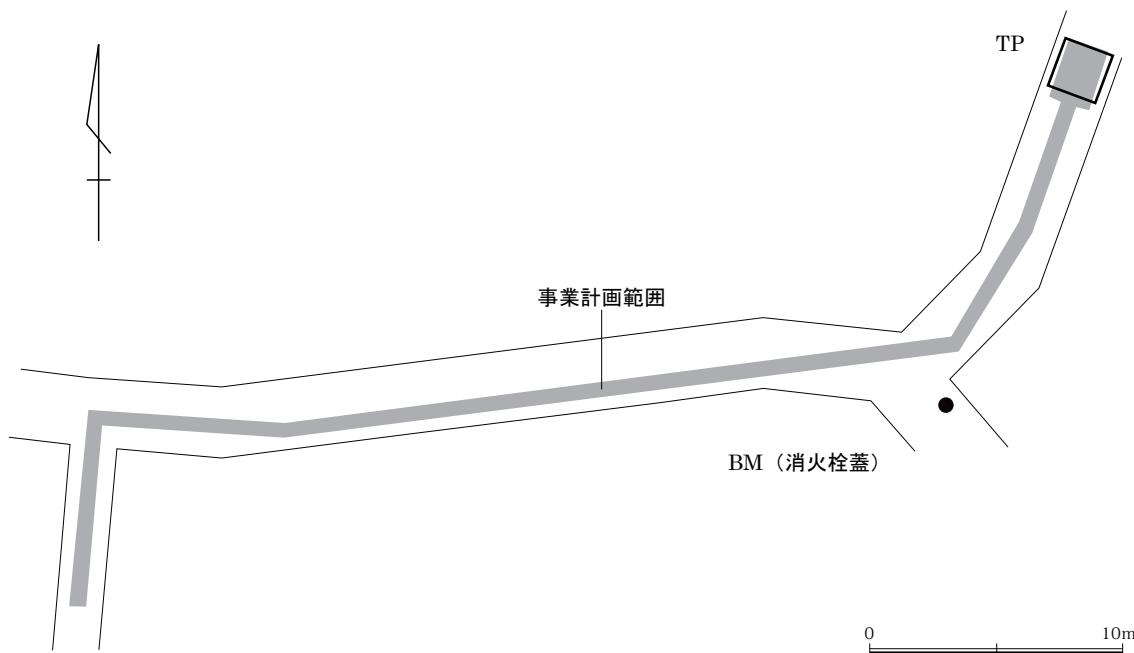
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

宝永パミス、スコリアを含まない。部分的に硬化ブロックがみられる。中世～近世層。

6層：ソフトローム。やや粒の粗いローム。自然堆積層。無遺物層。

7層：黒褐色土。しまり強い。粘性強い。白色スコリアを少量含む。

(2) 遺構覆土

〈1号道状遺構〉

1層：暗褐色土。かたくしまり、粘性強い。宝永パミス、スコリアを極少量含む。近世の道状遺構の硬化面か。

〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性弱い。ローム粒を含み、色調やや明るい。土粒均一。

2層：暗褐色土。しまり強い。粘性弱い。ローム粒を含まず、色調暗い。堆積密。

3層：暗褐色土。しまり強い。粘性なし。砂分やや強い。土粒均一。

4層：暗黄褐色粘質土。しまりなし。粘性なし。ロームを多く含む。土粒細かい。

〈2号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性弱い。土粒

細かい。ロームブロックを極少量含む。

2層：暗褐色土。ローム粒を少量含み、色調やや明るい。土粒細かく、堆積密。

3層：暗黄褐色粘質土。しまりあり。ローム粒を多く含む。色調明るい。壁面が崩れたものか。

4層：暗黄褐色土。同遺構3層のローム粒がやや少ないもの。

5層：暗褐色土。しまりあり。粘性強い。ローム粒を含まない。

6層：暗褐色土。同遺構5層の粘性が強いもの。

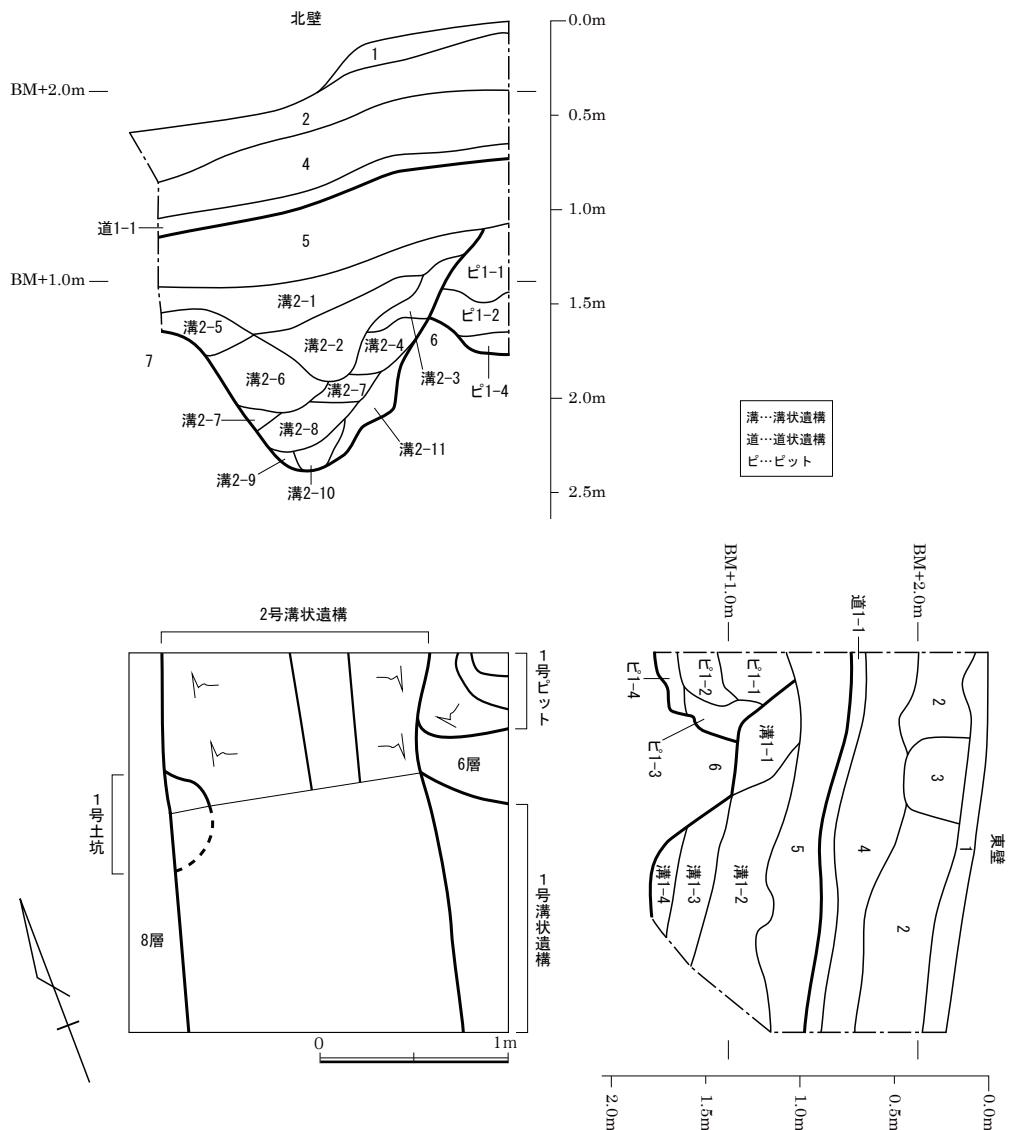
7層：暗黄褐色土。しまりあり。粘性あり。ローム粒多く、色調明るい。

8層：暗黄褐色土。しまりなし。粘性強い。ローム粒多く、色調明るい。ロームブロック含む。

9層：暗褐色土。しまりあり。ローム粒少なく、色調暗い。ロームブロック含む。

10層：暗褐色土。同遺構9層にローム粒を少し含むもの。

11層：暗黄褐色土。同遺構の3層と10層が混ざったもの。



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

〈1号ピット〉

- 1層：暗黄褐色土。しまりなし。粘性弱い。砂分強い。ローム粒を少量含む。
- 2層：暗黄褐色土。しまりなし。粘性弱い。砂分強い。ローム粒を少量含む。
- 3層：暗黄褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。堆積細かい。ローム粒をわずかに含む。
- 4層：暗黄褐色粘質土。しまり強い。粘性強い。堆積細かい。ローム粒主体。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：道状遺構、溝状遺構、土坑、ピット
出土遺物：土師器、陶器、磁器、土製品、ガラス製品

(2) 調査所見

本遺跡は縄文海進時の最奥部にあたり、海食による崖が発達し、一連の横穴墓群が連なる地帯に位置する。本遺跡では横穴墓の確認はされていないが、がけ崩れに伴いまとまつた須恵器が出土したという伝承が残されている。

調査の結果、地表下20cm程まで表土であり、それ以下では堆積層が良好に残存していた。山の斜面地に接していることから、堆積土は関東ロームの細かい粒を含むしまりの弱い土であり、西に向かい下降傾斜しながら堆積していた。地表下40~70cmには宝永パミス、スコリアを含む近世の堆積である4層が堆積しており、古代の土師器片1片が出土している。4層と宝永パミス、スコリアを含まない中世~近世の堆積である6層の間には幅5cm程の硬化面が確認されており、宝永パミス、スコリアを極少量含むことから近世初頭前後の道状遺構であると推測される。なお、6層でも部分的な硬化ブロックを確認したが、面的な広がりを追えるほど密集して検出はできなかった。これは道状遺構が地形の傾斜に伴い崩落したためと考えられる。迅速測図を参照すると、当該地に村と村をつなぐ赤道の存在が確認できる。

6層直下には1、2号溝状遺構が確認された。2号溝状遺構はV字に近い掘り込み形状を呈して

いる。これについては道普請などの目的で自然地形を人為的に埋めた可能性も指摘できる。また、壁際であったが土坑状の掘り込みも確認された。なお、1号ピットについては樹木根である可能性が高いと推測される。

試掘の結果、地表下50cm付近で近世の遺構及び遺物包含層が、それ以下で中世~近世の遺構が良好に残存していることが確認された。以上、当該地において、埋蔵文化財が確認された。なお、本地点については令和6年度に八図C遺跡第1次調査を実施している。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	表土	陶器	2	239.9
		磁器	7	63.8
		磁器 小皿	6	155.5
		ガラス瓶	5	148.7
		タイル	1	5.9
	近世層	土師器 甕	1	4.4
	1号ピット	不明	1	4.7
合計			23	622.9



写真1 調査地点近景(南西から)



写真2 調査区設定状況(南から)



写真3 完掘状況(南から)



写真4 出土遺物

5-39 茅ヶ崎市小和田二丁目385番6

1 調査年月日 令和5(2023)年9月7日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 宿遺跡(No.79)

(2) 種別 集落跡、貝塚

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘北斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、熊野神社の東側隣接する場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約11.2mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北西側に設置されている汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：黄褐色土。ロームブロックとガラ主体。

暗褐色土を少量含む。盛土。

2層：青灰色砂質土。堆積密。宝永パミス、スコリアを全体に含む。土粒細かい。

3層：青灰色砂。堆積密。宝永パミス、スコリアを含まない。湧水する。

9 調査結果

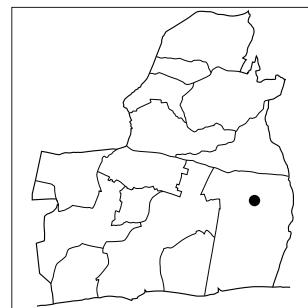
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

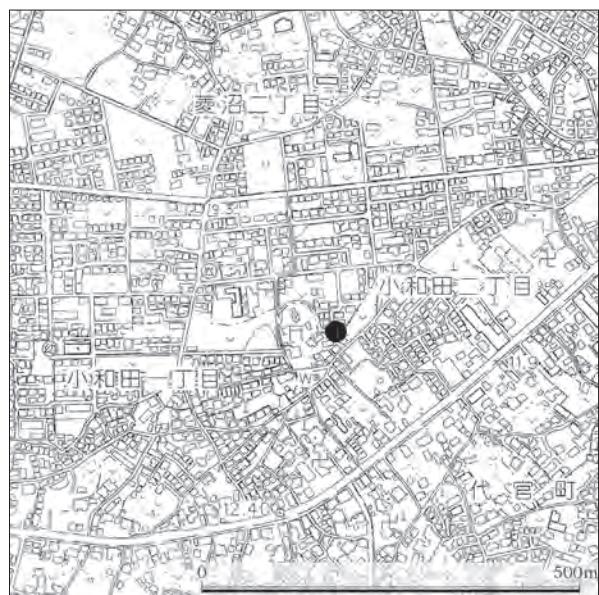
出土遺物：木杭

(2) 調査所見

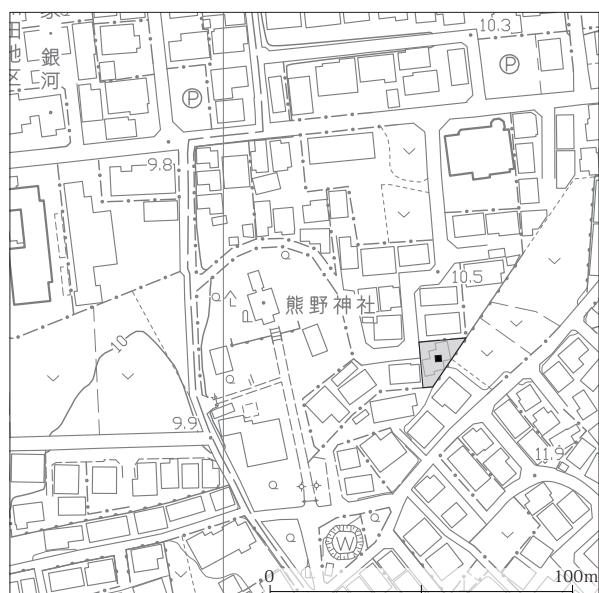
調査の結果、地表下約160cmの1層までは近現代の盛土であり、コンクリートガラとロームブ



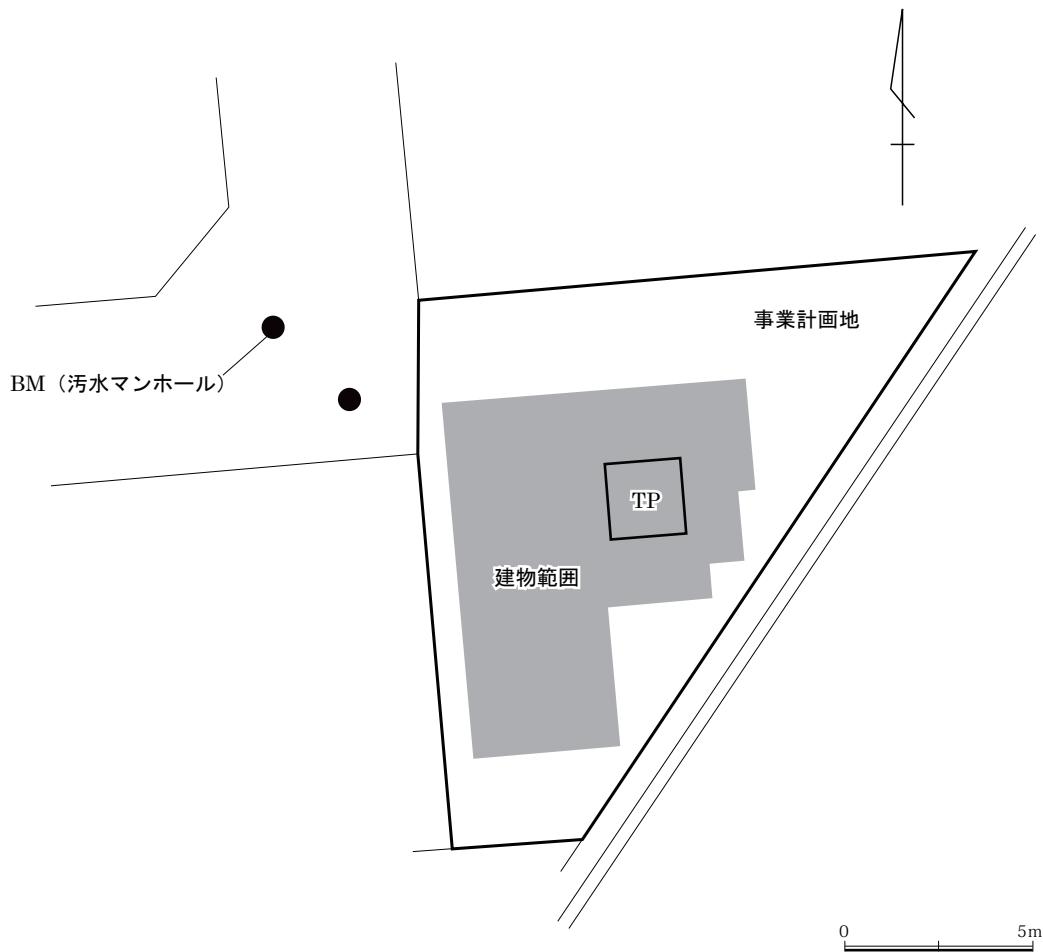
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



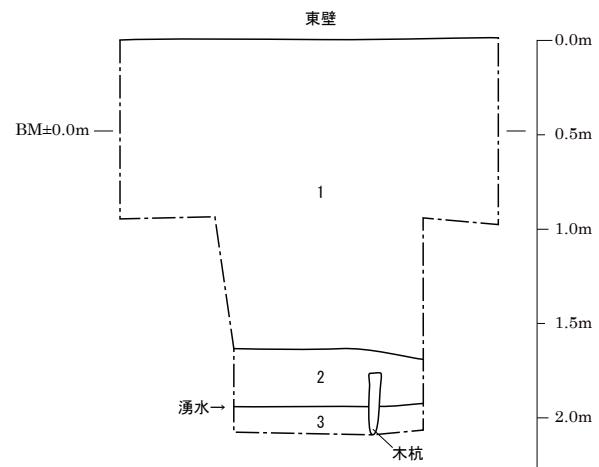
第4図 調査区配置図 (1/200)

ロックが多量に混入していた。地表下約160～190cmには宝永パミス、スコリアを多量に含む砂質土である2層が堆積していた。砂質土直下には砂丘本来の砂と推測される変色した砂層の3層が堆積している状況を確認した。なお、2層と3層の境で著しい湧水が確認された。事業地の南東側には水路が存在し、その水路の底面と湧水面の標高がほぼ一致している状況が確認できた。木杭については、その掘り込み位置から近世のものであると推測される。

以上、当該地において埋蔵文化財を確認することができた。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
一	一括	木製品 木杭	2	32.3
	合計		2	32.3



第5図 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（北西から）

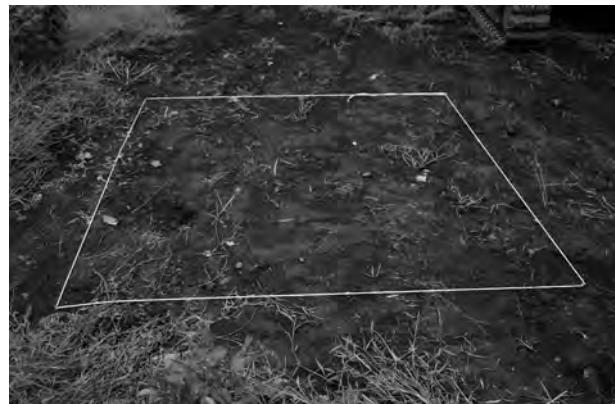


写真2 調査区設定状況（西から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 東壁下部土層堆積状況



写真5 木製品出土状況（西から）



写真6 出土遺物

5-40 茅ヶ崎市小和田一丁目 672 番の一部

- 1 調査年月日 令和5(2023)年9月11日(木)
- 2 調査目的 宅地造成工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 8.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 宿遺跡(No.79)
 - (2) 種別 集落跡、貝塚
 - (3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂丘間凹地の後背湿地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、熊野神社の西側に隣接する場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.1mを測る。

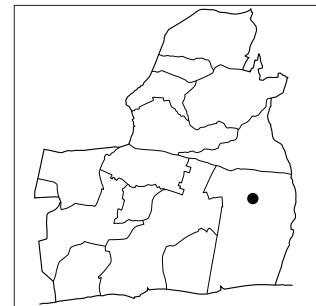
7 調査の方法

事業計画地の新設道路部分に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北東端に設置されている街区多角点No.10A63を仮原点として測量した。

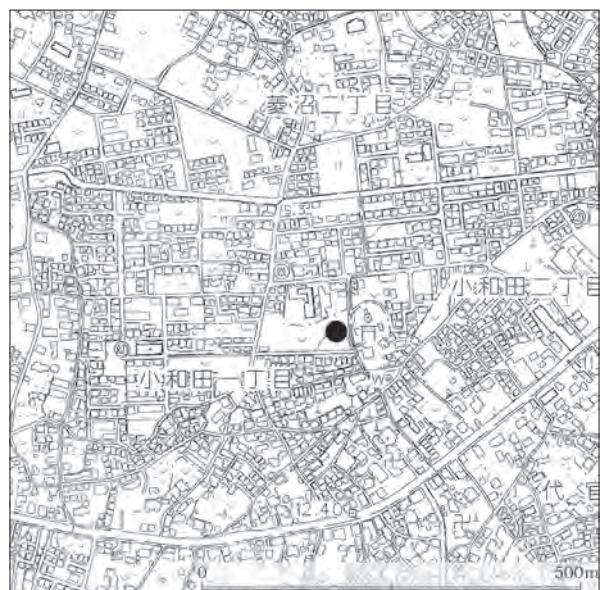
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

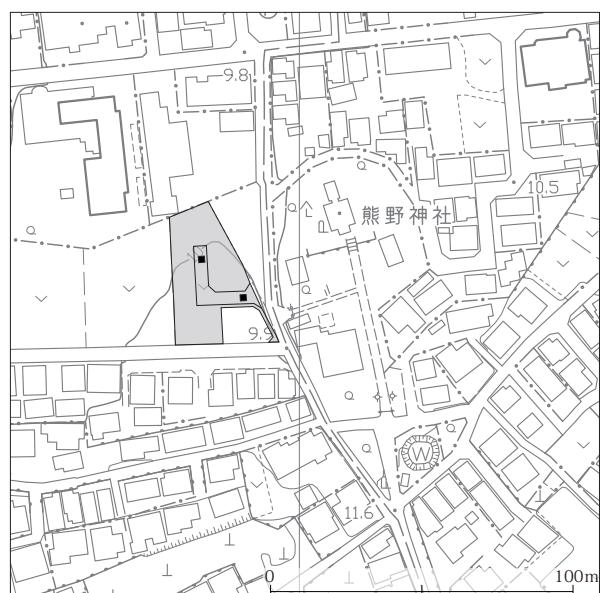
- 1層：暗黄褐色土。近現代の耕作土。表土。
- 2層：暗黄褐色土。堆積粗い。ロームブロック、コンクリートガラ、ビニールゴミを含む。下部に植物多い。客土。
- 3層：暗灰色砂質土。しまりあり。粘性なし。宝永パミス、スコリアを全体に含む。ビニールゴミを含む。やや酸化する。埋土。
- 4層：暗灰色砂質土。しまり強い。堆積粗い。宝永パミス、スコリアを少量含む。ビニールゴミを含む。埋土。
- 5層：暗灰色砂質土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを含まない。ビニールゴミを含む。植物を少量含む。埋土。



第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



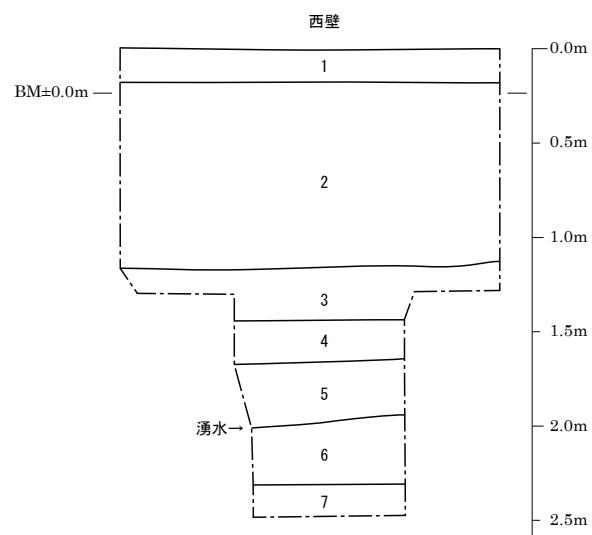
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



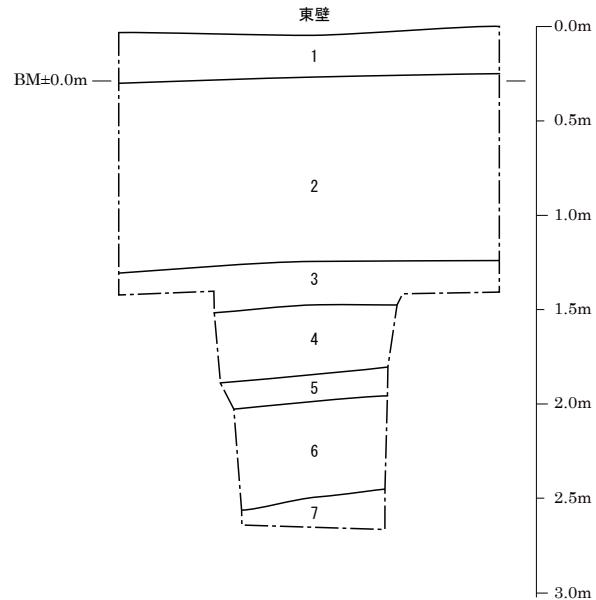
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

6層：暗灰色粘質土。しまり強い。粘性強い。宝永パミス、スコリアを含まない。全体に植物を含む。缶類多い。斑に酸化する。
7層：暗灰色砂。しまりあり。堆積密。砂分強い。土粒均一。湧水する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし
出土遺物：土師器、磁器

〈TP2〉

発見遺構：なし
出土遺物：土師器、ガラス製品

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約200cmの5層までは近現代の埋土であり、コンクリートガラやビニールゴミが混入していた。地表下200～230cmには、缶類を多量に含む腐植物の多い粘質土が堆積していた。粘質土直下には砂丘本来の砂である7層が堆積している状況が確認できた。このことから、6層は砂丘間凹地の低湿地に伴う沼地などの痕跡である可能性が考えられる。埋土については、かつて水田として使用していた本地点を、のちに畠地へ転用した際に土を入れた旨が伝えられている

という。その痕跡として北側に用水路が残存し、敷地内には水田の水門が半分埋没した状態で残されていた。

以上、当該地においては低い密度ながらも埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	一括	土師器 瓶	1	0.5
		磁器	2	15.2
TP2	一括 2層	土師器 瓶	1	3.8
		ガラス製品	1	2.5
合計			5	22.0



写真1 調査地点近景 (南東から)



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（東から）



写真4 TP1 西壁下部土層堆積状況

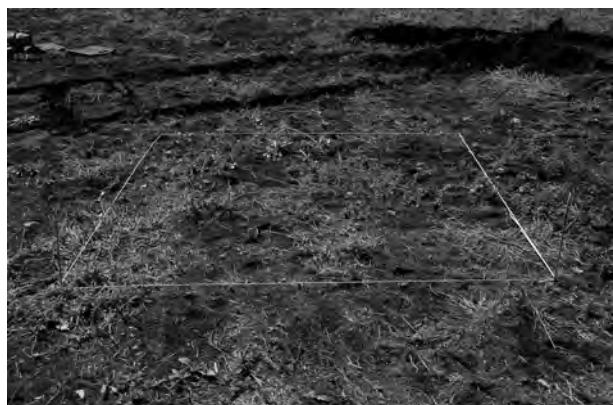


写真5 TP2 設定状況（北から）



写真7 出土遺物

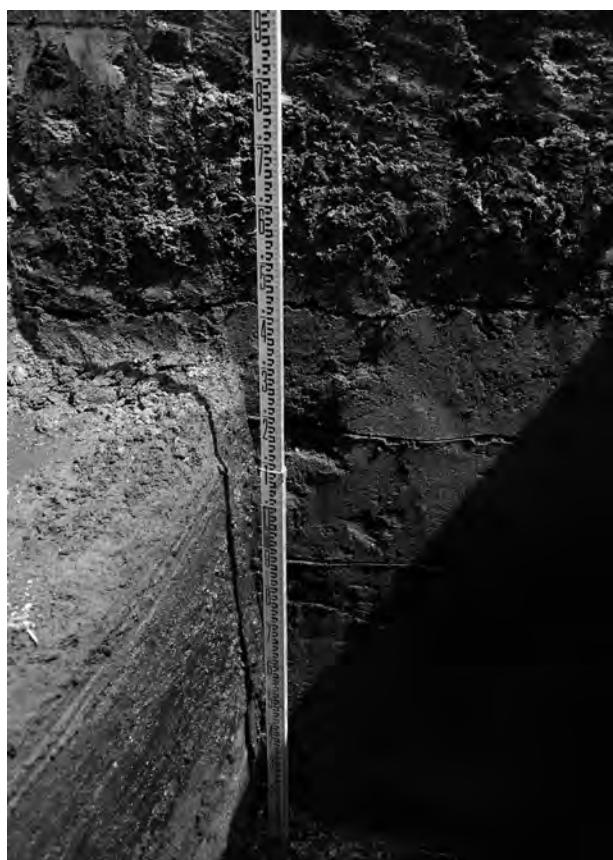


写真6 TP2 東壁土層堆積状況

5-41 茅ヶ崎市浜之郷 477

1 調査年月日 令和5(2023)年9月14日(木)

2 調査目的 遊具設置工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 1.81m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 宮ノ腰遺跡 (No.152)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂質微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺小学校の敷地内に位置し、調査地点の標高は約3.7mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の遊具新設位置に0.4m×0.6m、0.6m×0.6m、1.1m×1.1mの調査区を各1箇所ずつ計3箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する4級基準点B49を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：青灰色砂。しまり強い。土粒均一。グラウンド砂の表土。

2層：暗褐色土。しまりあり。粘性なし。コンクリートガラ、鉄くずを含む。

3層：黒色砂。配管の埋土。バラスト。

4層：コンクリート。

9 調査結果

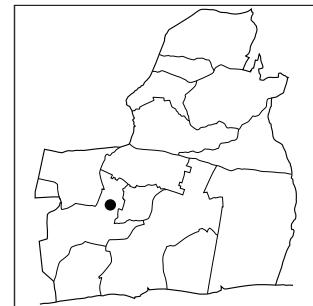
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

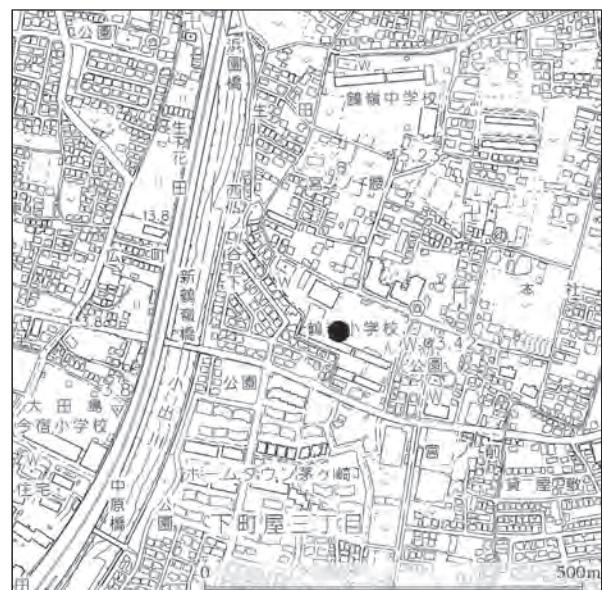
出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約30cm付近で堅牢なコン



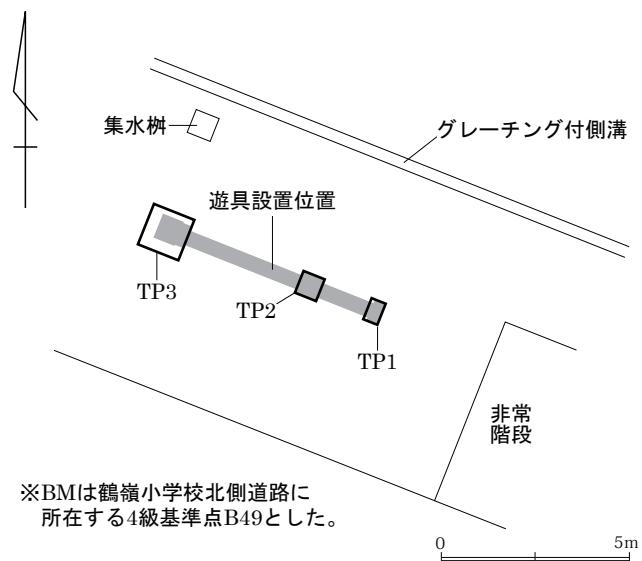
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



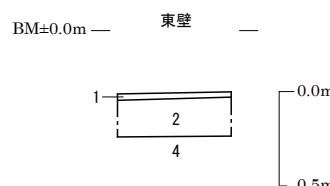
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



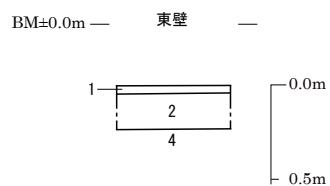
第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



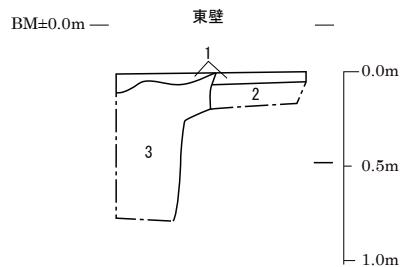
第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

クリートが確認された。旧校舎の図面と照らし合わせたところ、渡り廊下の基礎であることが判明した。削岩機を用いてコンクリートを破碎したが30cm以上の厚みで構築されており、すべてを除去することは困難であった。

当該地において埋蔵文化財は確認されなかつた。



第7図 TP3 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 調査区設定状況（東から）



写真3 TP1 完掘状況（西から）



写真4 TP2 完掘状況（西から）



写真5 TP3 完掘状況（西から）

5-4-2 茅ヶ崎市行谷787-1の一部

1 調査年月日 令和5(2023)年9月27日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 白久保A遺跡 (No.15)

(2) 種別 集落跡、古墳、横穴

(3) 時代 繩文時代(早・中期)、弥生時代(後期)、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、文教大学湘南キャンパスから北西側約750mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約41.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する公共基準点No.42を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

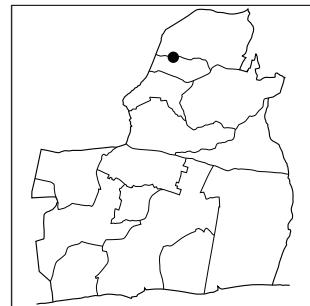
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。ロームブロック、コンクリートブロックを多く含む。ゴミ多い。近現代の盛土。

2層：黄褐色土。ソフトローム主体。ガラ、ゴミを含む。近現代の盛土。

3層：黄褐色土。ハードローム。土粒粗い。堆積密。色調やや暗い。スコリア(赤、黒)を多く含む。

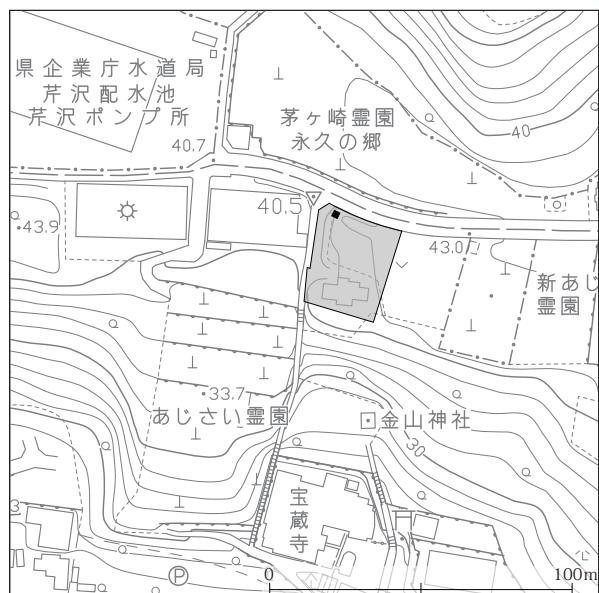
4層：ハードローム。土粒均一で細かい。スコリア減る。



第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

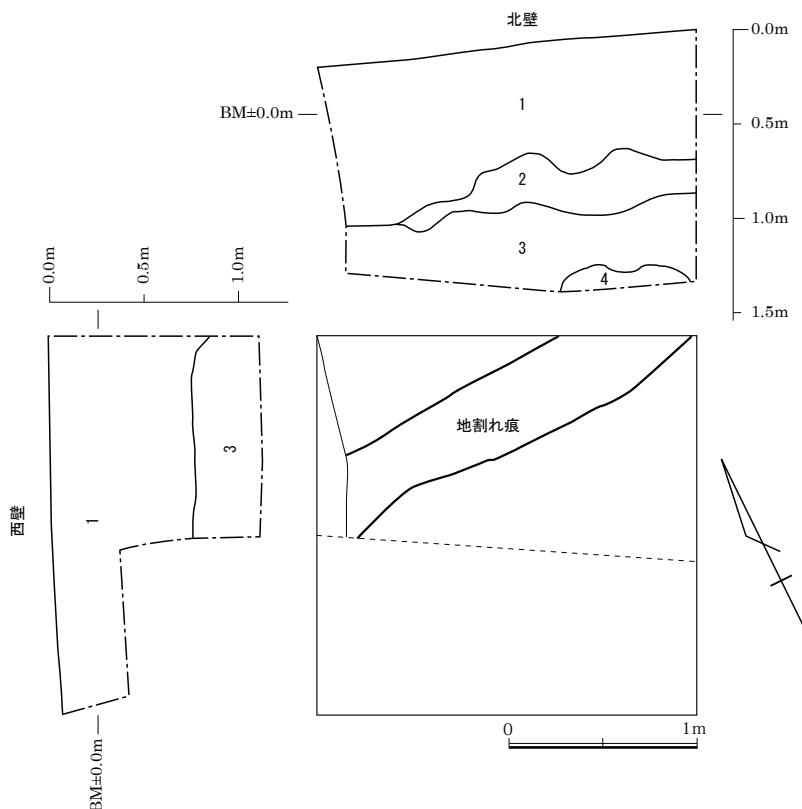
発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 110cm 付近まで近現代の盛土である 1、2 層であり、直下にはハードロームである 3 層の堆積が確認された。ハードロームの観察から、地割れの痕跡や自然堆積に南へ向かう下降傾斜が確認された。

試掘結果から地表下 1.1 m 付近まで近現代層であり、直下には自然堆積のハードロームが確認されている。当該地において、埋蔵文化財は確認されなかった。



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）



写真1 調査地点近景（北西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（南から）



写真4 北壁土層堆積状況

5-4-3 茅ヶ崎市本村五丁目 1037番3の一部外 3筆

- 1 調査年月日 令和5(2023)年9月28日(木)
- 2 調査目的 宅地造成工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 8.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 居村A遺跡(No.199)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 繩文時代(後期)、弥生時代(中期)、古墳時代(後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂丘北斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、茅ヶ崎市立病院から南側約100mの場所に位置している。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約7.1～8.0mを測る。

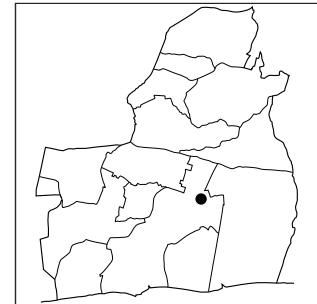
7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

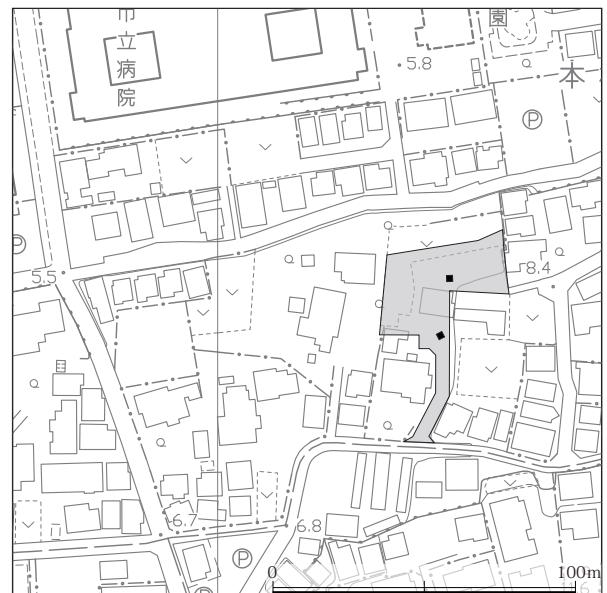
- 1層：暗褐色砂質土。しまりなし。堆積粗い。ゴミ(プラスチック、ガラス、カーペット)を多く含む。植物痕多い。近代層。
- 2層：褐色砂。しまりあり。土粒均一。3層の青灰色砂を少量含む。砂丘本来の自然堆積層。地山。
- 3層：青灰色砂。しまりあり。土粒細かく均一。微砂粒を含む。
- 4層：青灰色砂。3層に類似するが、より微砂粒を多く含む。



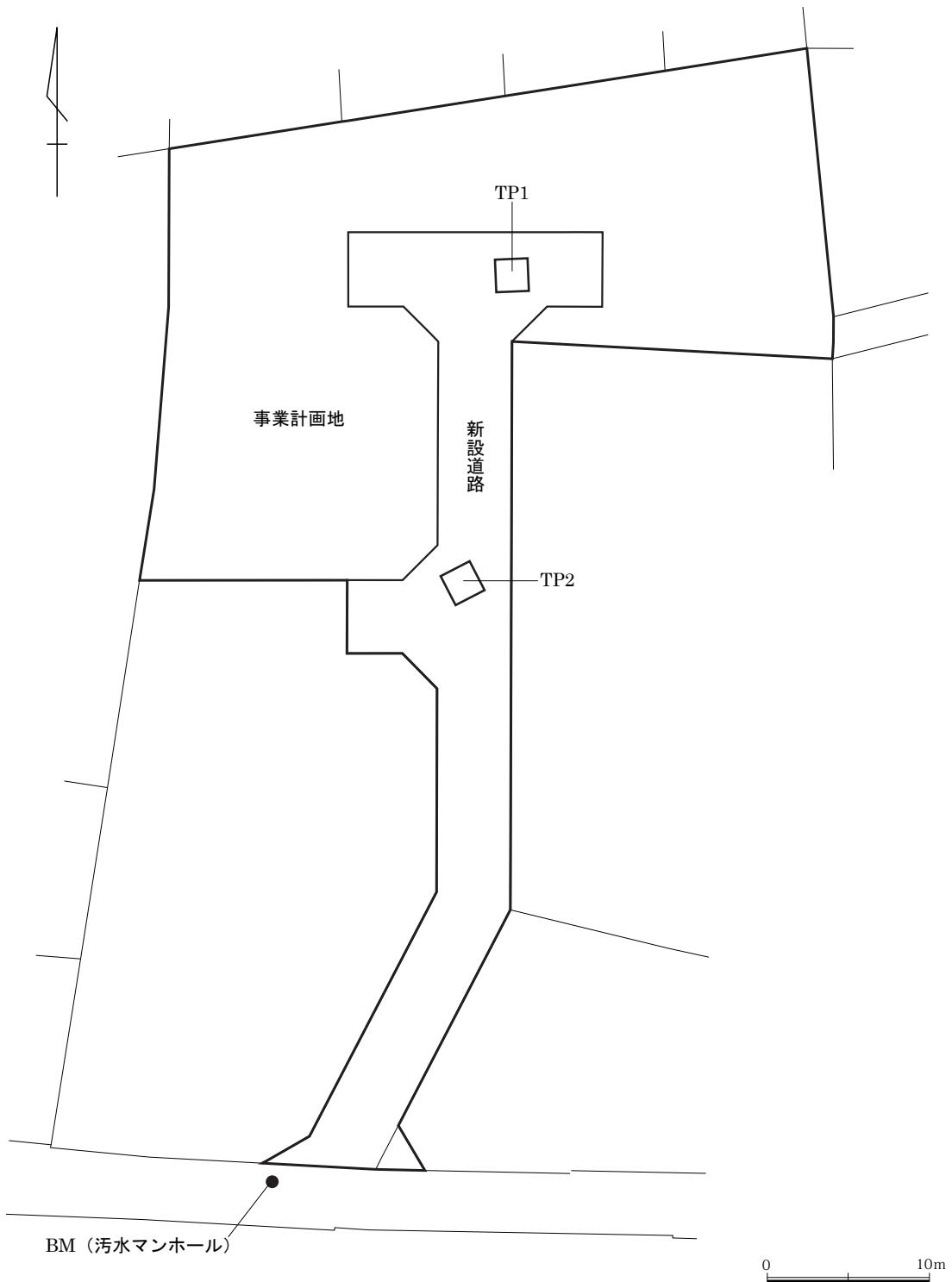
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



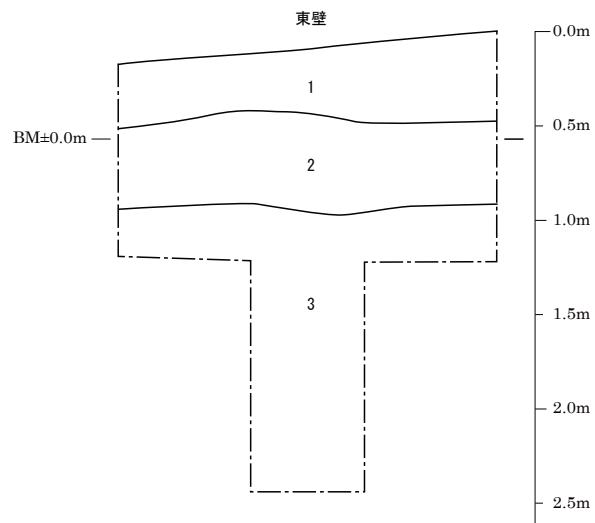
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



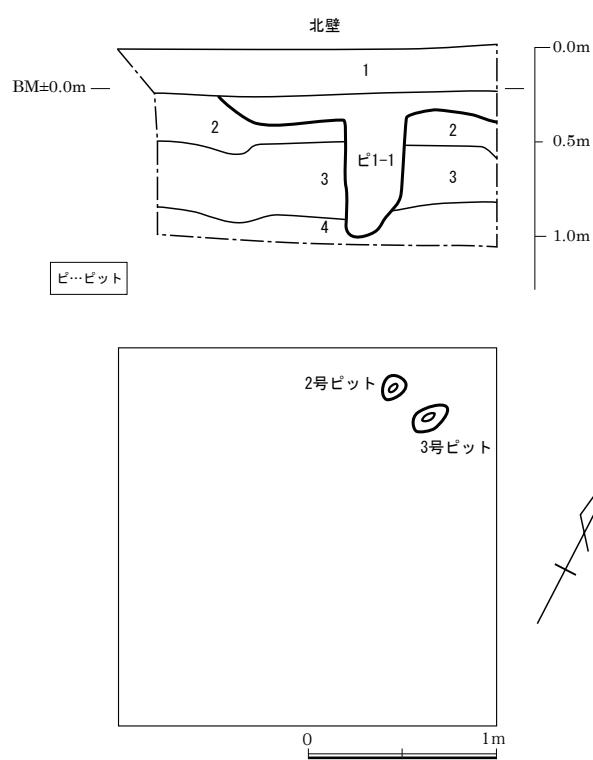
第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

(2) 遺構覆土

〈1号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまり弱く、粘性なし。
近代（戦前）の建物に伴う堀り込みで、
近代の遺物を含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、陶器

〈TP2〉

発見遺構：ピット

出土遺物：土師器、青磁か、陶器、磁器、土製品、鉄製品、礫

(2) 調査所見

近代の遺物を含む1層の下は砂丘本来の砂層(2～4層)であった。住人によると、戦前までは納屋の位置に母屋があり、その後、現在の位置に母屋を新築し引っ越ししたことであり、今回発見されたTP2の1～3号ピットはいずれも戦前の遺物を含むものであった。これらの状況から、1～3号ピットは近代の母屋に伴うものであり、母屋再建築にあたり本来の地形を削平して平場を設けたものと推測される。TP1については、戦後に椎茸栽培のビニールハウスと養鶏舎を建てていた場所とのことであり、椎茸栽培のための導水管や養鶏舎の残骸が地中に残されていた。TP2

と同じく、こちらも戦後に削平を受けたものと推測される。なお、土師器は調査地点の1、2層から出土したものであり、本来は遺構が存在していた可能性が高いといえる。

調査の結果、いずれの調査区からも近代の建造物（母屋、養鶏舎、椎茸栽培用ビニールハウス）に伴う残骸と同時期の遺物が出土した。近代に土地利用を行う際に、本来の地形を大きく削平した様子が確認でき、近代層の直下には砂丘本来の砂層の堆積が確認できた。以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	表採	土師器 壊	2	8.4
		土師器 瓢	3	15.8
		陶器	1	24.2
TP2	一括	土師器 壊	2	4.6
		土師器 瓢	3	8.6
		青磁か	1	2.9
		陶器	1	12.7
		磁器	2	5.3
		土製品	3	10.6
		鉄製品	1	17.9
		礫	2	14.4
		合計	21	125.4



写真1 TP1調査地点近景（南西から）



写真2 TP2調査地点近景（北西から）



写真3 TP1 設定状況 (北から)



写真4 TP1 完掘状況 (西から)



写真5 TP1 東壁下部土層堆積状況



写真6 TP1 南壁土層堆積状況

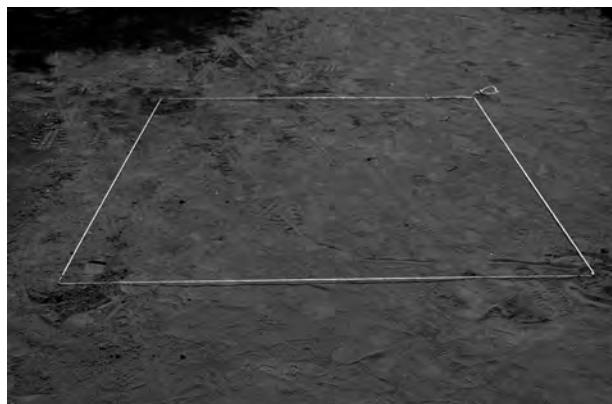


写真7 TP2 設定状況 (南から)



写真8 TP2 完掘状況 (南から)



写真9 TP2 北壁土層堆積状況



写真10 出土遺物

5-4-4 茅ヶ崎市松林二丁目488番2外2筆

1 調査年月日 令和5(2023)年9月29日(金)

2 調査目的 8.0m²

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 宅地造成工事

5 遺跡の概要

(1) 名称 網久保A遺跡 (No.86)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 弥生時代(後期)、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立松林小学校から南側約400mの場所に位置する。調査以前は畠地及び果樹園として利用されており、調査地点の標高は約9.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0×2.0mの調査区を1箇所、事業地の南東隅に2.0m×2.0mの調査区1箇所、計2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：明黄褐色砂質土。堆積粗く、しまりなし。

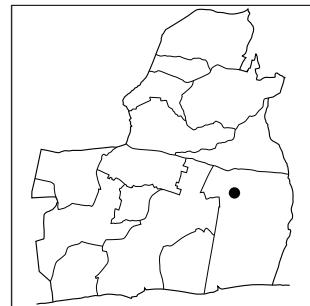
近現代のゴミを含む。植物・樹木根多い。

表土。

2層：暗褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。

土粒細かい。宝永火山灰を含む。部分的に樹木根による攪拌を受ける。土師器片を極少量含む。近世包含層。

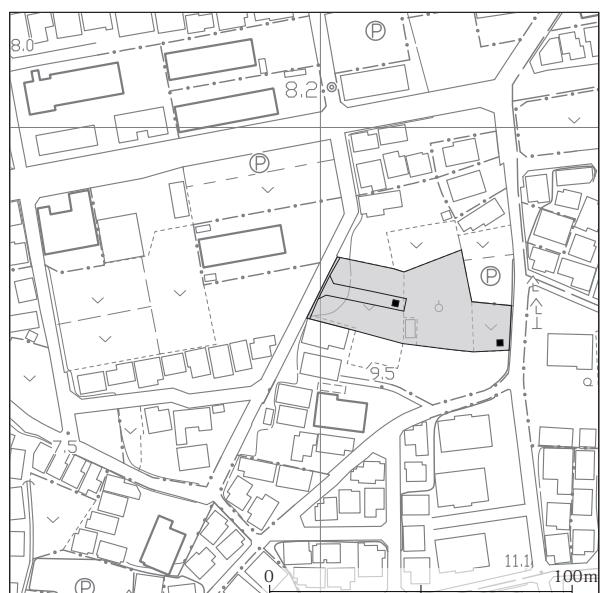
3層：黄褐色砂。土粒均一でしまり強い。砂丘本来の砂。部分的に酸化する。地山。



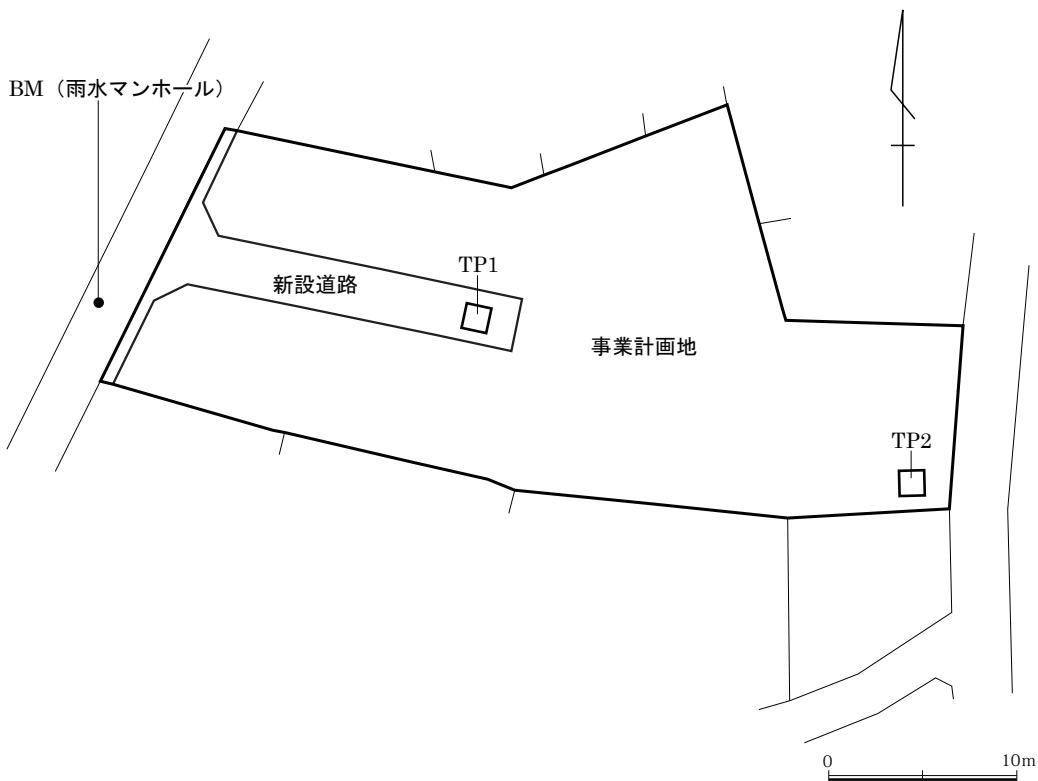
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

(2) 遺構覆土

〈1号溝状遺構〉

- 1層：暗褐色砂質土。しまりなし。堆積粗い。宝永火山灰を極少量含む。近世に攪乱を受けた覆土の可能性もある。土師器含む。
- 2層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性なし。宝永火山灰を含まない。土師器を多量に含む。緑釉陶器出土。基本土層の3層を極少量含む。
- 3層：暗褐色砂質土。基本土層の3層と同遺構の2層が混ざったもの。
- 4層：暗褐色砂質土。しまりあり。白色パミスを少量含む。橙色スコリアを極少量含む。基本土層の3層を少量含む。土師器含む。
- 5層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性なし。同遺構4層より砂分強い。馬歯、土師器出土。
- 6層：暗褐色砂質土。しまり強い。同遺構の5層に基本土層の3層が多いもの。遺物は極めて少なくなる。
- 7層：明褐色砂質土。やや酸化し、しまり極め

て強くなる。同遺構の6層に基本土層の3層がより多く含む層。

8層：明褐色砂質土。酸化強く、しまり極めて強い。土粒均一。同遺構の6層に基本土層の3層がより多く含まれる層。遺物は極少量が極小片で出土する。

〈1号竪穴状遺構〉

- 1層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性なし。橙色粒子含む。基本土層の3層を少量含む。土師器片出土。炭化物が少量混ざる。

9 調査結果

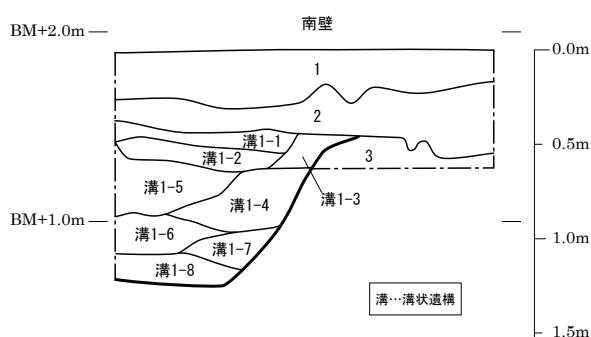
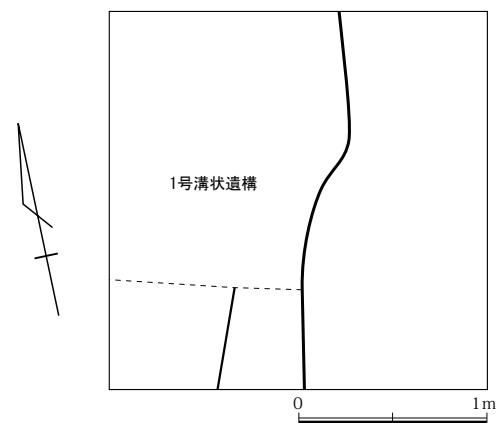
(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

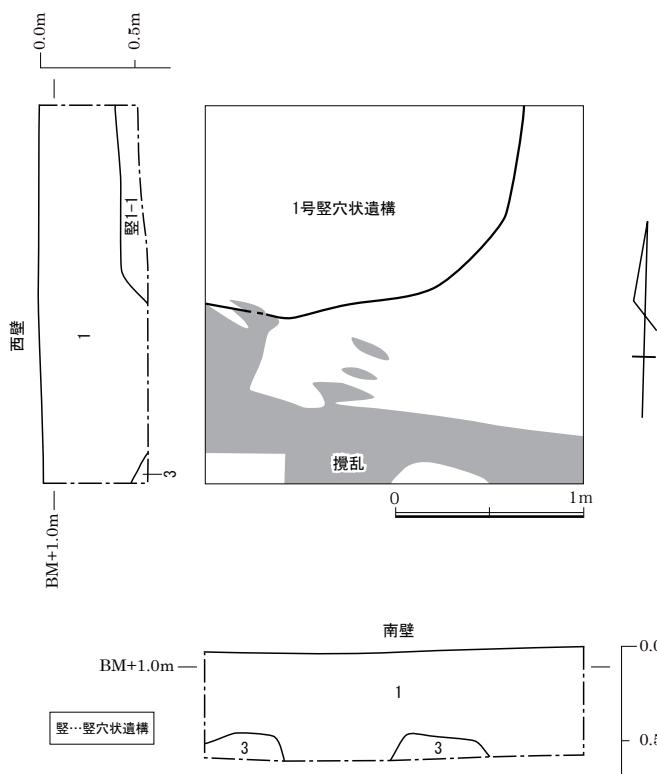
発見遺構：溝状遺構
出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、礫、軽石

〈TP2〉

発見遺構：竪穴状遺構
出土遺物：土師器、須恵器、陶器、礫、炭化物、動物遺存体（馬歯）



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

(2) 調査所見

調査の結果、地表下50cmまでが表土である1層と近世層の2層であり、それ以下では無遺物の3層を掘り込む古代～中世の遺構が良好に残存していた。

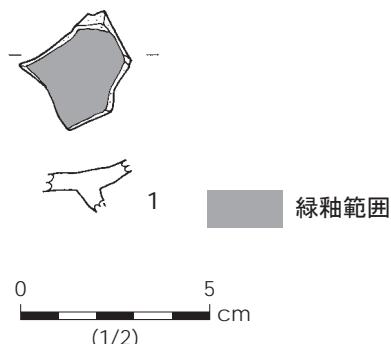
TP1の東端の1号溝状遺構からは、緑釉陶器の小片や馬歯など特徴的な遺物の出土が確認された。TP2は部分的に近現代の耕作に伴う深い掘削が入り込むが、竪穴状遺構が良好に残存している様子が確認されている。

第7図は緑釉陶器の小片である。器形は碗か皿であり、残存高は1.4cm、重さ4.6gである。胎土は堅緻であり、暗灰黄色(2.5Y5/2)を呈する。焼成は良好、口クロ成形である。

当該地においては埋蔵文化財が高い密度で良好な状態で確認された。このことから、本事業は事業者と協議の結果、事業地全体を対象として令和5年度から令和6年度にかけて網久保A遺跡第8次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1号溝状遺構	土師器	16	12.5
		土師器 壊	5	15.2
		土師器 蜂	14	55.1
		須恵器 壊	1	2.5
		灰釉陶器 皿	1	1.9
	サブトレンチ	土師器	31	36.0
		土師器 壊	8	32.3
		土師器 蜂	17	72.9
		須恵器 壊	1	3.4
		礫	5	32.8
		軽石	1	0.5
TP2	P-1	緑釉陶器	1	4.6
	表土	土師器	11	15.6
		土師器 壊	8	23.8
		土師器 蜂	4	33.8
		須恵器	1	2.4
		須恵器 壊	2	5.9
		陶器	1	5.8
	1号竪穴状遺構	礫	1	3.3
		炭化物	1	0.7
		土師器	22	25.4
		土師器 壊	6	22.6
	サブトレンチ	土師器 蜂	8	27.6
		炭化物	4	6.6
合計			170	457.2



第7図 実測遺物 (1/2)



写真1 実測遺物（第7図）



写真2 実測遺物（第7図）



写真3 調査地点近景（東から）



写真4 TP1 設定状況（北から）



写真5 TP1 完掘状況（北から）



写真6 TP1 南壁土層堆積状況

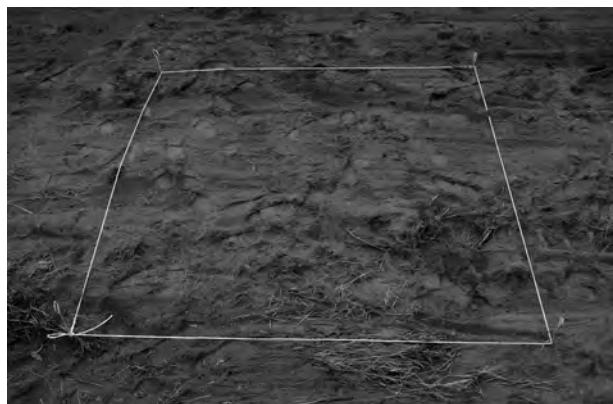


写真7 TP2 設定状況（北から）



写真8 TP2 完掘状況（北から）



写真9 TP2 南壁土層堆積状況



写真10 出土遺物

5-45 茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2266 番 1 の一部外 2 筆

- 1 調査年月日 令和5(2023)年10月5日(木)
- 2 調査目的 宅地造成工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 12.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 御屋敷B遺跡 (No.157)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 弥生時代(末)～古墳時代(前・後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂質微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立松林小学校から南西側約420mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約5.7mを測る。

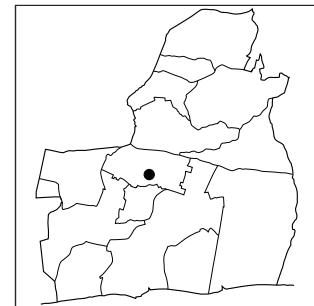
7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0m×2.0mの調査区を3箇所設定して調査を実施した。調査の過程で、TP2は2.0m×2.3m、TP3は2.0×2.4mに調査区を拡張している。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

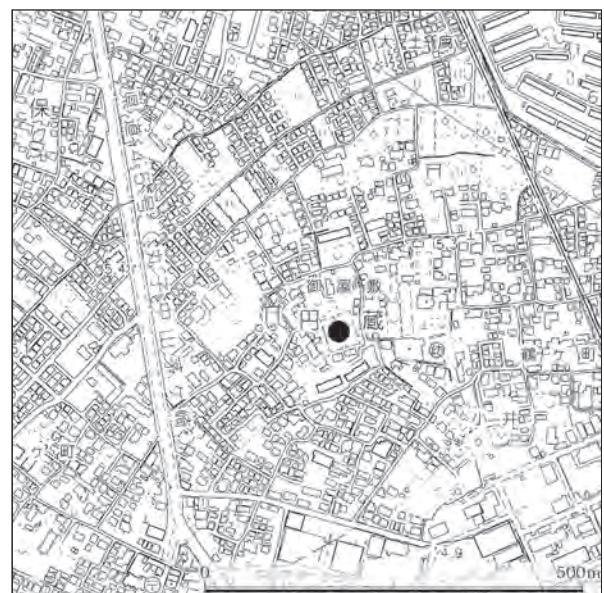
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

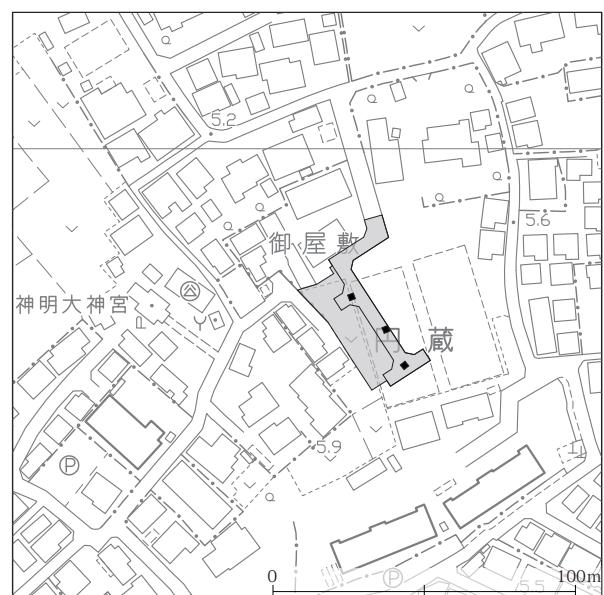
- 1層：暗黄褐色土。しまりなし。粘性あり。近現代の耕作土。ビニールゴミを含む。
- 2層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。堆積密。宝永パミス、スコリアを極少量含む。橙色スコリアを極少量含む。ビニールゴミを含む。近現代の耕作土。
- 3層：暗褐色土。基本土層の2層に基本土層の7層が混じったもの。配管の埋土。



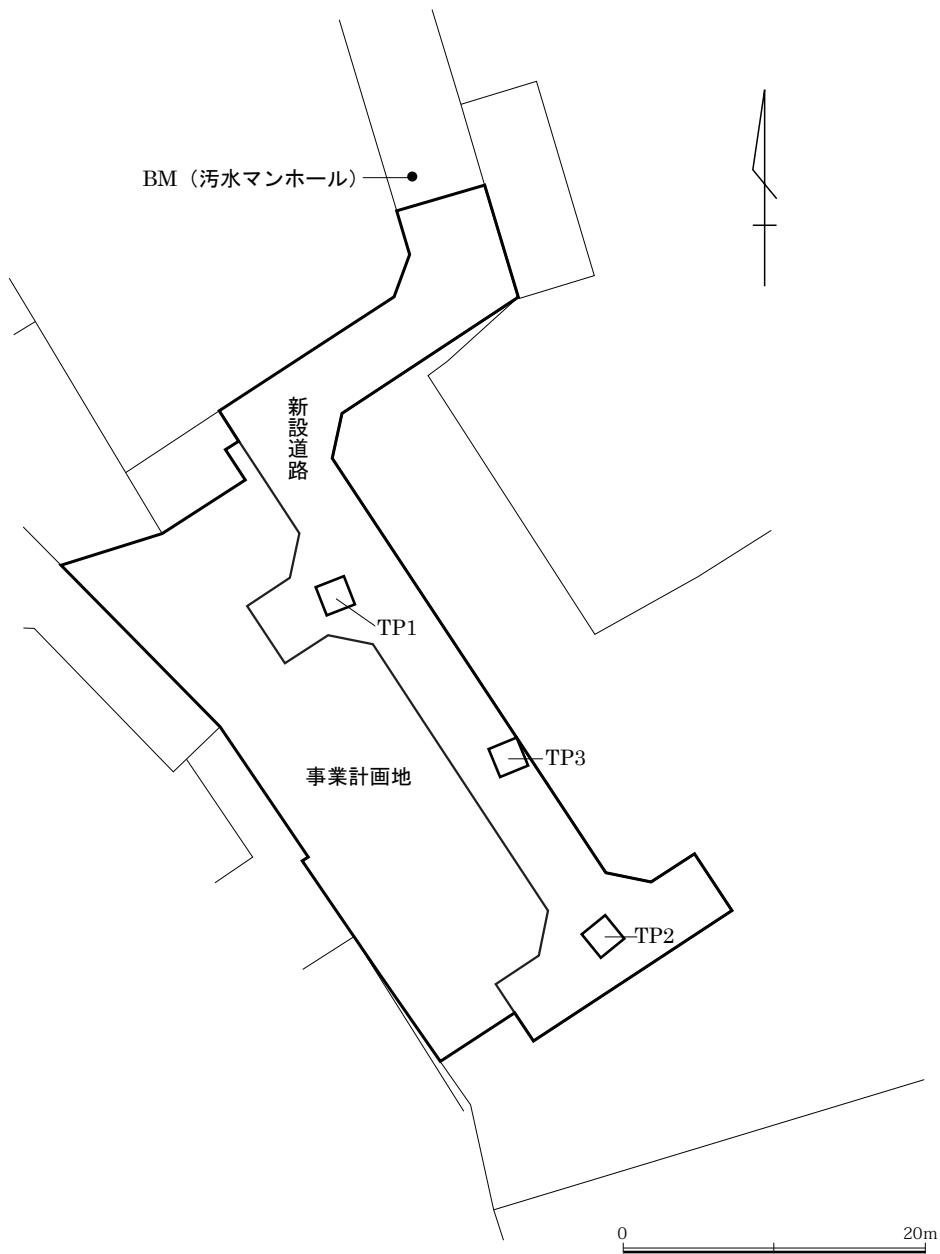
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

4層：暗褐色土。しまり弱い。粘性弱い。宝永
パミス、スコリアを多く含む。近世層。

5層：暗褐色土。橙色スコリアを少量含む。土
師器片を含む。下部は7層を斑状に含む。
古代～中世層。

6層：暗褐色土。しまり弱い。5層と7層の混
ざったもの。樹木根か。

7層：黄褐色土。しまり強い。粘性なし。堆積
密。部分的に酸化する。下部に腐植物を
含む。湧水する。無遺物層の地山。

(2) 遺構覆土

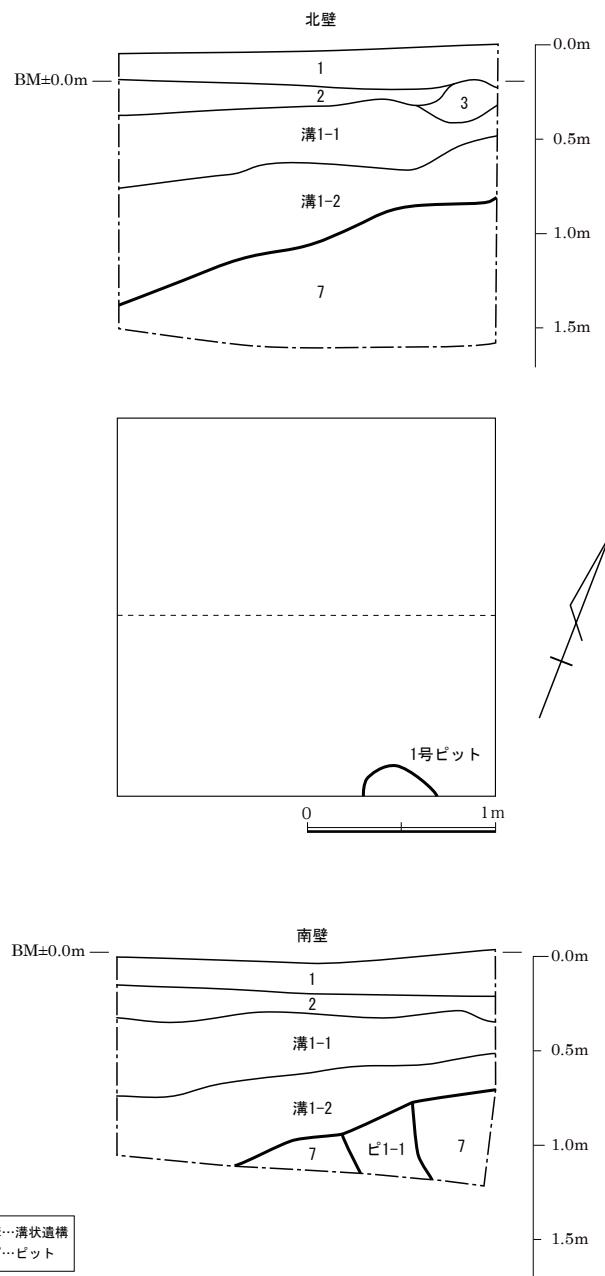
〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性弱い。宝永
パミス、スコリアを全体に多く含む。炭
化物、橙色スコリアを少量含む。

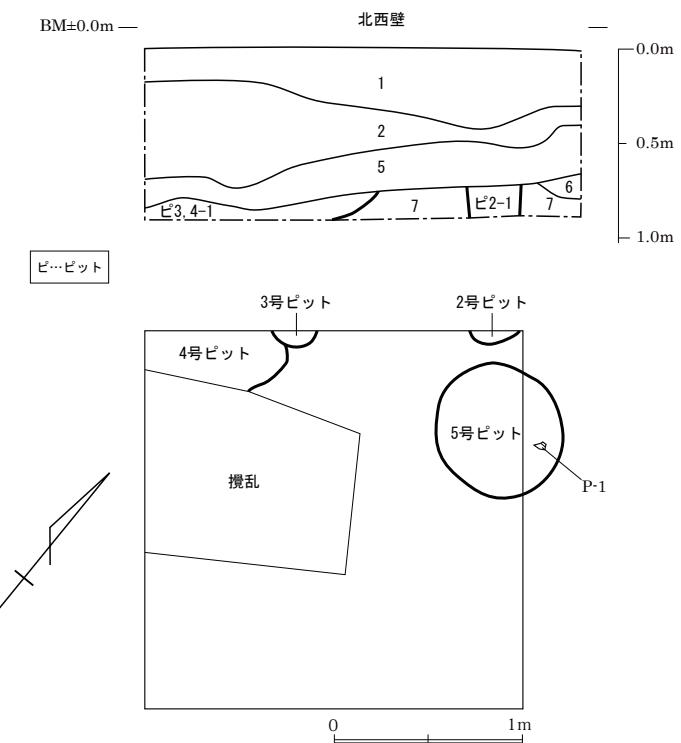
2層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。橙色
スコリアを少量含む。龍泉窯系青磁出土。
土師器片を含む。

〈2号溝状遺構〉

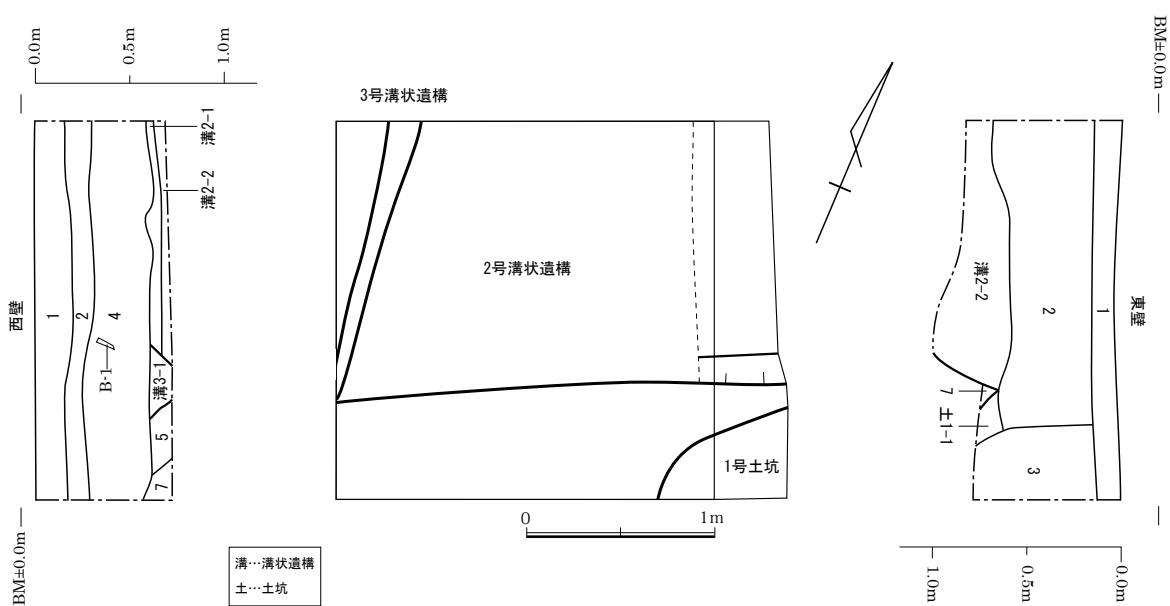
1層：暗褐色土。硬化面。しまり極めて強い。
橙色スコリアを少量含む。



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

2 層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。同遺構の 1 層が硬化していない層。土師器含む。

〈3 号溝状遺構〉

1 層：灰白色土。しまり弱い。宝永パミス、スコリアを多く含む。

〈1 号土坑〉

1 層：暗褐色土。しまりやや強い。色調暗い。基本土層の 5 層に類似する。

〈1 号ピット〉

1 層：暗褐色土。しまり弱い。粘性強い。基本土層の 7 層を極少量斑に含む。宝永パミス、スコリア、橙色スコリアを含まない。遺物なし。

〈2 号ピット〉

1 層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。土粒粗い。基本土層の 5 層を基本とし、基本土層の 7 層を少量含む。

〈3、4 号ピット〉

1 層：暗褐色土。しまり弱くなる。基本土層の 5 層を基本とする。橙色スコリア極少量含む。土師器片多く含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：溝状遺構、ピット

出土遺物：土師器、かわらけ、龍泉窯系青磁、磁器、礫

〈TP2〉

発見遺構：ピット

出土遺物：土師器、かわらけ

〈TP3〉

発見遺構：溝状遺構、土坑

出土遺物：土師器、動物遺存体

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 50 ~ 70cm までは表土である基本土層 1、2 層、近世層である基本土層 3 層、古代の遺物包含層である基本土層 4 層が上から順に堆積しており、基本土層 4 層は良好な状態で残存している様子を確認した。古代～中世の遺構は、いずれも無遺物層である基本土層 7 層を掘り込み構築されていた。基本土層 5 層からの土

師器出土状況は、上位程小片であり、下位になると遺存率の高い破片が含まれている状況であった。

TP1 で確認された 1 号溝状遺構は、堆積層に傾斜が確認でき西へ向かい下降傾斜している溝状遺構であると推測される。覆土の 2 層は龍泉窯系青磁やかわらけを包含し、このことから遺構年代は中世に遡ることができるといえる。また、覆土の 1 層に宝永パミス、スコリアを含むことから、遺構の埋没は近世前半以降と考えられる。なお、TP1 で確認した部分的に黒く変色した土はビニールハウスで用いられた暖房用の重油による変色であり、土からはタール臭がしていた。

TP2 の 2 ~ 5 号ピットはいずれも古代～中世に属すると推測され、覆土は基本土層の 5 層を基本として基本土層の 7 層の混入や橙色スコリアの多少が変化している。4、5 号ピットは規模、覆土がともに類似している。また、覆土の類似から 3 号ピットと 4 号ピットは同一の遺構である可能性も指摘できるが、遺構確認面でのプランに差が見られたことから、別遺構として報告した。

試掘結果から地表下 50cm 以下で古代～近世の遺構が良好に残存している様相を確認した。当該地において、埋蔵文化財を確認した。なお、本事業に対しては、令和 5 年度から令和 6 年にかけて御屋敷 B 遺跡第 17 次調査を実施した。

表 1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
TP1	1 層	土師器	1	1.6
		土師器 壊	2	3.6
		磁器	2	2.7
	2 層	土師器	3	5.7
		土師器 蜂	3	18.2
		礫	1	35.2
TP2	1 号溝状遺構	土師器 蜂	1	5.3
		かわらけか	1	20.0
		青磁	1	9.5
	一括	土師器	5	4.5
TP3	4 層	土師器 壊	6	32.0
		土師器 蜂	4	35.4
		土師器 蜂	1	28.9
	2 号溝状遺構	土師器	3	2.9
		土師器 壊	2	8.3
B-1	土師器	3	3.0	
	土師器 壊	1	3.6	
	骨片	—	17.0	
合計			40	237.4



写真1 調査地点近景（北東から）

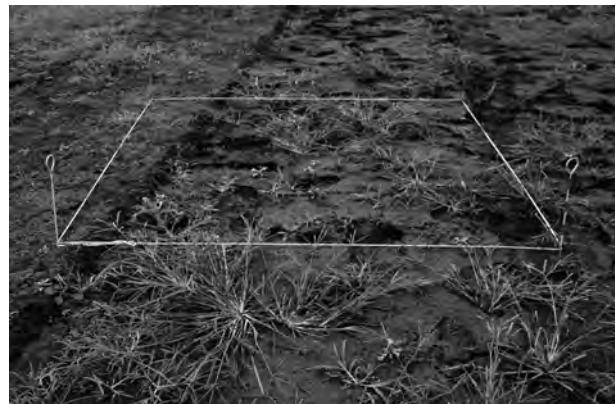


写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（東から）



写真4 TP1 北壁土層堆積状況



写真5 TP1 南壁土層堆積状況



写真6 TP2 設定状況（北西から）



写真7 TP2 完掘状況（南東から）



写真8 TP2 北西壁土層堆積状況

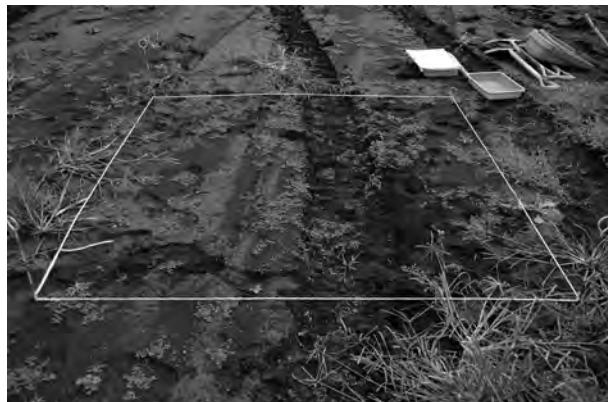


写真 9 TP3 設定状況 (北から)



写真 10 TP3 完掘状況 (東から)



写真 11 TP3 西壁土層堆積状況

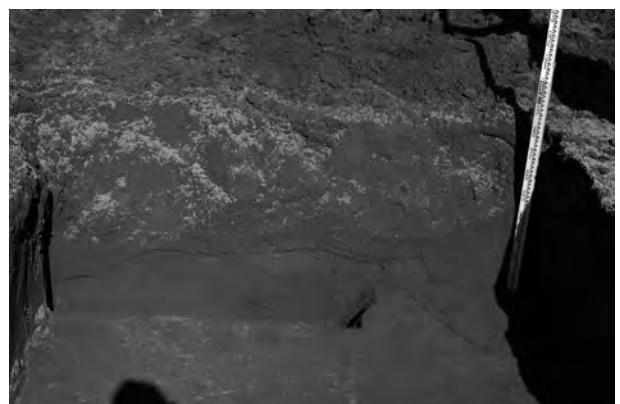


写真 12 TP3 東壁土層堆積状況



写真 13 出土遺物

5-4-6 茅ヶ崎市菱沼二丁目 342番 10、12

1 調査年月日 令和5(2023)年10月6日(金)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 已待田A遺跡 (No.74)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市西部、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側約480mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約10.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定し、調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

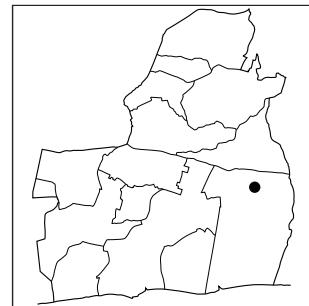
1層：暗褐灰色砂質土。しまりややあり。粘性なし。小石、コンクリートガラ含む。表土。

2層：暗褐灰色砂質土。しまりなし。粘性弱い。小石、コンクリートガラ含む。ロームブロックとにぶい黄褐色砂が斑に混じる。

3層：暗褐灰色砂質土。しまりやや強い。粘性ややあり。酸化粒子中量含む。宝永パミス、スコリアを少量含む。

4層：暗褐灰色砂質土。しまりややあり。粘性ややあり。3層に類似するが、酸化粒子と宝永パミス、スコリアが減少する。

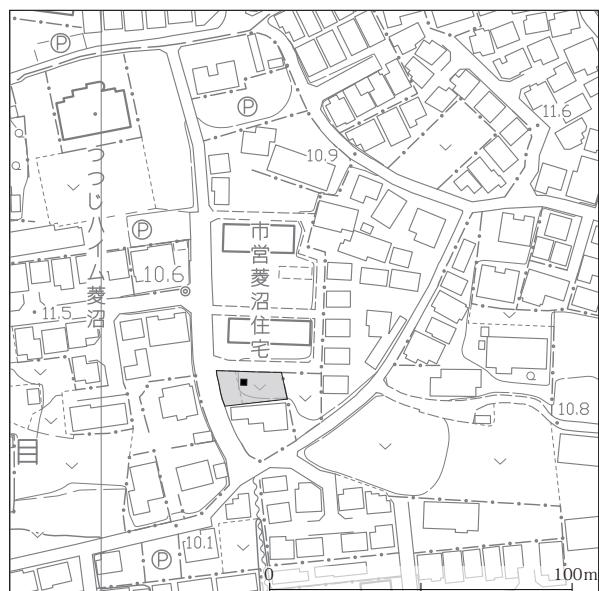
5層：暗褐灰色砂質土。4層をベースに、褐鉄



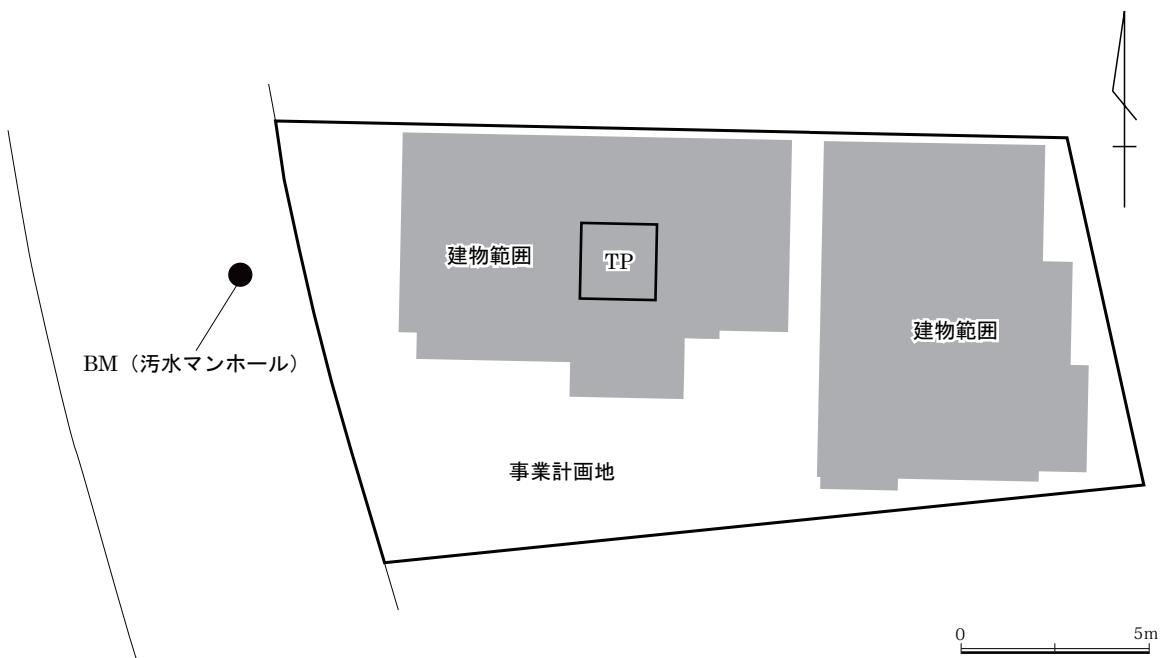
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

鉱が筋状に混ざり、全体に酸化する。

6層：にぶい黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。

宝永パミス、スコリアを含まない。小石を少量含む。全体に褐鉄鉱を含む。少量湧水する。

7層：6層に類似するが、褐鉄鉱はみられない。

土粒均一。多量に湧水する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

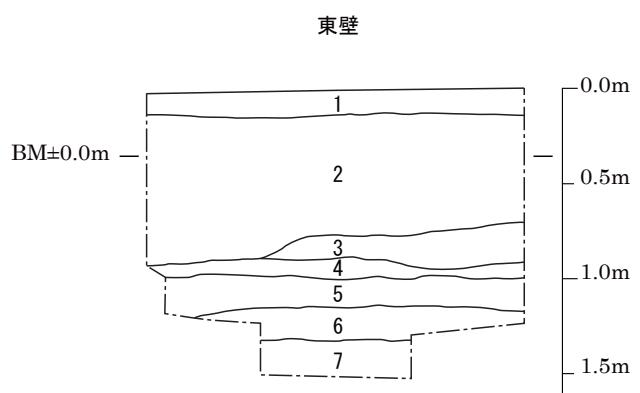
発見遺構：なし

出土遺物：土師器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下90cm付近までは近現代のガラを含む埋土であった。埋土である2層直下では、宝永パミス、スコリアを含む宝永期以降の堆積層が確認された。

近世層は酸化粒子を全体に含み、5層では筋状に多量の褐鉄鉱が分布することから、水分と植物が多量に存在する環境があったものと推測される。6層では宝永パミス、スコリアの混入はみられないが褐鉄鉱の分布は著しく増加する。堆積層も全体に酸化し、色調はにぶさを増している。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
-	5層	土師器	1	8.1
		土師器 壊	1	0.9
		合計	2	9.0

6層の直下には褐鉄鉱を含まない土粒の均一な7層の堆積が確認された。6層と7層の境で多量の湧水が発生したため、部分的に深掘りを実施したが、7層を掘り込む深掘り部分は水没した。7層は土粒が均一で堆積状況も密であることから、地山の無遺物層であると推測される。

褐鉄鉱の分布状況から、近世以前の長期間にわたり湿地的な状況が継続していたものと推測される。遺物は5層から出土しており、古代に属する土師器の細片2片が出土した。土師器片の断面

は摩滅していなかった。このことから、5層は古代の遺物包含層であると推測される。

調査の結果、地表下90cm付近までは近現代の埋土であったが、直下では宝永パミス、スコリアを含む宝永期以降の堆積層が確認された。近世層には下位になるほど褐鉄鉱の分布が多くみられ、地表下130cm付近で湧水した。褐鉄鉱の分布状況からは、近世以前に湿地的な環境が展開したものと推測される。



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 東壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-47 茅ヶ崎市円蔵字御屋敷 2269-1

- 1 調査年月日 令和5(2023)年10月16日(月)
- 2 調査目的 個人住宅新築工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 4.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 御屋敷B遺跡(No.157)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 弥生時代(末)、古墳時代(前・後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 沖積微高地
- 6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎警察署西久保駐在所から南東に約400mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約5.5mを測る。

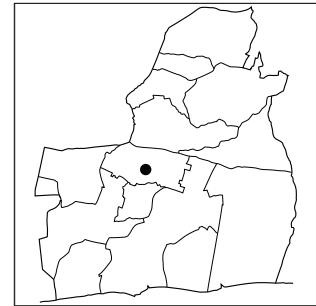
7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

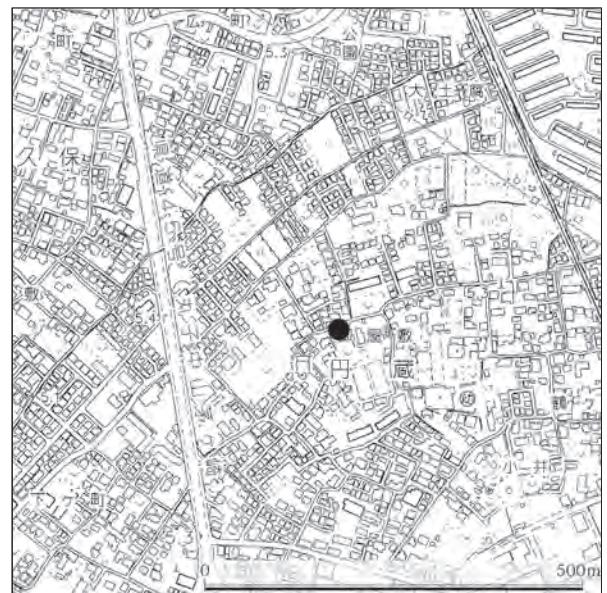
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

- 1層：暗褐色砂。φ60～50mmの礫を含む。ほぼ砂からなる。表土。
- 2層：黄褐色砂。φ10～30mmの礫を含む。植物根多い。埋土。
- 3層：にぶい灰褐色土。酸化粒子を含む。砂を少量含む。埋土。
- 4層：にぶい灰褐色土。しまり弱い。粘性強い。宝永パミス、スコリアを全体に少量含む。明治～昭和初期の磁器を含む。埋土。
- 5層：にぶい灰褐色土。しまり弱い。粘性強い。宝永パミス、スコリアを極少量含む。近



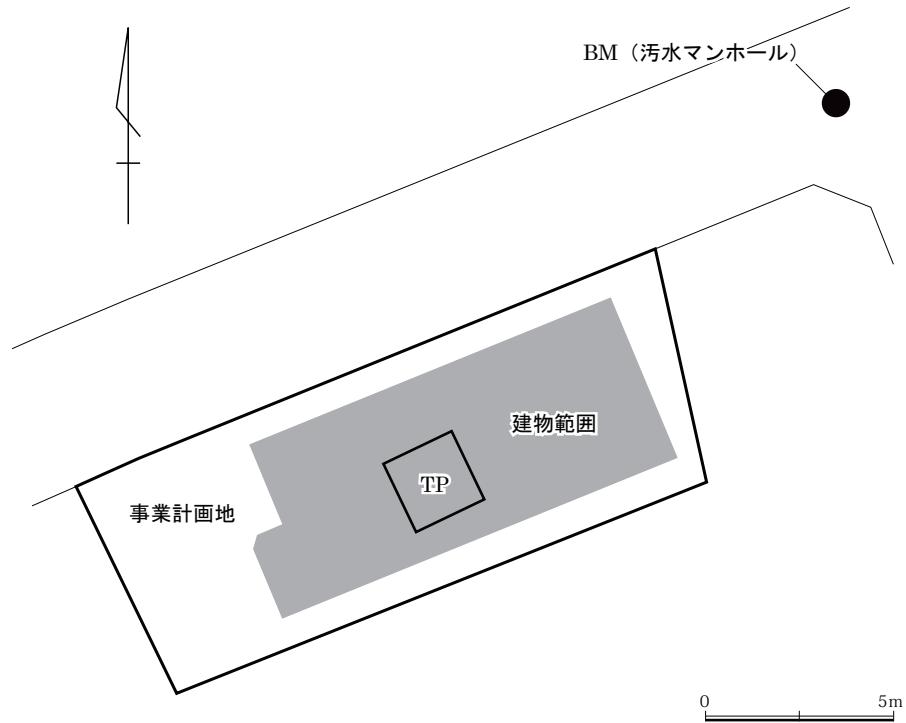
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

世層。

6層：黄褐色砂質土。しまりあり。粘性あり。

土粒均一。全体に斑に酸化する。著しく湧水する。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

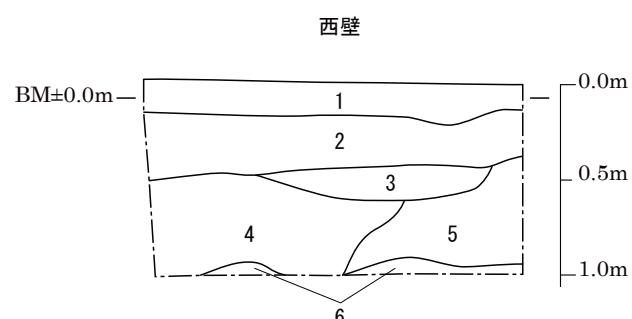
発見遺構：なし

出土遺物：陶器、磁器、ガラス製品

(2) 調査所見

調査の結果、地表下100cm付近まで近現代の陶磁器を含む堆積土が確認された。

明治～昭和期の陶磁器が集中して出土した4層は近現代のごみ穴である可能性が考えられる。4層は5層の近世層を掘り込み構築されている様子を確認した。5層は全体に宝永パミス、スコリアを含む近世宝永期以降の堆積層であるが、近世に属する遺物の出土は確認されなかった。4層及び5層の直下では部分的に6層の堆積が確認されたが、地表下100cm付近で著しく湧水した。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	4層	陶器 蓋	4	207.3
		磁器 碗	1	129.0
		磁器 猪口	1	9.3
		ガラス 小瓶	1	19.6
		ガラス 瓶	1	106.7
		ガラス 化粧瓶	1	150.2
		ガラス 薬品瓶	1	165.4
		合計	10	787.5

6層は土粒が均一な黄褐色砂質土であり、遺物の出土がないことから地山層である可能性も考えられる。また、湧水面の高さから6層は全体に酸化し、斑に赤褐色を呈する。

調査の結果、地表下約100cm付近まで近現代

の陶磁器を含む堆積土と宝永期以降の近世層であった。部分的に6層とした黄褐色砂質土の堆積が確認されたが、著しい湧水に見舞われたため、それ以下の調査は断念した。



写真1 調査地点近景 (北東から)



写真2 調査区設定状況 (北から)



写真3 完掘状況 (東から)



写真4 東壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-48 茅ヶ崎市香川二丁目 1582番2、3及び1586番13、16

1 調査年月日 令和5(2023)年10月19日(木)

2 調査目的 集合住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 東遺跡(No.24)

(2) 種別 集落跡、遺物散布地

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北東部、諏訪神社の南東側に隣接する場所に位置する。調査当時は集合住宅が建っており、調査地点の標高は約9.0mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲及び雨水貯留施設範囲に2.0m×2.0mの調査区をそれぞれ1箇所ずつ計2箇所設定して調査を実施した。調査区設置場所がアスファルトで舗装されていたため、事業主の方にあらかじめアスファルト舗装を除去してもらい調査に臨んだ。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：アスファルト。

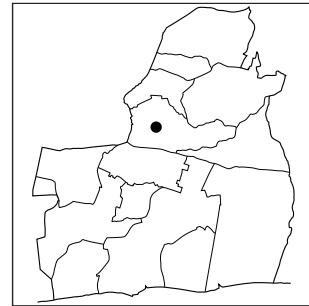
2層：路盤材と碎石。

3層：にぶい灰白色砂質土。しまりなし。粘性なし。堆積粗い。コンクリートガラ、建材多い。盛土。

4層：コンクリート。

5層：明褐色砂。しまり強い。堆積密。土粒均一。自然堆積層。

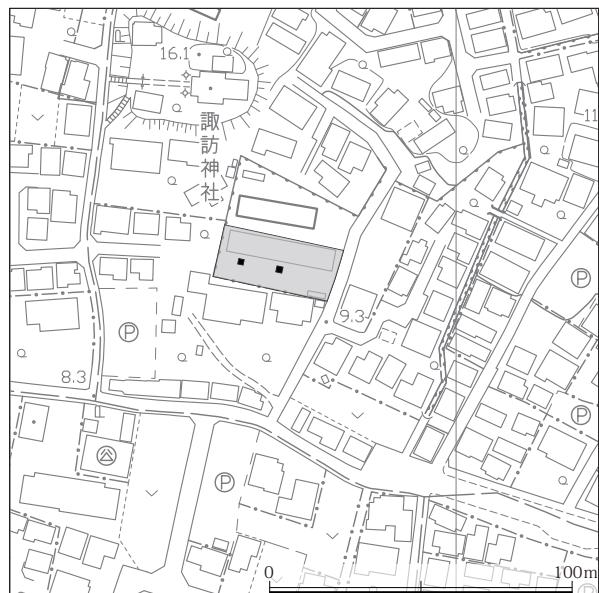
6層：青灰色砂。しまり強い。堆積密。微砂粒



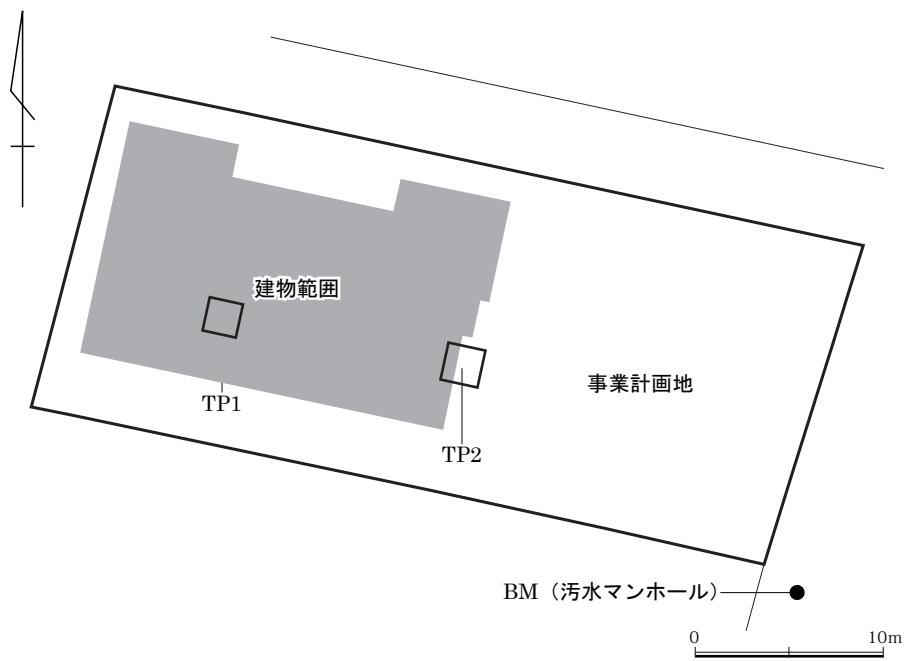
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



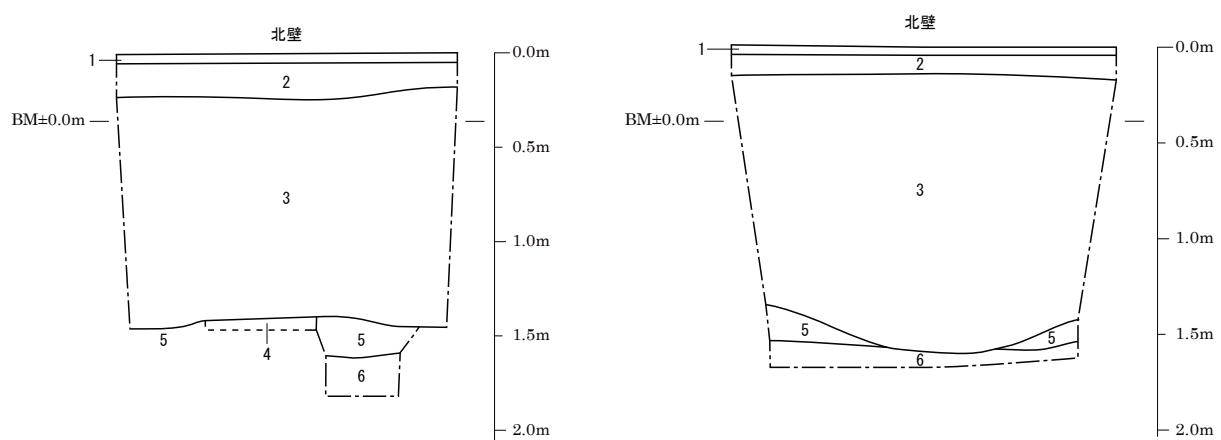
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)

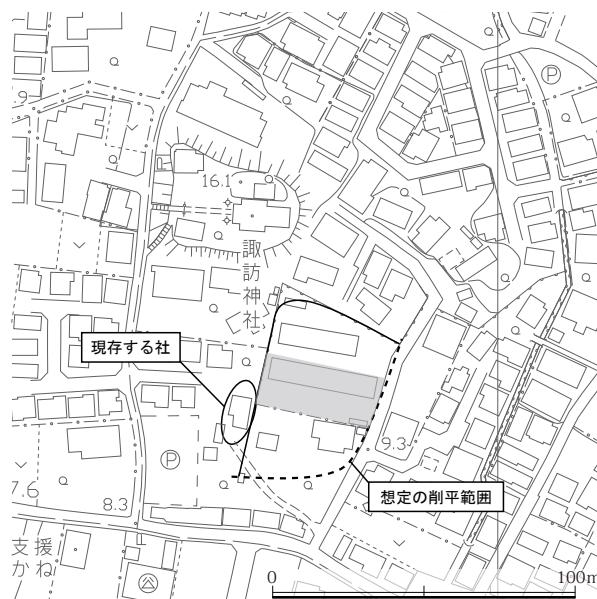


第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)

第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 聞き取り調査による削平想定図（1/2,500）

を含む。湧水する。自然堆積層。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1、2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下140cmまでは既存建物の建築に伴う盛土であった。

盛土中には、既存建物の建築に際して解体された旧建物に伴うガラが混じっており、地表下140cm付近でコンクリートの土台が確認できた。地表下150cm以下で本来の堆積層が確認された。

土地所有者に話しを伺ったところ、現在の建物が建築される前には株式会社東海カーボンの社宅が存在し、社宅建築時に本来の北へ向かう上昇傾斜の斜面を削平したことであった。現在、地形の名残は事業地西側に存在する社とその法面のみとなっている（第7図）。盛土の堆積が厚く崩落の危険性が高いため部分的な深掘りに留ましたが、地表下約160cm付近で湧水を確認した。湧水面付近は縞状に酸化の痕跡がみられ、赤褐色の酸化鉄分が確認できた。

以上、当該地においては埋蔵文化財を確認することができなかった。



写真1 調査地点近景 (東から)

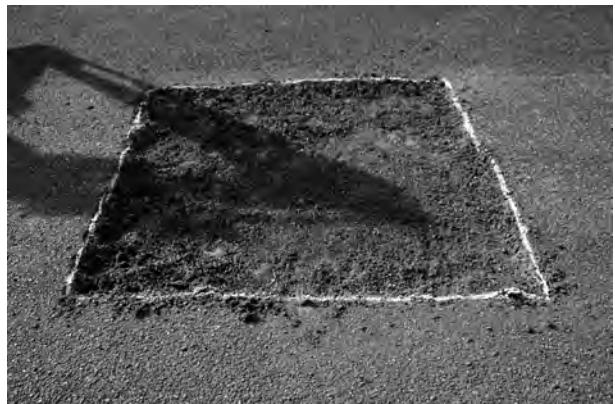


写真2 TP1 設定状況 (南から)



写真3 TP1 完掘状況 (南から)



写真4 TP1 北壁土層堆積状況

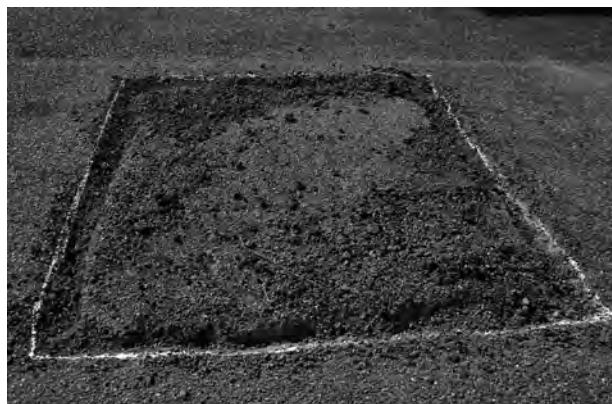


写真5 TP2 設定状況 (南から)



写真6 TP2 完掘状況 (南から)



写真7 TP2 北壁土層堆積状況

5-49 茅ヶ崎市松林二丁目 973番1及び974番1

1 調査年月日 令和5(2023)年10月20日(金)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 12.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 前田A遺跡(No.71)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立松林小学校から南側約120mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約9.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0m×2.0mの調査区を3箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する消火栓蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗黄褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。

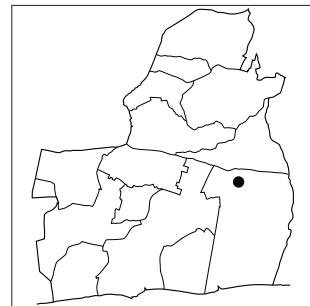
ビニールゴミ、礫を含む。ロームブロックを少量含む。表土。

2層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性なし。

宝永パミス、スコリアを全体に含む。近現代の耕作土。

3層：明褐色砂質土。しまり強い。土粒均一で細かい。宝永パミス、スコリアを含まない。中世～近世初頭の層。かわらけ出土。

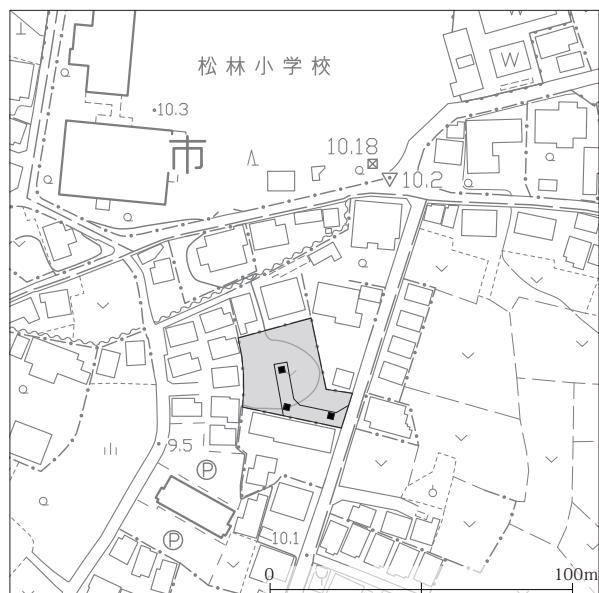
4層：暗褐色砂質土。しまり強い。土粒細かい。堆積密。橙色スコリアを含む。古代～中



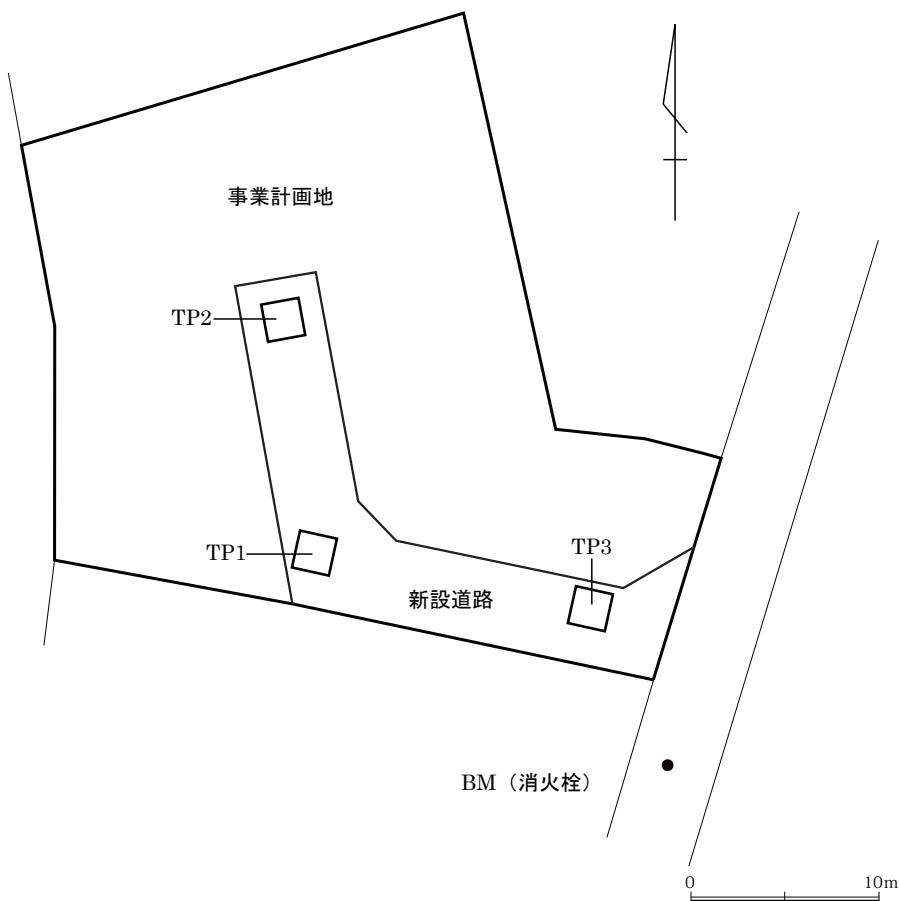
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

世層。

5層：灰白色砂。しまり強い。土粒細かい。砂丘本来の砂。部分的に斑に酸化する。自然堆積の無遺物層。地山層。

(2) 遺構覆土

〈1号土坑〉

1層：暗褐色砂質土。しまり強い。土粒細かい。全体に基本土層の5層が混ざる。略完形のかわらけ出土。

2層：暗褐色砂質土。しまり強い。土粒均一。酸化した砂、炭化物が少量混ざる。

〈2号土坑〉

1層：暗褐色砂質土。しまりなし。宝永パミス、スコリアを全体に含む。基本土層の2層に類似する。ビニールゴミを含む。

〈1号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまり強い。土粒均一。

〈3号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまりなし。宝永パミス、

スコリアを全体に含む。基本土層の2層に類似する。ビニールゴミを含む。

〈1号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色砂質土。しまり強い。土粒やや粗い。基本土層の5層を極少量含む。かわらけ出土。

2層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。堆積や粗い。基本土層の5層を斑にブロック状に含む。かわらけ出土。

3層：暗褐色砂質土。同遺構の1層に似るが、しまり増す。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

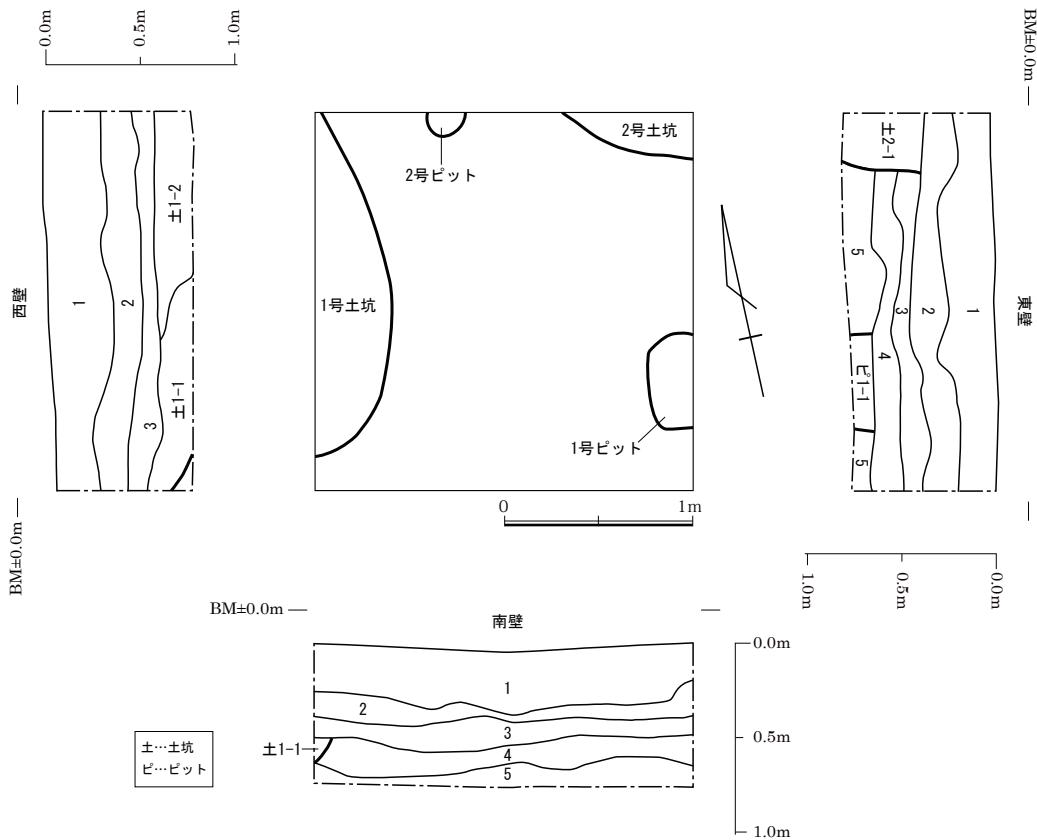
発見遺構：ピット、土坑

出土遺物：土師器、かわらけ、礫

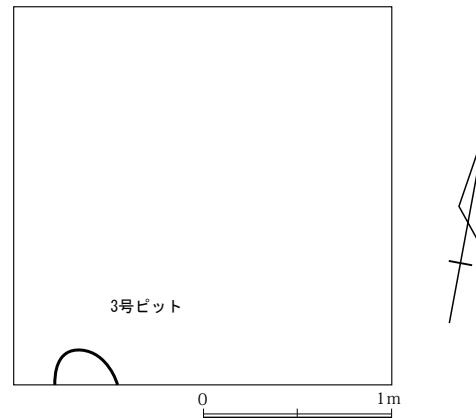
〈TP2〉

発見遺構：ピット

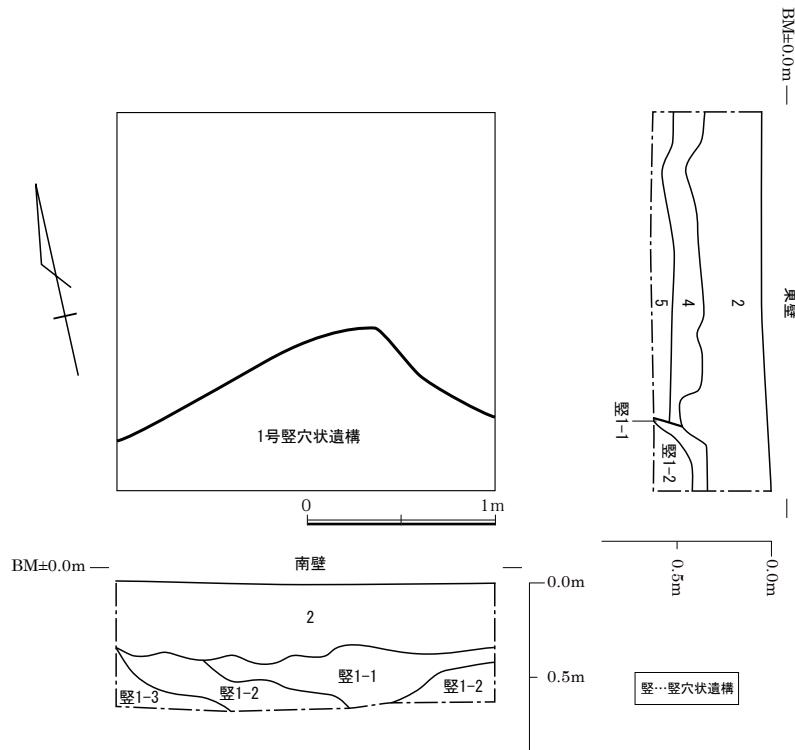
出土遺物：土師器、かわらけ、陶器



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）



第7図 TP3 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

〈TP3〉

発見遺構：竪穴状遺構

出土遺物：土師器、かわらけ、陶器、鉄製品

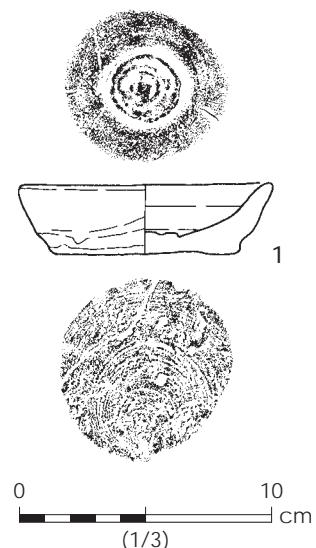
(2) 調査所見

調査の結果、地表下50cm付近まで近現代の耕作土が確認され、それ以下では基本土層の5層を掘り込む古代～中世の遺構を確認できた。

TP1は包含層の残存状況が良好であり、複数の遺構が確認された。中でも略完形のかわらけ(第8図)が出土した1号土坑は、平面形状が橢円形であり、有機物の残存は確認できなかったものの土壙墓である可能性が考えられる。かわらけは底部に明瞭な回転糸切り痕が残された厚手のものであり、15世紀～16世紀前半頃であると推測される。2号土坑については、ビニールゴミを含む基本土層の2層に類似した覆土から、近現代の耕作に伴う掘り込みと推測される。

TP2は堆積層の残存は良好であるが、近世以前の遺構は確認されなかった。3号ピットは確認されたものの、2号土坑と同様近現代の耕作に伴う掘り込みと推測される。包含層である基本土層の3層からはかわらけが出土している。

TP3は現況の出入口であり、そのため近現代



第8図 実測遺物 (1/3)

に堆積層が他の調査区より深く削平され、3層は消失していた。掘り込みの深い遺構は残存しており、竪穴状遺構が1基確認されている。1号竪穴状遺構からは、かわらけの大片と鉄釘が出土している。

なお、本事業に関しては、令和5年度に前田A遺跡第9次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	表土	土師器	2	6.3
		土師器 壊	1	2.3
		かわらけ	8	12.3
		礫	1	6.2
	3層	かわらけ	3	33.9
	P-1	かわらけ	5	120.6
TP2	一括	土師器	1	1.5
		土師器 蜂	1	4.8
		かわらけ	1	2.0
		陶器	2	71.3

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP3	一括	土師器	3	1.9
		土師器 蜂	2	8.2
		かわらけ	2	9.0
		陶器	3	23.9
	鉄製品 釘	1	2.3	
	かわらけ	1	13.4	
合計			37	319.9



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（北から）



写真4 TP1P-1 出土状況（東から）

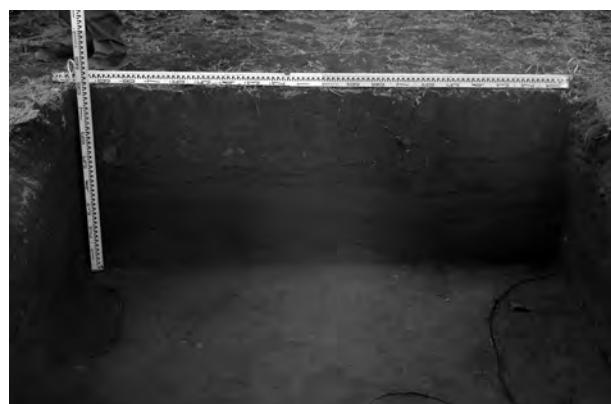


写真5 TP1 南壁土層堆積状況

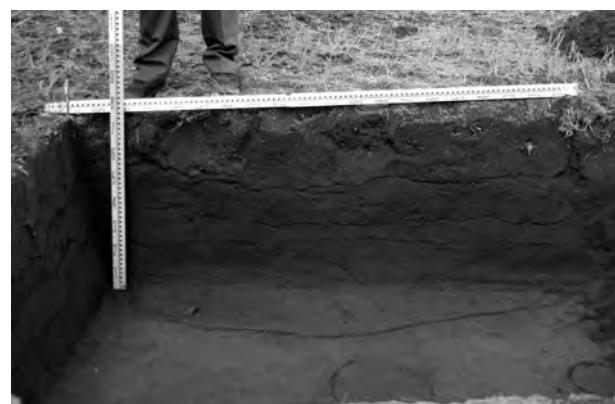


写真6 TP1 西壁土層堆積状況

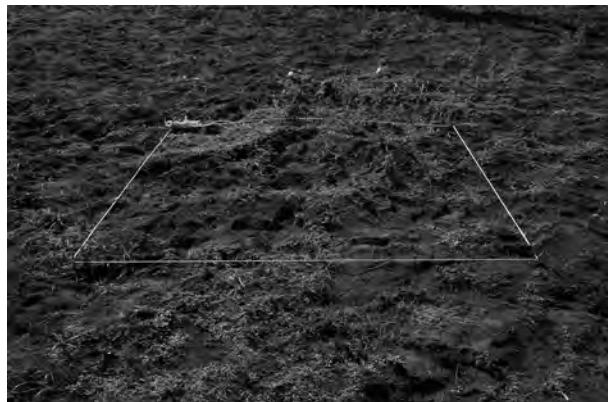


写真 7 TP2 設定状況 (北から)



写真 8 TP2 完掘状況 (北から)

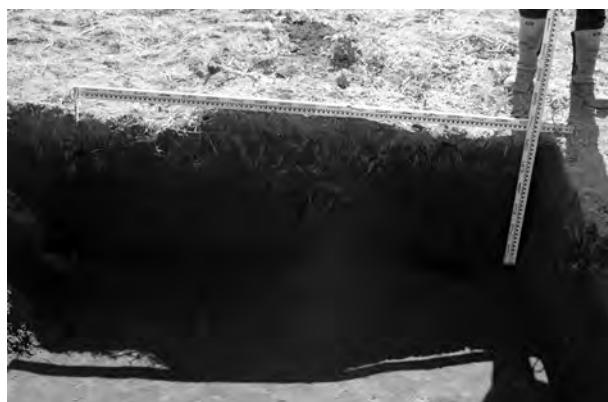


写真 9 TP2 南壁土層堆積状況

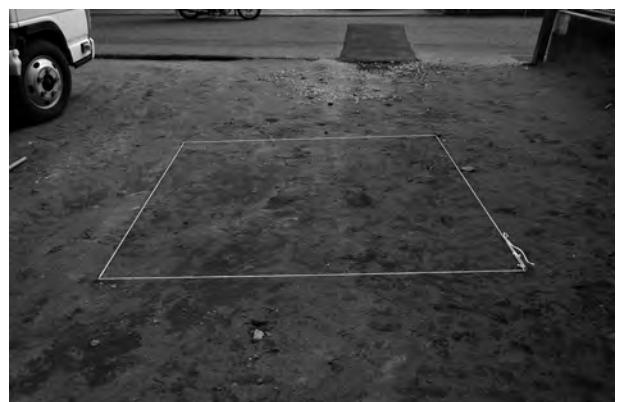


写真 10 TP3 設定状況 (西から)



写真 11 TP3 完掘状況 (西から)



写真 12 TP3 東壁土層堆積状況



写真 13 出土遺物



写真 14 実測遺物 (第8図)

5-50 茅ヶ崎市下町屋二丁目310番1

1 調査年月日 令和5(2023)年10月23日(月)

2 調査目的 集合住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 12.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 石原A遺跡(No.147)

(2) 種別 遺物散布地、集落跡、参道

(3) 時代 古墳時代(後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂質微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市南西部、茅ヶ崎市立鶴嶺小学校から南側約480mの場所に位置する。調査以前は集合住宅が建っており、調査地点の標高は約3.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を計3箇所を設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成、写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

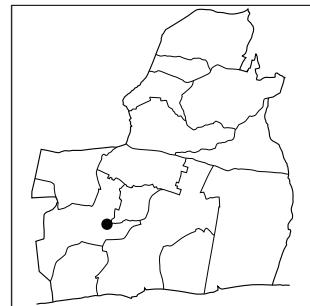
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。既存建物の解体に伴う土。コンクリートガラ、礫混ざる。

2層：黄褐色土。しまり強い。粘性強い。既存建物に伴う盛土とみられる。ローム土を多く含む。

3層：灰褐色土。しまり強く、転圧を受ける。部分的にロームブロック、ビニールゴミを含む。埋土。

4層：灰褐色砂質土。しまり強い。粘性弱い。堆積密。上位に宝永パミス、スコリアを少量含む。中世～近世の包含層。



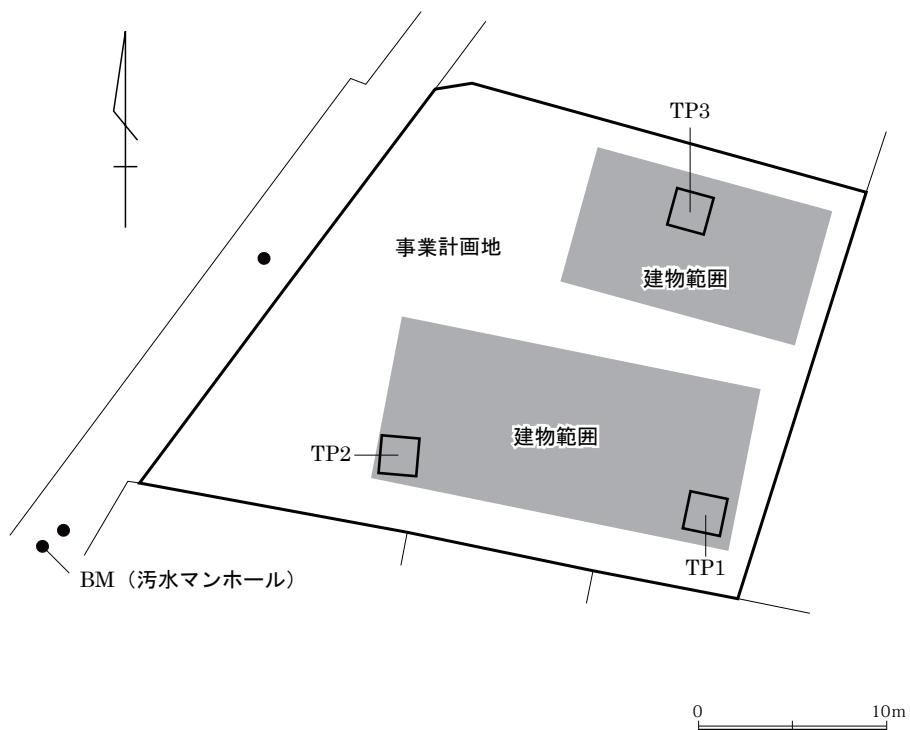
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

5層：灰褐色砂質土。しまり強い。橙色スコリアを中量含む。土師器片含む。古代～中世の包含層。

6層：にぶい灰褐色砂質土。しまり極めて強い。堆積極めて密。無遺物の地山層。砂分強い。斑に酸化する。

7層：にぶい灰黄褐色砂質土。しまり弱い。堆積粗い。基本土層の6層に砂を多く含むもの。

8層：にぶい灰褐色砂質土。基本土層の6層より砂分が強いもの。砂粒大きくなる。

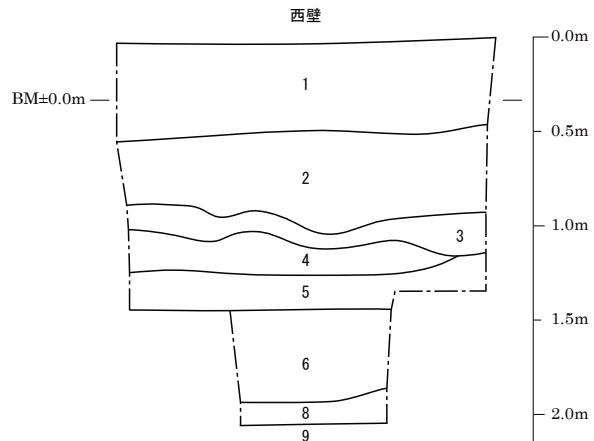
9層：砂礫層。しまりなし。含まれる砂粒は大きく、 ϕ 8～15cmの礫を多量に含む。

10層：灰褐色砂。しまりあり。 ϕ 10～30mmの小礫を多く含む。砂粒均一。

11層：にぶい黄褐色砂質土。しまり強い。粘性あり。土粒細かい。基本土層の12層を少量含む。二次堆積ローム主体。

12層：灰褐色砂。基本土層の10層が酸化したもの。

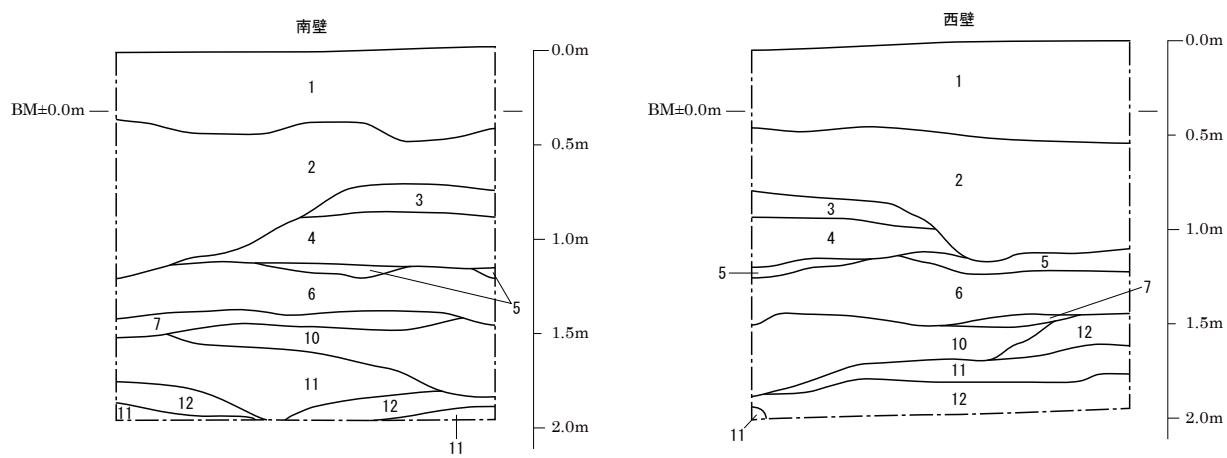
13層：基本土層の11層がより酸化したもの。金雲母多く含む。



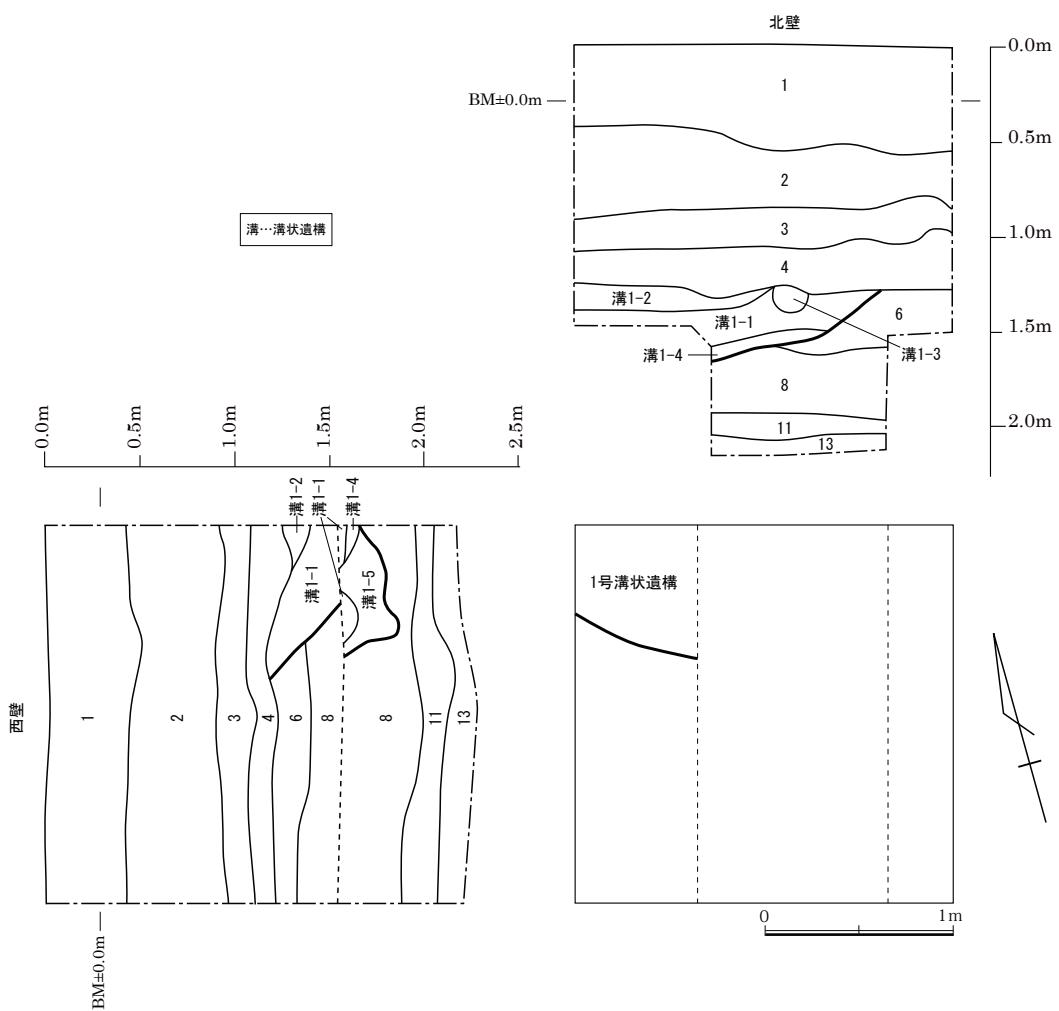
第5図 TP1 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1層	土師器	3	2.2
		土師器 壊	2	4.6
	一括	土師器 壊	1	3.1
		土師器 囊	2	7.5
TP2	一括	須恵器 囊	1	81.6
		土師器	1	0.5
	一括	土師器 壊	1	1.8
TP3	一括	土師器 囊	1	1.0
		須恵器 囊	1	20.1
	合計		13	122.4



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

(2) 遺構覆土

〈溝状遺構1〉

- 1層：にぶい灰褐色砂質土。しまり弱い。堆積粗い。基本土層の6層に基本土層の5層を斑に含む。
- 2層：にぶい灰褐色砂質土。しまりあり。粘性弱い。基本土層の6層主体。
- 3層：にぶい灰褐色砂質土。堆積粗い。基本土層の8層を多く含む。
- 4層：黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。全体に酸化する。
- 5層：にぶい灰褐色砂質土。しまりなし。堆積粗い。基本土層5層と基本土層の6層が混ざったもの。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1、2〉

- 発見遺構：なし
出土遺物：土師器、須恵器

〈TP3〉

- 発見遺構：溝状遺構
出土遺物：土師器、須恵器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下120cm(基本土層1～3層)までは建材ガラを含む建物解体に伴う攪乱された土であった。地表下120～180cmまでは古代～近世の遺物包含層が残存しており、橙色スコリアの有無で上下2層(基本土層4、5層)に分類される。基本土層4層は橙色スコリアを含まず、上位に宝永パミス・スコリアを含む中世～近世の遺物包含層であり、基本土層5層は橙色スコリアを含む古代～中世の遺物包含層と推測される。遺物包含層からの出土遺物は土師器、須恵器であった。

基本土層6層は砂分を多く含む土粒が均一で堆積密な堆積層であった。部分的に酸化が確認され、密で均一な堆積状況から無遺物の地山層であると推測される。また、TP3の古代に属すると推測される溝状遺構が基本土層6層を掘り込み

構築されていることなどからも、地山層であると推測される。

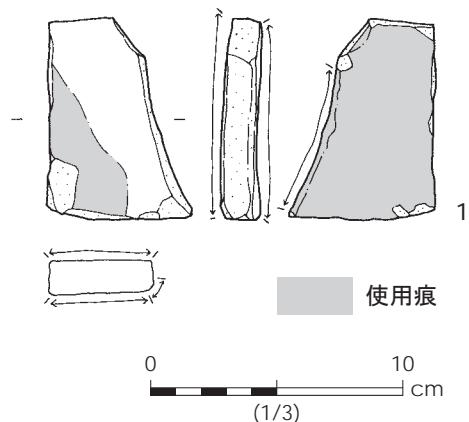
基本土層8層は基本土層6層に類似するが、より砂分が強くなり粗粒砂を多く含む。基本土層9層になると小礫を多く含み、砂粒も粗くなる。酸化もみられることから、旧相模川に由来する砂礫層であると考えられる。

基本土層10～12層は砂主体の堆積層であり、土粒の細かい砂が相互に堆積し、層位の境界は緩いカーブを伴う縞状の堆積であった。また、それぞれの層位の間には酸化した堆積層が確認された。遺物は出土しなかった。

1号溝状遺構は6層を掘り込み構築されており、覆土は橙色スコリアを含む古代の特徴を呈していた。出土遺物はなかったが、覆土中に6層をブロック状に混入しており、下位層になるほど砂分が強くなっている様子が確認された。このことから、古代に属する意向であると推測される。

第8図はTP1から出土した須恵器の甕である。色調は外面は灰白色(2.5Y7/1)、内面は灰褐色(7.5YR4/2)を呈する。胎土は密で焼成は良好、外面にタタキ目を有する。内外面問わず全体を擦っており、砥石に転用されたと考えられる。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。なお、当該地においては事業計画に伴い令和5年度に石原A遺跡第12次調査を実施した。



第8図 実測遺物(1/3)



写真1 調査地点近景 (南西から)



写真2 TP1 設定状況 (北から)



写真3 TP1 完掘状況 (東から)



写真4 TP1 西壁土層堆積状況



写真5 TP2 設定状況 (北から)



写真6 TP2 完掘状況 (東から)



写真7 TP2 南壁土層堆積状況



写真8 TP2 西壁土層堆積状況



写真 9 TP3 設定状況 (南から)



写真 10 TP3 完掘状況 (南から)



写真 11 TP3 西壁土層堆積状況



写真 12 出土遺物



写真 13 実測遺物 (第8図)

5-5-1 茅ヶ崎市小和田三丁目929番3、930番1

1 調査年月日 令和5(2023)年10月27日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 餅塚遺跡(No.65)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立小和田小学校から北西側約180mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約13.7mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。

コンクリートガラ、ごみを含む。東側斜面の擁壁工事に伴う埋土。

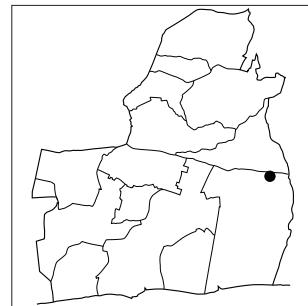
2層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性なし。

砂混じる。宝永火山灰を少量含む。転圧を受ける。盛土。

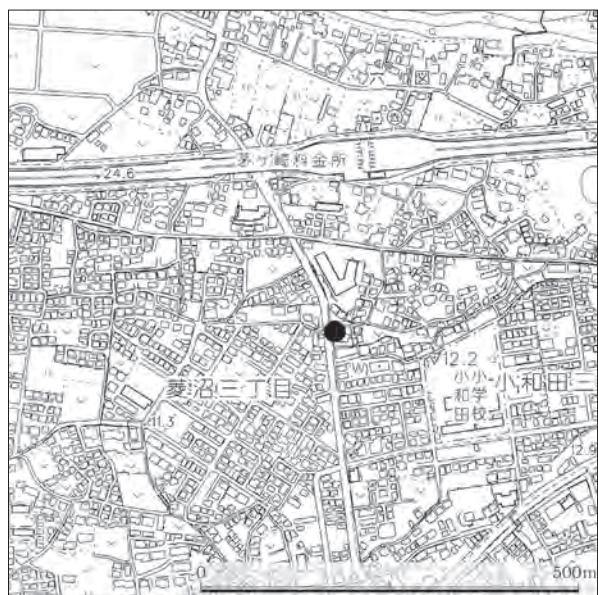
3層：暗褐色砂質土。しまりなし。粘性少ない。

宝永火山灰を少量含む。ガラス片、ごみ混じる。砂少量含む。樹木の根を多く含む。

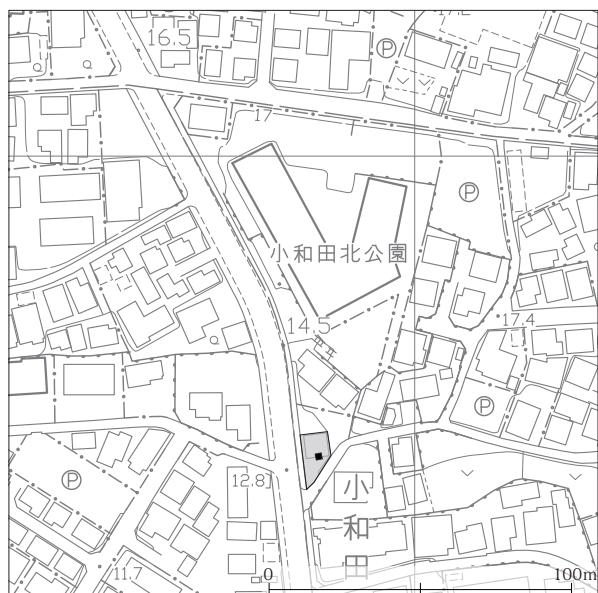
4層：黄褐色砂。しまりあり。堆積密。微砂粒を少量含む。自然堆積層。



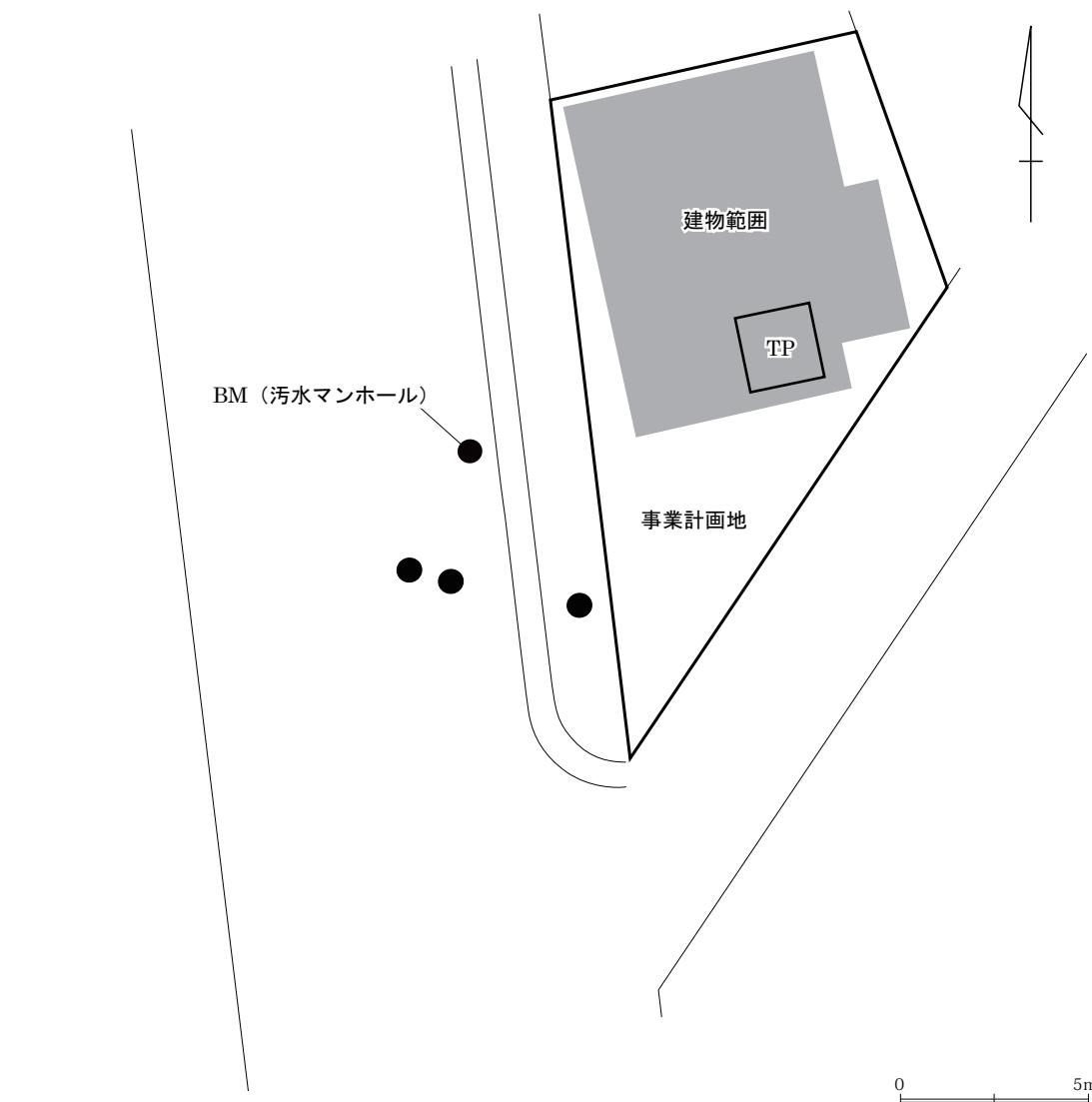
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



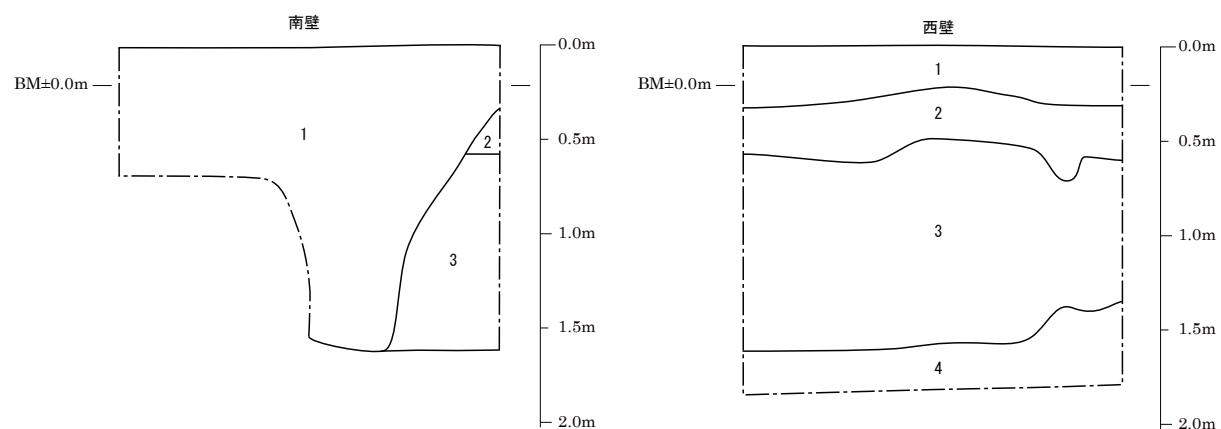
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



第5図 土層断面図 (1/40)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、事業計画地南東側の道路に伴う擁壁工事の埋土である1層が厚く堆積している様子が確認された。なお、1層が擁壁工事に伴う埋土であると仮定したのは、調査中に南東側道路部分のアスファルト舗装工事を実施していた工事業者からの情報提供である。2層は事業地を更地に整地した際の転圧を強く受けており、3層はガラ

ス片やビニールゴミを含む土であった。地表下150cm付近で黄褐色砂である4層を確認した。4層は土粒、しまりが均一な堆積をしていることから自然堆積層であると考えられ、遺構、遺物の出土がないことから、文化層以前の堆積層と推測される。

調査の結果、地表下150cm付近までは近現代のごみを含む土であった。その直下には黄褐色砂の堆積が確認されたが遺構・遺物の出土はなかった。以上、当該地においては埋蔵文化財は確認されなかった。



写真1 調査地点近景（北西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（北から）



写真4 南壁土層堆積状況

5-52 茅ヶ崎市浜之郷字宮ノ腰 516番1外9筆

1 調査年月日 令和5(2023)年10月30日(月)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 宮ノ腰遺跡(No.152)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂質微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺中学校から南西側約100mの場所に位置する。調査以前は宅地及び畠地として利用されており、調査地点の標高は約5.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の切土範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所、擁壁範囲に1.5m×3.0mの調査区1箇所、計2箇所に設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

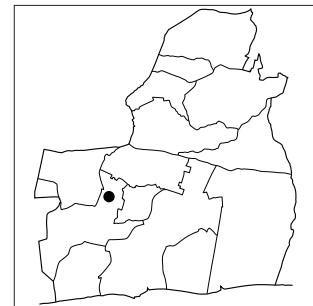
1 基本土層

1層：暗褐色土。しまりなし。粘性あり。宝永パミス、スコリアを全体に少量含む。ビニールゴミを含む。近現代の耕作土。

2層：暗褐色土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを全体に少量含む。近世～近代の磁器、土製品含む。耕作土。花畠の土。

3層：暗褐色砂質土。しまりあり。堆積粗い。宝永パミス、スコリアを少量含む。近世初頭以降の遺物包含層。

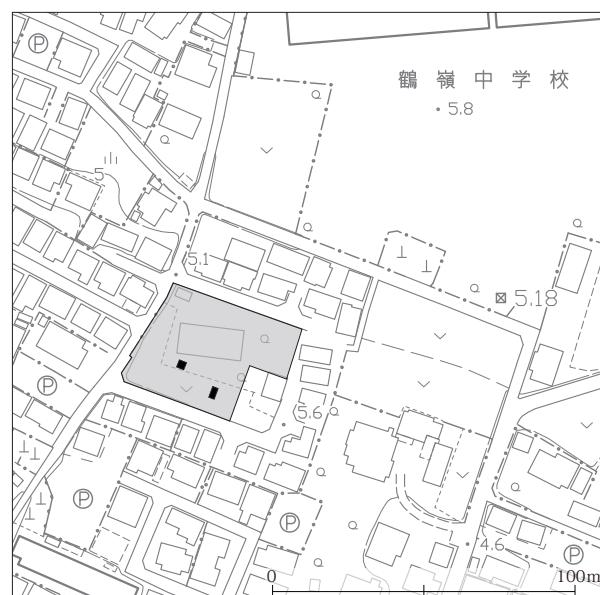
4層：暗褐色砂質土。しまりあり。堆積密。宝



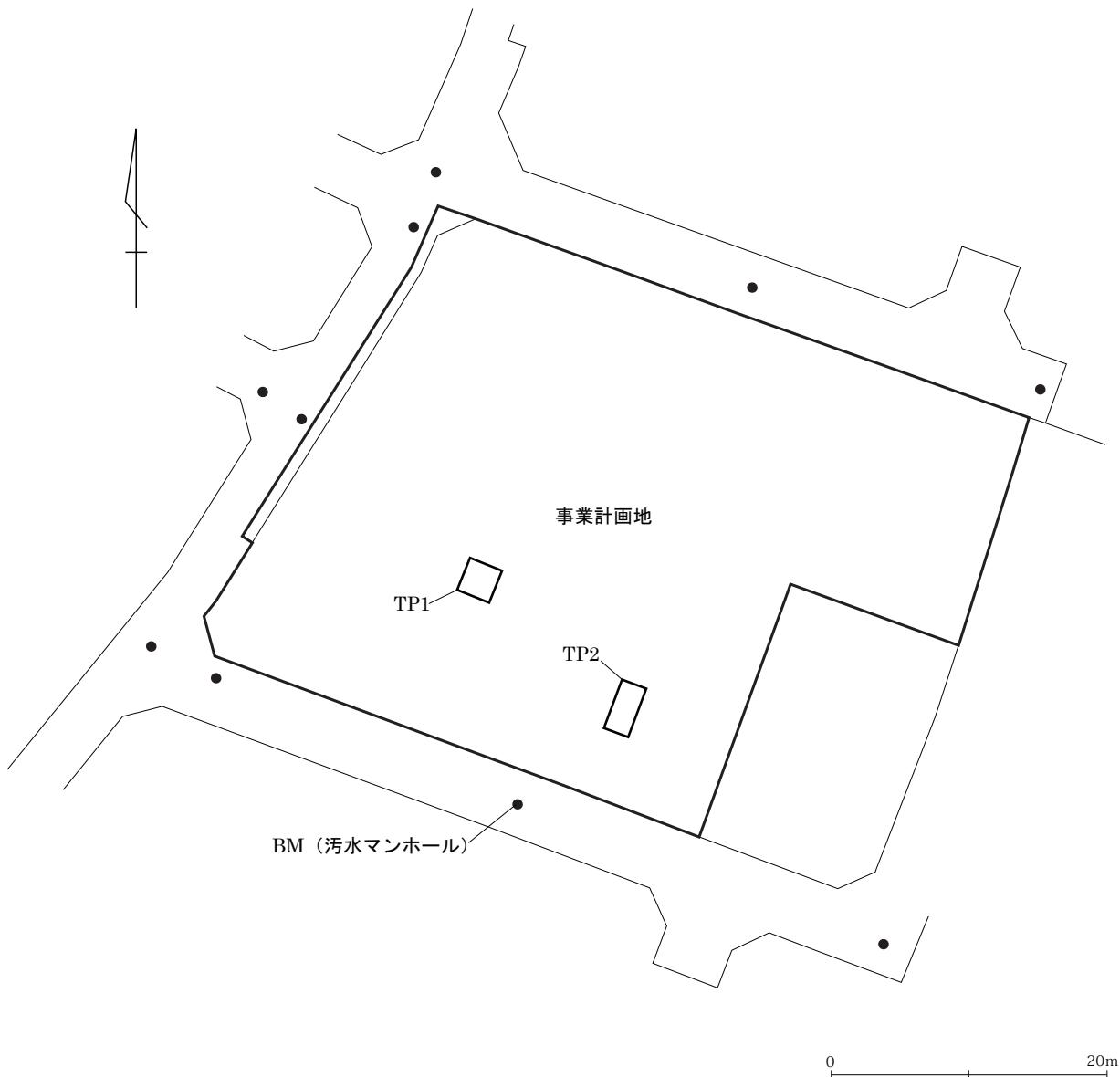
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

永パミス、スコリアを上位に少量含む。
角の丸くなった土師器片を含む。中世～
近世初頭の遺物包含層。

5層：明褐色土。しまりあり。粘性あり。橙色
スコリアを中量含む。6層を3少量下部
に含む。土師器、須恵器を含む。古代～
中世層の遺物包含層。

6層：明黄褐色粘質土。しまり強い。粘性強い。
堆積密。二次堆積ローム層。下部に7
層を多く含む。

7層：暗褐色砂。しまりなし。粘性なし。堆積
粗い。下位になるほど粗い砂と小礫を多
く含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、土製品、磁器

〈TP2〉

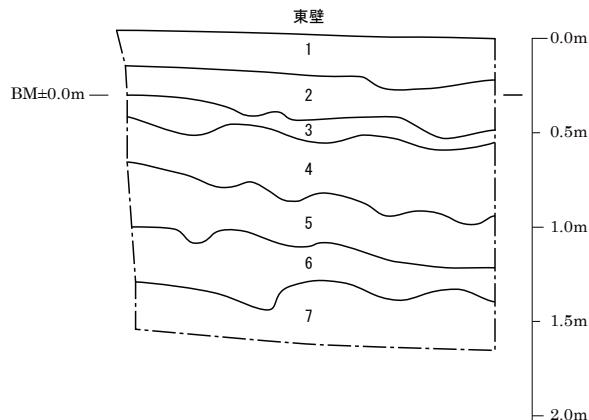
発見遺構：なし

出土遺物：土師器、須恵器、土製品

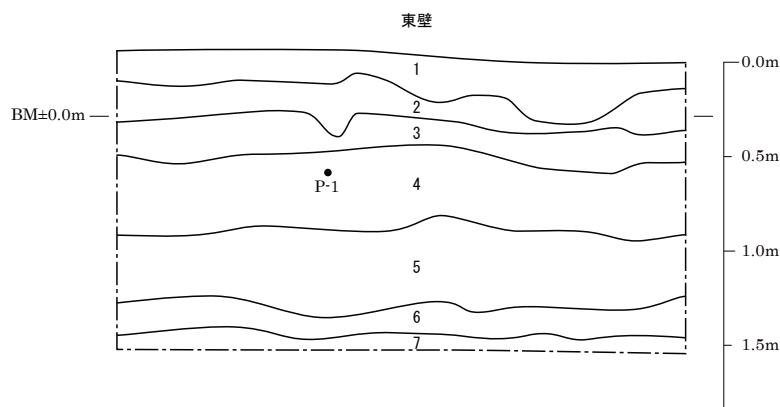
(2) 調査所見

調査の結果、地表下90cmの4層までは宝永
パミス、スコリアを含む近世初頭以降の土が堆積
している様子が確認された。

4層直下の5層は橙色スコリアを多く含む古代



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)

～中世の遺物包含層の特徴を有しており、土師器、須恵器の出土状況からも古代を中心とした年代観の堆積層であると推測される。5層の堆積は30～50cmと良好に残存していたが、今回の調査区内では遺構の検出はなかった。6層は砂質微高地に特徴的な二次堆積ロームからなる色調の明るい堆積層であり、土粒は細かく堆積は密である。6層の下位になると7層の混入が増していく様子が確認された。また、7層は下位になるほど粗い砂と小礫を含み、砂自体もやや酸化の傾向がみられた。なお、4層から出土したP-1は破断面の丸くなつた須恵器甕と考えられるが、胎土中の小礫が多く土粒も大きいことから、中世の渥美系陶器甕の可能性も指摘できる。

調査の結果、地表下90cm付近までは宝永パミス、スコリアを含む近世初頭以降の堆積層であったが、90cm以下では橙色スコリアや土師器片を

含む最大厚約50cmの古代～中世の遺物包含層が良好に残存している様子が確認された。以上、当該地においては埋蔵文化財を確認することができた。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1～3層	土師器	3	3.5
		土師器 壊	1	3.1
		土師器 甕	1	1.8
		磁器	1	0.6
		土製品	4	24.8
TP2	4層	土師器	1	0.9
		土師器 甕	2	7.0
TP2	一括	土師器	4	3.5
		土師器 壊	1	5.2
		土師器 甕	1	4.6
		土製品	2	10.0
	P-1	須恵器 甕	1	38.6
合計			22	103.6



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（西から）



写真4 TP1 東壁土層堆積状況



写真5 TP2 設定状況（北から）

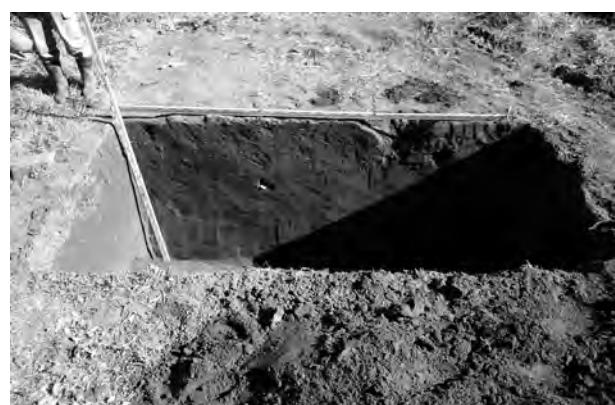


写真6 TP2 完掘状況（西から）



写真7 TP2 東壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-53 茅ヶ崎市西久保1624

1 調査年月日 令和5(2023)年11月6日(月)

2 調査目的 変電施設新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 上ノ町遺跡(No.148)

(2) 種別 集落跡、居館跡

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北西部、東京電力茅ヶ崎変電所内に位置し、調査地点の標高は6.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地建物範囲付近の安全作業圏内に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業計画地内に所在する水準点を原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

1層：碎石。

2層：碎石+ローム土。

3層：碎石+ローム土。2層よりローム土の比率多い。

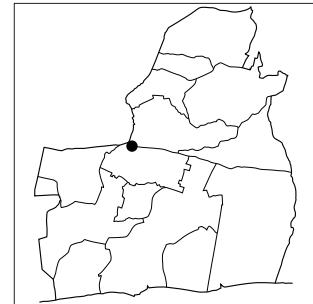
4層：ローム土主体。高圧送電線の埋土。

5層：暗灰オリーブ色粘質土。しまり強い。粘性強い。碎石やビニールごみを含む埋土。重油またはタールを全体に含む。土師器、陶器を含む。

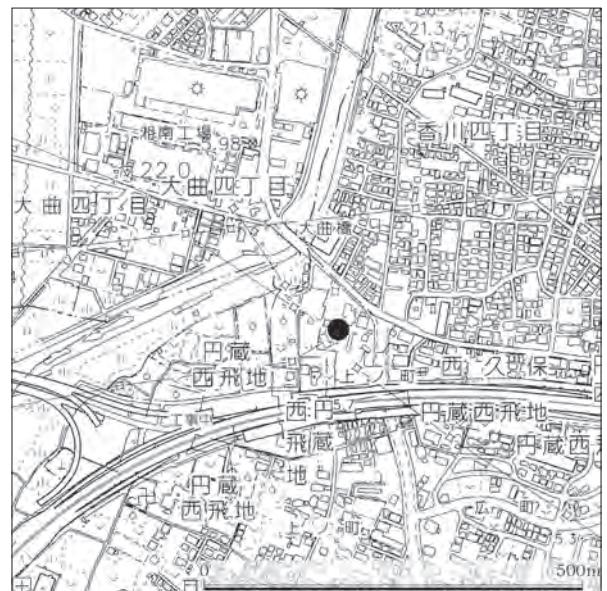
6層：暗灰オリーブ色粘質土。しまり強い。粘性強い。重油による変色。タール臭強い。

7層：暗灰オリーブ色粘質土。しまり強い。粘性強い。重油による変色が縦に入る。

8層：褐鉄の集合体。しまりなく、脆い。



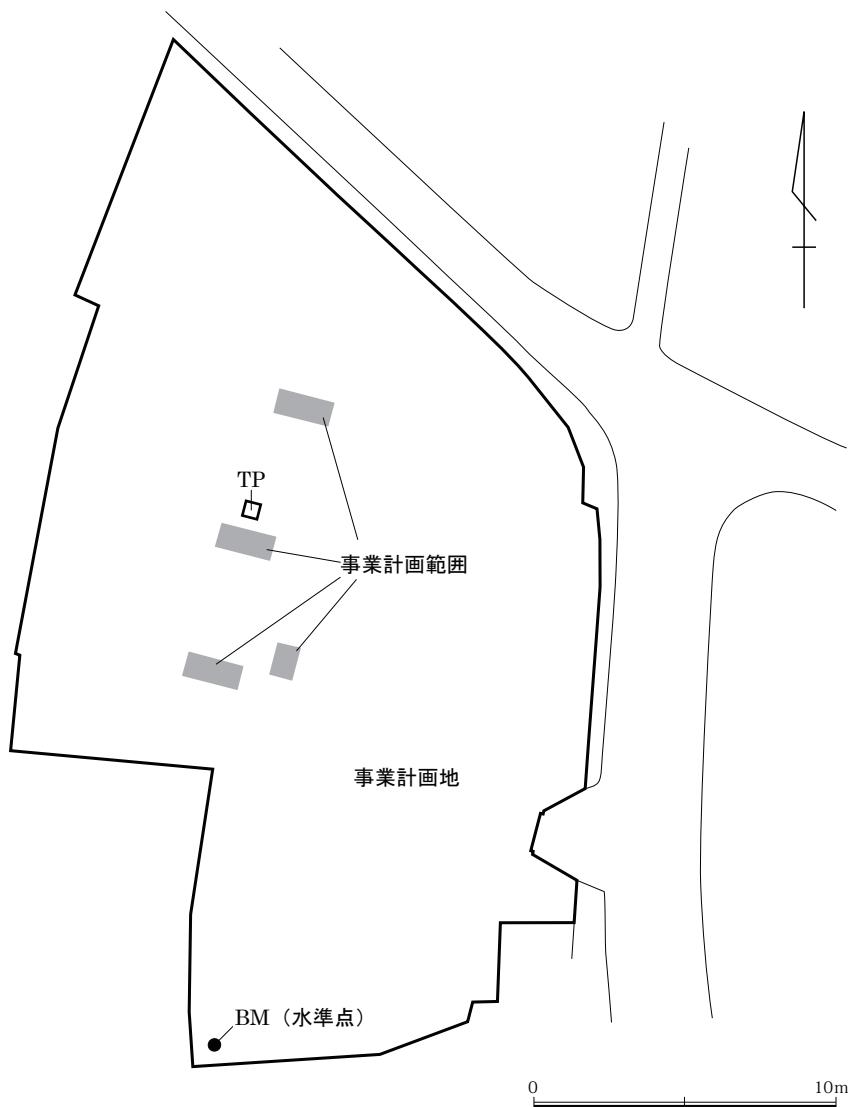
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/1,000)

9層：暗灰オリーブ色粘質土。しまり強い。粘性強い。宝永パミス・スコリアを全体に極少量含む。全体に褐鉄を含む。

10層：暗灰オリーブ色粘質土。しまりあり。粘性強い。黒色スコリアを中量含む。全体に堆積均一。分解途上の植物片を全体に含む。

11層：暗灰オリーブ色粘質土。しまりあり。粘性極めて強い。土粒細かい。分解途上の植物片を含む。

12層：暗灰オリーブ色粘質土。土粒均一。酸化

粒多い。砂を極少量含む。部分的に酸化する。

13層：暗灰オリーブ色砂質土。しまり極めて強い。土粒細かい。斑に酸化する。砂含む。

9 調査結果

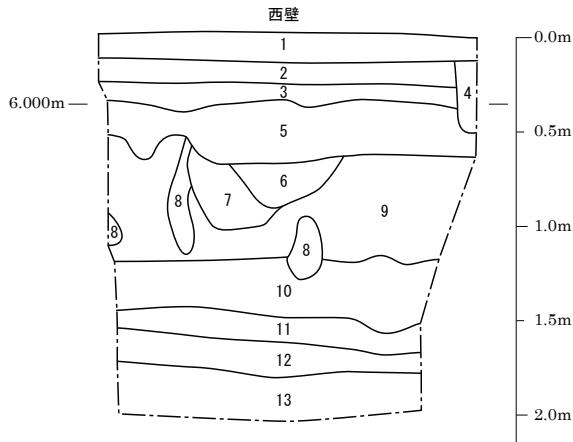
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：土師器、陶器

(2) 調査所見

調査の結果、地表下40cmまでの1～4層は現況の変電施設に伴う造成土であった。直下には



第5図 土層断面図 (1/40)

地表下70cmまでビニールごみを含む5層が堆積しており、堆積土中から土師器と陶器の細片が出土した。5層直下には地表下120cmまで宝永パミス、スコリアを含む9層の堆積が確認でき、部分的に変色と多量の褐鉄鉱の分布が確認された。なお、6層や7層、9層の変色原因は以前に本地点に存在した高圧コンデンサに使用していた重油とポリ塩化ビフェニルによるものであるとのことであり、強いタール臭と刺激が感じられた。

地表下120～200cmまでは暗灰オリーブ色粘質土の堆積が確認され、腐植物や砂の多少により10層に分類される。上位層には腐植物の含有が多く、下位層には砂が多く含まれている。酸化粒が全体に含まれることや腐植物の分布状況からは、砂丘から小出川に至る湿地帯に位置していたものと推測される。なお、堆積土は全体に重油の変色を受けていたため、本来の堆積層よりも色調は暗く変化しているものと考えられる。10層に含まれる黒色スコリアの一部は割ると中央部分が赤色味を帯びていることから、橙色スコリアが重油や水分によって変色した可能性が考えられる。そのため、10層、11層の年代観は古代前後と考えられる。12層は砂分が多く、土粒が均一であることから、無遺物の地山漸移層である可能性が推測される。

調査の結果、近世層である9層直下には湿地性の堆積層が確認され、10層、11層には変色した橙色スコリアとみられる粒子や黒色スコリアが確認できた。10、11層からの遺構、遺物の出土は無く、分解されつつある植物の破片が多量に確認された。このことから、当該地は小出川周辺に分布していた湿地帯に位置していると推測され、埋蔵文化財の密度は低い地点であると推察される。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	2層	土師器 壊	1	1.4
		陶器	1	28.1
合計			2	29.5



写真1 調査地点近景（北西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（東から）



写真4 西壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-54 茅ヶ崎市矢畠字勝沼 1338 番 1 及び 2

1 調査年月日 令和5(2023)年11月9日(木)

2 調査目的 集合住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 勝沼遺跡 (No.158)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、茅ヶ崎市消防署から南西側約210mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約4.4mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建築範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

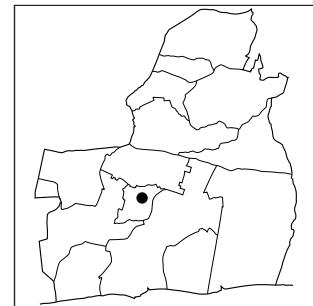
1層：暗褐色土。近現代のゴミが入った土。

2層：にぶい暗褐色土。しまり弱い。粘性なし。宝永パミス、スコリアを全体に含む。近世層。

3層：にぶい暗褐色土。基本土層2層の宝永パミス、スコリアがやや少ないもの。

4層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。橙色スコリアを極少量含む。土師器、かわらけ出土。古代～中世層。

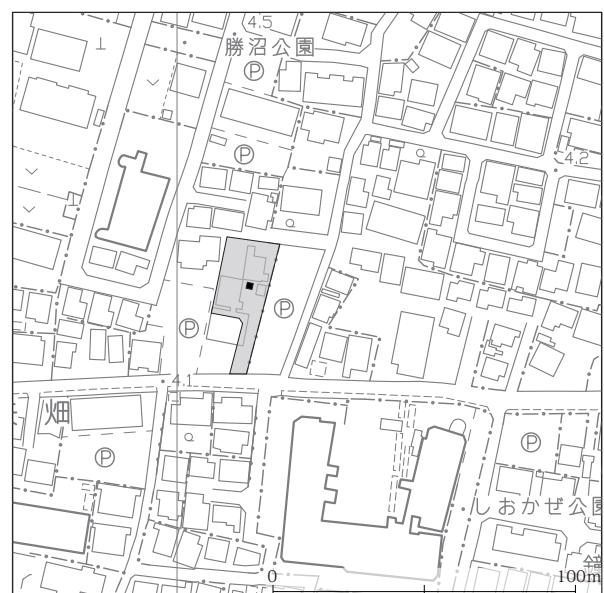
5層：暗褐色土。しまり強い。粘性極めて強い。橙色スコリア多く含む。土粒均一。土師



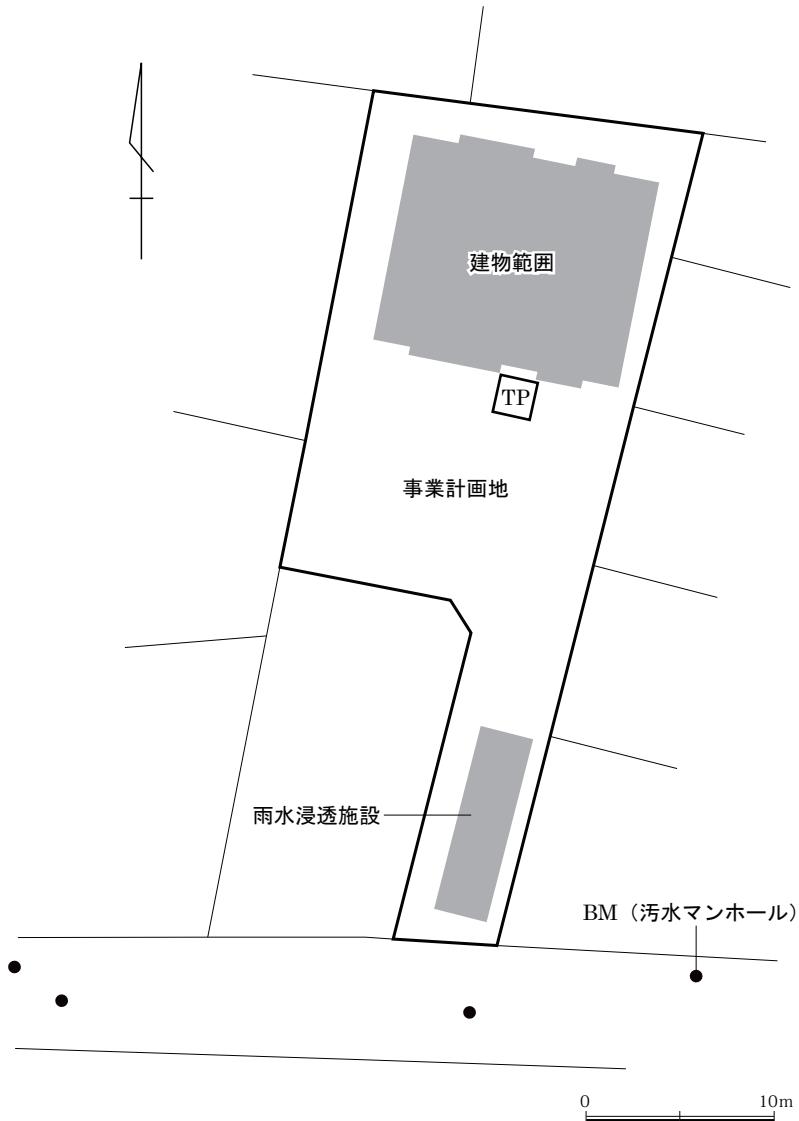
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

器、須恵器出土。古代層。

5層：黄褐色土。しまり極めて強い。土粒細かい。砂分多い。無遺物層。地山。

(2) 遺構覆土

〈2号ピット〉

1層：にぶい暗褐色土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを多く含む。

〈1号土坑〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。堆積粗い。橙色スコリア少量含む。遺物含む。

〈2号土坑〉

1層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。橙色スコリア、炭化物を少量含む。遺物含む。

〈1号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色土。しまり強く硬い。粘性あり。橙色スコリア中量含む。堆積やや粗い。土師器、須恵器、かわらけ出土。

2層：暗褐色土。同遺構1層の色調が明るいもの。

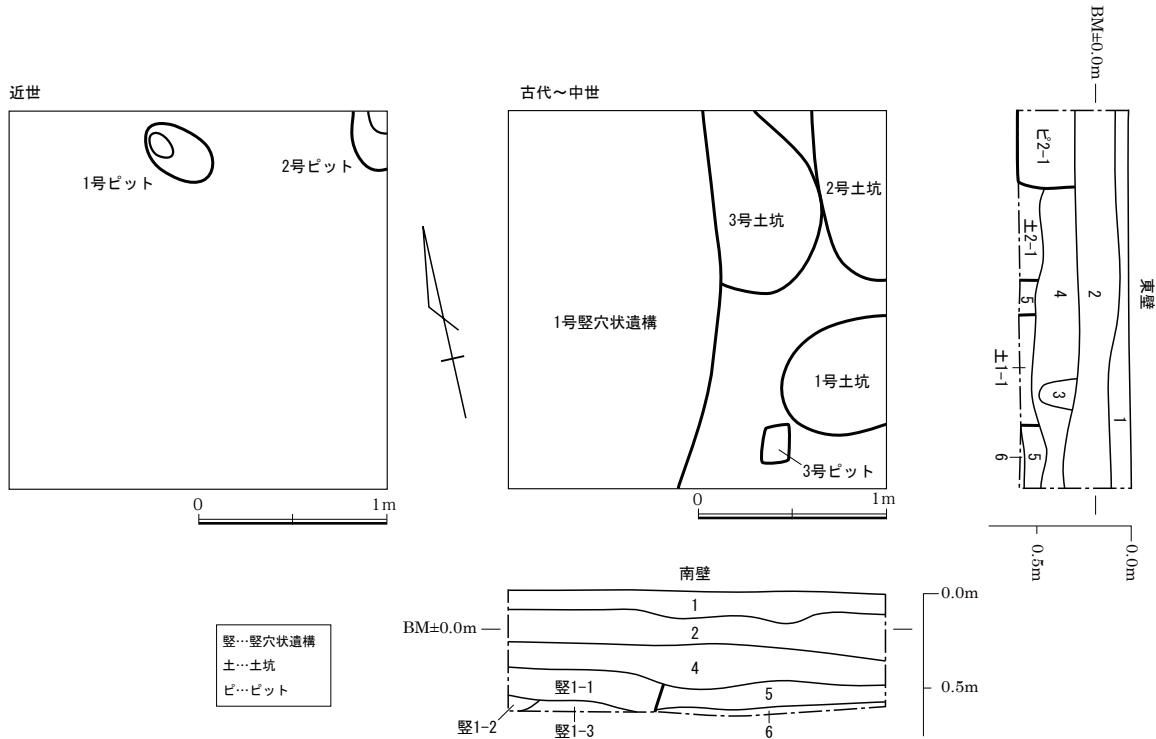
3層：暗褐色土。同遺構1層に多量の炭化物が入ったもの。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：ピット、土坑、竪穴状遺構

出土遺物：土師器、須恵器、礫



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 50cm で古代～中世の遺構を確認できた。

ピットは宝永パミス、スコリアを含む近世が主体であったが、平面形状の四角い中世と推測されるものも確認された。竪穴状遺構は南側に炭化物が集中していたが、焼土の混入は全体的に微量であった。遺構の切り合い関係からは、土坑よりも竪穴状遺構の方が新しいといえる。

遺物は古代が主体であるが、かわらけも出土している。特に、1号竪穴状遺構からかわらけが出土する傾向が強かったため、1号竪穴状遺構は中世の遺構である可能性が高い。

以上、当該地において埋蔵文化財が高い密度で確認された。このことから、本事業については令和 6 年度に勝沼遺跡第 5 次調査を実施した。

表 1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	2層	土師器	5	5.5
		土師器 壊	2	3.5
		土師器 蜂	1	1.1
		礫	1	4.0
	5層	土師器	7	6.1
		土師器 壊	6	14.9
		土師器 蜂	5	15.7
		須恵器 壊	1	7.3
		須恵器 瓶か	1	4.4
合計			29	62.5



写真1 調査地点近景（南から）

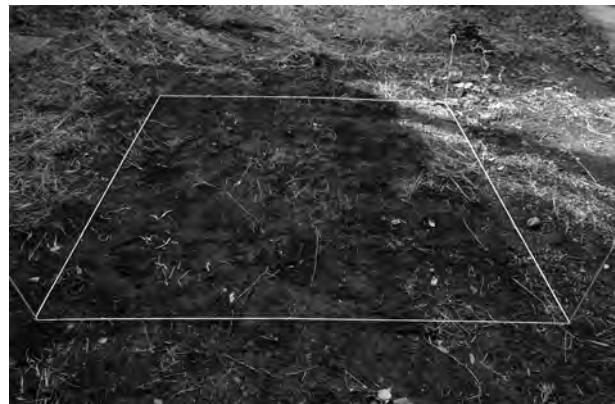


写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 近世遺構検出状況（西から）



写真4 近世遺構完掘状況（西から）



写真5 遺構確認状況（北から）



写真6 完掘状況（西から）



写真7 東壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-55 茅ヶ崎市下寺尾字北方1129番4外9筆

1 調査年月日 令和5(2023)年11月10日(金)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 1.7m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 北方横穴群(No.165)

(2) 種別 横穴

(3) 時代 古墳時代(末)

(4) 立地 台地西側低位部斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、茅ヶ崎市立北陽中学校から西側約500mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約14.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の浄化槽設置範囲に1.7m×1.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は全て人力で行った。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

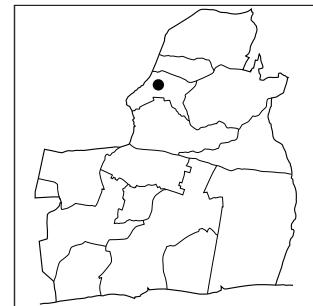
1層：暗褐色土。しまりなし。土粒さらさら。

全体に宝永パミス、スコリアを含む。ゴミ(ビニール)を含む。

2層：黒褐色土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを全体に中量含む。近世層。

3層：黒褐色土。しまりあり。堆積やや粗い。橙色スコリアを多く含む。土師器含む。古代～中世層。

4層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。白色スコリアを多く含む。弥生時代末～古墳時代初頭の土器出土。



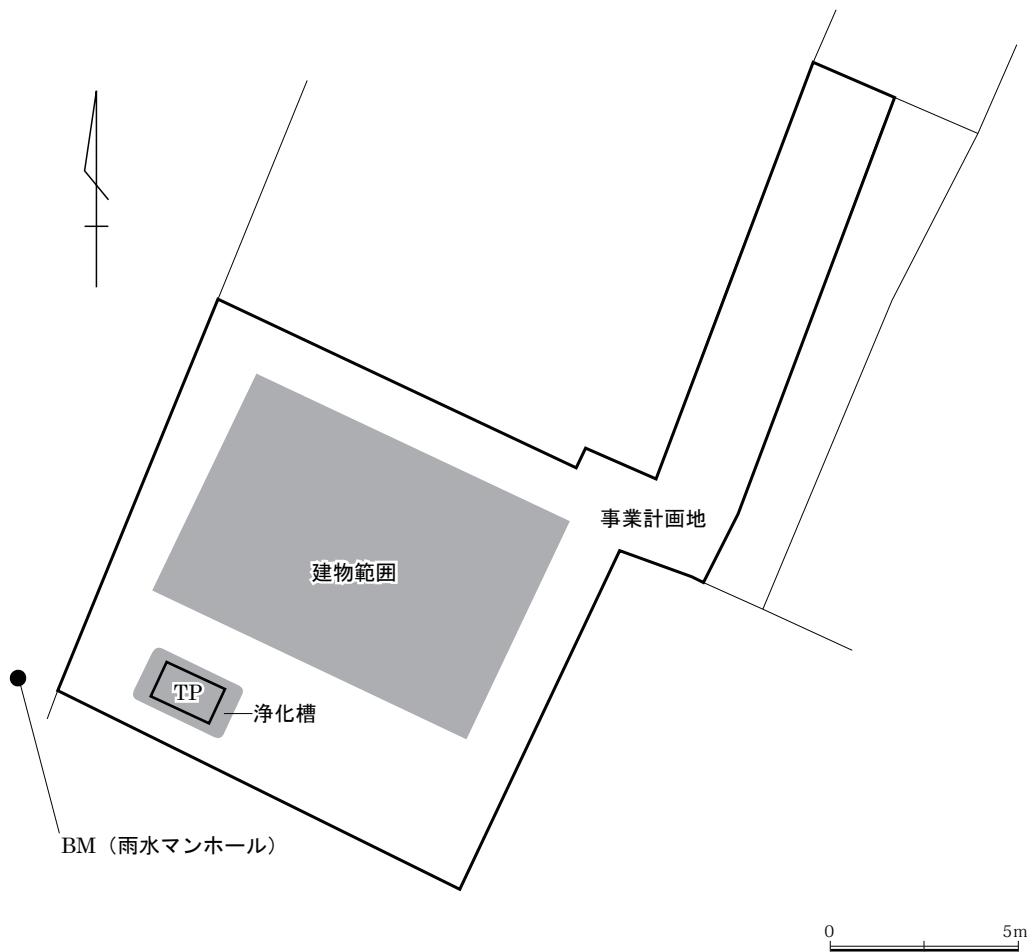
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



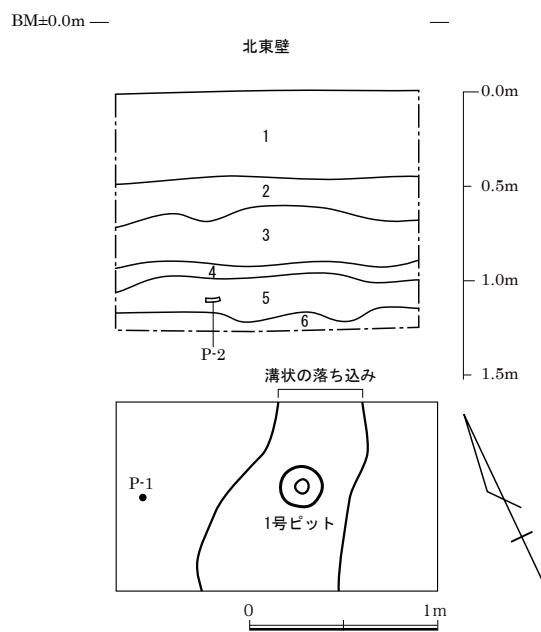
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

5層：暗黄褐色粘質土。しまり粘性極めて強い。
ローム粒を下部に多く含む。縄文土器（後期～晩期）を多量に含む。縄文時代層。
6層：ソフトローム層。粘性極めて強い。

9 調査結果

（1）発見された遺構・遺物

発見遺構：ピット

出土遺物：縄文土器、土器（弥生時代末～古墳時代頭）、土師器、礫、黒曜石

（2）調査所見

調査の結果、1層である地表下40cmまでは表土であり、それ以下では近世～縄文時代までの各層が良好に残存していた。中でも縄文時代の遺物出土量が多く、土器の大半が多量に出土している。縄文土器は後期～晩期に属するものであり、いずれも5層中位に集中して分布している。5層の堆積にはトレーナーの中央部を北東～南西方向に縦断する溝状の落ち込みが確認されている。落ち込みは、出土した土器の年代から縄文時代後期～晩期にかけての溝状遺構である可能性も考えられる。

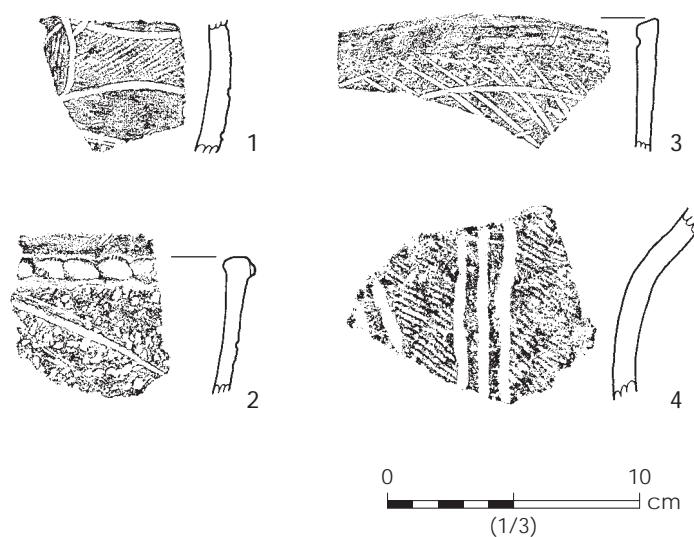
第6図はすべて縄文土器である。1は深鉢の口縁部であり、内面にミガキを有する。2は深鉢の頸部であり、胎土はやや粗く焼成は良好である。

3は深鉢の口縁部であり、胎土はやや密で白色粒を含む。内面にミガキあり。4は深鉢の胴部であり、胎土はやや密で焼成は良好、内面にミガキを有する。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	1層	縄文土器	2	15.0
		土師器	6	10.9
		土師器 壊	7	17.7
		土師器 襲	7	37.8
	3～4層	縄文土器	18	137.9
		土師器	7	8.8
		土師器 壊	2	7.3
		土師器 襲	12	79.0
		礫	2	20.2
	5層	縄文土器	64	962.8
		土師器	6	8.4
		土師器 襲	13	77.0
		礫	10	516.1
		黒曜石	1	0.1
	P-1	縄文土器	1	48.3
	P-2	縄文土器	1	67.9
合計			159	2,015.2



第6図 実測遺物（1/3）



写真1 調査地点近景 (南東から)



写真2 近世遺構検出状況 (北西から)



写真3 遺構検出状況 (南西から)



写真4 遺構完掘状況 (南西から)



写真5 北東壁土層堆積状況



写真6 出土遺物



写真7 実測遺物 (第6図)

5-56 茅ヶ崎市下寺尾字南方 2274-2 の一部外 4 筆

1 調査年月日 令和5(2023)年11月13日(月)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 南方A遺跡(No.39)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 繩文時代(中期)

(4) 立地 丘陵

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、茅ヶ崎市立北陽中学校から南東側約540mの場所に位置する。調査以前は宅地及び駐車場として利用されており、調査地点の標高は約16.2mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は人力で行った。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。表土。碎石主体。

2層：黄褐色土。ローム土主体。砂利含む。

3層：暗褐色土。ロームブロック、ガラ、金属ゴミを多く含む。埋土。

4層：ローム土。

5層：暗褐色土。水道管の埋土。

9 調査結果

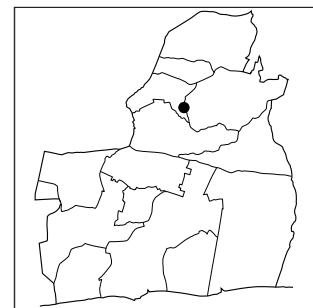
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

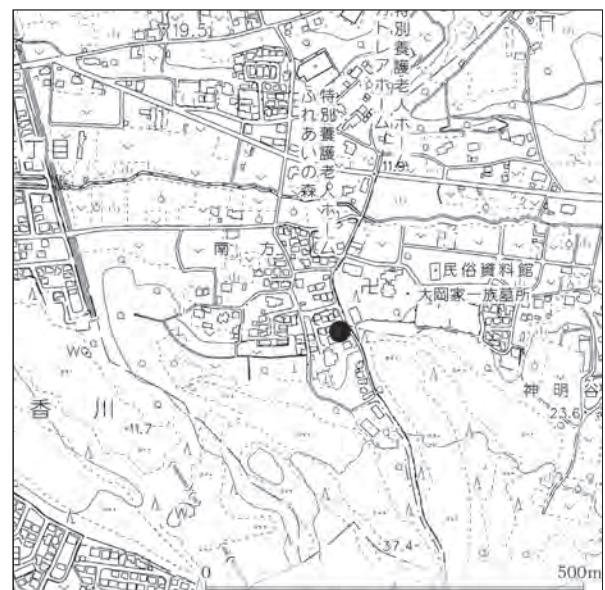
出土遺物：なし

(2) 調査所見

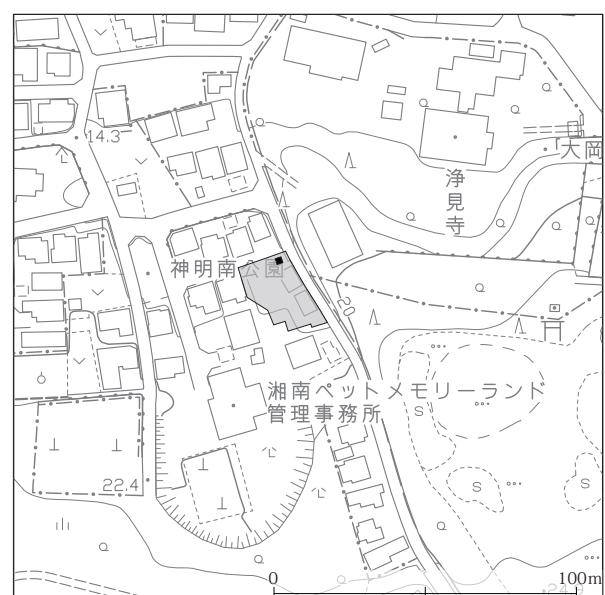
調査の結果、地表下約20cmまでは駐車場としての利用に伴う碎石主体の表土であり、地表下



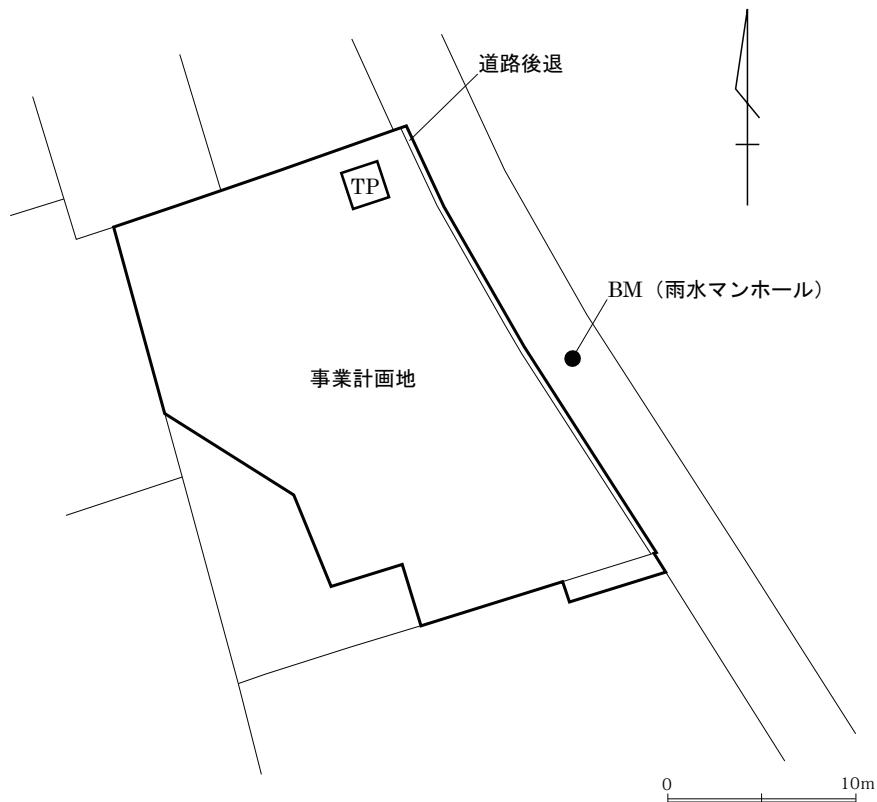
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



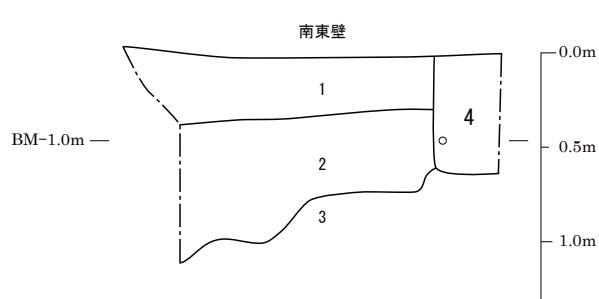
第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)



第5図 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景 (北から)

20～100cmまでは近現代のゴミを含む埋土であった。埋土はローム主体土とロームブロックを含む暗褐色土が相互になっており、客土と考えられる。その直下には自然堆積のローム土が確認された。以上、当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。



写真2 完掘状況 (北西から)

5-57 茅ヶ崎市浜竹一丁目2954番1の一部外

1 調査年月日 令和5(2023)年11月16日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 浜竹遺跡(No.201)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 奈良時代、平安時代

(4) 立地 砂丘南斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市南東部、茅ヶ崎市立松浪小学校から北東側約470mの場所に位置する。調査以前は宅地及び駐車場として利用されており、調査地点の標高は約11.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：しまりなし。建材ガラ、碎石混じる。砂利多い。表土。

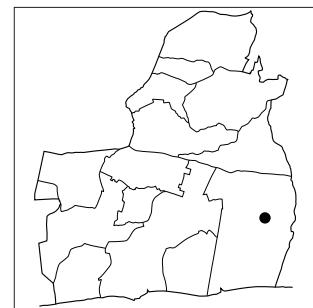
2層：しまり強く、転圧されている。建材ガラ、昭和期の磁器を含む。埋土。

3層：灰褐色砂質土。しまりなし。土粒粗い。宝永パミス、スコリアを全体に少量含む。近世層。

4層：灰褐色砂。しまりあり。粘性なし。土粒均一。堆積密。無遺物の地山漸移層。

5層：黄褐色砂。しまり強い。堆積極めて密。全体にやや酸化する。無遺物の地山層。

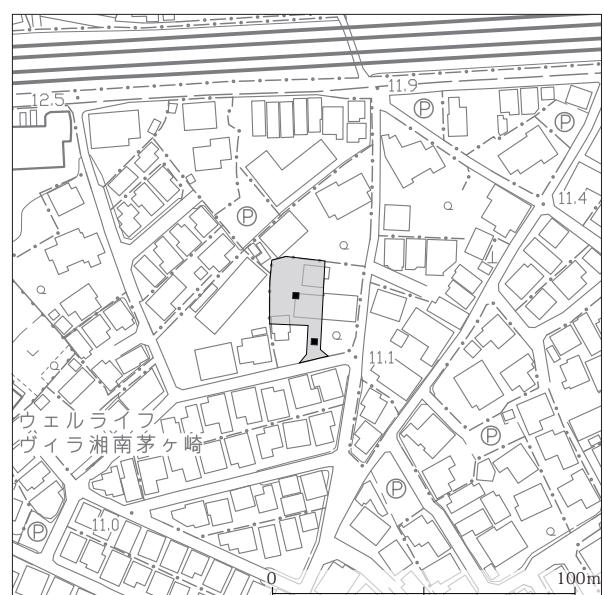
6層：青灰色砂。しまり多い。砂粒多い。粗粒



第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

砂を多く含む。無遺物の地山層。

(2) 遺構覆土

〈1～5号ピット〉

1層：灰褐色砂質土。しまりなし。宝永パミス、スコリアを全体に含む。遺物なし。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：ピット

出土遺物：磁器、瓦

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下70cmまでは近代の磁器を含む攪乱された堆積層であり、地表下70～90cmまでは宝永パミス、スコリアを含む近世宝永期以降の堆積層であった。

TP1で確認された1～5号ピットはいずれも3層を掘り込み構築されていることから、近世後半以降の所産であると推測される。4～6層は土

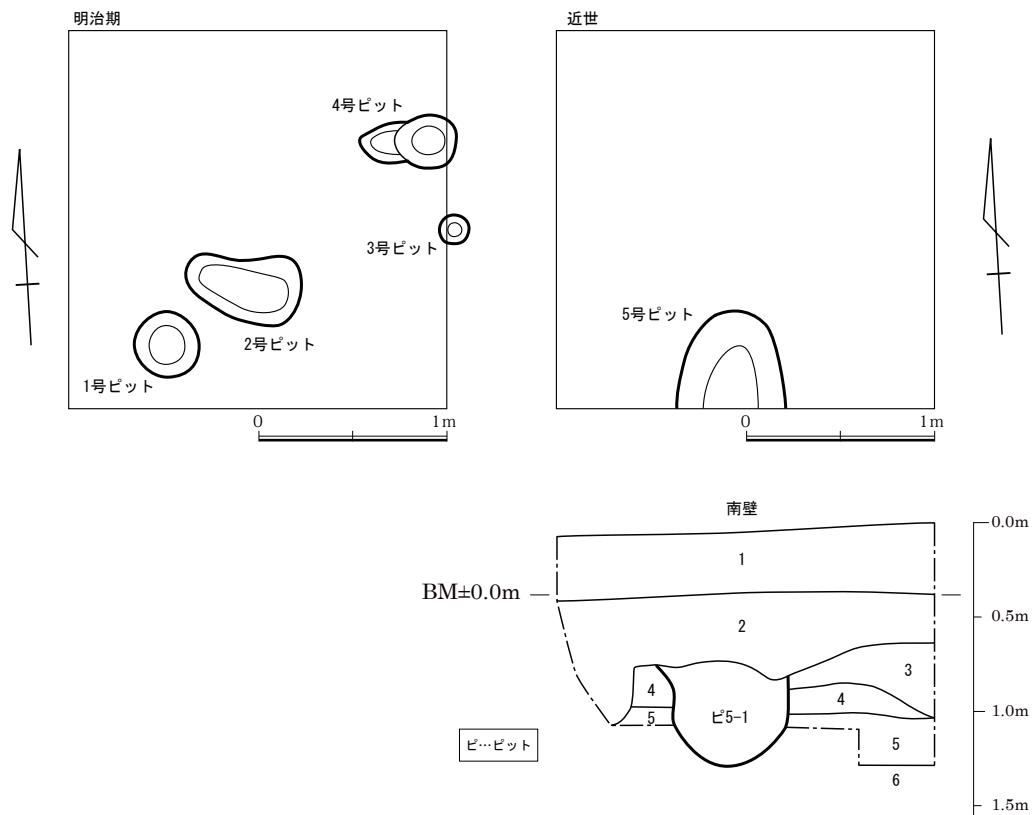
粒が均一でしまりの強い堆積層であるが、乾燥するとサラサラと風で飛ぶような砂である。ただし、湿っている状態では堆積密である。また、層位が下がるほど粗粒砂を多く含み、色調は青色味を呈する。

TP2は2層直下に5層の堆積が確認された。以前に存在した住宅の出入口部分であることから、事業予定地より低位に存在する市道に向かい既に切土されていた可能性が指摘できる。TP1で確認されたピットなどは検出されなかった。

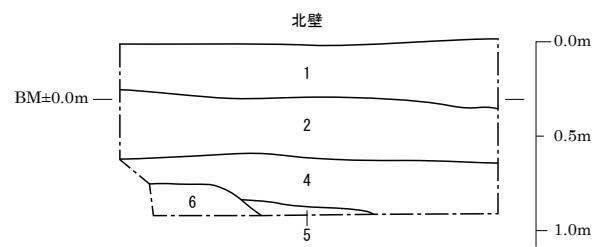
近世層の直下には土粒が均一で堆積密な砂が確認され、砂層は下位に向かうほど粗粒砂を多く含む傾向があり、色調も徐々に青色味を呈する。堆積状況も水平堆積を呈していることから、自然堆積層の砂層であると推測される。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	1層	磁器 小碗	3	31.2
	2号ピット	磁器 小碗	2	37.5
		瓦	2	148.1
合計			7	216.8



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



写真1 調査地点近景（南東から）

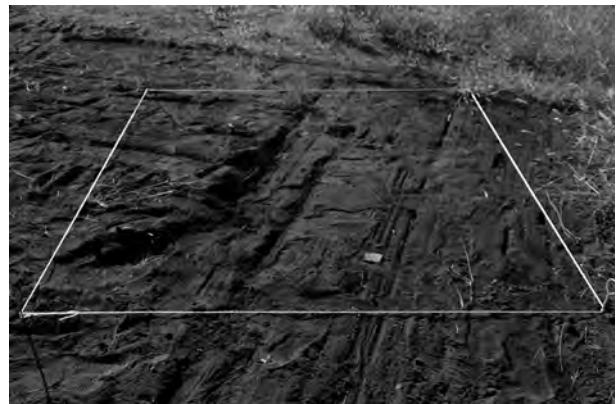


写真2 TP1 設定状況（東から）



写真3 TP1 完掘状況（北から）



写真4 TP1 南壁土層堆積状況

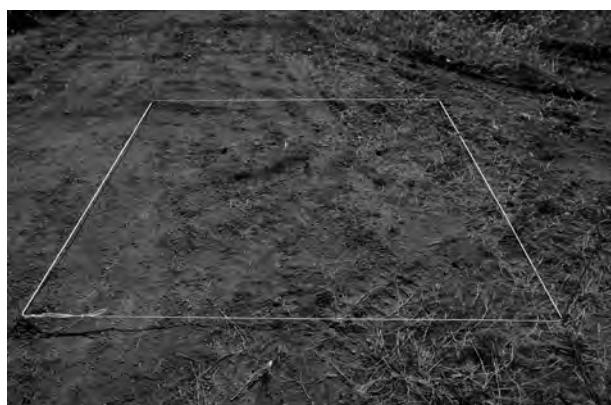


写真5 TP2 設定状況（東から）



写真6 TP2 完掘状況（南から）



写真7 TP2 北壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-58 茅ヶ崎市本村四丁目 1678

- 1 調査年月日 令和5(2023)年11月20日(月)
- 2 調査目的 宅地造成工事
- 3 調査担当 田中万智
- 4 調査面積 3.0m²
- 5 遺跡の概要
 - (1) 名称 前ノ田遺跡(No.200)
 - (2) 種別 集落跡
 - (3) 時代 繩文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世
 - (4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、JR相模線北茅ヶ崎駅から南東側約500mの場所に位置する。調査以前は宅地及び畠地として利用されており、調査地点の標高は約7.1～7.7mを測る。

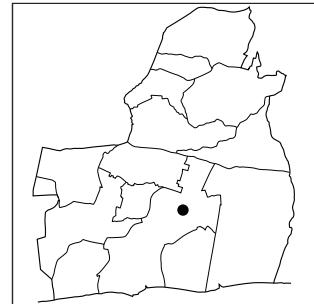
7 調査の方法

事業計画地の道路拡張部分に1.5m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北東側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

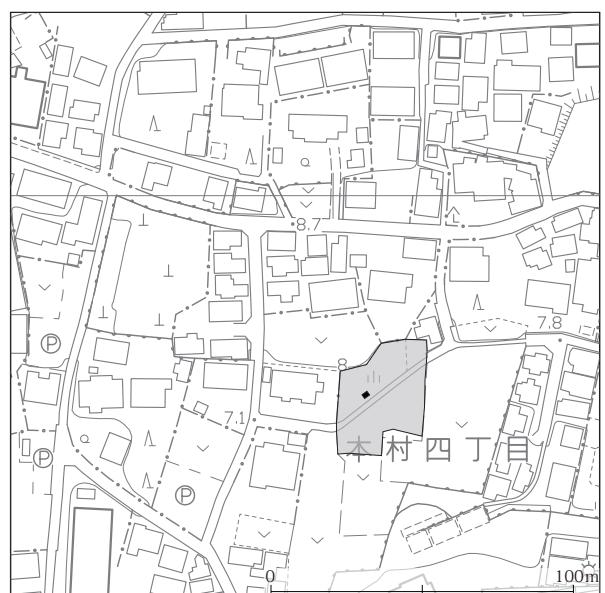
- 1層：暗褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。ビニールゴミ・金属ゴミを多く含む。近現代の耕作土。
- 2層：灰褐色砂質土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを多く含む。堆積層の下位は宝永パミス、スコリアが減る。近世磁器を少量含む。近世の耕作土。
- 3層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性ややあり。土粒均一。土師器片・須恵器片を多く含む。古代～中世の遺物包含層。
- 4層：にぶい黄褐色砂質土。基本土層3層が



第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

斑に酸化したもの。

5層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性ややあり。土粒均一。堆積層の下位は砂分が強くなる。橙色スコリアを中量含む。遺物の包含量は減る。古代の遺物包含層。

6層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性強い。腐植物を中量含み色調黒色味強い。焼土粒、粘土粒を含む。橙色スコリアを中量、黒色スコリアを極少量含む。古墳時代の遺物含む。

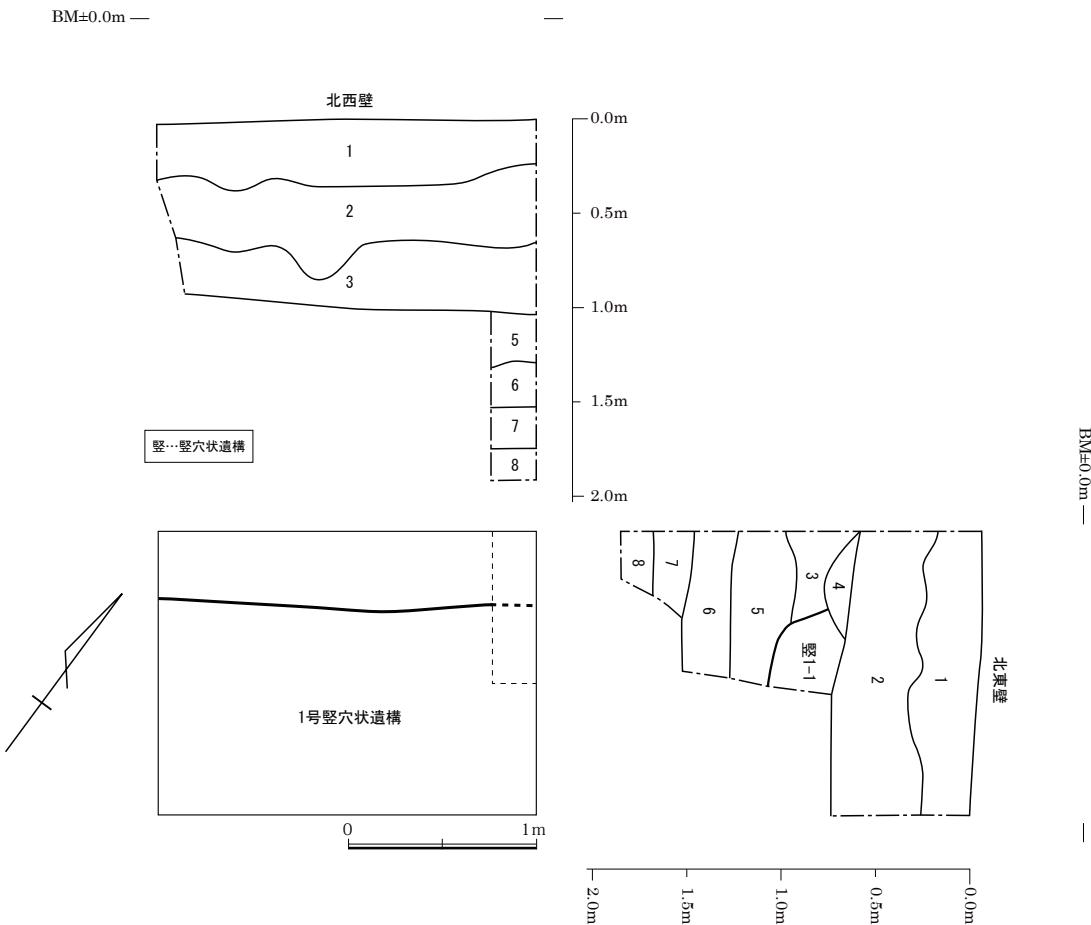
7層：明褐色砂質土。しまりややあり。粘性なし。堆積密。縄文土器（晩期）を含む。縄文時代の遺物包含層。

8層：黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。土粒細かく均一。堆積密。無遺物自然堆積層。

(2) 遺構覆土

〈1号竪穴建物〉

1層：暗褐色砂質土。しまり強い。粘性強い。焼土粒と粘土ブロックを含む。基本土層3層に類似し、下部に基本土層5層を少



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

量含む。橙色スコリアを少量含む。土師器を多量含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：竪穴状遺構

出土遺物：土師器、口クロ土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、陶器、磁器、土製品、礫

(2) 調査所見

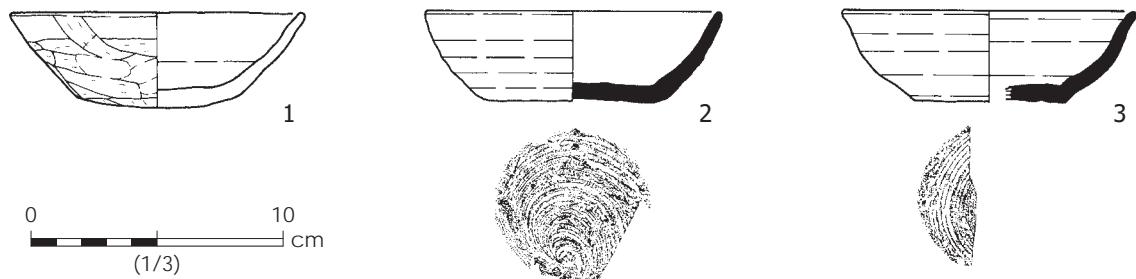
調査の結果、地表下約30cm以下で近世～縄文時代までの堆積を確認した。

近世層である2層は下位に向かって宝永パミス、スコリアの含有量が減少し、最下位では部分的に宝永パミス、スコリアを含まない灰褐色砂質土の堆積が確認できた。3層では多量の土師器片が包含されており、残存率の良い破片も多く含ま

れていた。5層では土師器片をはじめとする遺物の包含量は減少するが、6層になると急激に増加する傾向がみられた。7層は土粒がやや均一な砂質土であり、縄文時代晚期の土器片を包含する。部分的に斑な酸化がみられ、褐鉄鉱の分布がみられた。8層は土粒が均一でしまりの強い砂層であった。7層からは、分解が進みタルと樹皮の一部のみが残存した樹木の痕跡が確認された。

1号竪穴状遺構は、覆土全体に橙色スコリアを含み相模型の土師器坏を多く出土することから、平安時代の遺構であると推測される。覆土の特徴は3層に類似するが、出土遺物にかわらけを含まない。幅の広い溝状遺構である可能性も指摘できる。

第6図はすべて3層から出土した土器である。1は土師器の坏であり、色調は橙色 (5YR6/6)



第6図 実測遺物 (1/3)

を呈する。焼成は良好で胎土は密である。2は須恵器の壺であり、色調は灰オリーブ色(7.5Y6/2)～にぶい橙色(7.5YR6/4)を呈する。焼成はやや不良めだが胎土は密の白色粒、白色針状物質を多く含む。口クロ成形で底部に回転糸切りを有する。3は須恵器の壺であり、色調は灰色(N4/0)を呈する。焼成は良好で、胎土は密の白色粒、白色針状物質を多く含む。口クロ成形で底部に回転糸切りを有する。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。このことから、本事業については本書報告の5-59(P.248～251)と併せて、令和5年度に前ノ田遺跡第10次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
1層	土師器	26	26.7	
	土師器 壺	23	96.9	
	土師器 高台付壺	1	1.5	
	土師器 蓋	21	135.0	
	須恵器 蓋	2	8.6	
	灰釉陶器 瓶	1	2.6	
	磁器	2	6.5	
	青磁 皿	1	5.8	
	礫	4	70.5	
	土師器	6	8.7	
3層	土師器 壺	85	411.6	
	土師器 蓋	156	855.7	
	口クロ土師器	50	51.4	
	口クロ土師器 壺	1	8.0	
	須恵器 壺	12	172.0	
	須恵器 蓋	3	18.8	
	須恵器 蓋	9	104.1	
	須恵器 瓶	1	17.1	
	須恵器 壺	1	4.9	
	灰釉陶器 皿	1	1.5	
	灰釉陶器 瓶	1	6.7	
	陶器	1	3.8	
	土製品	1	4.2	
	礫	9	378.7	
サブトレンチ	土師器	3	3	
	土師器 壺	9	9	
	土師器 蓋	24	24	
	須恵器 蓋	3	3	
	礫	4	4	
サブトレンチ 下層	土師器 壺	2	13.5	
	土師器 蓋	8	41.8	
	礫	1	17.0	
合計			474	3,048.0



写真1 調査地点近景 (東から)



写真2 調査区設定状況 (北西から)



写真3 完掘状況 (南西から)



写真4 北西壁土層堆積状況



写真5 出土遺物



写真6 実測遺物 1 (第6図)



写真7 実測遺物 2 (第6図)



写真8 実測遺物 3 (第6図)

5-5-9 茅ヶ崎市本村四丁目 1673-1、1674、1673-3

1 調査年月日 令和5(2023)年11月20日(月)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.5m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 前ノ田遺跡(No.200)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 繩文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘南側斜面

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、JR相模線北茅ヶ崎駅から南東側約500mの場所に位置する。調査以前は宅地及び畠地として利用されており、調査地点の標高は約8.0～8.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の道路拡張部分に1.5m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する雨水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色砂質土。しまりなし。解体に伴う建材ガラ・樹木根が混じる。表土。

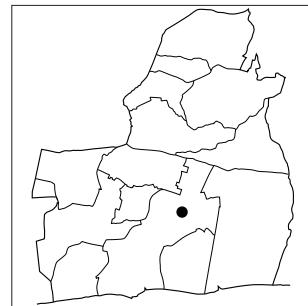
2層：暗褐色砂質土。しまりややあり。宝永パミス、スコリアを全体に含む。近世の遺物包含層。

3層：黄褐色砂。しまりあり。土粒均一で細かい。部分的にやや酸化する。地山に類似する無遺物層。

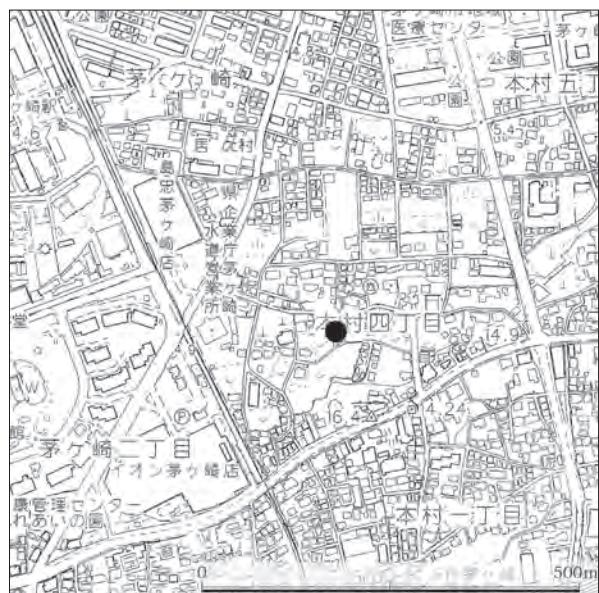
(2) 遺構覆土

〈1号竪穴状遺構〉

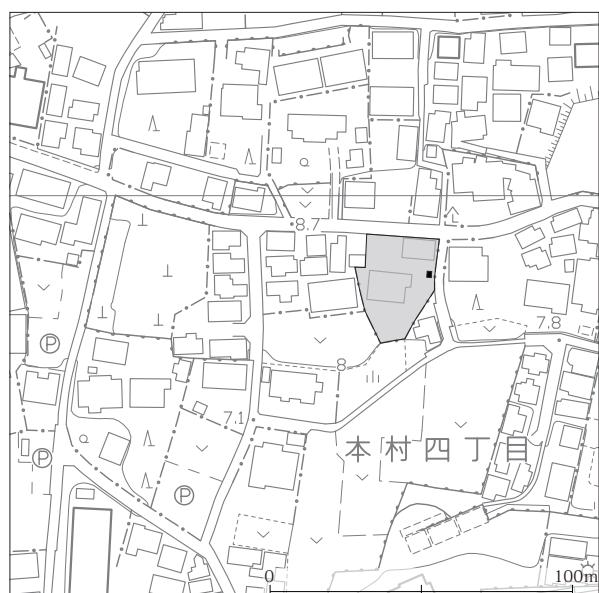
1層：暗褐色砂質土。しまりあり。黒色の砂質



第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

土を全体に 50% 含む。橙色スコリアを
少量含む。土師器を多く含む。

〈2号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色砂質土。しまり強い。黒色の砂質
土を全体に 50% 含む。粘土粒と焼土粒
を少量含む。橙色スコリアを中量含む。
土師器を多く含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：竪穴状遺構、ピット

出土遺物：土師器、ロクロ土師器、磁器、鉄製品

(2) 調査所見

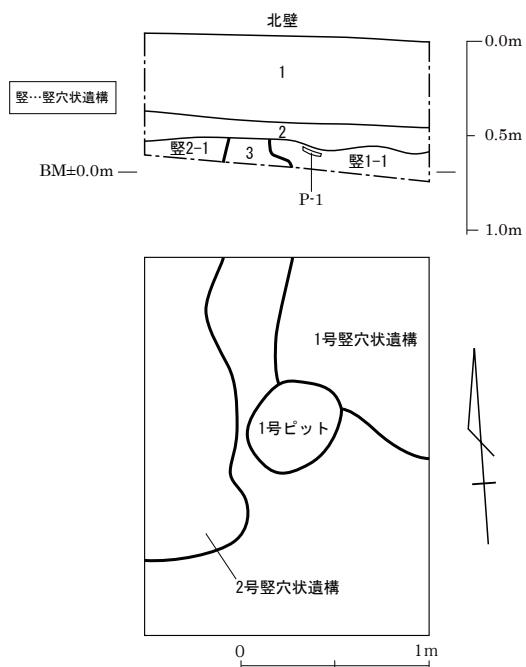
調査の結果、地表下約 60cm 以下で近世以前
の遺構を確認した。

地表下約 40cm までが既存建物解体に伴う建
材混じりの表土であり、それ以下では宝永パミ
ス、スコリアを全体に含む近世の遺物包含層が約
20cm の厚みで堆積しており、それ以下で無遺
物の砂層である基本土層 3 層の堆積がみられた。
遺構は、基本土層 3 層を掘り込む竪穴状遺構 2
基とピット 1 穴を確認した。いずれの遺構も覆土
中に橙色スコリアを含み、土師器を多く出土した。

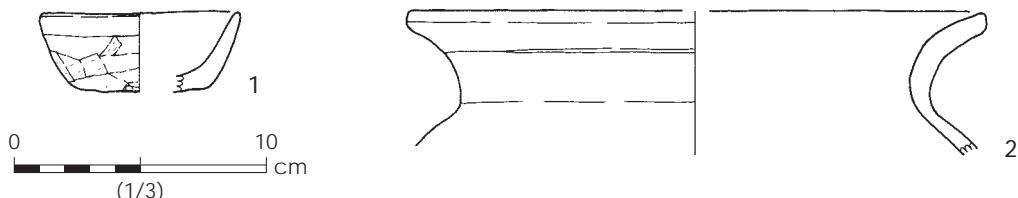
1号竪穴状遺構は覆土に残存率の良い土師器甕の口縁部を含み、全体にしまりがある。出土遺物の傾向としては土師器が主体であった。2号竪穴状遺構は覆土に粘土粒と焼土粒を含み、しまりが強い。また、覆土全体に土師器の細片を含む。1号竪穴状遺構に比べ、やや砂質みが強い。1号ピットは1号竪穴状遺構の覆土に類似しており、同一の遺構である可能性も考えられる。いずれの遺構も土師器の年代観から奈良～平安時代に属するものと考えられる。

第6図はともに土師器であり、1は甕、2は甕の口縁部である。1は焼成が良好で、胎土は密の赤色粒を少量含む。2は1層から出土しており、胎土はやや粗いが焼成は良好である。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。このことから、本事業について本書報告の5-58 (P.243～247) と併せて、令和5年度に前ノ田遺跡第10次調査を実施した。



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 実測遺物 (1/3)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
—	1層	土師器 壊	5	17.7
		土師器 甕	11	131.3
		ロクロ土師器 壊	1	5.9
		磁器 蓋	1	27.8
—	包含層	土師器	3	2.4
		土師器 壊	1	17.6
		土師器 甕	13	70.2
		鉄製品 釘	1	4.0
—	P-1	土師器 甕	2	28.7
	合計		30	305.6



写真1 調査地点近景 (北から)

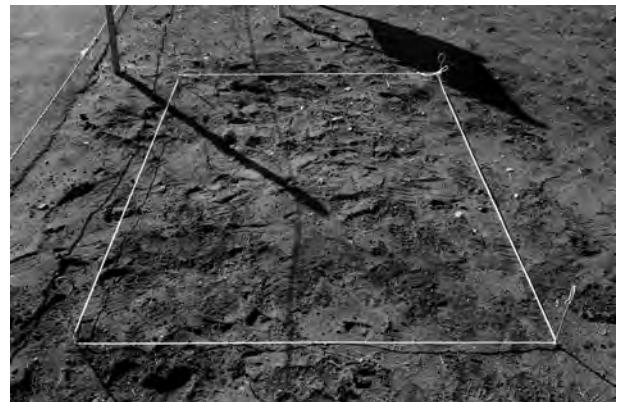


写真2 調査区設定状況 (北から)



写真3 完掘状況 (南から)

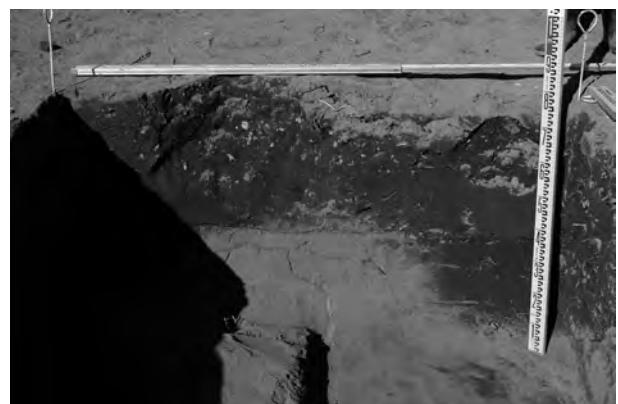


写真4 北壁土層堆積状況



写真5 出土遺物



写真6 実測遺物 1 (第6図)



写真7 実測遺物 2 (第6図)

5-60 茅ヶ崎市小和田一丁目737番地19

1 調査年月日 令和5(2023)年12月4日(月)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 木ノ下A遺跡 (No.88)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代、中世、
近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市東部、茅ヶ崎市立松林小学校から南東側約540mの場所に位置する。調査以前は宅地造成後の更地であり、調査地点の標高は約10.0mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定し調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南西側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

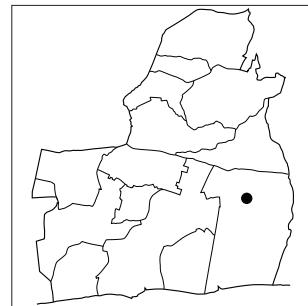
1層：暗褐色砂質土。コンクリートガラ・ロームブロックを含む。表土。

2層：灰白色砂質土。しまりなし。粘性なし。宝永パミス、スコリアを含む。

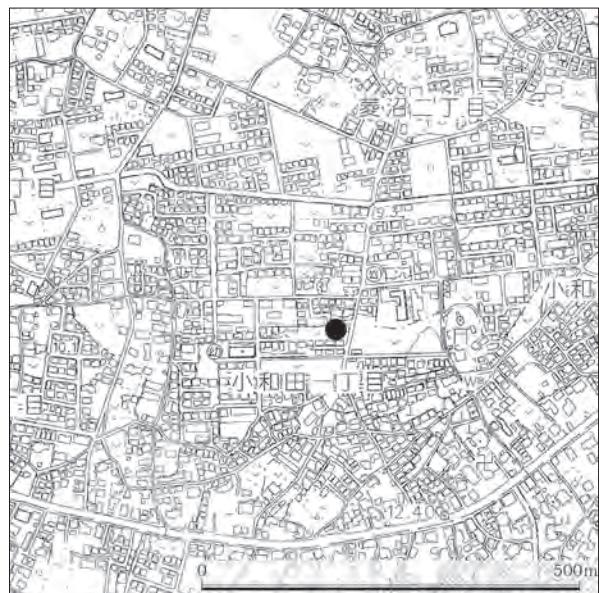
3層：暗褐色砂。ややしまる。やや酸化する。砂粒細かい。

4層：黄褐色砂。しまり強い。堆積密。やや湧水し、部分的に酸化する。

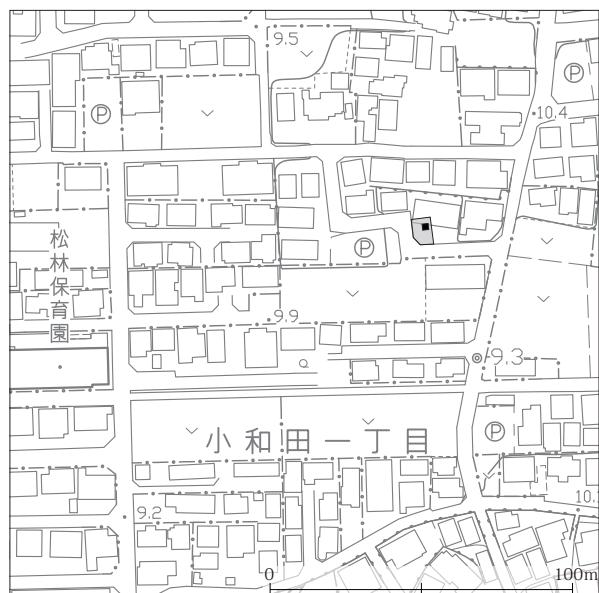
5層：青灰色砂。しまりあり。粒子粗い。微砂粒を多く含む。湧水する。



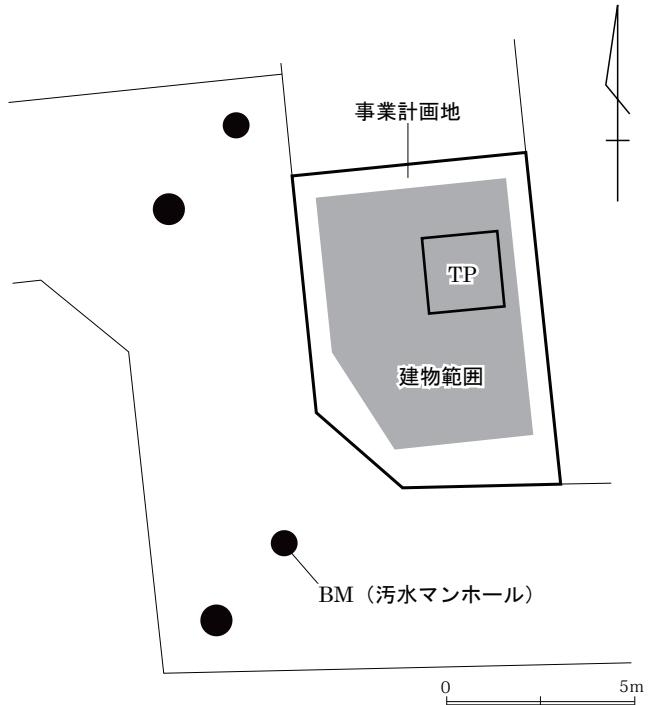
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

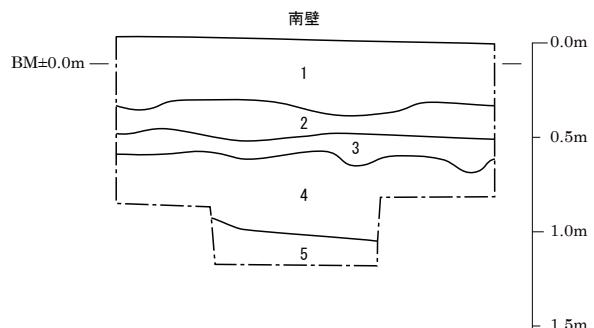
出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、コンクリートガラ混じり表土である1層直下で本来の堆積を確認することができた。

近世層の直下には土粒の均一な砂層の堆積がみられ、砂層は下位に向かい微砂粒の含有量と堆積の粗さが増加していた。また、地表下80cm付近で微量の湧水と赤褐色を呈する酸化鉄分の分布がみられ、4層下位では湧水が確認された。湧水により4層下位の壁面が崩落したため中央部分を深掘りしたところ、微砂粒をより多く含む5層の堆積が確認された。3～5層は橙色スコリアや黒色スコリアを含まず、遺物の出土もなかった。

事業地の北側隣接地との境には高低差80cm



第5図 土層断面図 (1/40)

程の段差がみられることから、近世～近代のいずれかに削平を受けたため近世以前の遺物包含層が消失したものと考えられる。以上、当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。



写真1 調査地点近景 (南西から)



写真2 調査区設定状況 (南から)



写真3 完掘状況 (西から)



写真4 東壁土層堆積状況

5-61 茅ヶ崎市行谷 832-2

1 調査年月日 令和5(2023)年12月14日(木)

2 調査目的 資材置場造成工事

3 調査担当 金馬義郎

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 行谷遺跡(No.36)

(2) 種別 貝塚、集落跡

(3) 時代 繩文時代(早・中・後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 台地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、文教大学湘南キャンパスから北西側約450mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約49.3mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する3級基準点No.019を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

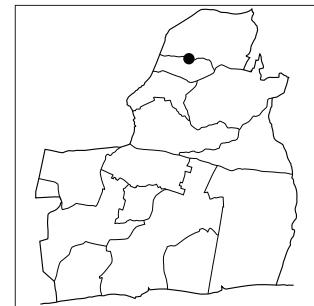
1 基本土層

1層：黒色土。しまり弱い。粘性あり。現代のごみを含む。現代の耕作土。

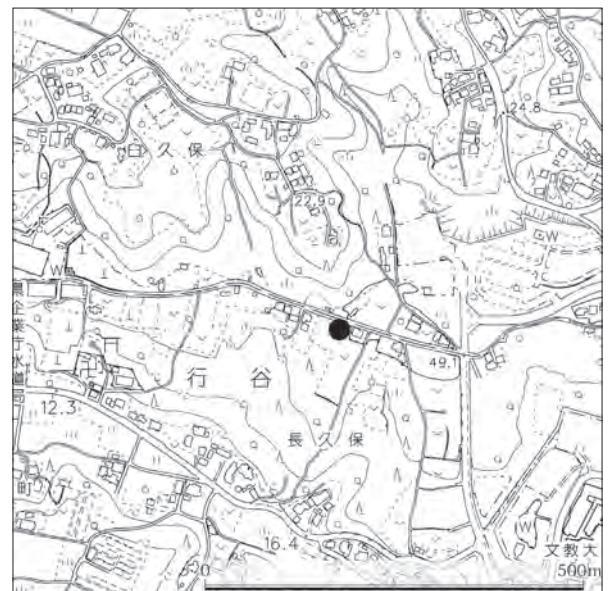
2層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。φ3～5mmの橙色スコリア含む。耕作の影響を受けた自然堆積層か。

3層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。φ3mmの橙色スコリア含む。自然堆積層

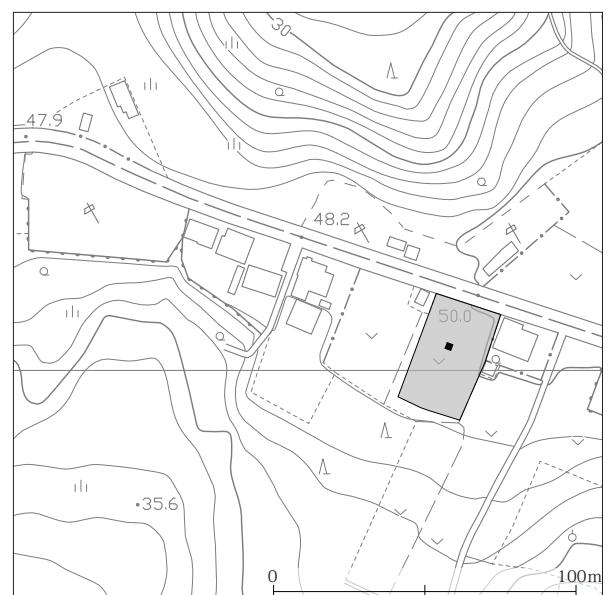
4層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。基本土層の3層に比べ橙色スコリアあまり含まない。自然堆積層。



第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

5層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。

φ 3mm の橙色スコリアやや含む。自然
堆積層。

6層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。

φ 3mm の橙色スコリア僅かに含む。自
然堆積層。

7層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。基本
土層の6層に似るが色味やや明るい。
自然堆積土。

8層：暗褐色土。しまり強い。白色パミス含む。
φ 3mm の橙色スコリア含む。ローム漸
移層。

9層：黄褐色土。しまり強い。粘性あり。ソフ
トローム層。

(2) 遺構覆土

〈1～3号土坑〉

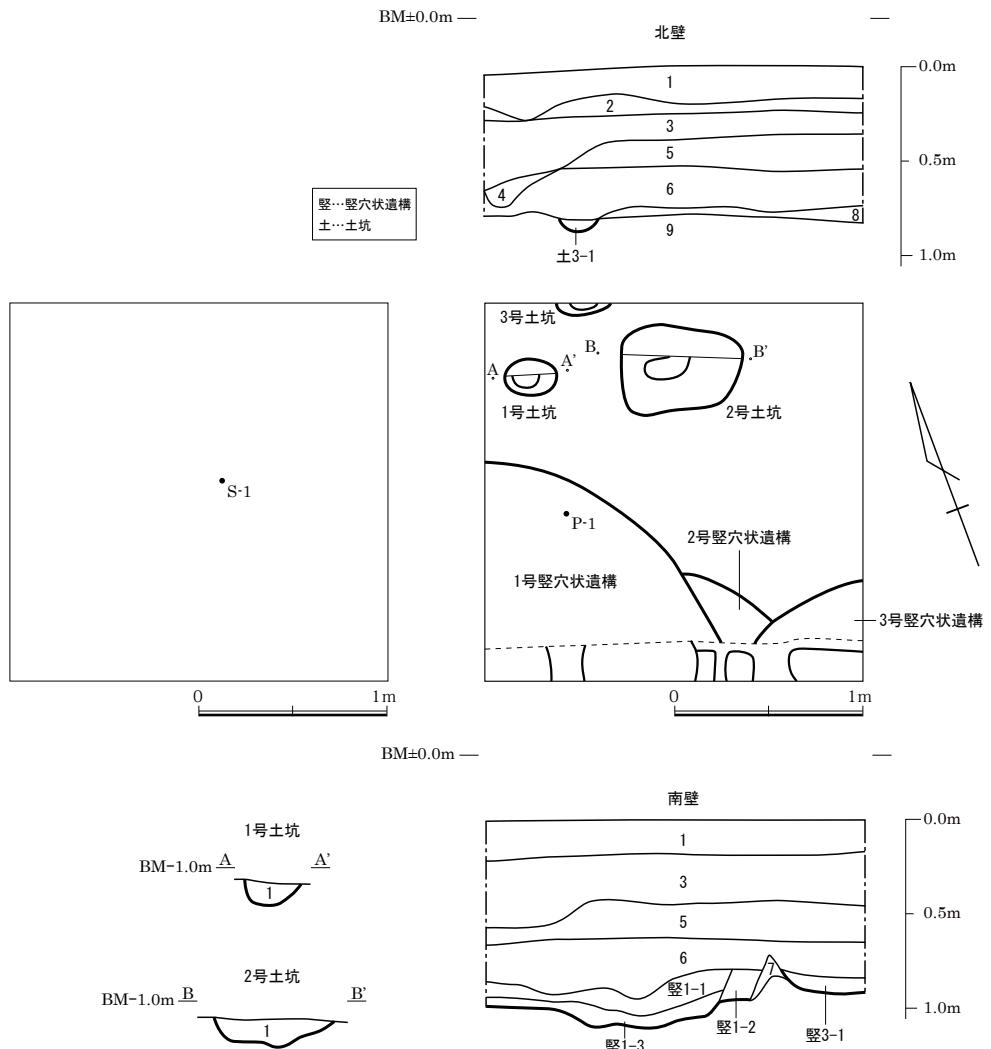
1層：褐色土。しまりあり。粘性あり。基本土
層5層に似るが、下部でロームブロッ
クが混ざる。

〈1～3号豎穴状遺構〉

1層：褐色土。しまりあり。粘性あり。基本土
層5層に似るが、下部でロームブロッ
クが混ざる。

2層：褐色土。しまりあり。粘性あり。同遺構
1層に似るがロームブロックやや少ない。

3層：褐色土。しまりあり。粘性あり。基本土
層9層に基本土層8層が少量混ざり込
む。



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：土坑、竪穴状遺構

出土遺物：縄文土器、土師器、焼礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約20cmまで現代に耕作された様相が確認され、それ以下で本来の堆積が確認された。

地表下約45cmから縄文時代と考えられる焼礫を1点確認し、自然堆積層と考えられる4層の黒褐色土が東から西に落ち込む様相を確認した。地表下約80cmで、6層の暗褐色土を掘り込む土坑3基と、重複する形で竪穴状遺構3基が確認された。これらは検出された土層の状況からおよそ縄文時代前期の所産である可能性があり、重複の関係から最も古い遺構は2号竪穴状遺構と想

定されるが、具体的な時期は遺物を伴わなかったため不明である。各遺構の掘底はソフトローム層に達し、住居址の可能性も想定される。

以上のことから、当該地点は縄文時代前期に人の活動の痕跡が見られ、より上層での焼礫の出土から、まばらにその様相を残しつつ、現代に耕作地として縄文時代以降の土層が開墾された状況が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	一括	縄文土器	1	11.4
		土師器	3	1.5
		土師器 養	2	8.6
		礫	3	139.7
P-1	縄文土器	5	1.9	
	礫	3	558.8	
合計			17	721.9



写真1 調査地点近景（北東から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 S-1 検出状況（北から）



写真4 完掘状況（北から）



写真5 北壁土層堆積状況



写真6 西壁土層堆積状況



写真7 南壁土層堆積状況



写真8 出土遺物

5-62 茅ヶ崎市浜之郷字宮ノ腰486番1

1 調査年月日 令和5(2023)年12月25日(月)
～12月27日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 7.1m²

5 遺跡の概要

- (1) 名称 宮ノ腰遺跡(No.152)
(2) 種別 集落跡
(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、
中世、近世
(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺小学校から北側約120mの場所に位置する。調査以前は古民家が建っており、調査地点の標高は約4.9mを測る。

7 調査の方法

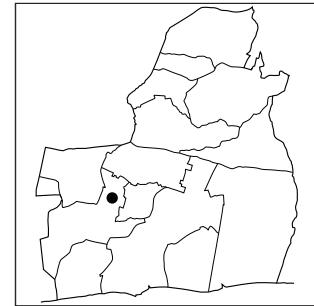
事業計画地南西部の埋設管範囲に調査区を設定して調査を実施した。当初1.0m×11.0mの調査区を設定したが、調査区東側は既存建物解体時の攪乱が深かったため、西側を中心に調査することとした。このため、調査範囲は1.0m×7.1mとなった。掘削は人力で行った。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

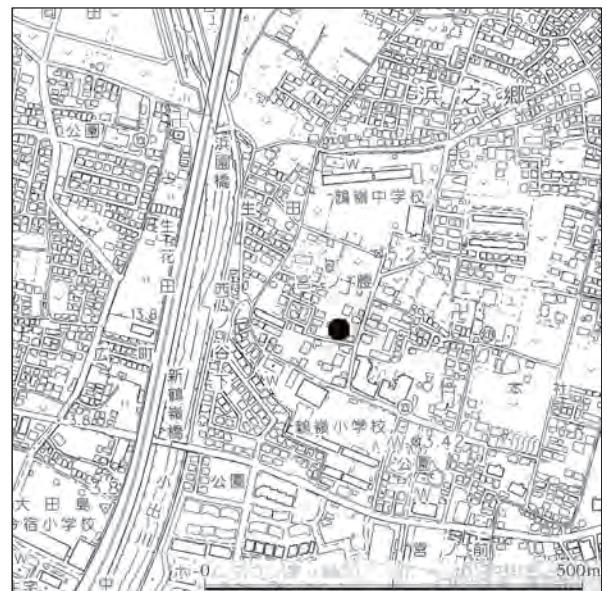
1 基本土層

1層：暗褐色土。宝永パミス含む。既存建物解体時の埋土。土壁の藁スサや一部に土間のタタキが混じる。

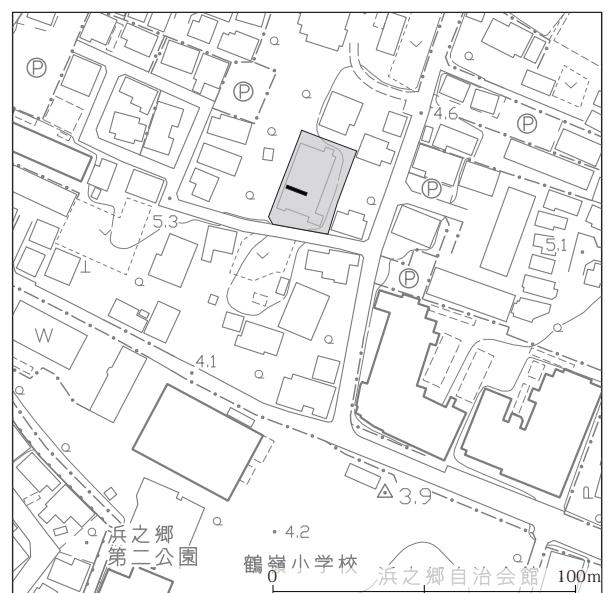
2層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや弱い。宝永パミス少量含む。白色粒微量、 ϕ 5mm程の炭化物粒少量、橙色スコリアわずかに含む。小石が少量混ざる。土



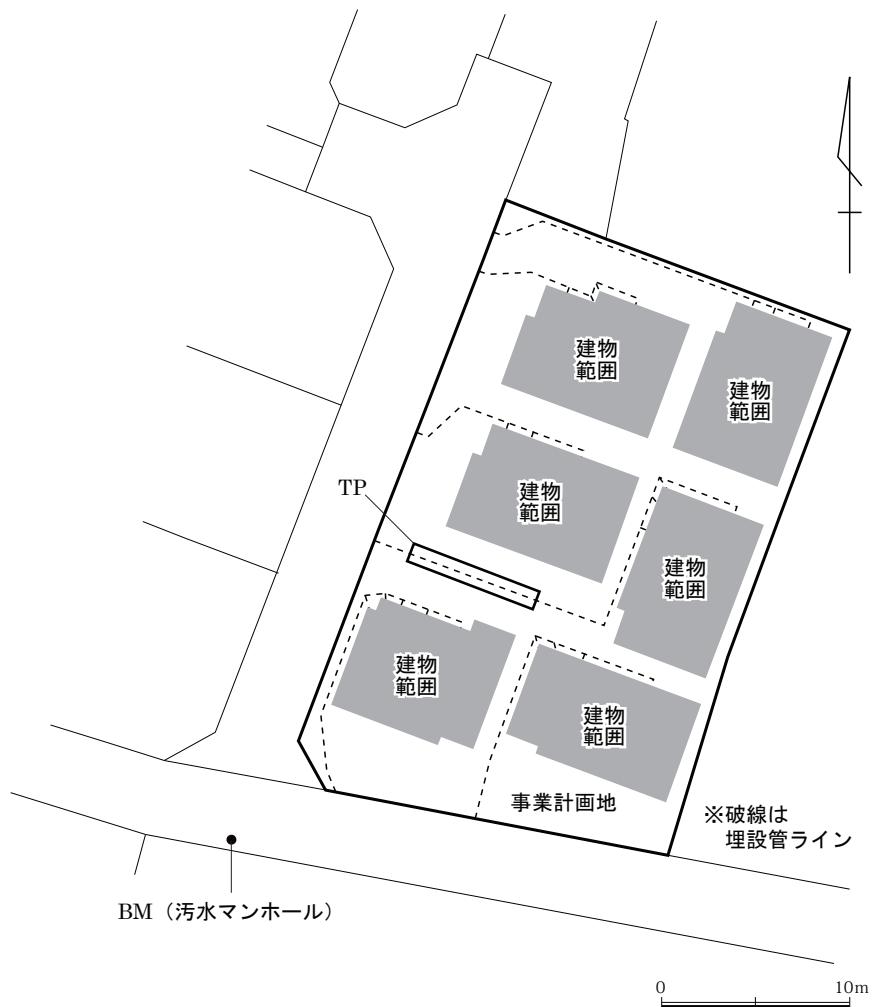
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

師器小片出土。堆積粗い。

3層：にぶい黄褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。堆積密。白色粒少量、橙色スコリア少量、 ϕ 10mm 程の炭化物粒微量含む。土師器、須恵器の小片出土。

4層：にぶい黄褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。基本土層の2層に似るが、より色調明るくなる。 ϕ 10mm 程の炭化物、橙色スコリア少量含む。土師器、須恵器の小片出土。堆積密。

5層：灰黄褐色土。しまりやや強い。粘性やや弱い。当該地周辺の地山層に類似する。

(2) 遺構覆土

〈1号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。白色粒少量、 ϕ 10mm 程の炭化物粒、橙色スコリア少量、含む。土師器、須恵

器出土。

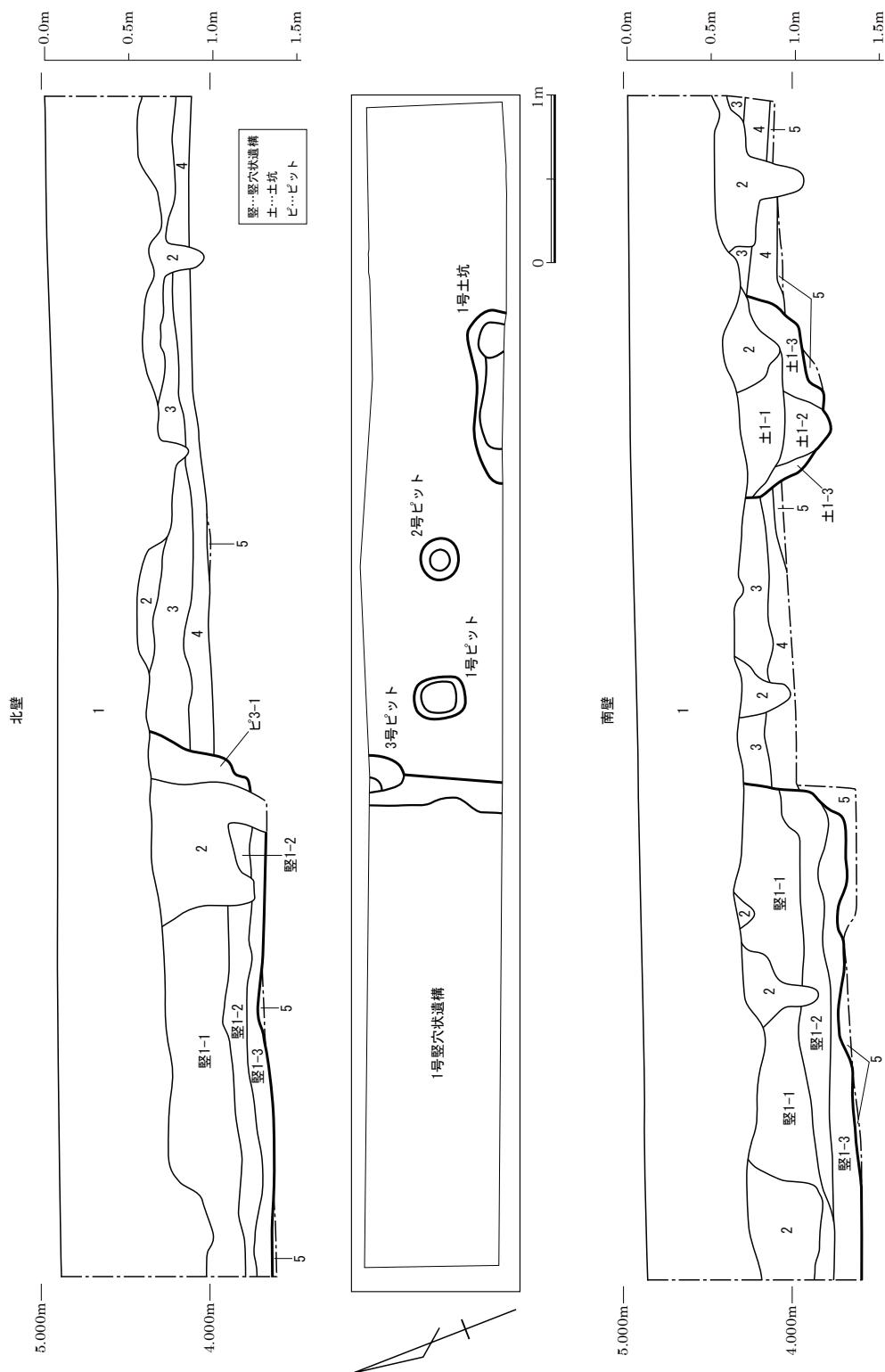
2層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。 ϕ 10mm 程炭化物粒多量、白色粒少量、橙色スコリア少量含む。小石わずかに含む。 ϕ 10～30mm 程の焼土が混ざる。部分的に厚さ 10mm の帶状に炭化物が混ざる。

3層：暗灰黄色土。しまりやや強い。粘性あり。上層より砂質み増す。橙色スコリア、炭化物粒を少量含む。 ϕ 20～50mm 程ブロック状に基本土層 4 層が含まれる。

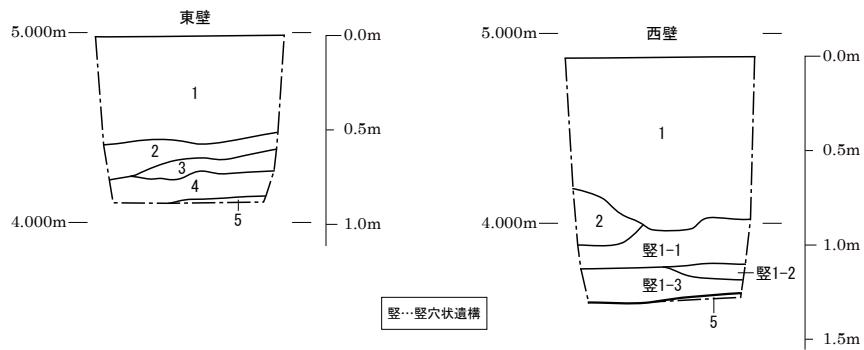
〈1号土坑〉

1層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。堆積密。 ϕ 5～10mm 程炭化物粒少量、白色粒微量含む。土師器片出土。

2層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。同遺構 1 層に似るが、より色調暗



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図① (1/40)



第6図 土層断面図② (1/40)

くなる。

3層：暗灰黄色土。しまりやや強い。粘性やや強い。白色粒微量、橙色スコリア少量含む。土師器片出土。

〈1号ピット〉

1層：暗褐色土。しまり粘性やや強い。橙色スコリア少量、 ϕ 5mm 程炭化物粒少量、小石をわずかに含む。ブロック状に地山を含む。土師器小片出土。

〈2号ピット〉

1層：暗灰黄色土。しまりやや強い。粘性やや弱い。 ϕ 50mm 程炭化物粒少量、白色粒多量に含む。ブロック状に地山を含む。土師器小片出土。

〈3号ピット〉

1層：暗褐色土。白色粒少量、橙色スコリア少量、黄色粒少量含む。炭化物粒微量含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：ピット、土坑、縦穴状遺構

出土遺物：土師器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器、土錘、瓦、礫、軽石

(2) 調査所見

調査の結果、地表下約60cmで古代から近世前半に属すと考えられる遺物、遺構を確認した。遺物は土師器、須恵器、かわらけ、陶器で、基本土層2～4層と各遺構より出土した。遺構は縦穴状遺構1基、ピット3基、土坑1基である。

1号縦穴状遺構は調査区の西側に位置してお

り、既存建物解体時の客土直下で確認された。遺構の上部は既存建物解体時に削平されているため、正確な平面形状や掘り込みの深さは不明であるが、南壁で約60cmの掘り込みを確認した。遺構の時期は、覆土中より多量の土師器片が出土しているため、古代に属す可能性が高いと思われるが、土層堆積からは古代～近世前半と考えられる。1、2号ピットは5層上面で確認された。どちらの遺構も覆土より土師器の小片が出土しているため、古代に埋没した可能性がある。3号ピットは1号縦穴状遺構に重複して検出された。1号縦穴状遺構より新しい遺構であるが、覆土が近似していることから、古代～近世前半の遺構と考えられる。1号土坑の覆土も1号縦穴状遺構に類似している。このため、1号土坑も古代に属す可能性が高いと思われるが、土層堆積からは古代～近世前半と考えられる。

堆積土については、客土である基本土層1層が既存建物解体時の埋土である。関東大震災以前から現代まで残ってきた古民家を解体した後の埋土であるため、堆積土には土壁の藁スサや土間のタタキが多く含まれていた。本来の堆積土で宝永火山灰を確認したのは基本土層2層である。所々ピット状に掘り込むような堆積が見られることから、基本土層2層は近世後半から現代にかけての生活痕跡を含む土層の可能性がある。基本土層3、4層は橙色スコリアを含み、古代の遺物が確認されていることから、古代の包含層の可能性がある。基本土層5層で当該地周辺の地山層

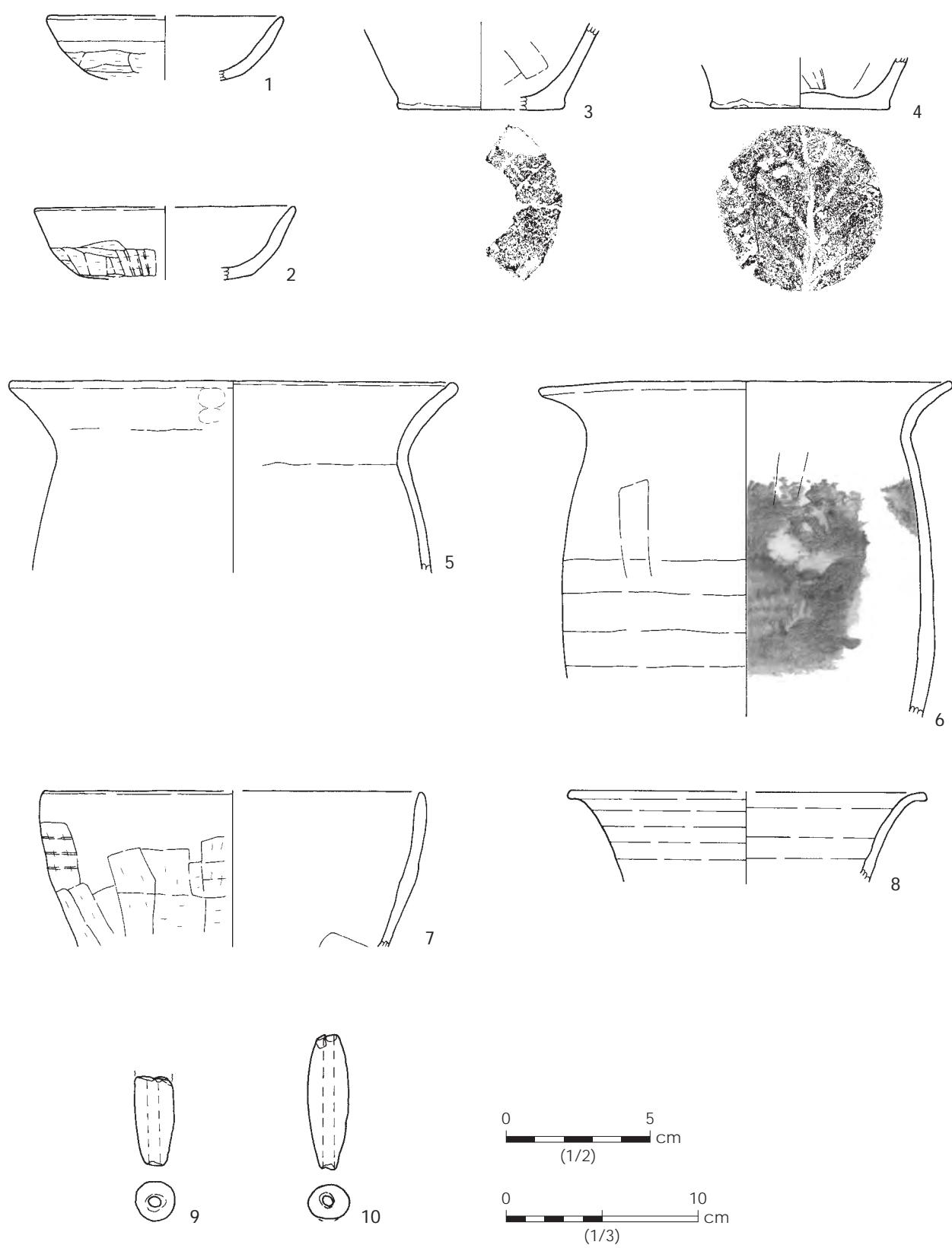
に類似する灰黄褐色土を確認した。

第7図1～7は土師器、8は灰釉陶器、9・10は土錘である。1は土師器の坏であり、残存率は口径から体部にかけて1/5程度である。残存高3.3cm、口径12.2cm、重さ16.6gである。胎土は密で赤色粒を含む。色調は内外ともに橙色(5YR7/6)を呈し、焼成は良好である。2は土師器の坏であり、残存率は口径から体部にかけて1/6程度である。残存高3.7cm、口径13.4cm、底径9.0cm、重さ28.3gである。胎土は密で赤色粒を含む。色調は内面が橙色(5YR6/6)、外側が橙色(5YR7/8)～橙色(7.5YR7/6)を呈し、焼成は良好である。1号竪穴状遺構から出土した。3は土師器・甕の底部であり、残存率は1/5程度である。残存高4.5cm、底径8.6cm、重さ53.2gである。色調は内面がにぶい黄橙色(10YR6/4)、外側がにぶい黄橙色(10YR7/4)～褐灰色(10YR4/1)を呈する。胎土はやや密で焼成は良好、底部に木葉痕を有する。4は土師器・甕の底部であり、底部が完存する。残存高2.6cm、底径8.9～9.3cm、重さ122.6gである。色調は内面がにぶい黄橙色(10YR6/4)、外側がにぶい黄橙色(10YR6/3)～黒色(N2/0)を呈する。胎土はやや密で焼成は良好、底部に木葉痕を有する。5は土師器・甕の口縁部であり、残存率は1/4程度である。残存高9.9cm、口径23.2cm、重さ127.3gである。色調は内面が橙色(7.5YR7/6)、外側が橙色(7.5YR7/6)～灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。胎土はやや粗く、砂粒多い。焼成は良好で、口縁部外部の一部に指頭痕を有する。1号竪穴状遺構から出土した。6は土師器の甕であり、口縁部がほぼ完損する。残存高17.3cm、口径21.5cm、重さ768.8gである。色調は内面が橙色(5YR7/8)～橙色(7.5YR7/6)、外側が橙色(2.5YR6/8)を呈する。胎土はやや密の赤色粒含む。焼成は良好。1号竪穴状遺構から出土した。7は土師器の鉢形土器であり、残存率は口縁部から胴部にかけて1/5程度である。残存高は11.9cm、口径は19.7cm、重さ107.5gである。色調は内面が橙色(5YR6/6)～にぶい橙色(7.5YR6/4)、外側がにぶい褐色(7.5YR5/3)を呈する。胎土はやや粗く、砂粒多い。焼成は

良好。1号竪穴状遺構から出土した。8は灰釉陶器・甕の口縁部である。残存高4.7cm、口径180.6cm、重さ35.0gである。色調は内外ともに灰黄色(2.5Y6/1)を呈する。胎土は緻密で焼成は良好、口クロ成形の内面に施釉がある。9は残存長3.1cm、最大径1.3cmの最小径0.8cm、孔径0.3～0.4cmである。残存重量は5.4gであり、胎土は密、焼成は良好である。色調はにぶい黄橙色(10YR6/4)を呈する。10は残存長4.7cm、最大径1.4cmの最小径0.6cm、孔径0.3～0.4cmである。残存重量は7.1gであり、胎土は密、焼成は良好である。色調は橙色(7.5YR6/6)を呈する。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
1層	土師器	4	5.0	
	土師器 坏	24	126.3	
	土師器 甕	21	145.9	
	土錘	1	5.4	
	磁器 碗	1	2.5	
	陶器	1	2.1	
	陶器 捣鉢	1	62.8	
	土製品	1	5.3	
	瓦	8	726.2	
	土師器	67	72.1	
包含層	土師器 坏	76	477.5	
	土師器 甕	148	1,659.4	
	須恵器 坏	1	3.3	
	須恵器 蓋	1	3.5	
	須恵器 甕	1	35.0	
	須恵器 碗	1	13.2	
	土錘	1	7.1	
	陶器	4	48.3	
	瓦	1	36.2	
	礫	11	833.9	
1号竪穴状遺構	土師器	10	12.5	
	土師器 坏	15	120.3	
	土師器 甕	104	1,669.6	
	土師器 鉢	2	107.5	
	須恵器 蓋	1	2.0	
	礫	1	47.3	
1号竪穴状遺構 下部	土師器	36	40.2	
	土師器 坏	44	210.6	
	土師器 甕	186	1,199.5	
	須恵器 蓋	1	7.7	
	礫	2	139.9	
	軽石	1	0.7	
1号ピット	土師器 坏	1	0.9	
	土師器 甕	1	1.3	
2号ピット	土師器 甕	1	1.5	
4号ピット	土師器 坏	1	2.5	
1号土坑	土師器	2	2.9	
	土師器 坏	3	7.8	
	土師器 甕	6	24.9	
	須恵器 蓋	1	3.4	
合計			794	8,275



第7図 実測遺物 (1～8:1/3、9・10:1/2)



写真1 調査地点近景 (南西から)



写真2 調査区設定状況 (南から)



写真3 完掘状況 (東から)



写真4 1、2号ピット完掘状況 (南から)



写真5 1号土坑完掘状況 (北から)



写真6 1号豊穴状遺構完掘状況 (東から)



写真7 2号ピット土層堆積状況 (東から)



写真8 1号豊穴状遺構土層堆積状況 (南から)



写真 9 東壁土層堆積状況



写真 10 西壁土層堆積状況



写真 11 出土遺物①



写真 12 出土遺物②



写真 13 出土遺物③

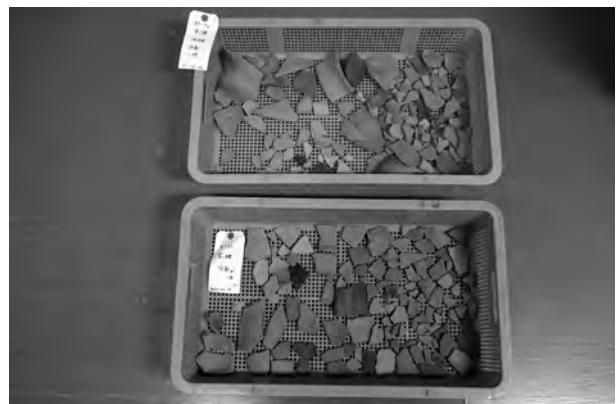


写真 14 出土遺物④



写真 15 出土遺物⑤



写真 16 実測遺物 1 (第7図)



写真17 実測遺物2(第7図)



写真18 実測遺物3(第7図)



写真19 実測遺物4(第7図)



写真20 実測遺物5(第7図)



写真21 実測遺物6(第7図)



写真22 実測遺物7(第7図)



写真23 実測遺物8(第7図)



写真24 実測遺物9・10(第7図)

5-6-3 茅ヶ崎市室田一丁目 791-1、792-1、3

1 調査年月日 令和6(2024)年1月11日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大縄下遺跡 (No.93)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代、中世、
近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立松林中学校から北東側約340mの場所に位置する。調査以前は宅地及び畠地として利用されており、調査地点の標高は約7.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

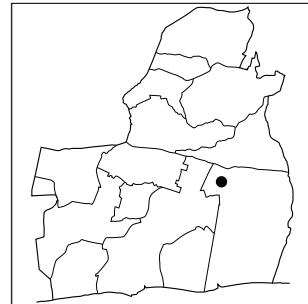
(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまり極めて弱い。粘性極めて弱い。土粒均一。表土。

2層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
φ10mm程の小石少量、宝永パミス少量含む。プラスチックゴミ含む。

3層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
2層に似るが、φ10mm程の炭化物粒を少量含み、色相暗くなる。プラスチックゴミ含む。近現代のゴミ穴か。

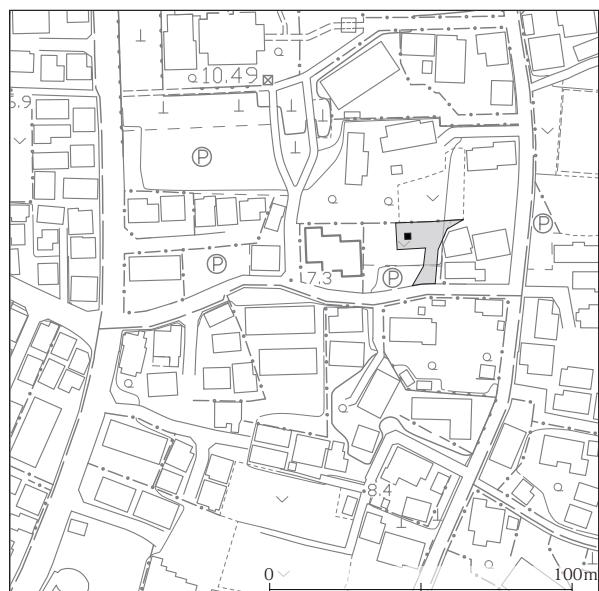
4層：灰黄褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
全体に宝永パミス、白色粒子を少量含む。
プラスチックゴミ含む。須恵器片出土。



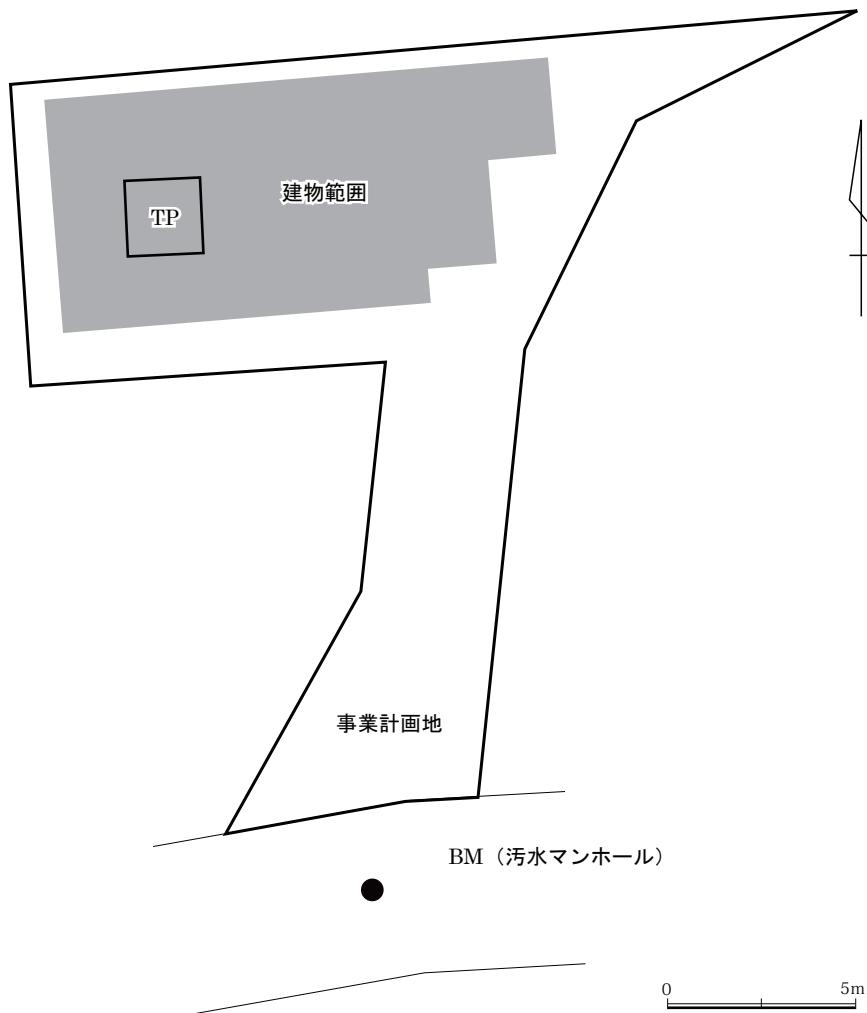
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

5層：褐灰色土。しまり弱い。粘性ややあり。
土粒細かく均一。

6層：灰黄褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
全体に砂を多く含む。プラスチックゴミ、
ナイロン紐含む。

7層：暗青灰色土。しまりやや弱い。粘性やや
強い。φ 3～10mm 程の宝永パミス少
量、白色粒中量、φ 10mm 程の小石を
含む。

8層：暗青灰色砂質土。しまりやや強い。粘性
ややあり。7層に似るが、砂が増す。縦
方向筋状に酸化鉄分を含む。

9層：暗青灰色砂質土。しまりやや強い。粘性
ややあり。8層に似るが砂と酸化鉄分を
多く含む。陶器出土。

10層：暗灰色砂。しまりやや強い。粘性やや弱
い。土粒均一。当該地周辺の地山層に類
似する。

11層：暗灰色砂質土。しまりやや強い。粘性や
や強い。10層より粘性増す。シルト質
に砂が含まれる。雲母片含む。湧水。

9 調査結果

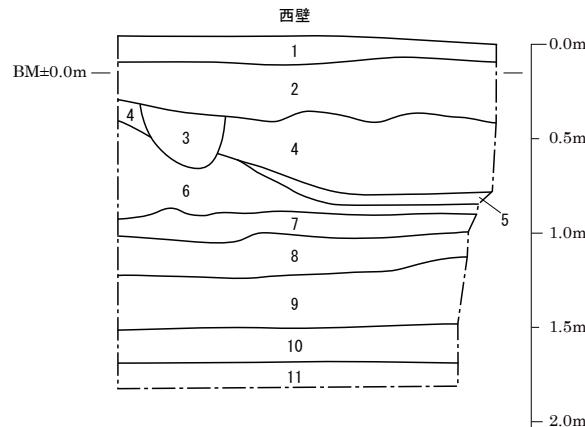
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：陶器、礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 87cm までは客土で、そ
れ以下で本来の堆積が確認された。遺物は地表
下 40cm の客土である 4 層から須恵器、地表下
116cm の自然堆積層である 9 層から陶器が出土



第5図 土層断面図 (1/40)

した。

堆積土については、2～4層と6層でプラスチックゴミやナイロン紐が確認された。また、宝永火山灰を含んでいることから、2層から6層までは近世後半以降から近現代にかけての堆積と考えられる。7層以下は、上層と比較して堆積土の色調が暗くなり、青みが増す。7層には宝永火山灰が含まれることから、堆積した時期は近世後半以降と思われる。8層、9層に宝永火山灰は見られず、全体的に酸化鉄分を多く含む。また、9層から京焼系の近世陶器が出土している。このことから、8層、9層は近世前半の堆積であると考えられる。10層で砂、11層で雲母片を確認し、地表下186cmで湧水した。

堆積土の色調や土質、湧水状況などを踏まえると、当該地は近世前半まで水田として利用されていた可能性が考えられる。宝永灰後も湿地状の様相を呈していたと思われるが、6層に当該地周辺の地山とみられる砂が多く混ざっていることから、2～6層は周辺の切土であり、これによって埋め立てられたものと推察される。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	4層	陶器	1	8.8
		礫	1	5.6
	9層	陶器	4	21.7
合計			6	36.1



写真1 出土遺物



写真2 調査地点近景（東から）



写真3 調査区設定状況（南から）



写真4 完掘状況（東から）



写真5 西壁土層堆積状況

5-6-4 茅ヶ崎市浜之郷字石原 731番1

1 調査年月日 令和6(2024)年1月11日(木)

2 調査目的 水準点新設工事

3 調査担当 田中万智

4 調査面積 1.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 石原A遺跡 (No.147)

(2) 種別 遺物散布地、集落跡、参道

(3) 時代 古墳時代(後期)、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺小学校から南東側約480mの場所に位置し、調査地点の標高は約3.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の水準点設置範囲に1.0m×1.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は人力で行った。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：灰褐色土。しまり弱い。堆積粗い。コンクリートガラ(30cm程度)を多く含み、ビン・カンなどを含む。

2層：灰褐色土。しまり弱い。堆積粗い。明治～昭和期の磁器を含む。

9 調査結果

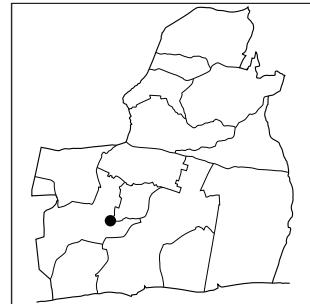
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：陶器、磁器、土製品、ガラス製品

(2) 調査所見

調査の結果、地表下70cmまでは一抱えもあるコンクリートブロックが多量に投入されており、コンクリートブロックの隙間はビン、カン



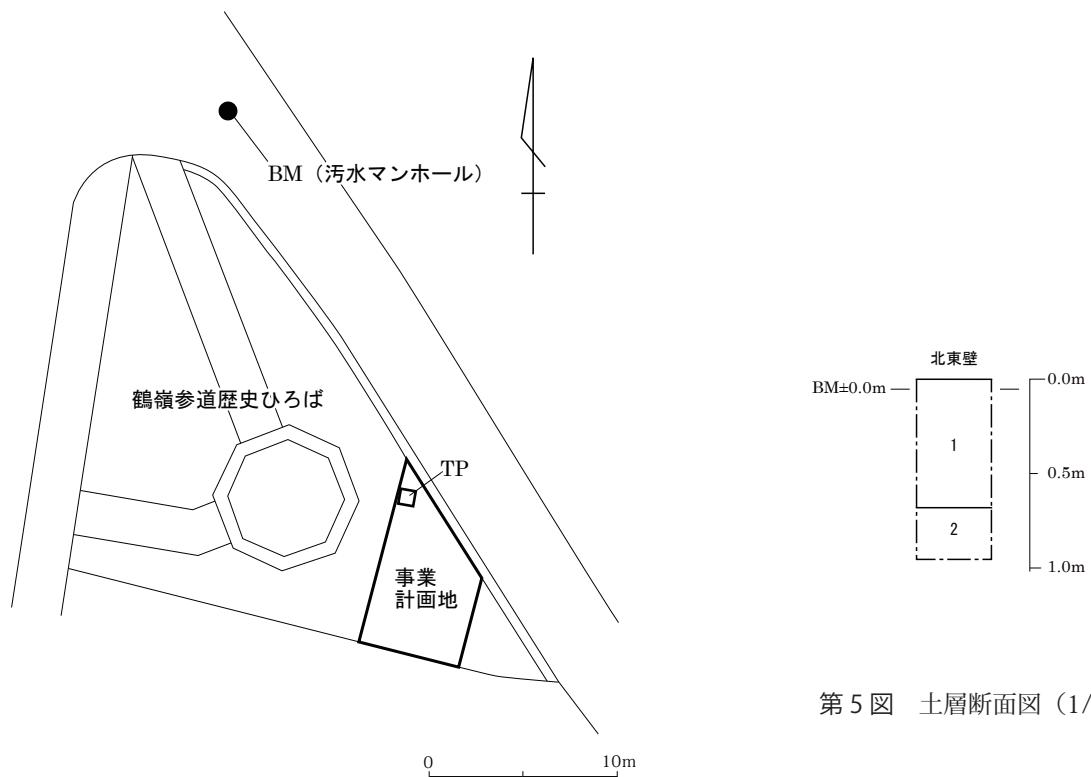
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)

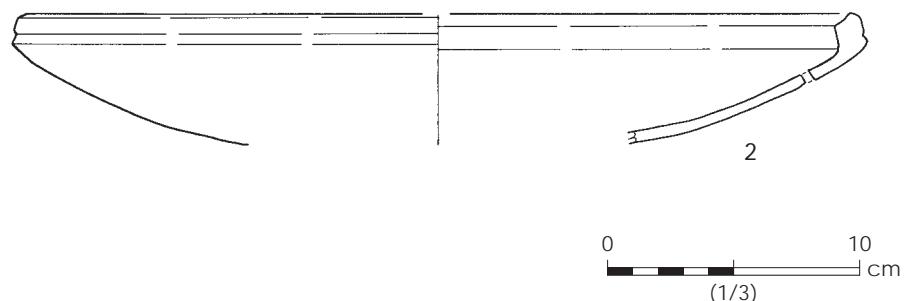


第4図 調査区配置図 (1/400)

第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量 (g)
	1層	陶器	2	132.4
		陶器 壺	30	187.3
		磁器	5	133.7
		磁器 皿	1	78.0
		磁器 碗	1	234.6
		土製品	1	195.7
		土製品 焙烙	1	167.2
		ガラス製品	4	81.3
		ガラス製品 瓶	1	37.0
		ガラス製品 蓋	4	149.3
		貝	1	29.6
		アスファルト	1	38.8
	合計		52	1,464.9



第6図 実測遺物 (1/3)

やプラスチックごみで埋まっていた。地表下70～100cmまでは明治～昭和期の陶器、磁器を多量に含む灰褐色土であり、同様の状況は平成25(2013)年に同敷地内で実施した石原A遺跡確認調査(2014：第25回茅ヶ崎市遺跡発表会要旨)と共に通していた。2層には粉末状の獸骨が混入していたが、これは大正11(1922)年3月31日に国より無代下付(死獸捨場)を受けたため、獸骨が出土したものと推測される。昭和55(1980)年9月30日には茅ヶ崎市へ所有権保存・移転登



写真1 調査地点近景（南東から）

記が行われた。

第6図は近代の遺物である。1は五徳であり、内面全体から全面にかけてと外面の穿孔周辺に煤の付着がみられる。口クロ成形。2は焙烙であり、胎土はやや密で金雲母を多く含み、口クロ成形である。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。



写真2 完掘状況（南西から）



写真3 北西壁土層堆積状況



写真4 出土遺物



写真5 実測遺物 1 (第6図)



写真6 実測遺物 2 (第6図)

5-65 茅ヶ崎市萩園字西ノ谷 1637番5及び1640番1

1 調査年月日 令和6(2024)年2月1日(木)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 12.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 西ノ谷遺跡(No.174)

(2) 種別 遺物散布地、集落跡

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市西部、茅ヶ崎市立萩園中学校から北側約710mの場所に位置する。調査以前は駐車場及び畠地として利用されており、調査地点の標高は約5.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0m×2.0mの調査区を3箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地東側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

〈TP1〉

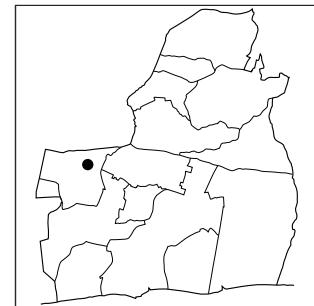
1層：暗褐色土。しまりなし。粘性なし。根が多い。

2層：暗褐色土。しまりややあり。粘性弱い。炭化物微量含む。白色粒子混ざる。

3層：暗褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。ブロック状に地山含む。

4層：暗褐色土。しまり強い。粘性ややあり。コンクリート片、ゴミ多量に含む。

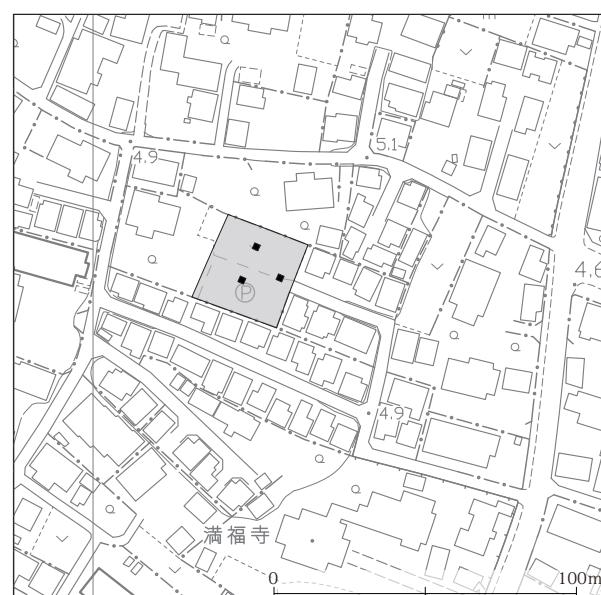
5層：褐灰色土。しまりあり。粘性ややあり。堆積密。宝永パミス多量に含む。



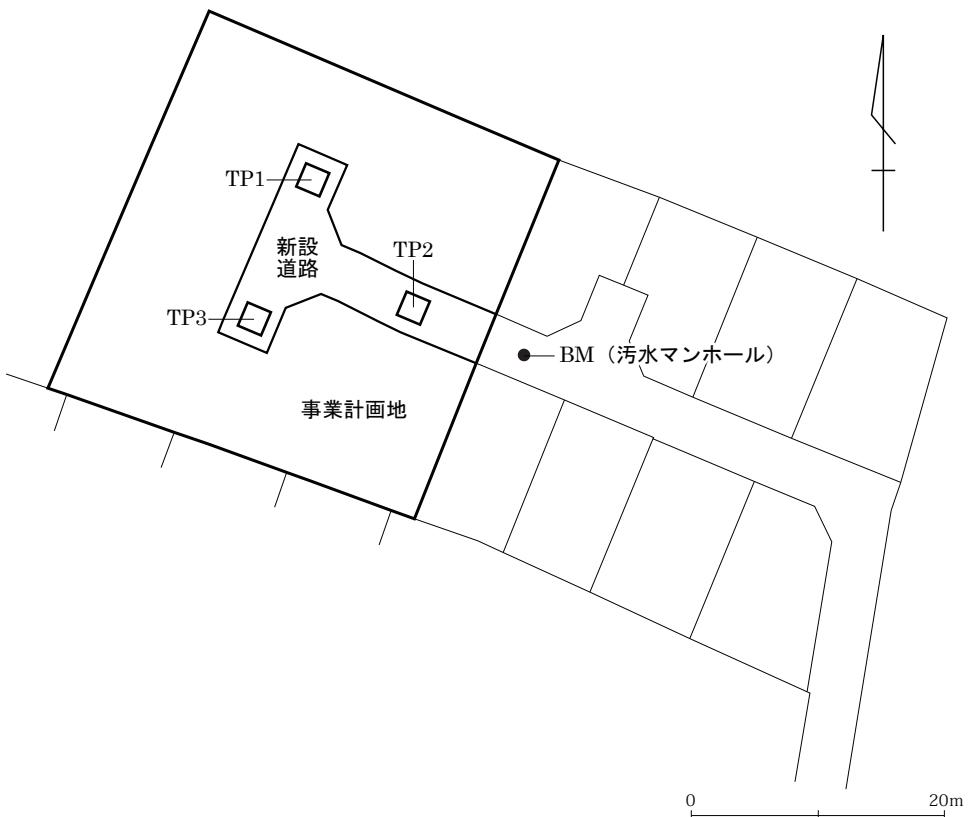
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)

ϕ 10mm 程の炭化物が混ざる。

6層：暗褐色土。しまりあり。粘性ややあり。
宝永パミス含む。堆積密。

7層：灰黄褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。堆積やや粗い。炭化物粒、橙色ス
コリア含む。

8層：にぶい黄褐色土。しまりややあり。粘性
ややあり。当該地周辺の地山に類似する。

〈TP2〉

1層：しまり強い。粘性なし。駐車場整地時の
碎石。

2層：暗褐色土。しまりきわめて強い。粘性や
やあり。コンクリートブロック、ガラ、
ビニールゴミ多量に含む。帶状に地山ブ
ロック含む。

3層：黒褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。ビニールゴミ、ガラス瓶含む。

4層：にぶい黄褐色土。しまりややあり。粘性
ややあり。TP1 の基本土層 8層に対応。
当該地周辺の地山層に類似する。

〈TP3〉

1層：駐車場整地時の碎石。

2層：暗褐色土。しまりきわめて強い。粘性や
やあり。コンクリートブロック、ガラ、
ビニールゴミ多量に含む。

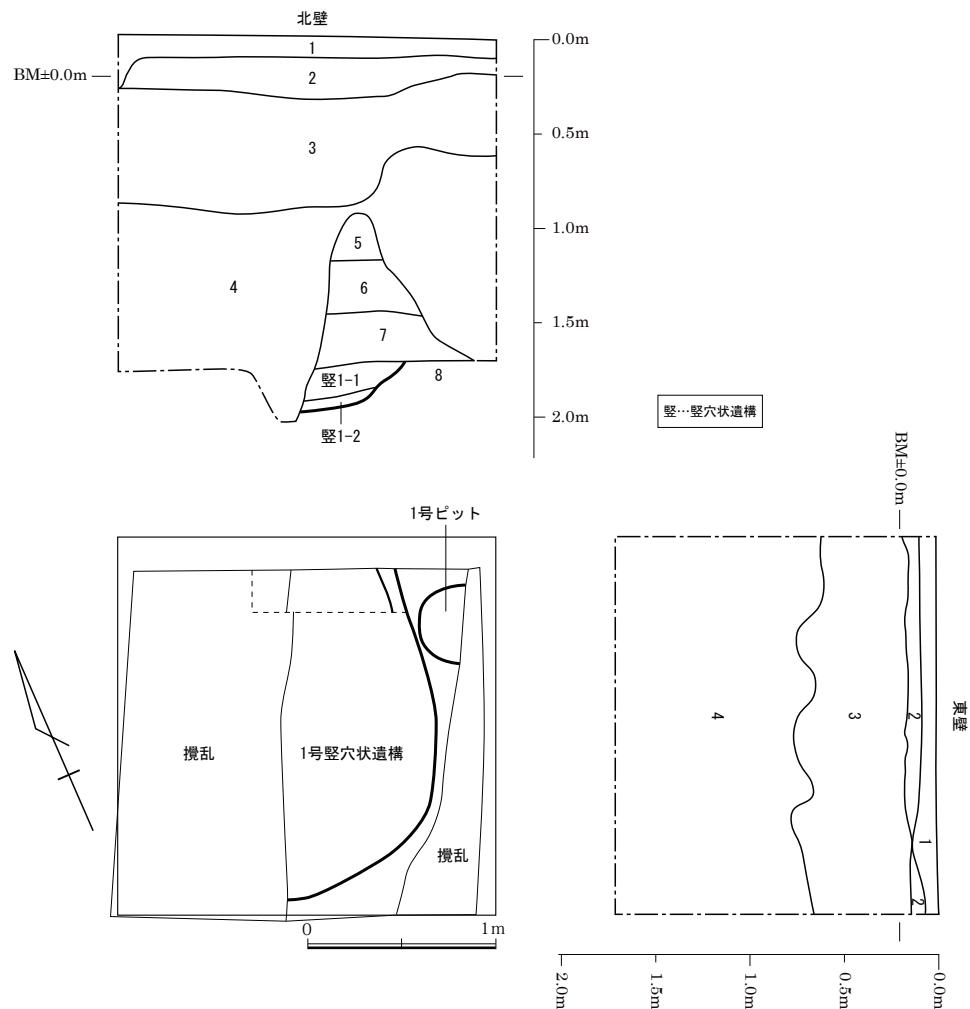
3層：黒褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。ビニールゴミ、ガラス瓶含む。ブロック
状に TP3 の基本土層 6層含む。

4層：暗褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。コンクリートガラ、ビニールゴミ多
量に含む。

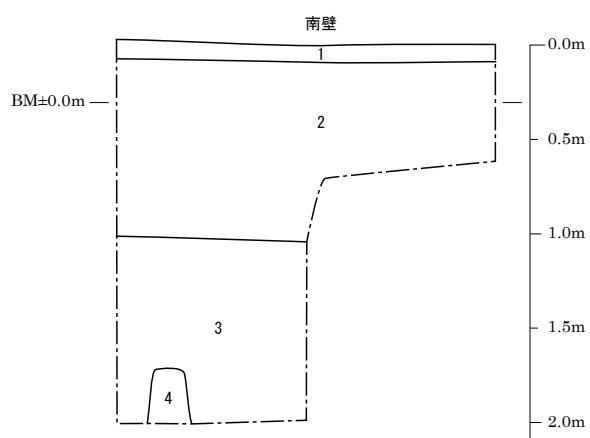
5層：暗褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。地山をブロック状に多く含む。

6層：褐灰色土。しまりあり。粘性ややあり。
宝永パミス多量に含む。 ϕ 10mm 程の
炭化物が混ざる。堆積密。TP1 の基本
土層 5層に対応。

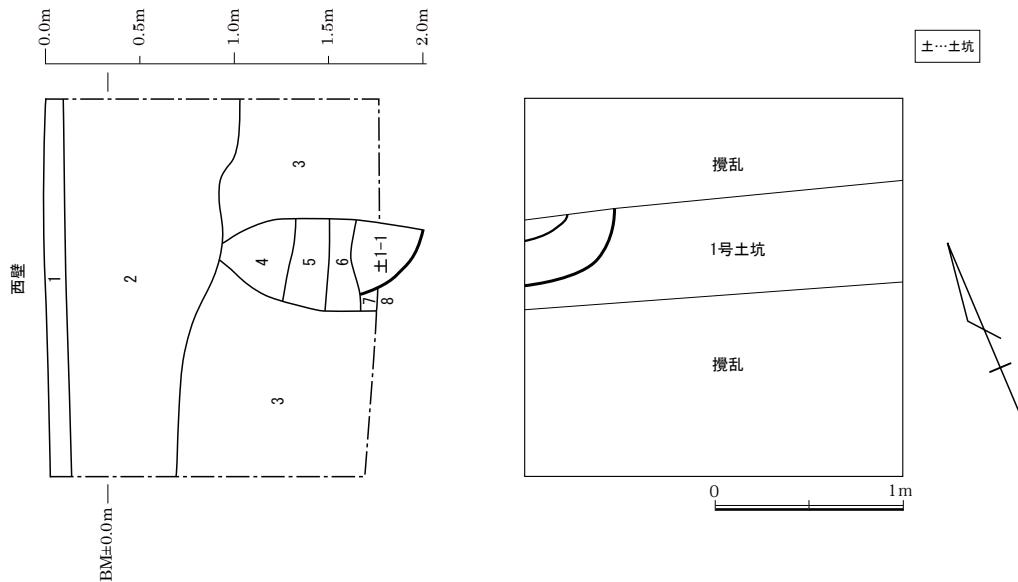
7層：灰黄褐色土。しまりややあり。粘性やや
あり。炭化物粒、橙色スコリア含む。堆
積やや粗い。TP1 の基本土層 7層に対応。



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 土層断面図 (1/40)



第7図 TP3 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

8層：にぶい黄褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。TP1の基本土層8層に対応。当該地周辺の地山層に類似する。

（2）遺構覆土

〈1号竪穴状遺構〉

1層：灰黄褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。炭化物粒微量含む。橙色スコリア含む。

2層：灰黄褐色土。しまりあり。粘性弱い。堆積密。

〈1号ピット〉

1層：灰黄褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。炭化物粒微量含む。橙色スコリア含む。

〈1号土坑〉

1層：灰黄褐色土。しまりあり。粘性ややあり。宝永火山灰と軽石を非常に多く含む。

9 調査結果

（1）発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：ピット、竪穴状遺構

出土遺物：土師器、磁器、陶器

〈TP2〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP3〉

発見遺構：土坑

出土遺物：なし

（2）調査所見

調査の結果、いずれの調査区も攪乱を受けていたが、TP1において古代から近世前半に属すと考えられる遺構、遺物を確認した。

TP1は、地表下約95cmで本来の堆積が確認された。遺物は基本土層5層から土師器と磁器の小破片が出土した。遺構は基本土層8層上面でピットと竪穴状遺構を確認した。1号竪穴状遺構は、30cm程の掘り込みが見られた。遺物の出土はなかったが覆土に炭化物粒と橙色スコリアが含まれることから、時期は近世前半から古代まで遡る可能性が考えられる。1号ピットの覆土は1号竪穴状遺構の覆土に類似しているため、1号ピットも近世前半以前に属する可能性が高いと思われる。TP1の基本土層の堆積は、1層が根を多く含む現代の表土で、2層が耕作土と思われる。3、

4層はコンクリートガラやゴミを多く含む客土であった。5層では多量の宝永パミスが確認された。宝永火山灰を含むのは6層までで、7層より下は含まない。7層は炭化物粒と橙色スコリアを含んでおり、近世前半以前から古代の堆積と考えられる。8層はにぶい黄褐色を呈しており、当該地周辺の地山に類似する。

TP2は調査区の大部分が攪乱を受けており、本来の堆積土は地表下約170cmで確認された基本土層4層に限られている。基本土層4層は当該地周辺の地山に類似する黄褐色土である。TP2において遺物、遺構は確認されなかった。

TP3は基本土層5層までが客土であり、基本土層6層以下で本来の堆積を確認した。遺構は基本土層7層上面で土坑を確認した。1号土坑の覆土は宝永火山灰と軽石が非常に多いが、基本土層7層の灰黄褐色土も含まれている。火山灰の

堆積と周囲の堆積土の様相から、近世後半以降に行われた天地返しの可能性がある。ただし、攪乱により遺構の範囲や形状が明らかでないため、断定はできない。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。本地点は西ノ谷遺跡の西端に位置しており、事業地の西側半分が遺跡の範囲外に位置している。今回の試掘・確認調査の結果、現行の遺跡範囲の外まで埋蔵文化財が展開されていることが確認された。この結果を受けて、西ノ谷遺跡範囲拡張の変更・増補を調整している。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	5層	土師器	1	0.8
		陶器	1	1.0
		磁器	1	2.7
合計			3	4.5



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 遺構確認状況（西から）



写真4 TP1 完掘状況（南から）



写真5 TP1 北壁土層堆積状況

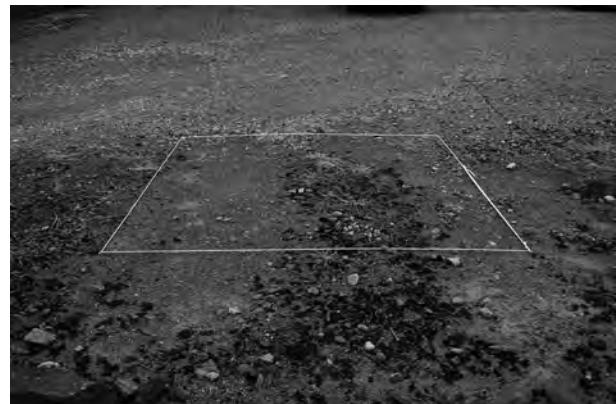


写真6 TP2 設定状況 (北から)



写真7 TP2 完掘状況 (北から)



写真8 TP2 東壁土層堆積状況

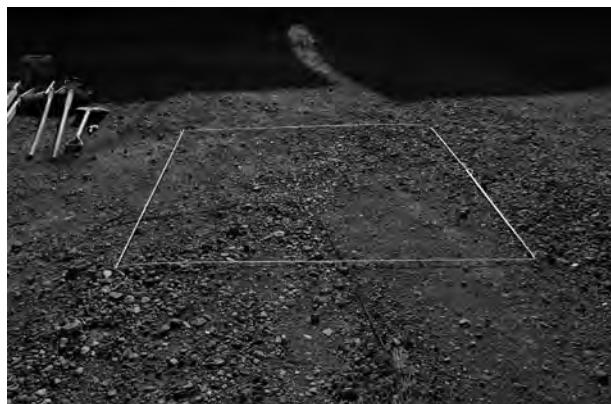


写真9 TP3 設定状況 (東から)



写真10 TP3 東壁土層堆積状況



写真11 TP3 南壁土層堆積状況



写真12 出土遺物

5-66 茅ヶ崎市芹沢字中ノ谷 1095番1、1096番7、1094番1の一部

1 調査年月日 令和6(2024)年2月7日(水)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 中之谷A遺跡(No.5)

(2) 種別 遺物散布地

(3) 時代 古墳時代

(4) 立地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北部、文教大学湘南キャンパスから北東側約500mの場所に位置する。調査以前は宅地の一部として利用されており、調査地点の標高は約36.8mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北東側道路に所在する鉢を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

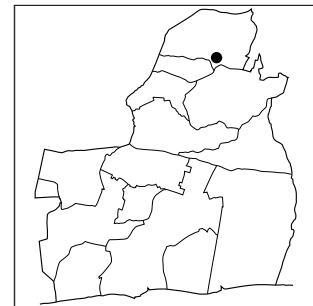
1層：暗褐色土。しまり弱い。粘性弱い。コンクリートガラ、プラスチックゴミ含む。

2層：暗褐色土。しまりやや弱い。粘性ややあり。コンクリートガラ、プラスチックゴミ含む。ロームブロック多く含む。既存建物解体時の埋土。

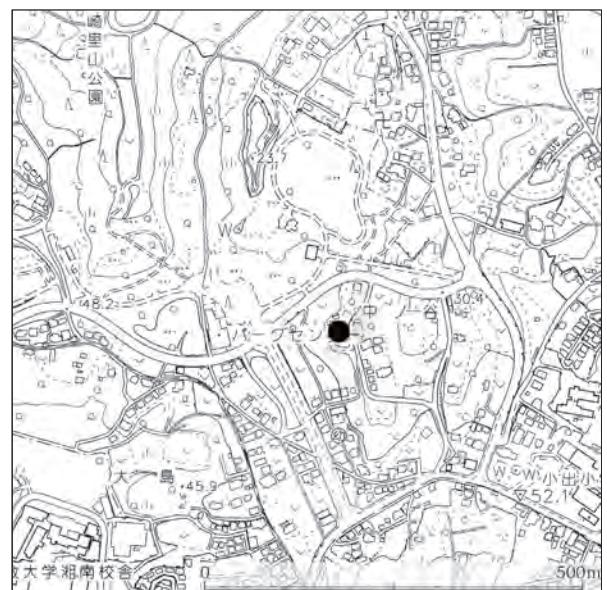
3層：暗褐色土。しまりやや弱い。粘性ややあり。2層よりロームブロックが減る。根が多い。

4層：暗褐色土。しまりやや弱い。粘性ややあり。橙色スコリア多量に含む。堆積やや粗い。

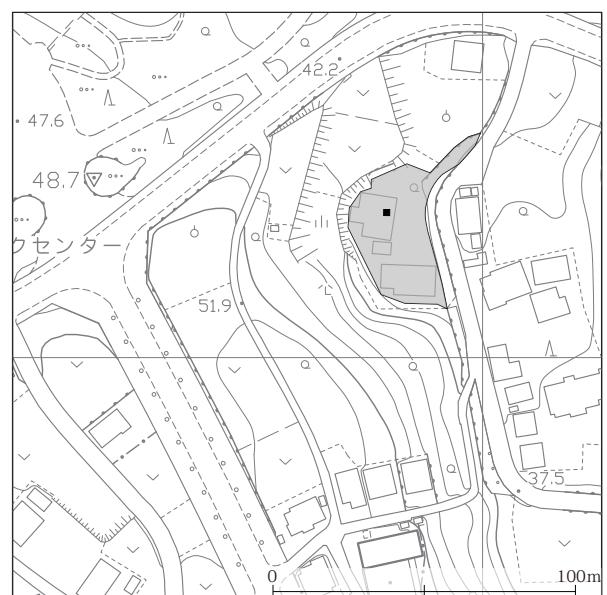
5層：黒褐色土。しまりややあり。粘性ややあ



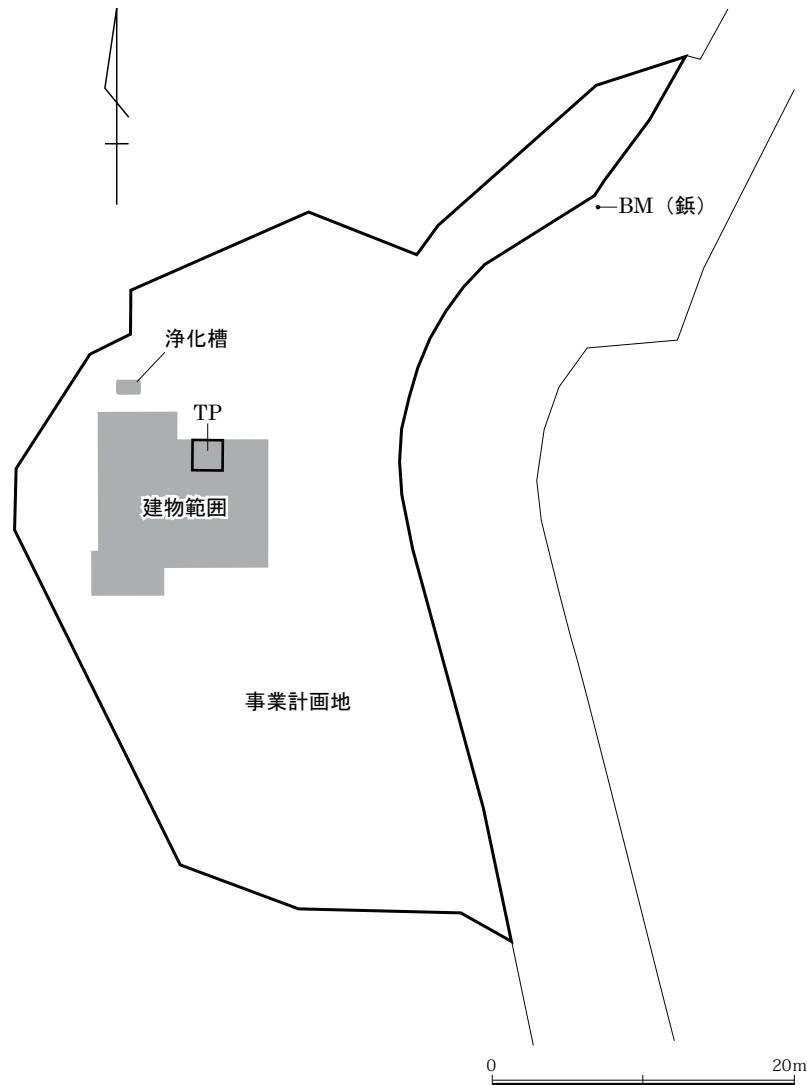
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/500)

り。橙色スコリア中量含む。根多い。

6層：黒褐色粘質土。しまり強い。粘性強い。

橙色スコリアを霜降り状に含む。土粒均一。堆積密。

7層：黒褐色土。6層に似るが、6層より色調が明るくなり、しまりがやや弱まる。粘性強い。橙色スコリア含む。

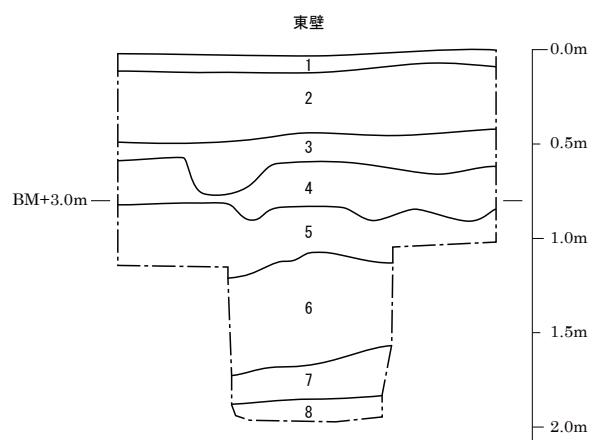
8層：褐灰色土。しまりややあり。粘性強い。橙色スコリア少量含む。一部筋状にロームが混ざる。地割れ痕か。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし



第5図 土層断面図 (1/40)

（2）調査所見

調査の結果、1～3層の地表下 75cm までは表土及び客土で、それ以下で本来の堆積土を確認することができた。

4層は暗褐色を呈する土層で、橙色スコリアを多量に含む。宝永火山灰が確認されなかつたことから、近世以前に堆積した可能性がある。5、6層は橙色スコリアを多量に含む黒褐色土であり、縄文時代以降～古墳時代以前の堆積土と考えられる。7層は6層に似るが、色調がやや明るくなり、

橙色スコリアが減少するという特徴がみられた。8層になると粘性が増し、ロームを少量含むことから、いわゆるローム漸移層に類似する堆積土と思われる。地表下約 200cm まで調査したが、ローム層は確認できなかつた。壁面の土層観察から西が高く、東に向かって低く堆積する様子がみられたため、当該地は谷地形の落込みであり、周辺よりも堆積が厚い可能性を想定している。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財は確認されなかつた。



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 調査区設定状況（東から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 東壁土層堆積状況



写真5 東壁下部土層堆積状況

5-67 茅ヶ崎市円蔵二丁目 114番11

1 調査年月日 令和6(2024)年2月8日(木)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 鶴ヶ町遺跡(No.186)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部、茅ヶ崎市立鶴が台小学校から南側約320mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約5.6mを測る。

7 調査の方法

事業計画地に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行った。記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南東側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性ややあり。ロームをブロック状に含む。コンクリートブロック、ゴミが多量に混ざる。

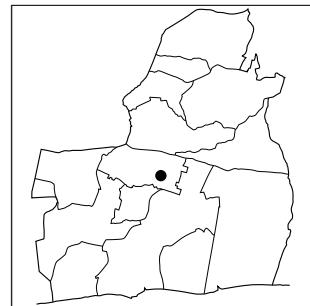
2層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性ややあり。φ3mm程の橙色スコリアを少量含む。ブロック状に砂が混ざる。

3層：暗褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。宝永パミス少量、炭化物粒少量、橙色スコリア少量含む。堆積やや粗い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

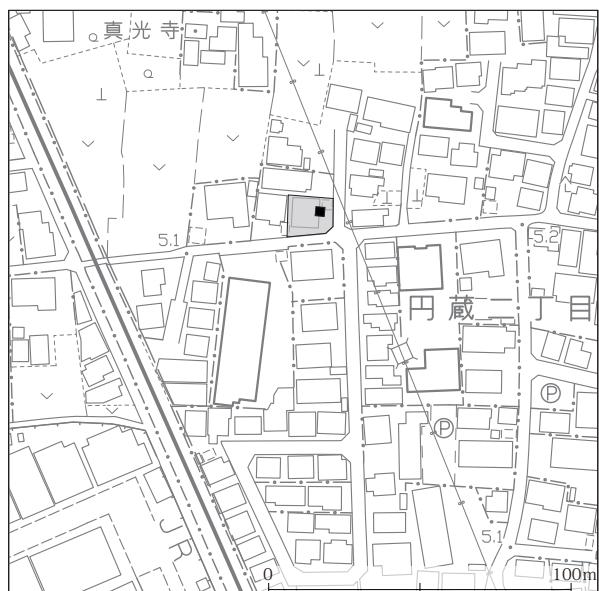
発見遺構：なし



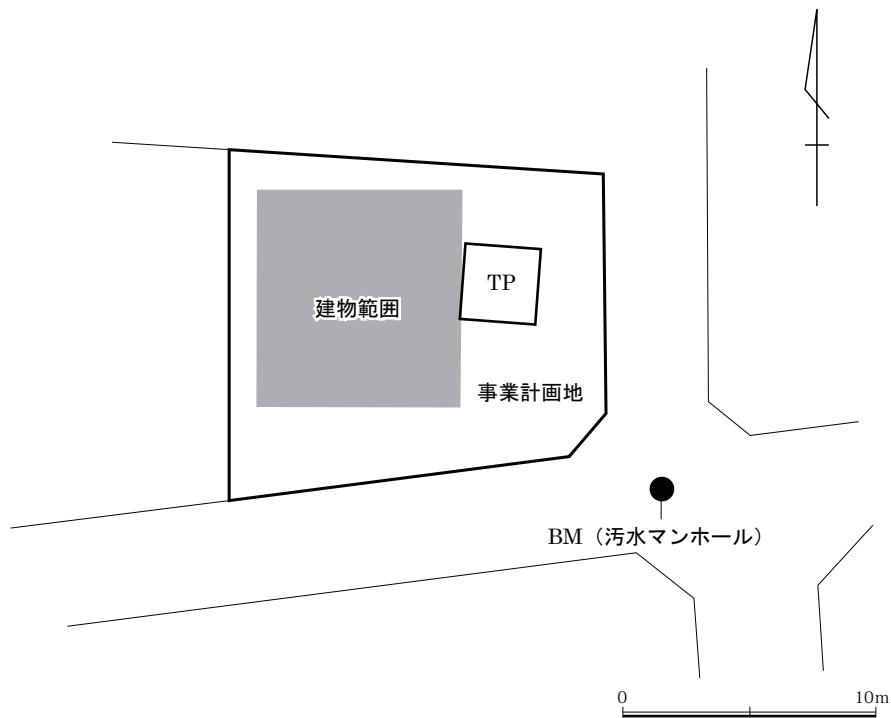
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

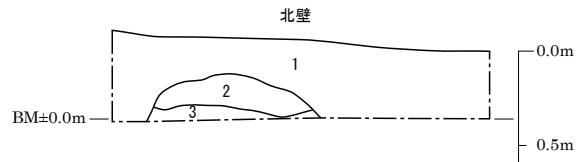
出土遺物：陶器

(2) 調査所見

地表下50cmまで掘り下げた結果、調査区の大部分が客土されていたが、地表下18cmで本来の堆積土を確認した。

客土である1層はコンクリートブロックやプラスチックゴミが多量に含まれており、既存建物解体時の埋土と思われる。2層は橙色スコリアを含むほか、ブロック状に砂が混ざるため、既存建物解体時とは別の時期の客土の可能性がある。3層は宝永パミス、炭化物粒、橙色スコリアが含まれており、近世後半以降の堆積と思われる。また、3層から近世の京焼系陶器と思われる遺物の小破片が出土していることから、以下は近世の包含層が堆積していると考えられる。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。



第5図 土層断面図 (1/40)

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	3層	陶器	1	1.3
合計			1	1.3



写真1 調査地点近景（南東から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（南から）



写真4 北壁土層堆積状況



写真5 出土遺物

5-68 茅ヶ崎市浜之郷 261番3

1 調査年月日 令和6(2024)年2月14日(水)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 中谷遺跡 (No.187)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代、中世、
近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立浜之郷小学校から東側約270mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約5.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の中央において、2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地北側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

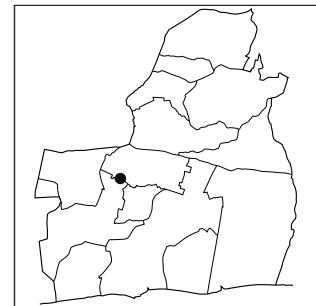
1層：暗褐色土。しまりあり。粘性ややあり。

堆積粗い。帯状にロームブロック含む。

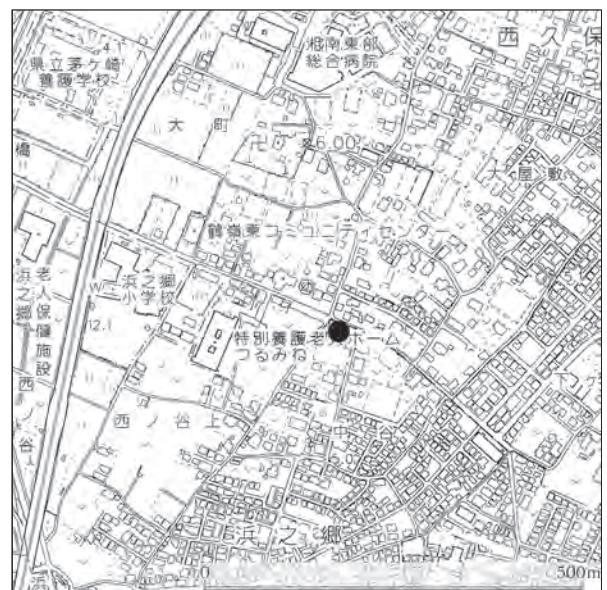
コンクリートガラ、ゴミ多数混入する。

2層：灰黄褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。堆積粗い。φ50mm程のブロック状にローム含む。φ10mm程の小石多量に含む。コンクリートガラ、ゴミ多量混入する。

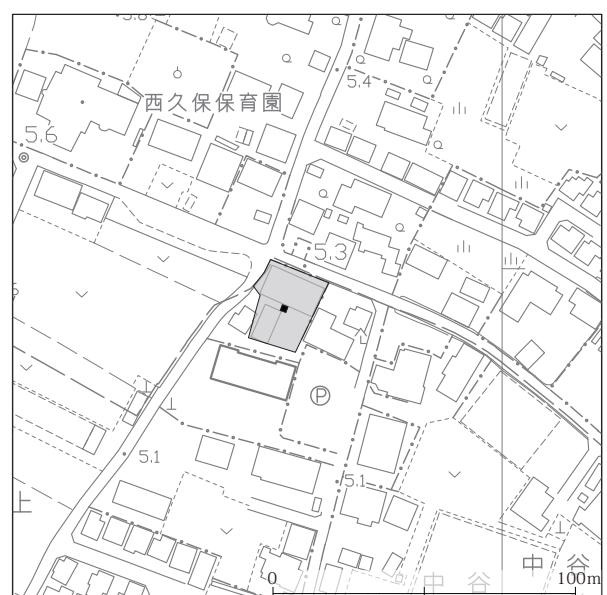
3層：暗褐色土。しまりややあり。粘性あり。φ10mm程の炭化物粒中量、宝永パミス多量、白色粒多量に含む。プラスチッ



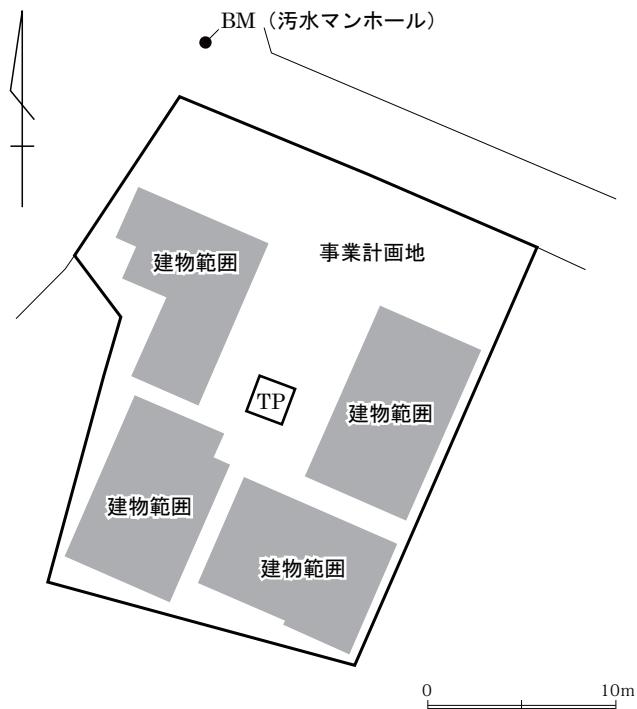
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

クゴミ混ざる。陶磁器片、瓦出土。

4層：暗褐色土。しまりややあり。粘性ややあり。白色粒多量、 ϕ 10mm程の小石多量、 ϕ 10mm程の炭化物粒少量に含む。宝永パミス含む。

5層：暗褐色土。しまりややあり。粘性やや強い。 ϕ 5mm程の炭化物粒中量、橙色スコリア中量含む。土師器片出土。

6層：にぶい黄褐色土。しまりあり。粘性あり。堆積密。地山層。

(2) 遺構覆土

〈溝状遺構1〉

1層：褐灰色土。しまりあり。粘性あり。酸化鉄分、宝永パミスが多量に含まれる。 ϕ 1mm程の炭化物粒少量含む。ブロック状に砂が混ざる。

〈竪穴状遺構1〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性ややあり。 ϕ 5mm程の炭化物粒中量、橙色スコリア中量含む。土師器片出土。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

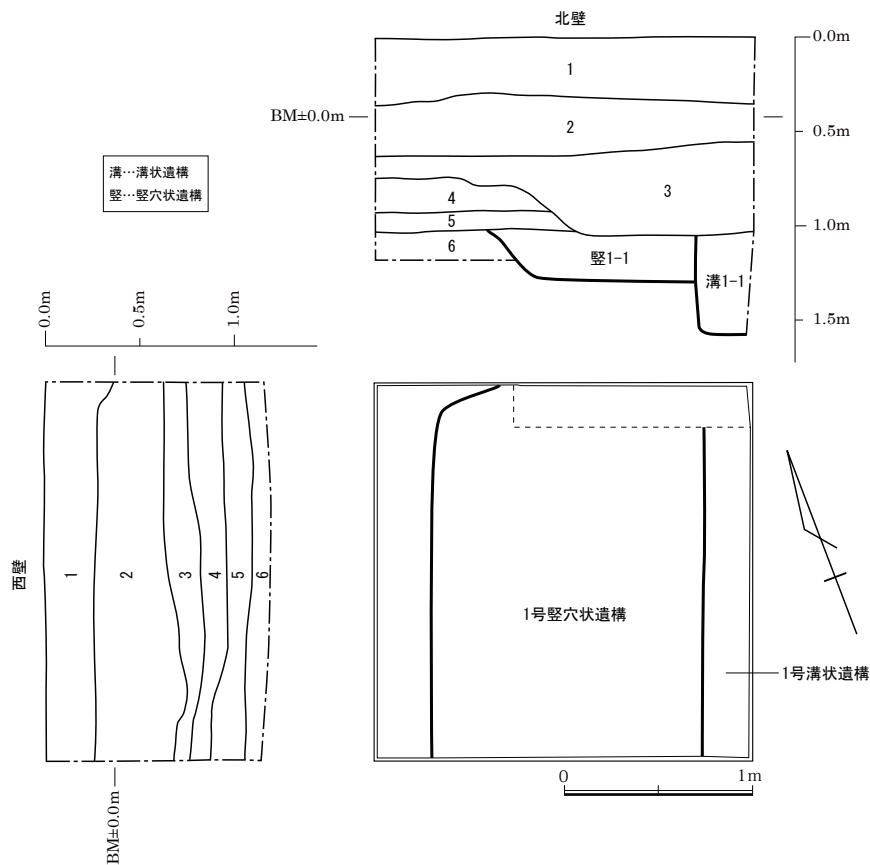
発見遺構：溝状遺構、竪穴状遺構

出土遺物：土師器、陶器、磁器、土製品、ガラス製品、瓦、礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下74cmまで客土で、それ以下で本来の堆積が確認された。遺物は3、4層から陶器と磁器、瓦、5層からは土師器が出土した。遺構は5層上面で溝状遺構、6層上面で竪穴状遺構を確認した。

堆積土は、客土が既存建物解体時のものである1層と、それ以前の盛土である2層に分けられる。本来の堆積土は4層まで宝永火山灰を含み、それ以下では含まない。3層は宝永火山灰のほか、プラスチックゴミを含んでいるため、近世後半以降から近現代にかけての堆積と考えられる。4層はプラスチックゴミを含まない堆積土であることから、3層よりも江戸期に近い堆積と思われる。5層は、炭化物粒と橙色スコリアを含んでおり、



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

遺物は土師器片が出土した。南側隣接地の試掘・確認調査においても土師器と須恵器が出土しているため、当該地周辺には古代の包含層が残存している可能性が考えられる。6層は、にぶい黄褐色を呈しており、当該地の地山に類似する。

1号溝状遺構は南北方向の溝状を呈し、覆土に炭化物粒と宝永パミスを含む。遺物の出土はなかったが、覆土の様相から近世後半以降と考えられる。1号竪穴状遺構は25cm程の掘り込みを持つ方形を呈し、覆土に炭化物粒、橙色スコリアを含む。宝永火山灰は確認されなかった。また、覆土中より土師器片が出土していることから、遺構の時期は古代から近世前半に属すと考えられる。

以上のことから当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	1～4層	土師器	1	0.7
		土師器 瓢	3	13.3
		陶器	8	24.5
		磁器	4	9.3
		土製品	2	63.4
		瓦	1	185.4
		ガラス製品	1	25.6
		鉄製品	1	4.6
		鉄製品 釘	1	2.1
		アスファルト	1	26.1
	5層	土師器	3	1.9
		土師器 壺	3	3.4
		礫	1	8.6
合計			30	368.7



写真1 調査地点近景（西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 完掘状況（南から）



写真4 西壁土層堆積状況



写真5 北壁土層堆積状況



写真6 出土遺物

5-69 茅ヶ崎市赤羽根字四図 1252 番5

1 調査年月日 令和6(2024)年2月19日(月)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 四図A遺跡 (No.61)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世、近代

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北東側、茅ヶ崎市立松林小学校から北西側約350mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約12.1mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、土層堆積状況の観察を行い、記録は土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

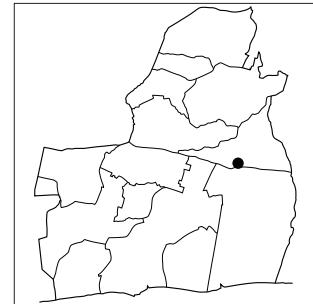
1層：褐色土。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
碎石を含む。

2層：にぶい黄褐色土。しまりやや強い。粘性ややあり。ロームブロックを多く含む。
人頭大の石、コンクリートブロックが混入する。

3層：灰黄褐色土。しまり弱い。粘性あり。宝永パミス中量、 ϕ 10mm程の小石少量含む。ビニールゴミを含む。旧表土。

4層：灰黄褐色土。3層に似るが、しまり弱い。
粘性弱い。

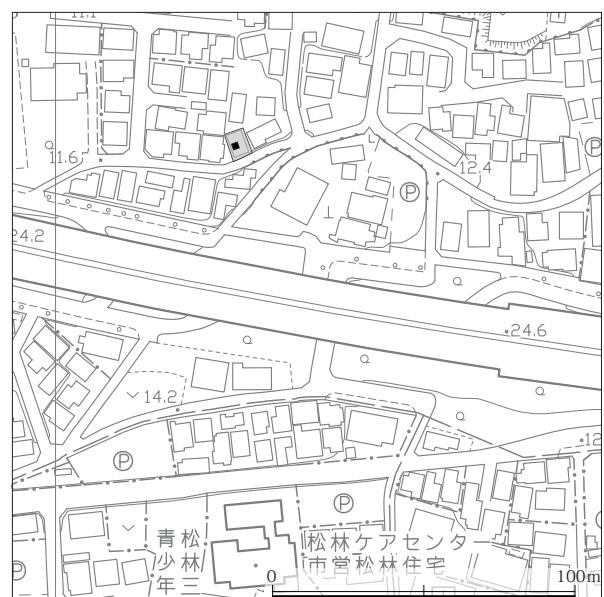
5層：灰黄褐色土。しまり弱い。粘性あり。宝



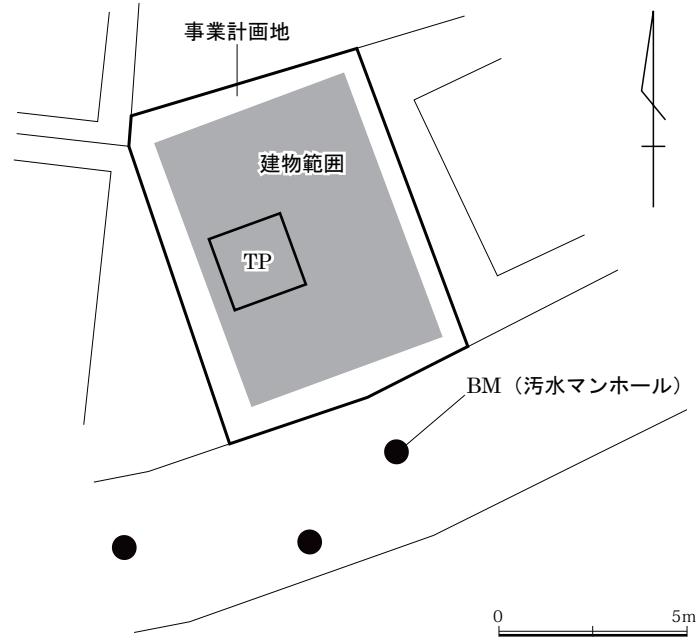
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/200)

永パミス少量含む。

6層：暗褐色土。しまりややあり。粘性あり。

　　橙色スコリア多量含む。炭化物粒が少量
　　混じる。

7層：暗褐色土。しまりややあり。粘性あり。

　　6層に似るが橙色スコリアが減少し、色
　　調が暗くなる。

8層：黒褐色土。しまりややあり。粘性やや強
　　い。白色粒多量に含む。シルト質。

9層：褐灰色砂質土。しまりややあり。粘性や
　　や弱い。全体に酸化鉄分を含む。

10層：黒褐色土。8層に似るが、砂質みが増す。
　　白色粒多量に含む。

11層：黄褐色砂。しまりやや弱い。粘性なし。
　　地山層。

9 調査結果

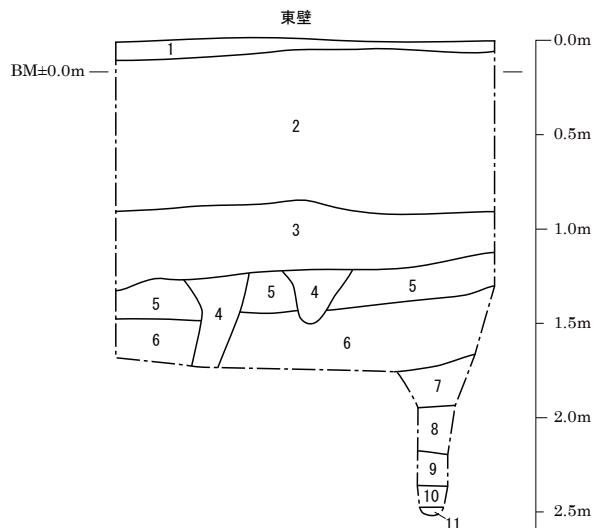
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：なし

出土遺物：なし

(2) 調査所見

調査の結果、地表下84cmまでは客土で、そ
れ以下で本来の堆積が確認された。



第5図 土層断面図 (1/40)

堆積土については、2層がコンクリートブロックや石を含むことから、既存建物の解体土や、造成時の盛土と考えられる。2層まで宝永火山灰を含み、それ以下では含まない。3層は宝永火山灰のほか、ビニールゴミを含んでいるため、近世後半以降から近現代にかけての堆積とみられる。4層は、堆積の様子からトレンチャーによる近現代

の掘り込みの可能性がある。5層はプラスチックゴミを含まない堆積土であることから、3層よりも江戸期に近い堆積と思われる。6、7層は上層と比較して堆積土の色調が暗くなり、橙色スコリアや炭化物粒が含まれるが、遺物の出土はなかった。堆積土の様相から、古代～近世の堆積の可能性がある。8層はさらに黒みが増し、主たる碎屑物はシルト質であった。未分解の有機物は明瞭ではなかったが、直下の9層で酸化鉄分が確認されたことから、8層以下は水分を多く含む環境で

あったと推測される。また、8層中に多量に含まれる白色粒は、上層で確認された橙色スコリアが水脱色したものである可能性も考えられる。10層はより砂質みを増し、地表下約250cmの8層で当該地周辺の地山層である黄褐色砂を確認した。

以上の堆積土の特徴から、かつて当該地は湿地の様相を呈していたが、7層堆積時には一定程度乾燥が進み、近世以降は畠地や宅地利用されたものと考えられる。



写真1 調査地点近景（南西から）

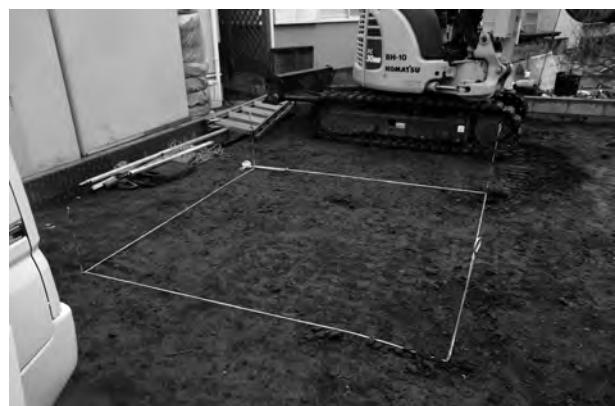


写真2 調査区設定状況（南から）



写真3 完掘状況（西から）



写真4 東壁土層堆積状況



写真5 東壁下部土層堆積状況



写真6 東壁最下部土層堆積状況

5-70 茅ヶ崎市室田三丁目 770番1

1 調査年月日 令和6(2024)年2月27日(火)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 8.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 大縄下遺跡 (No.93)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 奈良時代、平安時代、中世、
近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部東側、茅ヶ崎市立室田小学校から南東側約460mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約7.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を2箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録作成とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地西側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

〈TP1〉

1層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。

コンクリートガラ混じる。解体時の整地層。

2層：灰黄褐色砂。しまり弱い。粘性弱い。当該地周辺のいわゆる地山層の黄褐色砂を主体とする。φ3cmの小石混じる。

3層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。

φ5～8cmの石が多く混じる。TP1基本土層4層をまだらに含む。

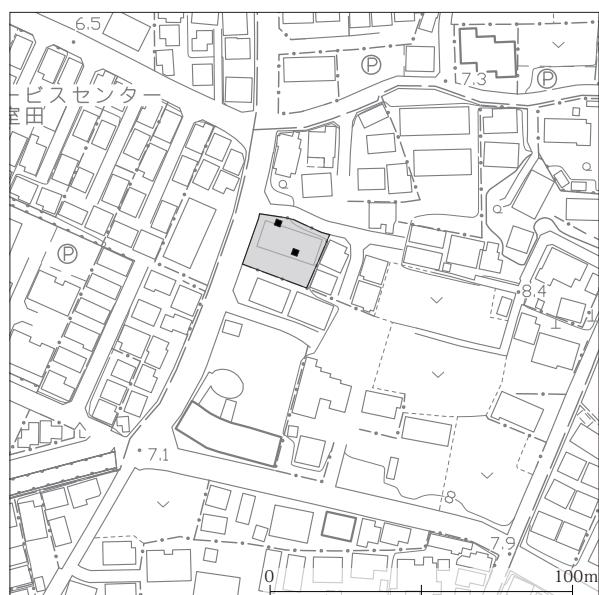
4層：褐色砂。しまり弱い。粘性なし。周辺の



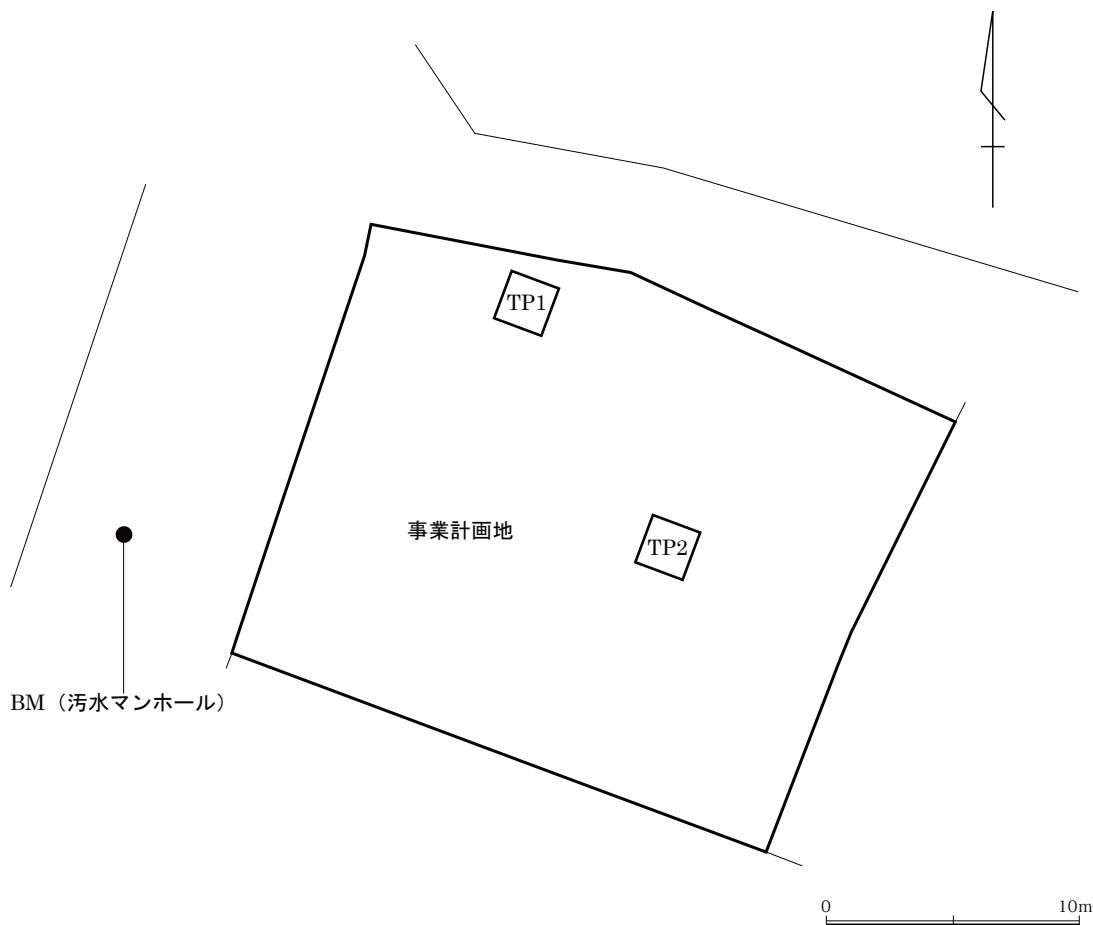
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

地山層が強く酸化し赤茶ける。

5層：黄褐色砂。上層よりしまり増す。粘性なし。TP1 基本土層4層より粗い砂層。

6層：黒褐色砂と黄褐色砂の互層。TP1 基本土層5層に似るがしまりが増す。

7層：黒褐色砂。しまり強い。粘性なし。酸化鉄分を多く含む。

〈TP2〉

1層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。コンクリートガラ、プラスチックゴミ混じる。解体時の整地層。

2層：攪乱。

3層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。φ 5mm 程の橙色スコリア含む。炭化物粒微量含む。土師器出土。

4層：暗褐色砂質土。しまりややあり。粘性弱

い。φ 3mm 程の橙色スコリア含む。

5層：黄褐色砂。しまりややあり。粘性弱い。ブロック状に TP2 基本土層の4層含む。

6層：黄褐色砂。しまりややあり。粘性弱い。当該地周辺の地山層に類似する。

(2) 遺構覆土

〈1号ピット〉

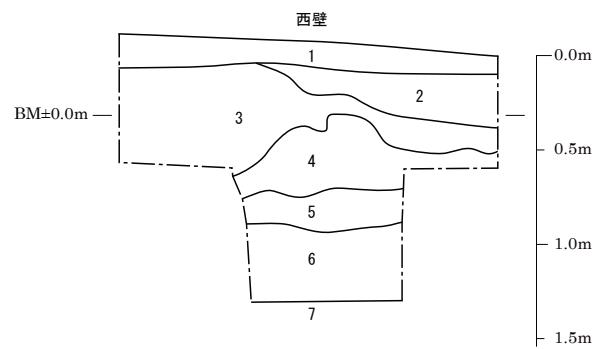
1層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。橙色スコリア多量に含む。

〈2号ピット〉

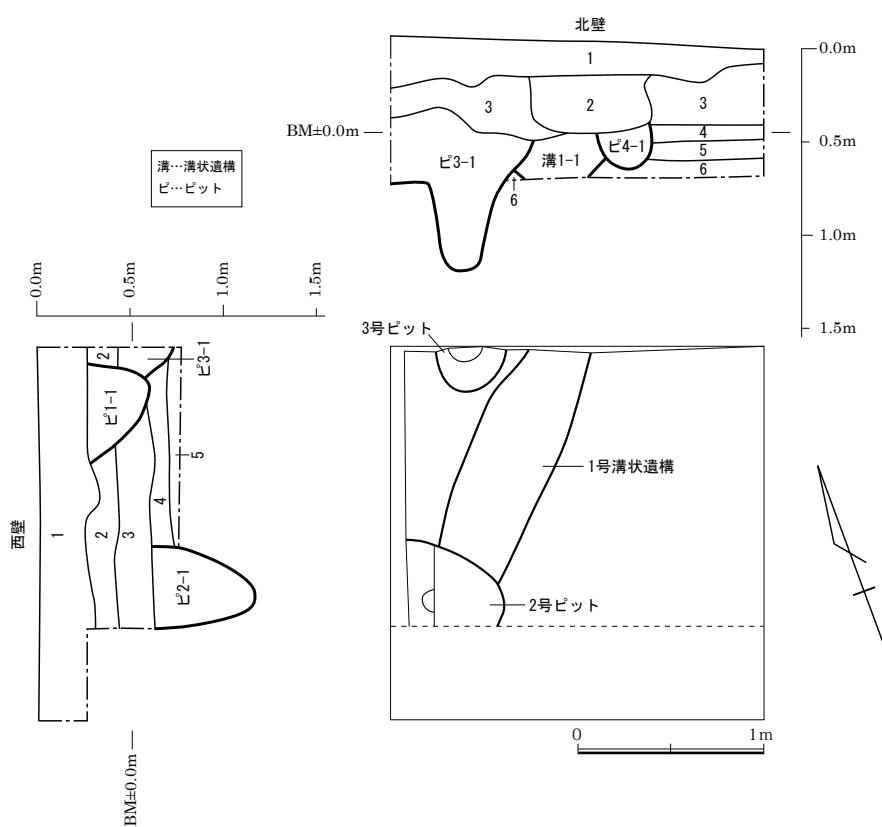
1層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。黄色粒多量に含む。

〈3号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。橙色スコリア少量含む。



第5図 TP1 土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層堆積状況 (1/40)

〈4号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまりやや強い。粘性弱い。橙色スコリア多量に含む。

〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色砂質土。しまりややあり。粘性弱い。ブロック状にTP2基本土層4層含む。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

〈TP1〉

発見遺構：なし

出土遺物：なし

〈TP2〉

発見遺構：ピット、溝状遺構

出土遺物：弥生土器か、土師器

(2) 調査所見

調査の結果、古代から近世前半に属すと考えられる遺構、遺物を確認することができた。

TP1は、地表下約50cmまでが解体時の整地層と攪乱であり、それ以下で本来の堆積を確認した。地表下約50cm以下の1層～4層の中で、明確に時代を判別できる混入物を確認することはできなかった。1707年降灰の宝永火山灰、軽石を含む土層も確認されなかった。

TP2は、地表下約30cmまでは解体時の整地層である表土で、それ以下で自然堆積土を確認した。遺物は1層から土師器片が出土した。1層から4層まで宝永火山灰は含まれず、橙色スコリアを多く含むことから、1層以下は古代の堆積であ

る可能性が高い。4層で当該地周辺の地山層に類似する黄褐色砂を確認した。

1号ピットは、西壁断面にて確認された。上面が既存建物解体時の整地層によって切られる形で検出されたため、明確な時期は不明であるが、覆土の様相から、遺構の時期は近世前半以前から古代と考えられる。2～4号ピットは覆土が近似している。2号ピットより土師器片が出土していることから、これらの遺構は古代に埋没した可能性が考えられる。1号溝状遺構は遺物の出土はなかったが、覆土の様相から近世前半以前から古代に属すると思われる。

以上のことから、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP2	3層	弥生土器か	2	16.6
		土師器	1	0.7
		土師器 壊	1	1.7
		土師器 蜂	1	1.5
	2号ピット	土師器	1	1.5
合計			6	22.0



写真1 調査地点近景（東から）



写真2 TP1 設定状況（北から）



写真3 TP1 完掘状況（東から）



写真4 TP1 西壁土層堆積状況



写真5 TP2 設定状況（北から）



写真6 TP2 完掘状況（東から）

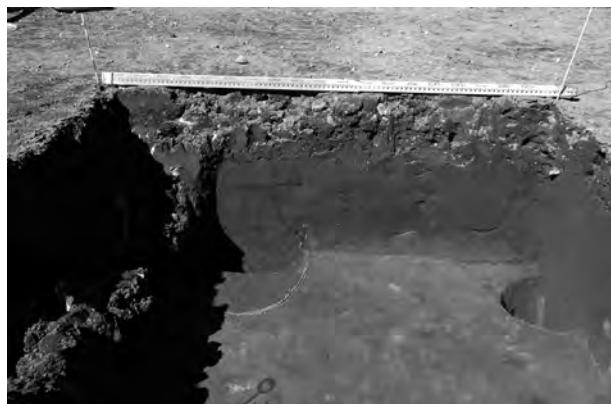


写真7 TP2 西壁土層堆積状況



写真8 TP2 北壁土層堆積状況



写真9 出土遺物

5-7-1 茅ヶ崎市香川七丁目 2358番の一部

1 調査年月日 令和6(2024)年2月28日(水)

2 調査目的 集合住宅新築工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 10.6m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 北D遺跡 (No.169)

(2) 種別 集落跡

(3) 時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北西部、県立茅ヶ崎北稜高等学校グラウンドから南東側約600mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約8.9mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の北西部に2.2m×3.0mを1箇所、南東部に2.0m×2.0mを1箇所、計2箇所を設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する汚水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

1 基本土層

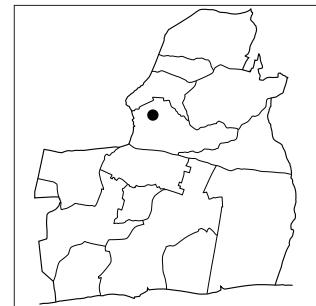
1層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
耕作土。

2層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
耕作土。ビニールゴミやや多く含む。

3層：暗褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
ビニールゴミ含む。

4層：暗灰褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
宝永パミス含む。

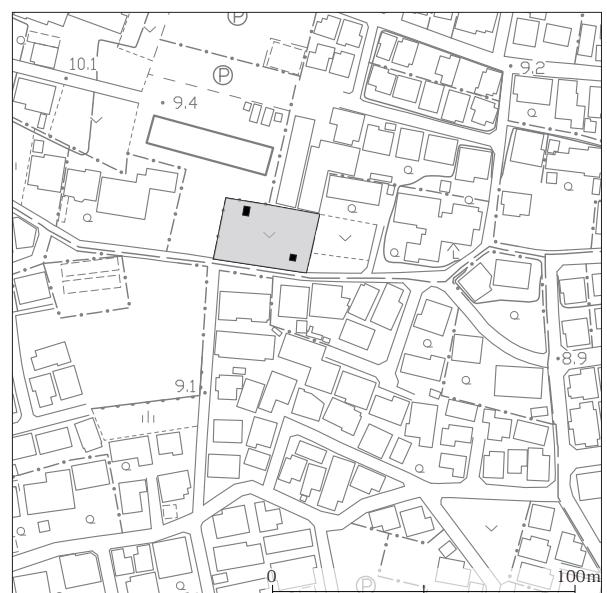
5層：暗灰褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
宝永パミス多く含む。火山灰多く含む。



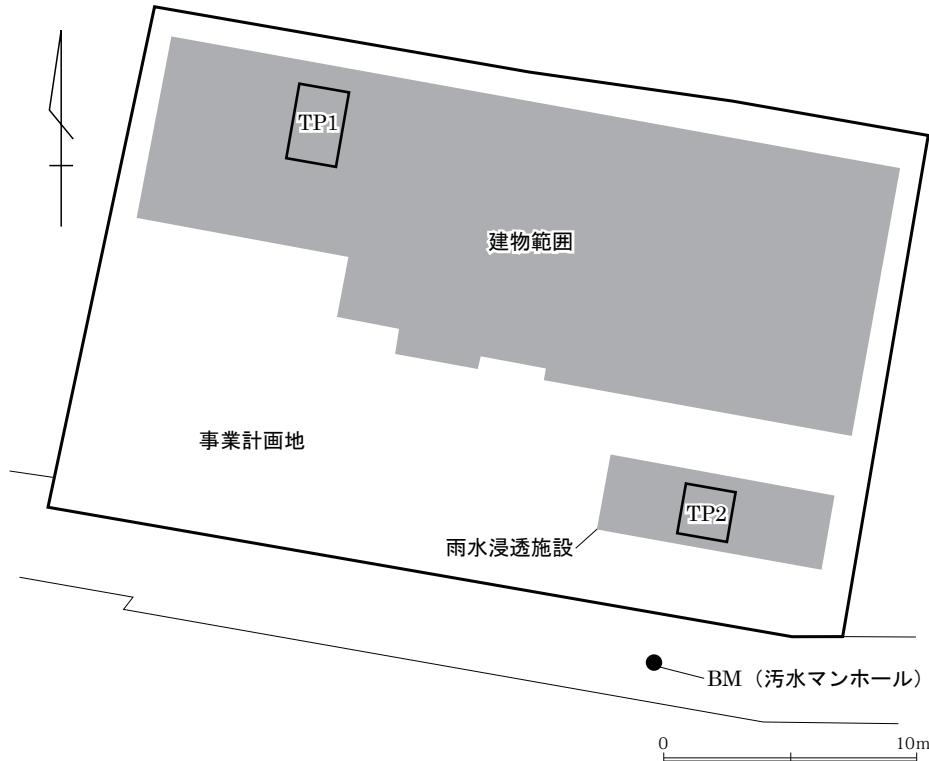
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)

6層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性あり。遺物多く含む。色調やや明るい。

7層：暗褐色砂質土。しまり増す。粘性弱いがあり。古代の遺物含む。橙色スコリア多く含む。

8層：黒褐色砂質土。しまり強い。粘性弱い。酸化鉄分多く含む。橙色スコリア多く含む。無遺物か。

9層：黒褐色砂質土。しまり強い。粘性弱い。酸化鉄分増す。やや砂粒粗くなる。橙色スコリア多く含む。

10層：黄褐色砂。しまり強い。粘性なし。雲母片含む。当該地周辺の地山層に類似。

(2) 遺構覆土

〈1号宝永溜まり〉

1層：宝永火山灰と軽石主体の層。下部5cm厚で自然堆積の軽石、上部に火山灰が堆積する。

〈1号竪穴状遺構〉

1層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性あり。

土器多く含む。砂質ブロック含む。

〈1号土坑〉

1層：暗褐色砂質土。1号竪穴状遺構の1層と似る。

2層：暗褐色砂質土。1号竪穴状遺構の2層と似る。砂質ブロック含む。

〈1号ピット〉

1層：暗褐色砂質土。しまりあり。粘性あり。色調やや暗い。砂質ブロックを含まない。

〈1号溝状遺構〉

1層：1号竪穴状遺構の1層と似る。

〈2号竪穴状遺構〉

1層：1号ピットの1層と似る。褐色み強く、しまりやや弱い。橙色スコリア含む。

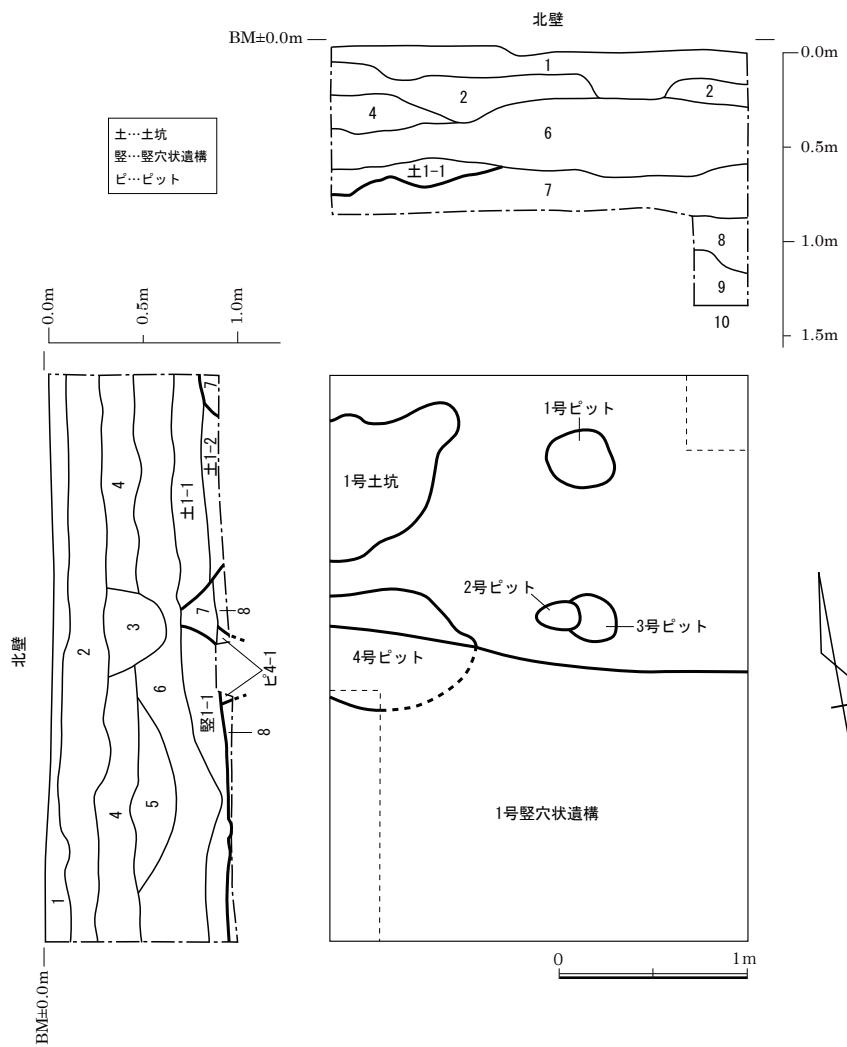
9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

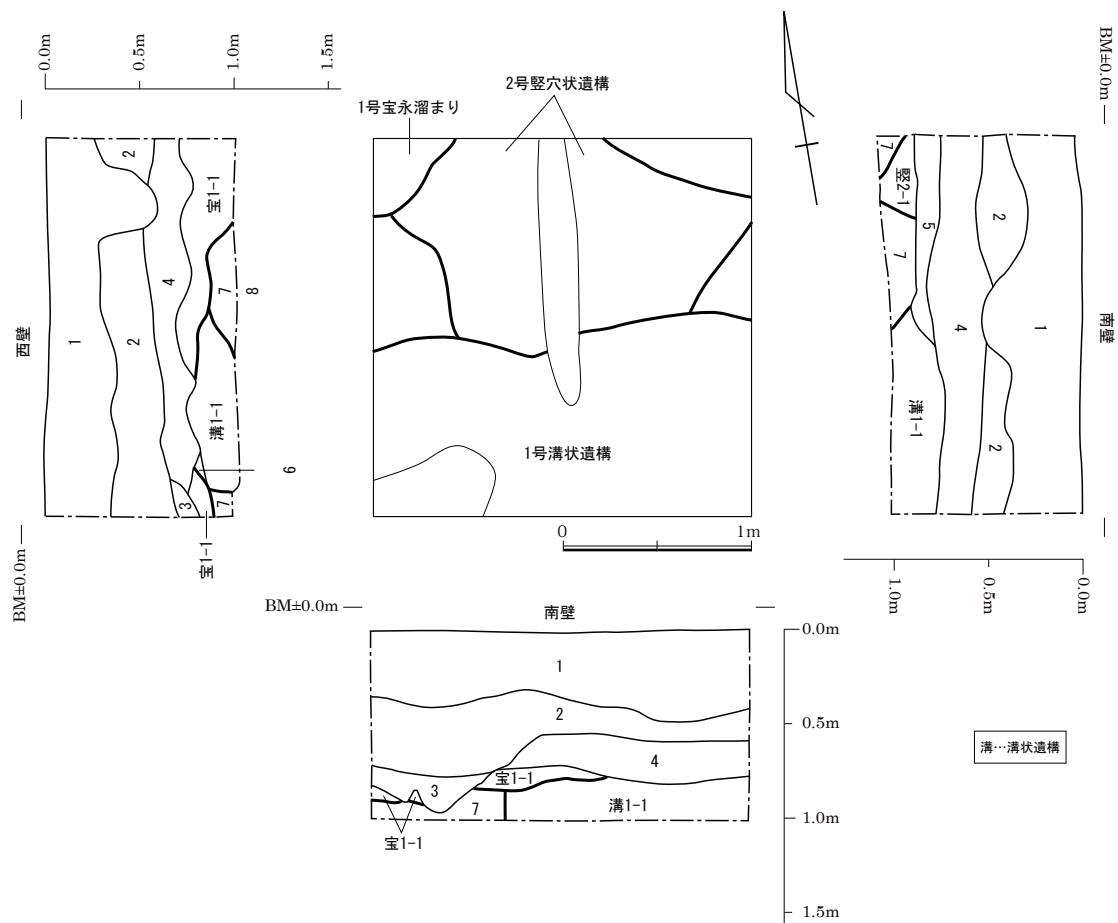
〈TP1〉

発見遺構：ピット、土坑

出土遺物：土師器、須恵器、かわらけ、陶器、瓦、礫、軽石



第5図 TP1 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)



第6図 TP2 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

<TP2>

発見遺構：竪穴状遺構、溝状遺構

出土遺物：土師器、礫

(2) 調査所見

調査の結果、古代から近世前半に属すと考えられる遺構、遺物を確認することができた。

TP1は、当初 2.0 m × 2.0 m の調査区を設定し調査を実施したが、遺構の平面形及び範囲を確認することが困難であったことから、北側に 1m 拡張して調査を継続した。地表下約 30cm まで表土が堆積しており、それ以下で本来の堆積土を確認した。遺物は 6、7 層と遺構覆土中より土師器や須恵器、灰釉陶器、かわらけ、陶器等が出土した。遺構は 7 層上面で 1 号竪穴状遺構と 1 号土坑、8 層上面で 1～4 号ピットを確認した。

1 号竪穴状遺構は西壁断面にて 20cm 程の掘り込みを確認した。土師質の土器片やかわらけが出土しているため、遺構の時期は中世以前の可能性が高い。1 号土坑の覆土は 1 号竪穴状遺構の覆土に類似している。このため、1 号土坑も中世に属する可能性が高いと思われるが、土層堆積からは古代～近世前半と考えられる。4 号ピットは、1 号竪穴状遺構に重複する形で検出された。遺構覆土の色調が 1 号竪穴状遺構より暗く、中世以降の遺物を含まないことから、古代以前の可能性がある。このほか、8 層上面では宝永パミスを含む 1～3 号ピットを確認した。覆土は 4 層に類似して宝永パミスを含んでおり、近世後半以降に属する。また、9 層に近似する黒褐色砂質土が平面に円形で検出された。周囲の堆積土と比較すると、

4～8層で見られる土質でないことから、液状化現象などによって8層上面に染み出した痕跡と思われる。

TP2では、地表から約77cmまで表土である1、2層が堆積しており、地表下約50～85cmまで宝永パミスを含む4、5層が確認された。地表下約70cmで下部に軽石、上部に宝永火山灰を含む宝永溜りを確認した。宝永溜りの直下で確認された1号溝状遺構は、壁断面にて下から上に向けてラッパ状に広がる様子が確認された。遺構の展開は大きく、調査区南側まで広がっていると思われる。覆土の様相がTP1の1号竪穴状遺構と近似しているため、時期は中世以前と考えられる。溝状遺構に切られる形で、調査区北側に2号竪穴状遺構が検出された。覆土に橙色スコリアを含み、土師器片が出土していることから、時期としては古代に属す可能性がある。

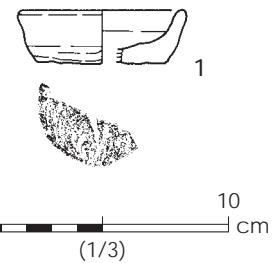
堆積土は、1、2層が耕作土である。本来の堆積土で宝永火山灰が確認されたのは4層と5層であり、近世後半以降の堆積と考えられる。6層からは古代から近世と思われる土器片が多く出土し、それ以下で遺構が確認された。7層は橙色スコリアを含み、古代の遺物が確認されていることから、古代の包含層の可能性がある。4層は全体に酸化鉄分が多く含まれているため上層に比べしまりが増し、遺物は確認されなかった。9層以下は砂粒が粗くなり、10層で当該地周辺の地山層に類似する黄褐色砂を確認した。

第7図はTP1で出土したかわらけである。胎土はやや粗く、赤色粒を含む。口クロ成形の底部で回転糸切りを有し、焼成は良好である。

以上、当該地においては埋蔵文化財が確認された。試掘・確認調査の結果を受け、本事業に関しては記録保存のための発掘調査を実施する予定である。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
TP1	4～6層	土師器	17	13.3
		土師器 壊	11	39.6
		土師器 裹	19	79.8
		磁器	1	1.1
		土製品	1	2.6
		礫	3	25.3
		軽石	1	1.0
		不明	1	2.7
	7層	土師器	7	8.7
		土師器 壊	4	22.8
		土師器 裹	9	75.9
TP2	1号竪穴状遺構	土師器	19	22.5
		土師器 壊	11	40.8
		土師器 裹	14	85.7
		須恵器 壊	2	4.2
		かわらけ	1	17.9
		陶器	2	10.6
		礫	2	13.5
		不明	1	1.4
	2号竪穴状遺構	土師器 壊	2	14.8
		土師器 裹	8	78.1
		須恵器 壊	2	17.4
合計			138	579.6



第7図 実測遺物 (1/3)

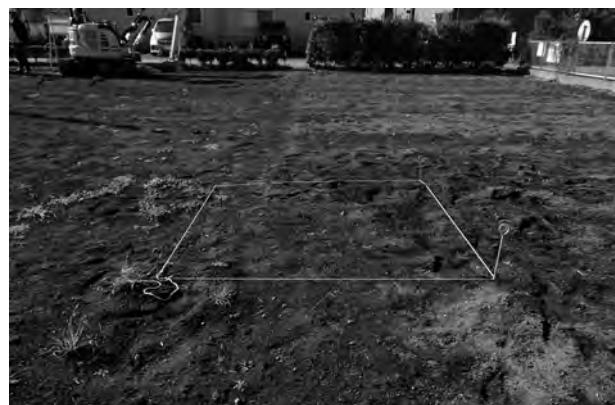




写真9 TP2 宝永検出状況（南から）



写真10 TP2 遺構確認状況（北から）



写真11 TP2 完掘状況（西から）

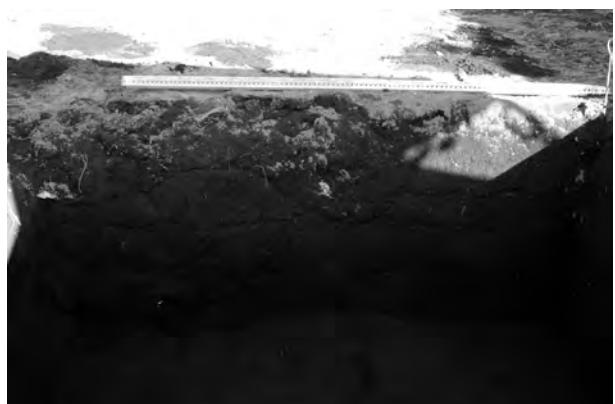


写真12 TP2 東壁土層堆積状況

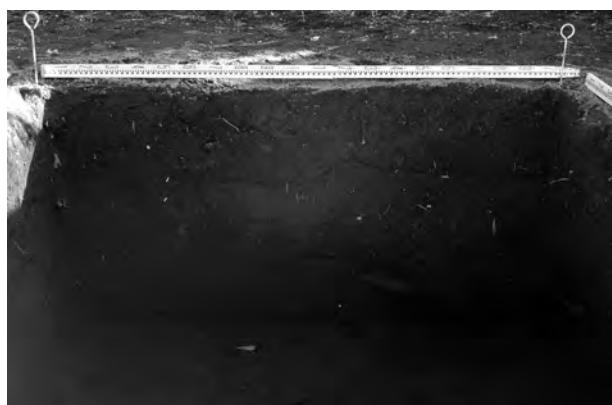


写真13 TP2 南壁土層堆積状況



写真14 TP2 西壁土層堆積状況



写真15 出土遺物



写真16 実測遺物（第7図）

5-7-2 茅ヶ崎市香川五丁目 1210番1の一部、1211番1の一部

1 調査年月日 令和6(2024)年3月11日(月)

2 調査目的 土留め工事

3 調査担当 三戸智也

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 中通A遺跡(No.46)

(2) 種別 遺物散布地、集落

(3) 時代 弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世

(4) 立地 砂丘

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市北西部、JR相模線香川駅から西側約110mの場所に位置する。調査以前は宅地の一部として利用されており、調査地点の標高は約8.5mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の切土部分に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業計画地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：暗褐色土。しまり弱い。粘性弱い。ロームブロック含む。土壤分多く、根を多く含む。

2層：褐灰色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。宝永パミスを少量含む。

3層：にぶい黄褐色砂質土。しまりややあり。粘性弱い。宝永パミスφ3mmを含む。

4層：灰黄褐色砂質土。しまり弱い。粘性ややあり。黒色スコリアφ5mm以下を含む。

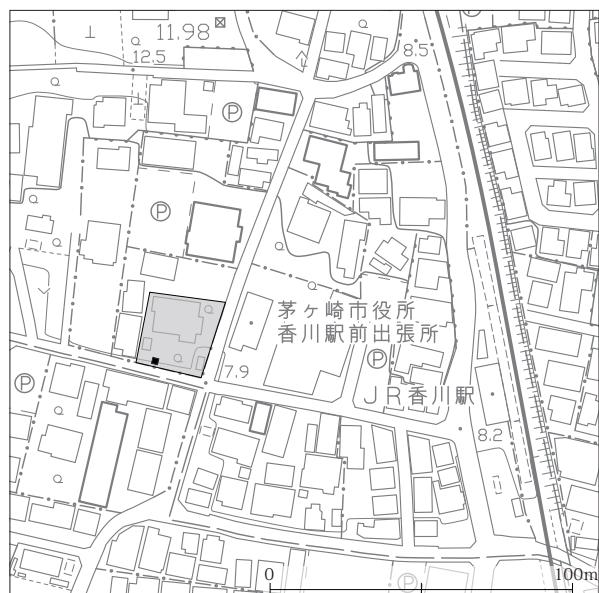
5層：にぶい黄褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。6層砂ブロックを含む。



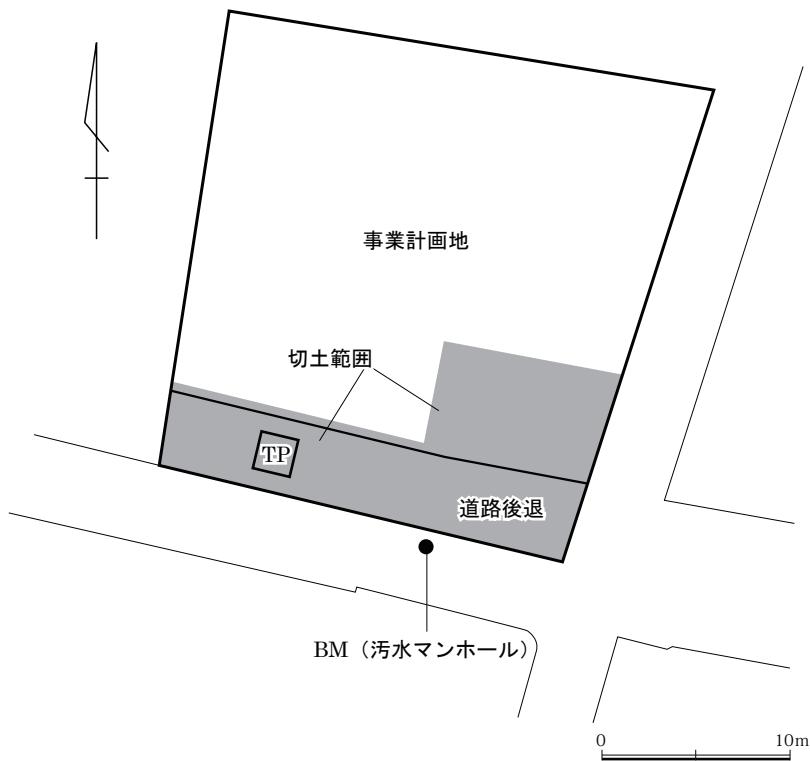
第1図 調査地点位置図(1/200,000)



第2図 調査地点位置図(1/10,000)



第3図 調査地点位置図(1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/400)

6層：褐色砂。しまりややあり。粘性なし。地
山の砂か。

(2) 遺構覆土

〈1号溝〉

1層：灰黄褐色砂質土。しまり弱い。粘性弱い。
黒色スコリア ϕ 3mm を含む。
2層：褐色砂質土。しまり弱い。粘性なし。基
本土層の6層を多く含む。

〈2号溝〉

1層：1号溝の1層に似るが、やや色調暗い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：溝

出土遺物：土師質土器、磁器、陶器、貝片

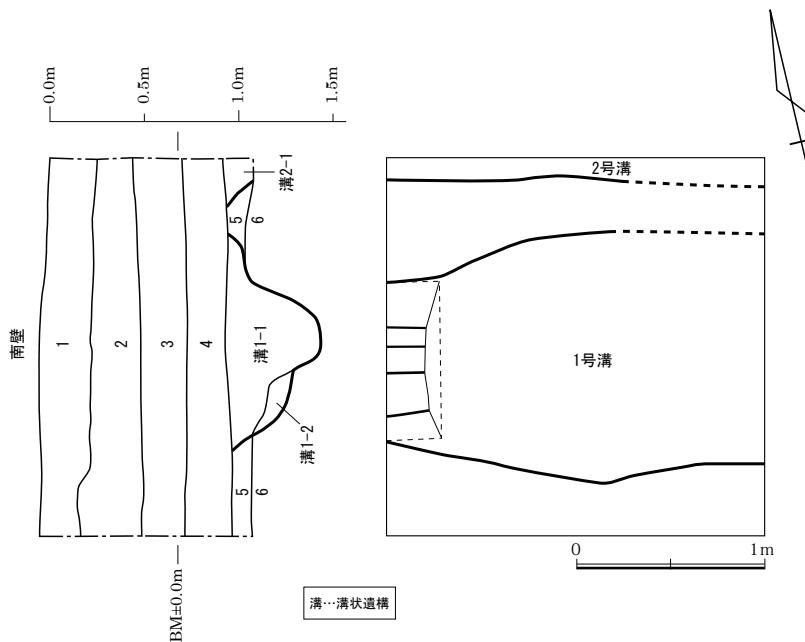
(2) 調査所見

調査の結果、本土層2、3層からは磁器が出土し、本土層4層中で陶器や摩滅した土師器などの遺物が出土した。遺構は本土層5層上面で溝2条を確認した。溝は2条とも南側道路に沿って東西方向に作られていた。1号溝は幅最大約130cm、深さ約50cmを測り、断面は中央

部がくぼむ薬研状を呈す。1号溝の北側には隣接して2号溝が並走しており、1号溝と同様本土層5層上面から掘り込まれている。溝の時期は、遺物の出土はなかったが覆土に宝永パミスを含まないことから、近世前半以前と考えられる。1、2号溝の覆土は類似しており、同時期の所産と推測される。

本土層は地表下25cmまでは客土である1層であり、その下から本来の堆積が確認された。本来の堆積土は2層が宝永火山灰を含み、炭化物が一定量混ざる砂質土で、1層を除き堆積土中最も暗かった。3層にも宝永火山灰が含まれるが、2層と比べ炭化物などの混ざり物が少なくしまった砂質土であった。4層は宝永火山灰が含まれず、比較的目立つ黒色スコリアが認められた。5層は4層と6層砂の漸移的な様相を呈し、4層より砂分が強く、6層の砂がブロック状に含まれていた。6層は当該砂丘の地山砂層に類似する。

1層は土質から宅地の庭造成のための盛土と考えられ、その直下の2層は近現代の旧表土と考えられる。3層は宝永火山灰が含まれていること



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

から近世後半以降の堆積であり、4層以下はそれより前の堆積と判断される。当該地の現況地表面は、南側の東西道路より約80cm高まっているが、当該地の旧表土が地表下25cmで確認されることから、南側道路は本来の地形を削平している可能性が高い。周辺は北側に向かって標高が高まり、南側は東西道路面から平坦、西側は東西道路を境に北側に高まる地形を呈していることから、当該地は南に向かって下降傾斜する東西方向の砂丘端部周辺に位置している可能性がある。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
	2～3層	土師器	1	0.8
		土師器 壺	1	2.1
		土師器 龫	4	17.3
		磁器	10	44.2
		磁器 碗	3	102.5
		陶器	8	83.0
		陶器 壺	1	21.8
		土製品 鉢	2	30.8
		礫	2	66.8
		粘土塊	3	16.8
		貝	2	22.1
		不明	2	30.9
	合計		39	439.1



写真 1 調査地点近景（南東から）



写真 2 調査区設定状況（北から）

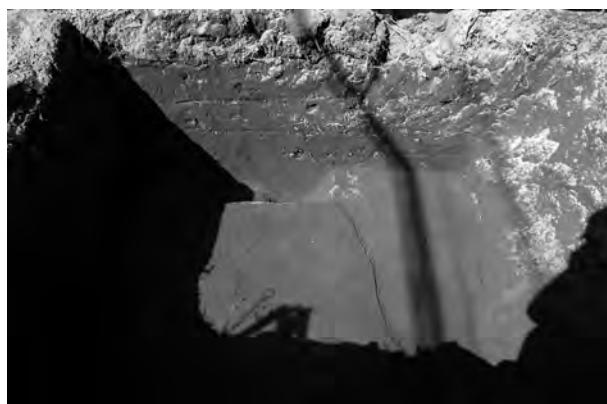


写真 3 遺構確認状況（東から）



写真 4 完掘状況（東から）

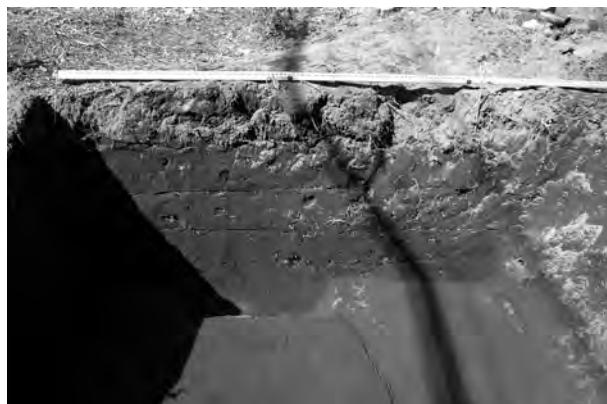


写真 5 西壁土層堆積状況



写真 6 出土遺物

5-7-3 茅ヶ崎市西久保字広町972番6

1 調査年月日 令和6(2024)年3月18日(月)

2 調査目的 個人住宅新築工事

3 調査担当 金馬義郎

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 広町遺跡 (No.191)

(2) 種別 遺物散布地、集落址、生産跡

(3) 時代 古墳時代(末)、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部北西側、茅ヶ崎警察署西久保駐在所から北東側約200mの場所に位置する。調査以前は宅地として利用されており、調査地点の標高は約5.7mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の建物範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

8 土層堆積状況

(1) 基本土層

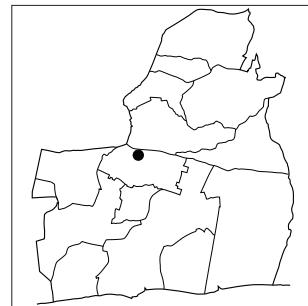
1層：暗褐色土。しまり弱い。粘性あり。現代のゴミを含む。表土。

2層：暗褐色土。しまりややあり。粘性あり。宝永パミスわずかに含む。旧耕作土か。

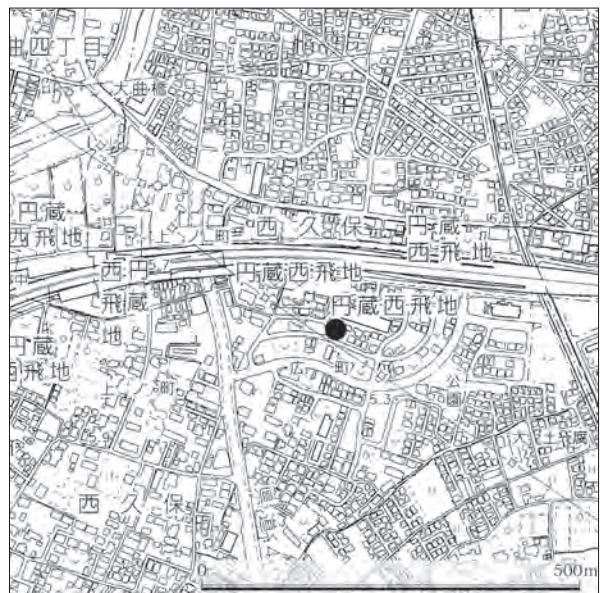
3層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミス含む。φ3～5mmの橙色スコリア含む。近世層か。

4層：褐色土。しまり強い。粘性あり。含有物少ない。古代以降の土層か。

5層：褐色土。しまり強い。粘性あり。含有物少ない。基本土層の4層に比べやや明



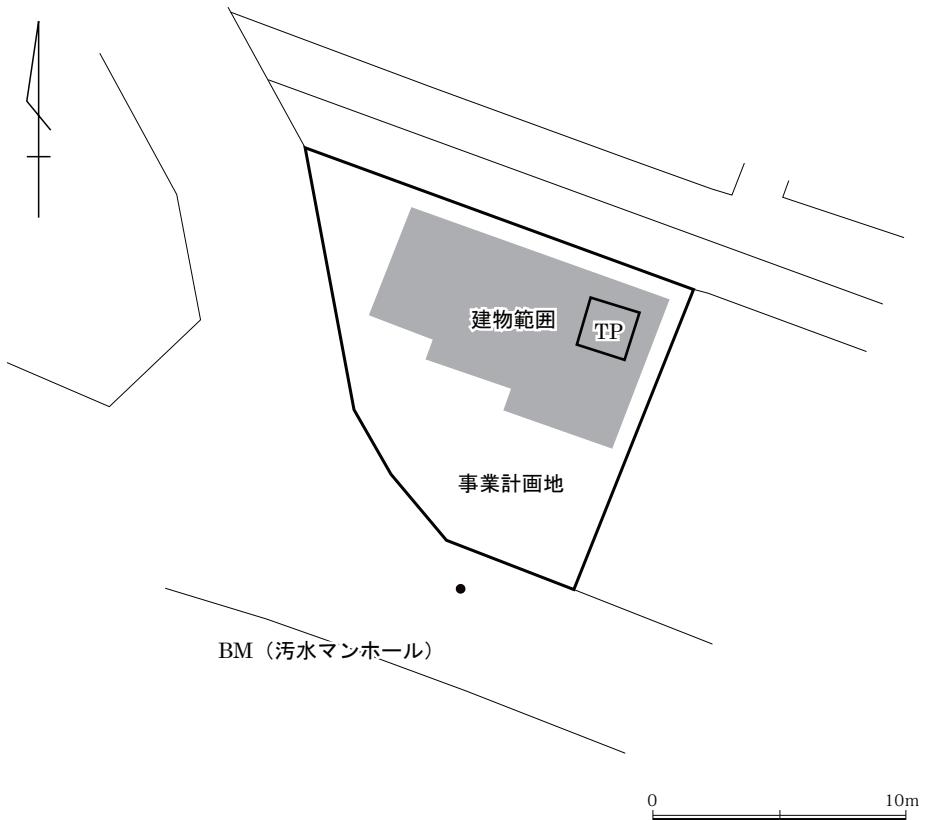
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



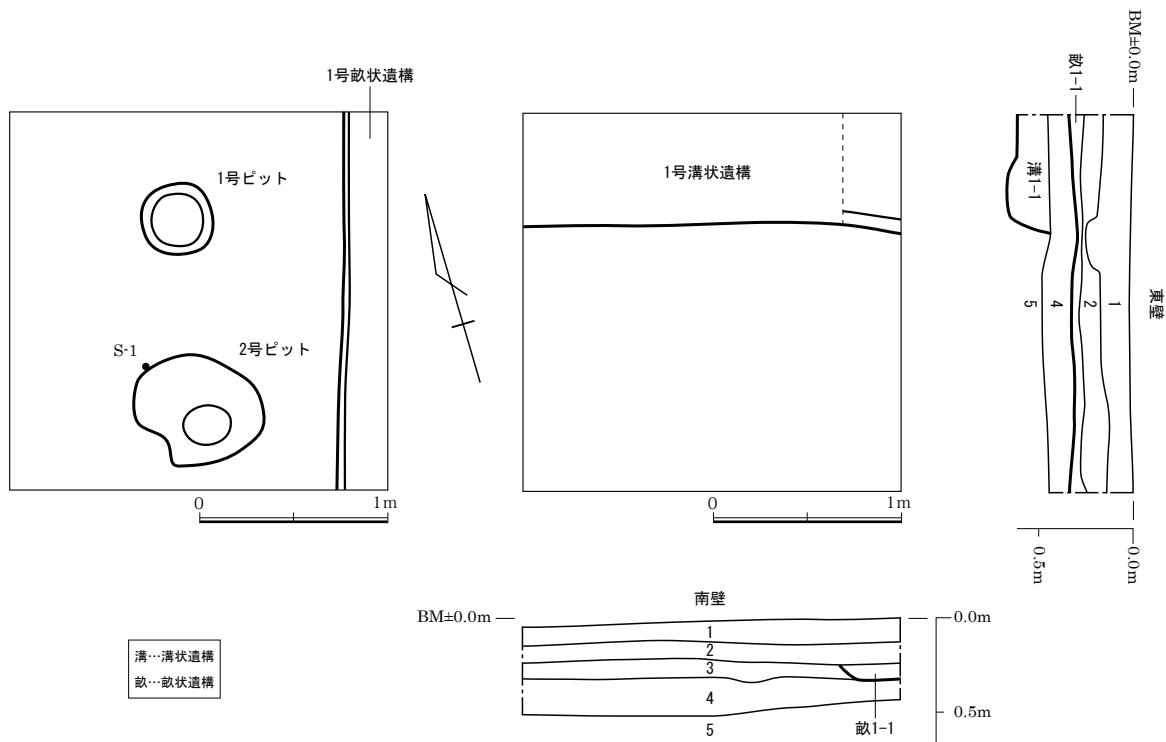
第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/300)



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図 (1/40)

るくしまり強い。基本土層の4層と地山層との漸移層か。

(2) 遺構覆土

〈1号畝状遺構〉

1層：黒褐色土。しまりあり。粘性あり。
φ 5mm の宝永パミスを多量に含む。

〈1号溝状遺構〉

1層：暗褐色土。しまりあり。粘性あり。基本土層3層より色味暗く、粘性強い。

9 調査結果

(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：溝状遺構、畝状遺構、ピット

出土遺物：土師器、礫

(2) 調査所見

調査の結果、基本土層の2層から火打石の可能性がある礫、地表下約20cmで宝永パミスを含む覆土を伴った近世の畝状遺構と耕作痕と考えられるピット、地表下約50cmで古代以降の所産と考えられる東西に走る溝状遺構を確認した。

いずれの遺構からも遺物の出土はなかったが、基本土層の3層上面で土師器片が確認された。当該地の西側隣接地で実施している広町遺跡第4次調査でも東西に走る溝状遺構が確認されていることから、5層上面で確認された溝状遺構と同一の遺構の可能性がある。

以上、当該地において埋蔵文化財が確認された。調査の結果を受け、本地点においては令和6年度に広町遺跡第9次調査を実施し、記録保存のための発掘調査を行った。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	3層	土師器 坏	1	2.0
		礫	2	22.0
	S-1	礫	1	7.3
合計			1	31.3



写真1 調査地点近景（南西から）

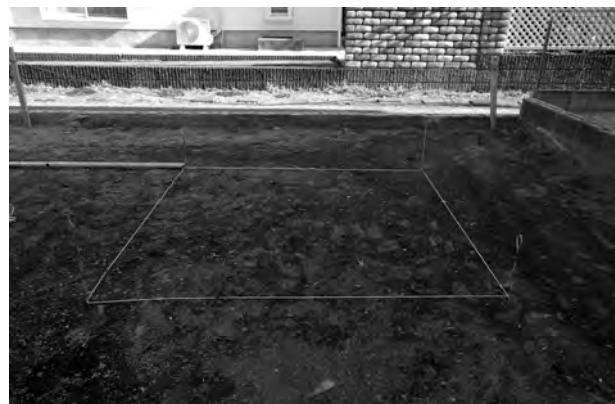


写真2 調査区設定状況（南から）



写真3 近世遺構検出状況（北から）



写真4 近世遺構完掘状況（北から）



写真5 遺構確認状況（西から）



写真6 完掘状況（西から）



写真7 東壁土層堆積状況

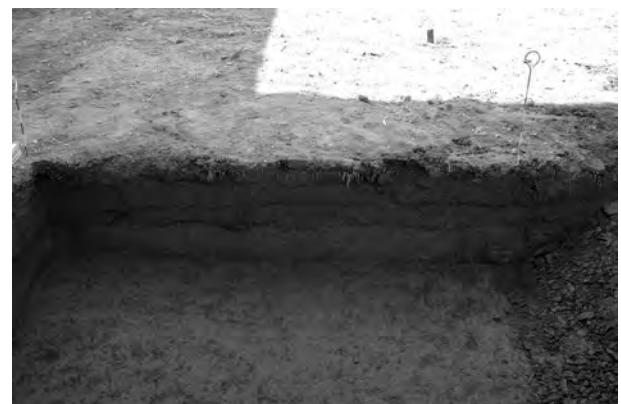


写真8 南壁土層堆積状況



写真9 出土遺物



写真10 調査作業風景（南西から）

5-7-4 茅ヶ崎市矢畠 27番1

1 調査年月日 令和6(2024)年3月25日(月)

2 調査目的 宅地造成工事

3 調査担当 斎藤愛

4 調査面積 4.0m²

5 遺跡の概要

(1) 名称 金山遺跡 (No.182)

(2) 種別 集落跡、館跡

(3) 時代 弥生時代(終末)、古墳時代(前期)、奈良時代、平安時代、中世、近世

(4) 立地 沖積微高地

6 調査地点

本地点は茅ヶ崎市中央部西側、茅ヶ崎市立鶴嶺中学校から北東側約450mの場所に位置する。調査以前は畠地として利用されており、調査地点の標高は約5.7mを測る。

7 調査の方法

事業計画地の新設道路範囲に2.0m×2.0mの調査区を1箇所設定して調査を実施した。掘削は機械と人力を併用した。掘削後、遺構平面分布状況の確認、土層堆積状況の観察を行い、記録は遺構平面分布図及び土層断面図の作成と写真記録とした。また、調査区の位置については簡易測量を行い、事業計画図に落とし込んだ。なお、標高については、事業地南側道路に所在する污水マンホール蓋を仮原点として測量した。

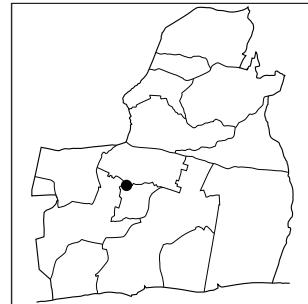
8 土層堆積状況

(1) 基本土層

1層：褐灰色土。しまりあり。粘性あり。宝永パミス多量に含む。橙色スコリア、炭化物粒を微量含む。上部には碎石が含まれる。根が多い。陶器、土師器出土。

2層：褐灰色土。しまりやや強い。粘性あり。宝永パミス中量含む。橙色スコリア、炭化物粒少量含む。上層よりわずかに色調明るくなる。陶器、土師器出土。

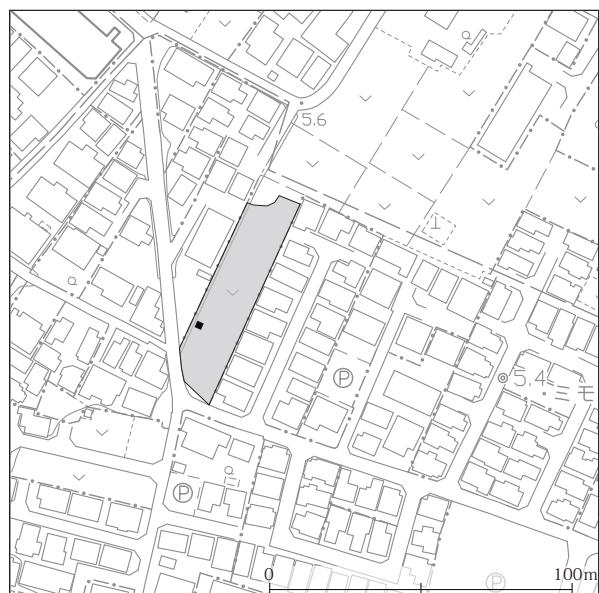
3層：灰黄褐色土。しまりあり。粘性やや強い。橙色スコリア、炭化物粒を少量含む。層



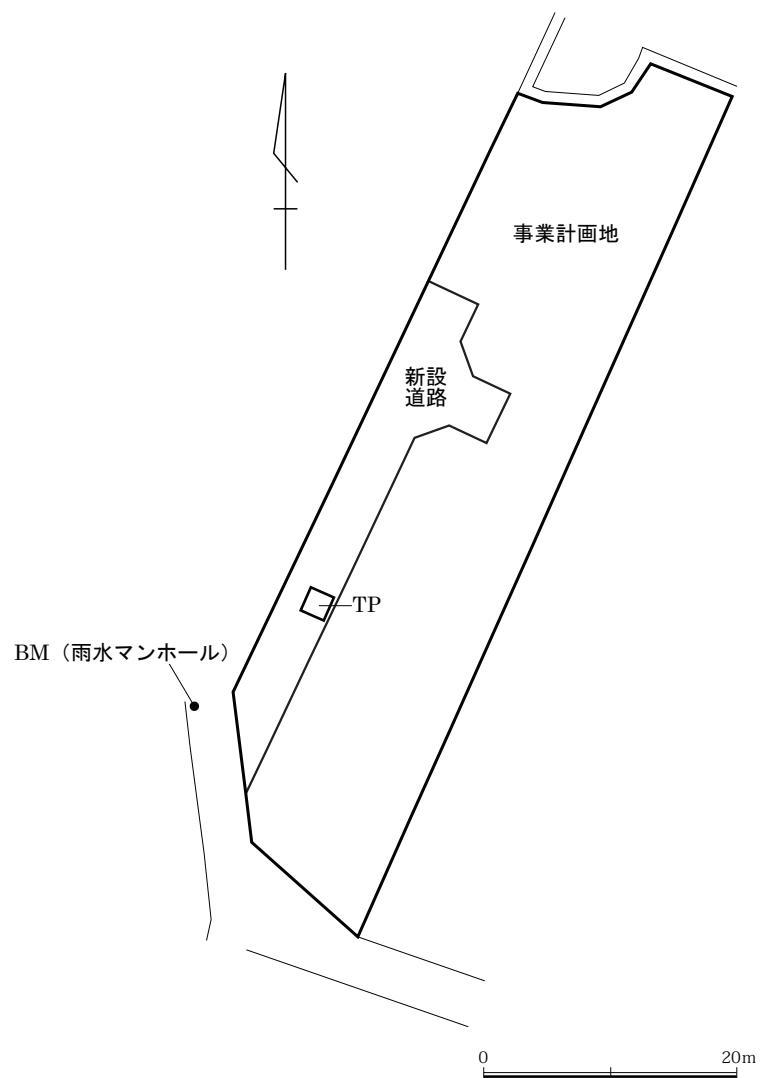
第1図 調査地点位置図 (1/200,000)



第2図 調査地点位置図 (1/10,000)



第3図 調査地点位置図 (1/2,500)



第4図 調査区配置図 (1/600)

の上部に宝永パミス、宝永スコリアが堆積。陶器、磁器出土。

4層：灰黄褐色土。しまりやや強い。粘性あり。橙色スコリア、炭化物粒を少量含む。土師器、青磁出土。

5層：灰黄褐色土。しまりやや強い。粘性やや強い。橙色スコリアを微量含む。炭化物粒少量含む。わずかに地山がブロック状に混じる。須恵器、灰釉陶器出土。

6層：暗褐色粘性土。しまり強い。粘性強い。橙色スコリアを微量、炭化物粒を少量含む。上層より堆積が粗い。土師器出土。

7層：暗褐色土。しまり強い。粘性強い。

橙色スコリアを微量、炭化物粒を少量含む。堆積密。土師器出土。

8層：黄褐色土。しまり強い。粘性やや弱い。当該地周辺の地山層に類似。

9 調査結果

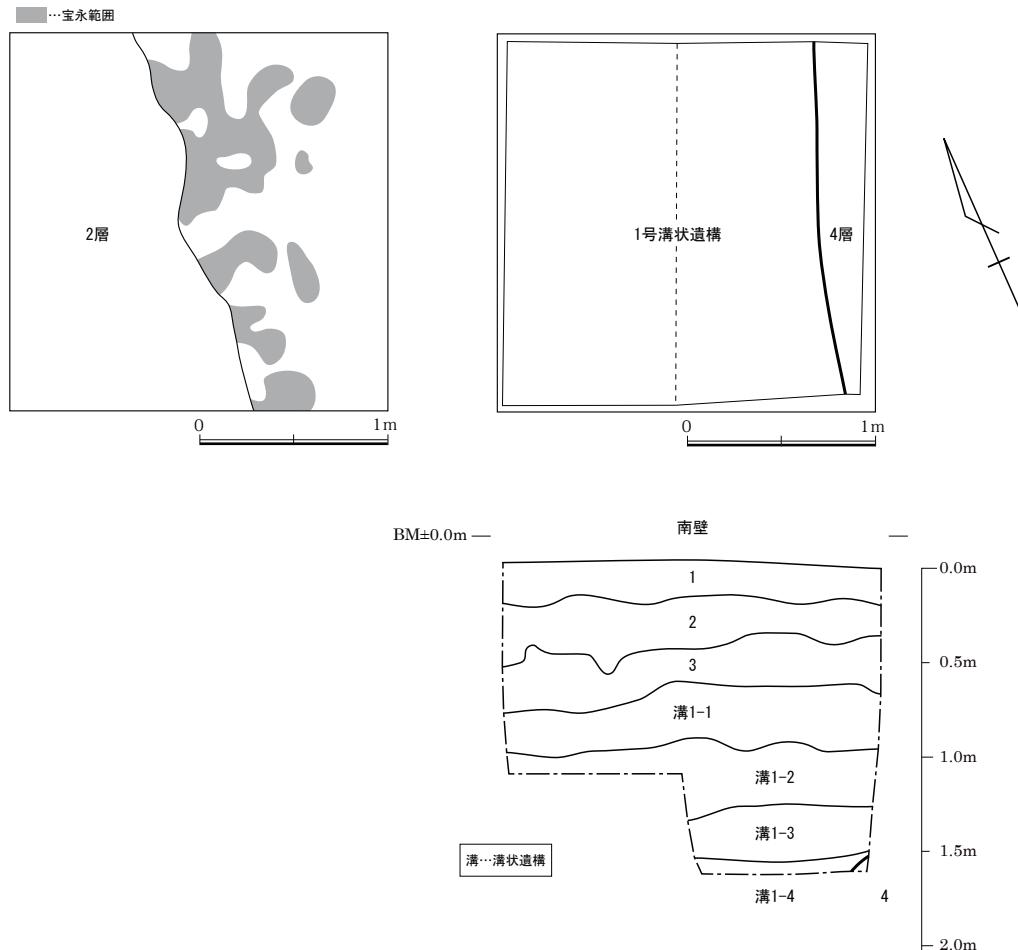
(1) 発見された遺構・遺物

発見遺構：溝状遺構、耕作痕か

出土遺物：土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、陶器、磁器、土製品、礫

(2) 調査所見

調査の結果、地表下 166cm まで掘り下げて確



第5図 遺構平面分布図及び土層断面図（1/40）

認を行ったところ、近世前半以前の耕作痕と思われる掘り込みと、古代から近世前半に属すと考えられる溝状遺構を確認することができた。遺物は、1層から7層にかけて土師器小片が確認されたほか、1層より円形の土製品（第6図）、3層より陶器と磁器、4層より青磁、5層より須恵器と灰釉陶器が出土した。いずれも小片であった。

耕作痕と思われる掘り込みは、3層上面で確認された。掘り込み下部に宝永火山灰の軽石、上部に黒色スコリアが堆積していた。また、3層より染付碗の小片が出土していることから、耕作痕は近世前半に形成された可能性が考えられる。

1号溝状遺構は調査区全体で確認され、東部で立ち上がりを確認した。北、南、西側は調査区外

であり、確認された範囲で東西幅約180cmを測る。南北方向に延びると考えられる。立ち上がりを確認したのは当該地周辺の地山層と考えられる8層の上面であるが、後述のように3層以下が1号溝状遺構の覆土である可能性がある。

堆積土については、地表面の植物や碎石を除去した直下より、本来の堆積を確認することができた。1～3層に宝永パミスが含まれており、近世後半以降の堆積と判断される。3層の上部は近世前半以前の耕作痕と思われる掘り込みが形成されていた。4層以下は宝永火山灰を含まない。4層では青磁の小片、5層では灰釉陶器の小片が出土しているが、4～7層にかけて古代の土師器片が確認されているため、古代～中世の堆積と考えら

れる。下層になるにつれ粘性が増し、色調も暗くなつたが、含有物に大きな変化は見られなかつた。また、3層より堆積が南西方向に低くなつてゐる。こうした傾斜は1号溝状遺構に伴うものであり、3層以下は1号溝状遺構の覆土である可能性も考えられる。7層よりわずかに黄色みを増し、8層で当該地の地山層と考えられる黄褐色土を確認し、その面で1号溝状遺構の立ち上がりを検出した。

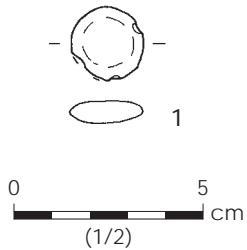
1号溝状遺構は、幕末に描かれた矢畠村絵図(茅ヶ崎市 1982『写真集茅ヶ崎一きのう きよう一』)に示される地割りの線におおむね一致する。また、当該地南東側の南北方向に通る市道沿いで行われた試掘・確認調査においても、南北溝が検出されている。今回の調査で検出された溝状遺構と同程度の規模を持ち、近世に道として機能する以前に大溝として存在したと推定されている。今回検出された1号溝状遺構がこれに連なるものか判断材料に欠けるが、近世以前の大溝であった可能性が考えられる。

第6図は土製品のおはじきであり、直径1.9cm、厚さ0.6cmを測る。一部欠損をしているが胎土は密であり、焼成は良好である。色調は橙色(5YR6/8)を呈する。

以上のことから当該地において埋蔵文化財が確認された。調査の結果を受けて、本地点においては令和6年度に金山遺跡第29次調査を実施した。

表1 出土遺物集計表

調査区	遺構・層位	種別	破片数	重量(g)
—	1～2層	土師器	2	1.5
		土師器 壊	1	3.2
		土師器 襲	2	5.0
		陶器	2	3.3
		土製品	1	1.7
		礫	4	21.9
		軽石	1	1.3
	3層	土師器	8	7.6
		土師器 壊	1	3.0
		土師器 襲	2	6.9
		陶器	1	1.8
		磁器	1	2.4
		礫	2	26.9
	4層	土師器	4	6.8
		土師器 壊	5	6.9
		土師器 襲	2	4.5
		須恵器	1	0.6
		須恵器 壊	1	6.3
		須恵器 襲	1	25.2
		灰釉陶器瓶	1	2.2
		青磁	1	0.9
		陶器 山茶碗	1	20.3
		礫	1	8.6
	5～7層	土師器	1	0.7
		土師器 襲	2	7.6
		陶器	2	6.2
		陶器 山茶碗	1	130.1
合計			52	313.4



第6図 実測遺物 (1/2)



写真1 調査地点近景（南西から）



写真2 調査区設定状況（北から）



写真3 近世遺構検出状況（北から）



写真4 近世遺構完掘状況（北から）



写真5 完掘状況（北から）



写真6 南壁土層堆積状況



写真7 出土遺物



写真8 実測遺物 (第6図)

第Ⅲ章　まとめ

第Ⅲ章 まとめ

本章では、令和5年度に茅ヶ崎市内で実施した試掘・確認調査の実施状況と調査を通じて得ることのできた主たる調査成果を確認し、本書のまとめとしたい。

1. 令和5年度における試掘・確認調査の概要

令和5年度に実施された試掘・確認調査の件数は74件を数え、その調査面積は479.65m²に及ぶ。試掘・確認調査の原因となったのは個人住宅29件、集合住宅6件、工場4件、その他建物1件、宅地造成25件、電気関連工事2件、その他工事7件（内、土留め工事1件、資材置き場2件、公共事業関係4件）であり、住宅建設が全体の約47%を占める。住宅建設は個人住宅と集合住宅を指し示すが、住宅建設の割合が全体の件数の約47%というのはわずかばかり少なく感じる。しかしながら、直近10年の数値と比較するとこの数値は概ね50～75%で推移しているため、数値だけをみるとやや少なくみえるが例年の傾向から外れるほどの数値ではないことがいえる。もし数値が減少傾向にある要因があるとするならば、試掘・確認調査の件数が増えているため全体の母数が増えていること、個人住宅において試掘・確認調査を経ずに発掘調査を実施している例があること等が挙げられるであろう。また、宅地造成工事は昨年度の13件と比べ約2倍に増えている。しかし、こちらも割合で考えると、平成28年度以降は増加傾向にあるが、それ以降は20～40%で推移しているため、昨年度に比べると増加はしているが例に漏れない数値であると言える。

調査した遺跡は、市内に所在する216遺跡（令和7年3月現在）のうちの50遺跡にあたる。令和5年度においては、包蔵地外では試掘・確認調査は実施されなかった。調査が行われた地点を地域別にみると、北部の台地・丘陵部で13件、南部の低地で61件（低地のうち、自然堤防で28件、砂丘・砂丘間凹地で33件）である。昨年度の64%に比べ、例年並みの数値に落ち着いている。

試掘・確認調査を行った結果、遺構及び遺物がわずかにでも確認された地点は58箇所を数える。各々の調査結果と開発行為の内容から事業の取扱いについて協議を行っており、事業との関係からやむなく事前の記録保存を目的とした発掘調査を実施したもののうち、事業主が住むための個人住宅新築工事に伴うものは1件（5-73：No.191 広町遺跡第8次調査）、それ以外の開発事業に伴うものは12件であった。後者の内訳は、No.71 前田A遺跡で第7次調査（5-6）と第9次調査（5-49）、No.86 網久保A遺跡で第8次調査（5-44）、No.90 網久保B遺跡で第3次調査（5-30）、No.147 石原A遺跡で第12次調査（5-50）、No.157 御屋敷B遺跡で第17次調査（5-45）、No.158 勝沼遺跡で第5次調査（5-54）、No.181 本社B遺跡で第9次調査（5-28）、No.182 金山遺跡で第29次調査（5-74）、No.185 小井戸遺跡で第14次調査（5-15、5-20、5-24）、No.200 前ノ田遺跡で第10次調査（5-58、5-59）、No.205 八団C遺跡で第1次調査（5-38）である。これらのケースとは逆に、試掘・確認調査によって発見された遺跡を傷めないよう計画を変更し、事業を進めたケースは2件であった。また、令和7年3月末時点において発掘調査の調整をしている事業が1件存在している。

茅ヶ崎市では毎年、その年の前年度に市内で行った発掘調査の成果報告を行っている。これ



写真1 令和6年度遺跡調査発表会当日の様子

らのうち、前田A遺跡第7次調査（5-6）、小井戸遺跡第14次調査（5-15、5-20、5-24）、本社B遺跡第9次調査（5-28）、網久保B遺跡第3次調査（5-30）、前田A遺跡第9次調査（5-49）、石原A遺跡第12次調査（5-50）、前ノ田遺跡第10次調査（5-58、5-59）については令和6年度に開催した第35回茅ヶ崎市遺跡調査発表会にて成果を報告している。八戸C遺跡第1次調査（5-38）、網久保A遺跡第8次調査（5-44）、御屋敷B遺跡第17次調査（5-45）、勝沼遺跡第5次調査（5-54）、広町遺跡第8次調査（5-73）、金山遺跡第29次調査（5-74）については、令和7年度に開催予定の第36回茅ヶ崎市遺跡調査発表会にて成果報告を行う予定である。

2. 試掘・確認調査における成果

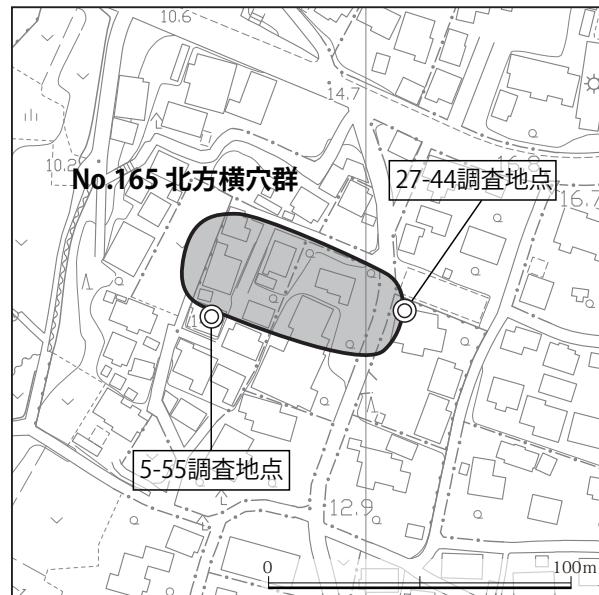
令和5年度試掘・確認調査の主たる成果をみてみると、上記の発掘調査に至ったもの以外で特筆すべき事項は、5-55（P.233～236）で報告した北方横穴群の調査成果である。

5-55 北方横穴群は神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳茅ヶ崎市 No.165 に記載されている横穴であり、『茅ヶ崎市史3』に No.85 の遺跡として記載されていることから、昭和61（1986）年に周知化された遺跡である。当遺跡は過去に発掘調査の事例がなく、試掘・確認調査も平成27年度に実施した1回（27-44）のみである。また、平成26年度には近隣で工事立会を実施している。各々の調査成果を確認すると、平成26年度の工事立会では地表下約20cmでローム層を確認しており、遺構及び遺物は確認されなかった。27-44では遺構及び遺物は確認されず、地表下約30～80cmで現代の攪乱、地表下約80cmでローム層の漸移層を確認している。5-55では、地表下約100cm以下で遺構と大量の縄文土器が出土し、地表下約120cmでローム層を確認している。

今回の試掘・確認調査では、本遺跡で初めて埋蔵文化財を確認することができた。しかしながら、横穴に関連する埋蔵文化財は確認されず、代わりに縄文時代の遺構及び遺物を確認した。当遺跡は前述の通り横穴として遺跡台帳に登録されているので、縄文時代の遺物が発見されたことは非常に大きな成果だと言えるであろう。とはいっても、遺構は落ち込みに近い溝状遺構が確認されたのみで、遺物も多量の土器が出土したが接合して一個体になるようなものはなかった。つまり、当時のこの地点での活動密度は低いものであったと考えられる。さすがに縄文時代の集落がこの地点に広がっていたとまではいえないが、活動範囲がこのあたりまで広がっていた可能性は十分指摘できるであろう。

5-55の事業計画地が包蔵地の縁辺部であったことから、本課では今回の調査結果を受けて No.195 北方横穴群の範囲を拡大すべく変更・増補の手続きを行った。今回は範囲拡大のみに留まったが、今後の試掘・確認調査の成果次第では、No.195 北方横穴群とは別の、新しい埋蔵文化財包蔵地として登録することも議題として取り上げていくべきである。

前述のようなひとつの発見で物事を大きく動かすような調査成果もあるが、多くの試掘・確認調査がそ うあるわけではない。多くの試掘・確認調査はひとつひとつの調査面積が小さく、また、その一つの報告だけでは読み解ける情報も少ない。しかし、多様な場所で多様なデータを収集することができるのも試掘・



第1図 調査地点位置図（1/2,500）

確認調査である。データを積み重ね、検討を重ねていくことによって、歴史を探求する一端を担う。その重要な要素となる可能性がある報告をまとめ、多くの人の目に触れるべく報告書を刊行することの意義は大きく、今後も同じように成果報告を続けていくことが望ましい。

- 参考文献 1980 茅ヶ崎市『茅ヶ崎市史3 考古・民俗編』
- 2015 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告45 市内遺跡試掘・確認調査報告XIII』
- 2016 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告47 市内遺跡試掘・確認調査報告XIV』
- 2017 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告49 市内遺跡試掘・確認調査報告XV』
- 2018 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告51 市内遺跡試掘・確認調査報告XVI』
- 2019 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告54 市内遺跡試掘・確認調査報告XVII』
- 2020 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告56 市内遺跡試掘・確認調査報告XVIII』
- 2021 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告60 市内遺跡試掘・確認調査報告XIX』
- 2022 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告61 市内遺跡試掘・確認調査報告XX』
- 2023 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告66 市内遺跡試掘・確認調査報告XXI』
- 2024 茅ヶ崎市教育委員会『茅ヶ崎市埋蔵文化財報告68 市内遺跡試掘・確認調査報告XXII』
- 2024 茅ヶ崎市教育委員会『第35回茅ヶ崎市遺跡調査発表会 発表要旨』

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしきつ・かくにんちょうさほうこくにじゅうさん								
書名	市内遺跡試掘・確認調査報告XXIII								
副書名	令和5(2023)年度実施の埋蔵文化財試掘・確認調査報告								
巻次	一								
シリーズ名	茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告								
シリーズ番号	71								
編著者名	高橋桃子、加藤大二郎、三戸智也、田中万智、金馬義郎、齋藤愛								
編集機関	茅ヶ崎市教育委員会教育推進部社会教育課								
編集機関所在地	〒253-8686 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号								
発行機関	茅ヶ崎市教育委員会								
発行機関所在地	〒253-8686 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号								
発行年月	令和7(2025)年3月31日								
No. ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯 °/''	東経 °/''	調査期間	調査 面積	
	市町村	遺跡番号					調査原因		
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
5-1 ひがしはら 東原遺跡	堤字東原 1054 番 13		14207	141	35° 21' 46"	139° 25' 41"	2023.04.12	1.5	個人住宅新築工事
	遺物散布地	縄文、歴史時代	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-2 ほんじや 本社A遺跡	浜之郷字本社 447 番 6		14207	154	35° 20' 19"	139° 23' 30"	2023.04.12	2.0	個人住宅新築工事
	集落跡、寺社跡	古墳(後期)、奈良、平安、中世、近世	道状遺構か		土師器、陶器、磁器、土製品、礫		近世前半以前の道状遺構と考えられる遺構を確認した。		
5-3 かねがやと 鐘ヶ谷遺跡	矢畠字鐘ヶ谷 775 番		14207	215	35° 20' 19"	139° 24' 03"	2023.04.28	4.0	集合住宅新築工事
	集落跡	奈良、平安	豎穴状遺構、ピット		土師器、須恵器、礫		住居址の可能性がある豎穴状遺構を確認した。		
5-4 おやしき 御屋敷B遺跡	円蔵字御屋敷 2270 番 3、4		14207	157	35° 20' 45"	139° 24' 00"	2023.05.01	6.75	個人住宅新築工事
	集落跡	弥生(末)～古墳(前・期)、奈良、平安、中世、近世	廃棄土坑か		陶器、磁器、ガラス製品、土製品、鉄製品		関東大震災に関連すると推測される廃棄土坑を確認した。		
5-5 かみひがしらした 上東原下遺跡	若松町 6840 番 5、6837 番 7		14207	100	35° 19' 58"	139° 25' 04"	2023.05.02	8.0	個人住宅新築工事
	遺物散布地	古墳、歴史、中世	ピット		磁器		宝永火山灰の純堆積を確認した。		
5-6 まえだ 前田A遺跡	菱沼二丁目 1043 番 5 の一部		14207	71	35° 20' 34"	139° 25' 44"	2023.05.09	8.0	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、平安、中世、近世	溝状遺構、畝状遺構、ピット		土師器、須恵器、陶器、土製品		令和5年度に前田A遺跡7次調査を実施した。		
5-7 ひがしこのうよう 東ノ町遺跡	松林三丁目 190 番の一部外 5 筆		14207	195	35° 20' 38"	139° 25' 26"	2023.05.11	8.0	集合住宅新築工事
	遺物散布地、集落跡	奈良、平安、中世、近世、近代	ピット、掘込み		かわらけ、陶器、磁器、土製品、鉄製品		近現代の柱穴と考えられるピットを確認した。		

5-8 おしまなかやと 大島仲谷遺跡	堤字仲谷 3530 番 8 の一部		14207	37	35° 22' 01"	139° 25' 01"	2023.05.14	1.5	個人住宅新築工事
	遺物散布地	旧石器、縄文 (早~後期)、 奈良、平安、 近世	ピット		土師器	古墳時代以降の堆積土が削平された状況を確認した。			
5-9 いけぶくろ 池袋 B 遺跡	小和田一丁目 716 番の一部、14 の一部、15 の一部、 717 番、718 番 1 の一部、 2 の一部		14207	87	35° 20' 21"	139° 25' 41"	2023.05.17	8.0	宅地造成工事
	遺物散布地	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。			
5-10 つじにし 辻西遺跡	萩園字辻西 2408 番		14207	177	35° 20' 29"	139° 22' 59"	2023.05.18	8.0	宅地造成工事
	遺物散布地	奈良、平安	なし		土師器	遺物が 1 点のみ確認された。			
5-11 でぐち 出口 A 遺跡	出口町 2076 番 2		14207	101	35° 20' 04"	139° 25' 54"	2023.05.19	4.0	個人住宅新築工事
	遺物散布地	縄文 (後期)、 集落跡、遺 物散布地 弥生、古墳 (末)、奈良、 平安	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。			
5-12 みまちだ 巳待田 A 遺跡	菱沼二丁目 1430 番 10		14207	74	35° 20' 35"	139° 25' 57"	2023.05.25	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。			
5-13 てしろづか 手城塚 B 遺跡	松林三丁目 888 番 2 外		14207	92	35° 20' 38"	139° 25' 32"	2023.05.30	12.0	宅地造成工事
	集落跡	古代、奈良、 平安、中世、 近世	なし		土師器、陶器、土 製品	近現代の大規模な攪乱を確認した。			
5-14 てしろづか 手城塚 B 遺跡 おおなわした 大縄下遺跡	松林三丁目 195 番 1 外 18 筆		14207	92 93	35° 20' 35"	139° 25' 26"	2023.06.01	8.0	宅地造成工事
	集落跡	古代、奈良、 平安、中世、 近世	なし		土師器	攪乱から土師器を 1 点確認した。			
5-15 こいど 小井戸遺跡	円蔵 370 番外 138 筆		14207	185	35° 20' 36"	139° 24' 12"	2023.06.05 ~ 2023.06.06	22.0	工場新設工事
	集落跡	弥生 (末)、 奈良、平安、 中世、近世、 近代	炉跡、溝状遺構		土師器、磁器、レ ンガ	近代産業の構造物を確認した。また、令和 5 年度に小井戸遺跡第 14 次調査を実施し た。			
5-16 まえだ 前田 A 遺跡	菱沼二丁目 1251 番 2、5、 7、1252 番		14207	71	35° 20' 34"	139° 25' 42"	2023.06.08	5.5	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	不明		土師器、須恵器、 灰釉陶器、かわら け、陶器	残存状況が良好なかわらけが出土し、遺構 の可能性がある堆積土を確認した。			
5-17 しみず 清水 B 遺跡	芹沢 913 番 32		14207	108	35° 22' 27"	139° 25' 31"	2023.06.12	1.62	事務所新築工事
	遺物散布地	縄文 (中)、 歴史	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されな かった。			

5-18 おしまなかやと 大島仲谷遺跡	行谷字大島 1100 番 1 の一部		14207	37	35° 22' 07"	139° 24' 56"	2023.06.15	4.0	電波塔新設工事
	遺物散布地	旧石器、縄文 (早~後期)、 奈良、平安、 近世	なし	なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。				
5-19 おやしき 御屋敷 B 遺跡	円蔵字御屋敷 2320 番 1、 2321 番 2		14207	157	35° 20' 42"	139° 23' 58"	2023.06.15	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	弥生(末)~ 古墳(前・期)、 奈良、平安、 中世、近世	なし	土師器、須恵器、 磁器	わずかながらも遺物を確認した。				
5-20 こいど 小井戸遺跡	円蔵 370 番外 138 筆		14207	185	35° 20' 35"	139° 24' 12"	2023.06.16	36.0	工場新設工事
	集落跡	弥生(末)、 奈良、平安、 中世、近世、 近代	アチソン炉	土師器、レンガ、 礫	令和 5 年度に小井戸遺跡第 14 次調査を実施した。				
5-21 つつみかいづか 堤貝塚 (十二天 A 遺 跡)	堤字南谷 2468 番 12		14207	8	35° 21' 52"	139° 25' 19"	2023.06.20	4.0	資材置き場整備
	貝塚、集落 跡、遺物散 布地	縄文(中・後 期)、奈良、 平安	なし	土師器、陶器、磁 器	近現代の水田の痕跡を確認した。				
5-22 ひがしのちょう 東ノ町遺跡	室田一丁目 88 番 1、4、5、 6、7、8		14207	195	35° 20' 41"	139° 25' 20"	2023.06.26	4.0	個人住宅新築工事
	遺物散布 地、集落跡	奈良、平安、 中世、近世、 近代	なし	土製品	近代の土製品を 2 点確認した。				
5-23 ひがし 東 遺跡	香川二丁目 1585-8		14207	24	35° 21' 19"	139° 24' 15"	2023.06.26	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡、遺 物散布地	弥生、古墳、 平安、中世、 近世	なし	土師器	攪乱から土師器を 3 点確認した。				
5-24 こいど 小井戸遺跡	円蔵 370 番外 138 筆		14207	185	35° 20' 35"	139° 24' 12"	2023.07.03	14.25	工場新設工事
	集落跡	弥生(末)、 奈良、平安、 中世、近世、 近代	溝状遺構、アチソン 炉	土師器、須恵器、 レンガ	令和 5 年度に小井戸遺跡第 14 次調査を実施した。				
5-25 おおやしき 大屋敷 B 遺跡	西久保字大屋敷 753-1 の一部		14207	189	35° 20' 52"	139° 23' 45"	2023.07.06	1.3	個人住宅新築工事
	集落跡、遺 物散布地	弥生(後期)、 古墳(前期)、 奈良、平安、 中世、近世	なし	なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。				
5-26 おおやしき 大屋敷 A 遺跡	西久保字大屋敷 605 番 14、15		14207	188	35° 20' 41"	139° 23' 37"	2023.07.07	3.4	個人住宅新築工事
	遺物散布地	古代、奈良、 平安、中世、 近世	なし	土師器	表土から土師器が 1 点出土した。				

5-27 おおやしき 大屋敷A遺跡	西久保字大屋敷 605番 16、17		14207	188	35° 20' 41"	139° 23' 37"	2023.07.07	4.72	個人住宅新築工事
	遺物散布地	古代、奈良、 平安、中世、 近世	なし		土師器	表土から土師器が1点出土した。			
5-28 ほんじゅ 本社B遺跡	浜之郷本社 348番外1筆 及び 366番1の一部		14207	181	35° 20' 27"	139° 23' 31"	2023.07.13	8.0	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	豎穴状遺構、溝状遺 構、土坑、ピット	土師器、須恵器、 灰釉陶器、陶器、 瓦器、礫、軽石	令和5年度に本社B遺跡第9次調査を実施 した。				
5-29 まえだ 前田A遺跡	菱沼二丁目 1251番2、5、 7、1252番		14207	71	35° 20' 34"	139° 25' 42"	2023.07.19	6.4	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし	土師器、須恵器、 灰釉陶器	5-16の追加調査。遺構の明確な掘り込み は確認されなかった。				
5-30 あみくぼ 網久保B遺跡	松林一丁目 1543番の一 部外3筆		14207	90	35° 20' 21"	139° 25' 26"	2023.07.19～ 2023.07.20	20.0	宅地造成工事
	集落跡	弥生（後期）、 古墳、奈良、 平安、中世、 近世	豎穴状遺構、ピット	土師器、ロクロ土 師器、須恵器、灰 釉陶器、陶器、磁 器、ガラス製品、 鉄製品、瓦、礫、 軽石、建材	高い密度で埋蔵文化財が確認され、令和5 度において網久保B遺跡第3次調査を実施 した。				
5-31 くぼやま 久保山A遺跡	芹沢字久保山 2494番		14207	11	35° 22' 46"	139° 24' 52"	2023.07.27	10.5	宅地造成工事
	集落跡、貝 塚	縄文（中・後 期）、奈良、 平安、中世、 近世	ピット、杭列、旧家 屋跡	縄文土器、土師器、 須恵器、陶器、磁 器、木製品、鉄製 品、植物遺存体（種 子）	当該地が谷戸に立地する様子を確認した。				
5-32 みまちだ 巳待田A遺跡	菱沼二丁目 382番2、 383番2の一部		14207	74	35° 20' 33"	139° 26' 06"	2023.08.17	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし	土師器、灰釉陶器、 かわらけ、陶器、 礫、炭化物	包含層が良好な状態で残存している様子を 確認した。				
5-33 みまちだ 巳待田A遺跡	菱沼二丁目 382-3、383-2		14207	74	35° 20' 33"	139° 26' 02"	2023.08.18	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし	土師器、須恵器、 かわらけ、陶器、 磁器、土製品、鉄 製品、動物遺存体 (骨)	包含層が良好な状態で残存している様子を 確認したが、遺構は確認できなかった。				
5-34 うしろだ 後田A遺跡	菱沼一丁目 686番15		14207	70	35° 20' 45"	139° 25' 46"	2023.08.21	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡、遺 物散布地	弥生、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	道状遺構	土師器	近現代の埋め土が厚く堆積していたが、地 中深くで遺構を確認した。				
5-35 かなやま 金山遺跡	矢畠字金山 73-1		14207	182	35° 20' 24"	139° 23' 48"	2023.08.22	8.0	個人住宅新築工事
	集落跡、館 跡	弥生（終末）、 古墳（前期）、 奈良、平安、 中世、近世	なし	土師器、磁器、瓦 器	盛土中から遺物を数点確認した。				

5-36 小井戸遺跡	円蔵 370 番外 138 筆		14207	185	35° 20' 35"	139° 24' 12"	2023.08.25	8.0	工場新設工事
	集落跡	弥生（末）、 奈良、平安、 中世、近世、 近代	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-37 居村B遺跡	本村四丁目 1455、1456 番 1		14207	202	35° 20' 16"	139° 24' 41"	2023.08.31	4.0	フェンス新設工事
	生産跡、集 落跡、遺物 散布地	縄文（晚期）、 古墳（末）、 奈良、平安、 中世、近世	水田址か		なし		近隣の発掘調査で確認されている様相と同 様の堆積を確認した。		
5-38 八団C遺跡	赤羽根 2192-1 外		14207	205	35° 21' 02"	139° 25' 52"	2023.09.01	4.0	排水路整備
	遺物散布地	古墳	道状遺構、溝状遺構、 土坑、ピット		土師器、陶器、磁 器、鉄製品、ガラ ス製品、タイル、 等		令和 6 年度に八団 C 遺跡第 1 次調査を実施 した。		
5-39 宿遺跡	小和田二丁目 385 番 6		14207	79	35° 20' 22"	139° 25' 57"	2023.09.07	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡、貝 塚	弥生、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	なし		木製品		近現代と考えられる木杭を良好な状態で確 認した。		
5-40 宿遺跡	小和田一丁目 672 番の一 部		14207	79	35° 20' 22"	139° 25' 53"	2023.09.11	8.0	宅地造成工事
	集落跡、貝 塚	弥生、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	なし		土師器、磁器、ガ ラス製品		砂丘間凹地であったと推察される堆積を確 認した。		
5-41 宮ノ腰遺跡	浜之郷 477 番		14207	152	35° 20' 16"	139° 23' 22"	2023.09.14	1.81	遊具新設工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されな かった。		
5-42 白久保A遺跡	行谷字長久保 787 番 1 の 一部		14207	15	35° 22' 23"	139° 24' 31"	2023.09.27	4.0	宅地造成工事
	集落跡、古 墳、横穴	縄文（早・中 期）、弥生（後 期）、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されな かった。		
5-43 居村A遺跡	本村五丁目 1037 番 3 の 一部外 3 筆		14207	199	35° 20' 20"	139° 24' 57"	2023.09.28	8.0	宅地造成工事
	集落跡	縄文（晚期）、 弥生（中期）、 古墳（後期）、 奈良、平安、 中世、近世	ピット		土師器、青磁、陶 器、磁器、土製品、 鉄製品、礫		当該地は近現代に土地の削平を受けたと考 えられる。		
5-44 網久保A遺跡	松林二丁目 488 番外 2 筆		14207	86	35° 20' 27"	139° 25' 35"	2023.09.29	8.0	宅地造成工事
	集落跡	弥生（後期）、 古墳、奈良、 平安、中世、 近世	溝状遺構、豎穴状遺 構		土師器、須恵器、 灰釉陶器、綠釉陶 器、陶器、礫、動 物遺存体（馬歯）		令和 5 年度から令和 6 年度にかけて網久保 A 遺跡第 8 次調査を実施した。		

5-45 おやしき 御屋敷B遺跡	円蔵字御屋敷 2266番1 の一部外2筆		14207	157	35° 20' 42"	139° 24' 01"	2023.10.05	12.0	宅地造成工事
	集落跡	弥生(末)～ 古墳(前・期)、 奈良、平安、 中世、近世	溝状遺構、土坑、ピット		土師器、かわらけ、 青磁、陶器、磁器、 礫、動物遺存体 (骨)	令和5年度から令和6年度にかけて御屋敷 B遺跡第17次調査を実施した。			
5-46 みまちだ 巳待田A遺跡	菱沼二丁目 342番10、 12		14207	74	35° 20' 32"	139° 25' 56"	2023.10.06	4.0	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし		土師器	古代の包含層を確認した。			
5-47 おやしき 御屋敷B遺跡	円蔵字御屋敷 2269-1		14207	157	35° 20' 44"	139° 24' 00"	2023.10.16	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	弥生(末)～ 古墳(前・期)、 奈良、平安、 中世、近世	なし		陶器、磁器、ガラス製品	近現代の廃棄土坑を確認した。			
5-48 ひがし 東遺跡	香川二丁目 1582番2、3、 1586番13、16		14207	24	35° 21' 21"	139° 24' 13"	2023.10.19	8.0	集合住宅新築工事
	集落跡、遺物散布地	弥生、古墳、 平安、中世、 近世	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかつた。			
5-49 まえだ 前田A遺跡	松林二丁目 973番1、 974番1		14207	71	35° 20' 35"	139° 25' 40"	2023.10.20	12.0	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	堅穴状遺構、土坑、 ピット		土師器、灰釉陶器、 かわらけ、陶器、 土製品、鉄製品、 礫	令和5年度に前田A遺跡第9次調査を実施した。			
5-50 いしはら 石原A遺跡	下町屋二丁目 301番1の 一部		14207	147	35° 19' 59"	139° 23' 22"	2023.10.23	12.0	集合住宅新築工事
	遺物散布地、集落址、 参道	古墳(後期)、 奈良、平安、 中世、近世、 近代、現代	溝状遺構		土師器、須恵器	令和5年度に石原A遺跡第12次調査を実施した。			
5-51 もちづか 餅塚遺跡	小和田三丁目 929番3、 930番1		14207	65	35° 20' 42"	139° 26' 12"	2023.10.27	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世、近代	なし		なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかつた。			
5-52 みやのこし 宮ノ腰遺跡	浜之郷字宮ノ腰 516番1 外9筆		14207	152	35° 20' 23"	139° 23' 21"	2023.10.30	8.5	宅地造成工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	なし		土師器、須恵器、 磁器、土製品	残存が良好な状態で包含層を確認した。			
5-53 かみのまち 上ノ町遺跡	西久保 1624		14207	148	35° 21' 06"	139° 23' 44"	2023.11.06	4.0	変電施設新設工事
	集落跡、居館跡	弥生、古墳、 奈良、平安、 中世、近世、 近代	なし		土師器、陶器	湿地帯に属していたと考えられる堆積を確認した。			

5-54 かつねま 勝沼遺跡	矢畠字勝沼 1338 番 1、2		14207	158	35° 20' 22"	139° 23' 56"	2023.11.09	4.0	集合住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	竪穴状遺構、土坑、 ピット		土師器、須恵器、 かわらけ、礫		令和 6 年度に勝沼遺跡第 5 次調査を実施した。		
5-55 きたかたねうけつぐん 北方横穴群	下寺尾字北方 1129 番 4 外 9 筆		14207	165	35° 21' 59"	139° 24' 12"	2023.11.10	1.7	個人住宅新築工事
	横穴	古墳（末）	ピット		縄文土器、土師器、 黒曜石、礫		縄文時代の遺構と遺物を高密度で確認した。		
5-56 みなみかた 南方 A 遺跡	下寺尾字南方 2274-2 の 一部外 4		14207	39	35° 21' 40"	139° 24' 39"	2023.11.13	4.0	宅地造成工事
	遺物散布地	縄文（中）	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-57 はまなげ 浜竹遺跡	浜竹一丁目 2954 番 2 の 一部外		14207	201	35° 20' 07"	139° 26' 05"	2023.11.16	8.0	宅地造成工事
	遺物散布地	奈良、平安	ピット		磁器、瓦		近現代のピットを確認した。		
5-58 まえのた 前ノ田遺跡	本村四丁目 1678		14207	200	35° 20' 10"	139° 24' 46"	2023.11.20	3.0	宅地造成工事
	集落跡	縄文、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	竪穴状遺構		縄文土器、土師器、 ロクロ土師器、須 恵器、灰釉陶器、 青磁、陶器、磁器、 土製品、礫		令和 5 年度に前ノ田遺跡第 10 次調査を実施した。		
5-59 まえのた 前ノ田遺跡	本村四丁目 1673-1、 1674、1673-3		14207	200	35° 20' 11"	139° 24' 41"	2023.11.20	4.5	宅地造成工事
	集落跡	縄文、古墳、 奈良、平安、 中世、近世	竪穴状遺構、ピット		土師器、ロクロ土 師器、磁器、鉄製 品		令和 5 年度に前ノ田遺跡第 10 次調査を実施した。		
5-60 きのした 木ノ下 A 遺跡	小和田一丁目 737 番地 19		14207	88	35° 20' 23"	139° 25' 48"	2023.12.04	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	奈良、平安、 中世、近世	なし		なし		当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-61 なめがや 行谷遺跡	行谷 832-2		14207	36	35° 22' 22"	139° 24' 43"	2023.12.14	4.0	資材置き場整備
	貝塚、集落 跡	縄文（早・中・ 後期）、奈良、 平安、中世、 近世	竪穴状遺構、土坑		縄文土器、土師器、 礫		縄文時代の遺構が確認された。		
5-62 みやのこし 宮ノ腰遺跡	浜之郷字宮ノ腰 486-1		14207	152	35° 20' 20"	139° 23' 23"	2023.12.25～ 2023.12.27	7.1	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳、奈良、 平安、中世、 近世	竪穴状遺構、土坑、 ピット		土師器、須恵器、 かわらけ、陶器、 磁器、土製品、瓦、 礫、軽石		旧家屋の痕跡から古代の竪穴状遺構まで、 幅広い年代の遺構が確認された。		
5-63 おおなわした 大縄下遺跡	室田一丁目 791-1、 792-1、792-3		14207	93	35° 20' 34"	139° 25' 22"	2024.01.11	4.0	個人住宅新築工事
	集落址	奈良、平安、 中世、近世	なし		須恵器、陶器、礫		近代前半以前と考えられる水田の痕跡を確 認した。		

	浜之郷字石原 731 番 1	14207	147	35° 20' 02"	139° 23' 26"	2024.01.11	1.0	水準点新設工事
5-64 石原A遺跡 いしはら 石原A遺跡	遺物散布地、集落址、参道	古墳（後期）、奈良、平安、中世、近世、現代	なし	陶器、磁器、土製品、ガラス製品、貝	近代から現代に至るまでの遺物を多く確認した。			
5-65 西ノ谷遺跡 にしのやと 西ノ谷遺跡	萩園字西ノ谷 1637 番 5、1640 番 1	14207	174	35° 20' 51"	139° 22' 58"	2024.02.01	12.0	宅地造成工事
	遺物散布地、集落址	奈良、平安、中世、近世	豎穴状遺構、ピット	土師器、陶器、磁器	調査結果を受けて、包蔵地の拡張を検討している。			
5-66 中之谷A遺跡 なかのやと 中之谷A遺跡	芹沢字中ノ谷 1095 番 1、1096 番 7、1094 番 1 の一部	14207	5	35° 22' 23"	139° 25' 13"	2024.02.07	4.0	個人住宅新築工事
	遺物散布地	古墳	なし	なし	なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-67 鶴ヶ町遺跡 つるがまち 鶴ヶ町遺跡	円蔵二丁目 114 番 1	14207	186	35° 20' 41"	139° 24' 19"	2024.02.08	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳（前期）、奈良、平安、中世、近世	なし	陶器	なし	近世の包含層から陶器が 1 点出土した。		
5-68 中谷遺跡 なかや 中谷遺跡	浜之郷 261 番 3	14207	187	35° 20' 39"	139° 23' 32"	2024.02.14	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	古墳（前・後期）、奈良、平安、中世、近世	溝状遺構、豎穴状遺構	土師器、陶器、磁器、土製品、鉄製品、ガラス製品、瓦、礫	なし	過去に近隣で行われた試掘・確認調査と近似した状況を確認した。		
5-69 四図A遺跡 よず 四図A遺跡	赤羽根字四図 1252 番 5	14207	61	35° 20' 51"	139° 25' 36"	2024.02.19	4.0	個人住宅新築工事
	集落跡	弥生（後期）、古墳、奈良、平安、中世、近世、近代	なし	なし	なし	当該地において埋蔵文化財は確認されなかった。		
5-70 大縄下遺跡 おおなわした 大縄下遺跡	室田三丁目 770 番 1	14207	93	35° 20' 32"	139° 25' 19"	2024.02.27	8.0	宅地造成工事
	集落址	奈良、平安、中世、近世	溝状遺構、ピット	弥生土器か、土師器	なし	弥生時代末から古墳時代初頭の土器を確認した。		
5-71 北D遺跡 きた 北D遺跡	香川七丁目 2358 番の一部	14207	169	35° 21' 34"	139° 24' 07"	2024.02.28	10.6	集合住宅新築工事
	集落址	弥生（後）、古墳（後）、奈良、中世、近世	豎穴状遺構、溝状遺構、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器、土製品、礫	なし	遺構、遺物ともに高い密度で埋蔵文化財を確認した。		
5-72 中通A遺跡 なかどおり 中通A遺跡	香川五丁目 1210 番 1 の一部、1211 番 1 の一部	14207	46	35° 21' 24"	139° 23' 55"	2024.03.11	4.0	土留め工事
	遺物散布地、集落跡	弥生（後期）、古墳、奈良、中世、近世	溝	土師器、陶器、磁器、土製品、粘土塊、礫	なし	南に向かって下降傾斜する砂丘の地形を確認した。		
5-73 広町遺跡 ひろまち 広町遺跡	西久保字広町 972 番 6	14207	191	35° 20' 59"	139° 23' 54"	2024.03.18	4.0	個人住宅新築工事
	遺物散布地、集落跡、生産跡	古墳（末）～奈良、平安、中世、近世	溝状遺構、畝状遺構、ピット	土師器、礫	なし	令和 6 年度に広町遺跡第 9 次調査を実施した。		

5-74 かなやま 金山遺跡	矢畠字金山 27-1		14207	182	35° 20' 31"	139° 23' 43"	2024.03.25	4.0	宅地造成工事
	集落跡、館 跡	弥生（終末）、 古墳（前期）、 奈良、平安、 中世、近世	溝状遺構、耕作痕		土師器、須恵器、 灰釉陶器、青磁、 磁器、土製品	令和 6 年度に金山遺跡第 29 次調査を実施 した。			

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用しています。(数字は四六班ベース)

[紙質]	表紙	レザックツムギ	170kg
	見返し	色上質紙	
	本文	ソリストホワイト	65.5kg
	口絵	マットコート紙	
[印刷]	オフセット印刷		

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。また、この報告書に係る記録図面類（写真類を含む）は、茅ヶ崎市教育委員会で保管しておりますので、利用する場合は茅ヶ崎市教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告 71
市内遺跡試掘・確認調査報告 XXIII
～令和 5（2023）年度実施の埋蔵文化財試掘・確認調査報告～

発行日 令和 7（2025）年 3 月 31 日

編集 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課

発行 茅ヶ崎市教育委員会

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目 1 番 1 号

TEL:0467-82-1111

印刷 株式会社宮崎印刷所

〒253-0084

神奈川県茅ヶ崎市円蔵 370

TEL:0467-85-5522
